緑の募金法制定30周年

緑の募金

事業報告集

令和６年度

公益社団法人 国土緑化推進機構

緑の募金
事業報告集

令和６年度

公益社団法人　国土緑化推進機構

目　次

（注）１．本報告集に掲載した事業は、令和５年７月から令和６年６月までに事業決定した直接事業及び公募事業である。
２．最左欄は交付決定番号、（　）地名は事業実施都道府県等である。
３．交付決定番号の区分の説明
SC　直接事業（森林整備）／東震災SC　東日本大震災復興事業（森林整備）／ SDGs　SDGs貢献事業（森林整備）／ S　公募事業（森林整備）／災S　公募事業（災害に強い森づくり事業：森林整備）
RC　直接事業（緑化推進）／東震災RC　東日本大震災復興事業（緑化推進）／能登震RC　能登半島地震被災地支援事業（緑化推進）／ R　公募事業（緑化推進）
KC　直接事業（国際協力）／ K　公募事業（国際協力）
Z　公募事業（次世代の森づくりを担う人材育成事業：森林整備）
W　特別公募事業（つながる・つなげる・子ども若者応援事業：森林整備）
T　特別公募事業（スギ等森林の有効活用支援事業：森林整備）
子R　公募事業（子どもたちの未来の森づくり事業：緑化推進）
学R　直接事業（学校環境緑化モデル事業：緑化推進）

森林の整備

05SC-01　木下沢渓谷冒険の森保全活動と環境教育（東京都）…… 10
05SC-02　富士山緑の募金の森造成事業（静岡県）…… 11
05SC-03　和木町協働の森づくり事業（山口県）…… 12
05SC-04　グリーンベイOSAKA森の維持管理とコミュニティ・フォレストリー活動（大阪府）…… 13
05SC-05　トトロの森と狭山丘陵周辺緑地での里山保全（埼玉県）…… 14
05SC-06　渡良瀬川源流の荒廃地緑化事業（栃木県）…… 15
05SC-07　国民参加による災害に強いめぐりの森づくり（神奈川県）…… 16
05SC-08　丹波平松の森づくり（兵庫県）…… 17
05SC-09　玖珠町ふれあいの森づくり事業（大分県）…… 18
05SC-10　湯河原で進める企業の森づくり体験活動事業（神奈川県）…… 19
05SC-11　南足柄で進める企業の森づくり体験活動事業（神奈川県）…… 20
05SC-12　さいたまの森林づくり支援事業（埼玉県）…… 21
05SC-13　多様性を高めるモデルフォレストづくり「フォレスト21さがみの森」（神奈川県）…… 22
05SC-14　里山・里海協働育樹の森づくり事業（宮城県）…… 23
05SC-15　「ぜんどこMCJの森」づくり（長野県）…… 24
05SC-16　「キリン千歳水源の森」整備の森づくり（北海道）…… 25
05SC-17　「安曇野エア・ウォーターの森」森林整備事業（長野県）…… 26
05SC-18　三草山ゼフィルスの森における防鹿柵設置（大阪府）…… 27
05SC-19　「ぜんどこMCJの森」づくり（長野県）…… 28
05SC-20　日本曹達グループの森づくり事業（新潟県）…… 29
05SC-21　「大阪府ENEOS友好の森」森林整備事業（大阪府）…… 30
05東震災SC-01　山武市蓮沼殿下海岸林の植栽事業（千葉県）…… 31
05東震災SC-02　東日本大震災の教訓を伝える桜の植樹（岩手県）…… 32
05東震災SC-03　3.11復活の森づくり～千葉県一宮町東浪見海岸林再生事業（下草刈り）（千葉県）…… 33
05東震災SC-04　3.11復活の森づくり～千葉県山武市蓮沼殿下海岸林再生事業（下草刈り）（千葉県）…… 34
05東震災SC-05　「岩沼・荒浜潮除須賀松の森」保育事業（宮城県）…… 35
05S-01　森の笠地蔵プロジェクト2023（岩手県）…… 36
05S-02　北上川の上下流を結ぶ緑の再生活動（宮城県）…… 37
05S-03　女川町出島の美しい森づくり事業（宮城県）…… 38
05S-04　平地の杜づくり　～被災した集落跡地を美しい場所へ（宮城県）…… 39
05S-05　登山道、桜並木及びソメイヨシノ枯れ枝等整備作業（福島県）…… 40
05S-06　阿武隈南部里山共生ー活性化事業（福島県）…… 41
05S-07　プロジェクトD（どんぐりプロジェクト）福島（福島県）…… 42
05S-08　間伐による森づくり（茨城県）…… 43
05S-09　北本中央緑地　雑木林再生プロジェクト（埼玉県）…… 44

05S-10 継続的な森林管理と将来世代への木育の推進（千葉県） …… 45
05S-11 広葉樹の植栽及び食害防止策設置事業（東京都） …… 46
05S-12 森と街をつなげ地域のケア力を高めるPJ（三重県） …… 47
05S-13 北浅川上流地区の森にホタルを飛ばそう！（東京都） …… 48
05S-14 都市近郊の新しい里山づくり（東京都） …… 49
05S-15 一般市民による湘南海岸林整備事業（神奈川県） …… 50
05S-16 富士山南麓の森林復元と環境教育活動（静岡県） …… 51
05S-17 みんなで集う多様で豊かな森づくり活動（東京都） …… 52
05S-18 世田谷・川場上下流連携の森林活性化事業第Ⅳ期（群馬県） …… 53
05S-19 AKIRUNO BASE プロジェクト（東京都） …… 54
05S-20 「山の学校」～水が繋ぐ地域と世代～促進事業（山梨県） …… 55
05S-21 相模湖若者の森づくり、小手澤の森整備活動（神奈川県） …… 56
05S-22 持続可能な竹林整備と普及啓発活動（神奈川県） …… 57
05S-23 山北町丸山地区森林整備事業（神奈川県） …… 58
05S-24 親子が安心して遊べる「フーのきの森」整備事業（新潟県） …… 59
05S-25 ヒノキ金池東シデコブシ群落再生保全活動（愛知県） …… 60
05S-26 猿投山北西山麓の環境林整備（愛知県） …… 61
05S-27 自伐型森林整備支援事業（その2）（愛知県） …… 62
05S-28 常滑高坂野営場森林整備事業（愛知県） …… 63
05S-29 明日を拓く、森の再生を目指して（長野県、愛知県） …… 64
05S-30 名張市赤目地域竹林整備・活用（三重県） …… 65
05S-31 里山整備で人を呼び過疎地域の活性化を図る（京都府） …… 66
05S-32 ゆめみヶ丘岸和田竹林整備事業（大阪府） …… 67
05S-33 里山を伐って・使って・繋げる連続講座（兵庫県） …… 68
05S-34 多国籍＆学生と共に挑む森林里山循環SDGs（兵庫県） …… 69
05S-35 草刈り隊による森林、里山保全整備事業（兵庫県、岡山県） …… 70
05S-36 養蜂から見える癒しの森里山再生活動（熊本県） …… 71
05S-37 間伐と薪割体験を通じた森づくりワークショップ（熊本県） …… 72

緑化の推進

05RC-01 緑のまなび事業（稲敷市立あずま北小学校学校林等整備事業）（茨城県） …… 74
05RC-02 活樹祭～親子森林教室 in 川崎町～（宮城県） …… 75
05RC-03 地域における園庭・裏山整備等モデル事業（２年目）（長野県） …… 76
05RC-04 里山の新しい楽しみ方に挑戦！
「安馬谷里山」アップデートプロジェクト（SDGs貢献事業）（千葉県） …… 77
05RC-05 緑の祭典“かながわ未来の森づくり”2024 in さがみはら（神奈川県） …… 78
05RC-06 倶知安町げんきの森 森づくり実践・教養講座（北海道） …… 79
05RC-07 士幌町げんきの森 木育促進事業（北海道） …… 80
05RC-08 早生樹によるカーボンニュートラル貢献事業（宮城県） …… 81
05東震災RC-01 「被災地に緑と心のふれあい森林づくり」事業（宮城県） …… 82
05東震災RC-02 「森と海を結う・絆の森林づくりプロジェクト」事業（宮城県） …… 83
05能登震RC-01 組立て什器（組手什）を用いた能登半島地震復興支援事業(1)（石川県） …… 84
05能登震RC-02 組立て什器（組手什）を用いた能登半島地震復興支援事業(2)（石川県） …… 85
05能登震RC-03 組立て什器（組手什）を用いた能登半島地震復興支援事業(3)（石川県） …… 86
05R-01 健康な森づくりに関する作業および調査事業（北海道） …… 87
05R-02 持続可能な（カーボンニュートラル）地域づくりプロジェクト（北海道） …… 88
05R-03 白神自然学校遊々の森並びに植林地の除間伐材の伐採・再利用事業（青森県） …… 89
05R-04 「癒しの森」にヤマザクラを100本植える（宮城県） …… 90
05R-05 害虫被害木の整備と市民・子どもたち参加の里山保全整備事業（茨城県） …… 91
05R-06 ヤマアジサイの森の清掃活動とボランティア育成講座（群馬県） …… 92
05R-07 大人も子どもも楽しめる「あそびのもり」整備事業（群馬県） …… 93
05R-08 千葉県富津岬の松林再生植樹活動（千葉県） …… 94
05R-10 遊びと五感を育む「里山園庭」プロジェクト（岐阜県） …… 95

05R-11 高山市森部地域 飛騨漆の森づくり推進事業（岐阜県）…… 96
05R-12 さとやま自然楽校（静岡県）…… 97
05R-13 みどりの少年団結成50周年記念事業（愛知県）…… 98
05R-14 地域性苗木の育苗（滋賀県）…… 99
05R-15 うなぎの森植樹祭（大阪・森は海の恋人）（大阪府）…… 100
05R-16 龍神温泉生物多様性の森造成事業（和歌山県）…… 101
05R-17 おおつか里山桜並木回廊事業（島根県）…… 102
05R-18 荒廃竹林を伐採整備し緑豊かな森の再生事業（香川県）…… 103
05R-20 木に親しみ健康を学ぶ阿蘇の森林整備事業（熊本県）…… 104
05R-21 番所鼻海岸防災林保全活動（鹿児島県）…… 105
05R-22 森林のチカラ・森林の恩恵にふれあおう！～森のもつ８つのチカラ～（鹿児島県）…… 106
05R-23 西表島クリーン作戦を通した緑化促進事業（沖縄県）…… 107

国際協力

05KC-01 インドネシアマドゥラ島　水と生物多様性の保全に向けた緑化と環境教育の推進（第4期1年目）（インドネシア）…… 110
05KC-02 島嶼国フィジーにおける防災に向けた緑化と環境教育（第２期３年目）（フィジー）…… 111
05KC-03 地域住民によるアフリカの里山の再生と保護事業（マリ）…… 112
05KC-04 カンボジア国コンポンチャム州における持続可能な森林管理を目指した植林事業（フェーズ5）（カンボジア）…… 113
05KC-05 2023年度緑の国際ボランティア研修（カンボジア）…… 114
05KC-06 子供達と植えよう！マングローブの森づくり（SDGs貢献事業）（フィリピン）…… 115
05K-01 インドネシア・プダワ村水源地保護事業（インドネシア）…… 116
05K-02 アンデスの学校菜園を守る植林と緑の交流（エクアドル）…… 117
05K-03 里山保全のためのフォーレスト・ファーム（フィリピン）…… 118
05K-04 スーダン小学校の自立的な環境保護促進（スーダン）…… 119
05K-05 モンゴル南部のゴビ砂漠緑化と環境保全事業（2年目）（モンゴル）…… 120
05K-06 ラオス国における「村民の森」保全促進事業（ラオス）…… 121
05K-07 正藍旗における地域密着型生態林再生事業（中国）…… 122
05K-08 アマゾン河口での河岸侵食防止植樹活動（ブラジル）…… 123
05K-09 キリマンジャロ山麓緑化及び社会林形成事業（タンザニア）…… 124
05K-10 ジャカルタ湾岸　マングローブ林再生プロジェクト（インドネシア）…… 125
05K-11 カンボジア国東部の里山再生を目指した緑化推進事業（フェーズ3）（カンボジア）…… 126
05K-12 パレスチナ・セルフィート県での植樹事業（パレスチナ）…… 127
05K-13 中央カリマンタン国立公園周辺地域の環境保全事業（インドネシア）…… 128
05K-14 中国内蒙古・ホルチン砂漠の砂漠化防止活動（中国）…… 129
05K-15 ベトナムにおけるマングローブ林再生事業（ベトナム）…… 130
05K-16 フィリピン沿岸部の自然再生のための植林事業（2年目）（フィリピン）…… 131
05K-18 マダガスカルにおけるSchool Forestry 作り活動による環境保全事業（マダガスカル）132
05K-19 ネパール・シンドゥパルチョーク郡におけるコーヒー育苗と栽培による環境保全（1期3年次）（ネパール）…… 133
05K-20 ボルネオ島での在来種の森林再生と環境教育（インドネシア）…… 134
05K-21 鉄砲水から棚田と子供の未来を守る植林事業（フィリピン）…… 135
05K-22 水源保全とアグロフォレストリー推進事業（ホンジュラス）…… 136
05K-23 タイ北部山岳地域パンカー村の森林再生と農村開発（タイ）…… 137
05K-24 ミャンマー・シャン州における森林を活用した農業生産技術の普及と実践事業（ミャンマー）…… 138

次世代の森づくりを担う人材育成事業

05Z-01 いぶり自然学校的森づくりリーダー育成事業（北海道）…… 140
05Z-02 森林・里山ボランティア　入門講座（東京都、京都府、兵庫県、香川県、徳島県）…… 141
05Z-03 人工林の生物多様性保全活動のモデル化（千葉県）…… 142
05Z-04 木を伐り、使い、植える、未来の森づくり（東京都）…… 143

05Z-05 Cheer call ～炭焼きで里山まもっぺ！～（福島県）…… 144
05Z-06 都市の里山資源の活用推進事業（神奈川県）…… 145
05Z-07 グローカル環境リーダー育成ワークキャンプ（青森県、栃木県、石川県、静岡県、三重県、大阪府、島根県、熊本県）…… 146
05Z-08 間伐材を利用した書道における固形墨の開発（愛知県）…… 147
05Z-09 大学生による森林・竹林整備（京都府）…… 148
05Z-10 次世代と共につくる里山と菊炭の未来2023（大阪府）…… 149
05Z-11 里山活性化と次世代リーダー育成事業（大阪府）…… 150
05Z-12 緑をとりもどせ！土砂崩壊防止をめざして（鳥取県）…… 151
05Z-13 森づくりを目指す若きリーダー養成事業（鳥取県、高知県）…… 152

つながる・つなげる・子ども若者応援事業

05W-01 裏山を活用した「ようちえんの森」整備手法移転事業（北海道）…… 154
05W-02 親子で自然に親しむ活動拡充のための事業（茨城県）…… 155
05W-03 「木育」を通した里山コミュニティづくり（千葉県）…… 156
05W-04 森が好きになるキッズキャンプ場（東京都）…… 157
05W-05 里山と私たちの暮らしのつながりー森の恵みを生活に還元するー（東京都）…… 158
05W-06 知る和が広がる！子供たちと森づくり体験教室（東京都、神奈川県）…… 159
05W-07 子どもたちの感性を育む園庭の森づくり（神奈川県）…… 160
05W-08 佐渡島森のようちえん・がっこうつくり（新潟県、石川県）…… 161
05W-09 体験フィールド「ハッピー山」の整備事業（福井県）…… 162
05W-10 里山にふるさとのある子を育むうじゅうの森事業（山梨県）…… 163
05W-11 四季を味わい、山の恵を感じる　里山をめざそう！（長野県）…… 164
05W-12 根尾川の森　プレーパーク（岐阜県）…… 165
05W-13 森の子フィールド整備と実践、森林体験フィールドのあり方研究（静岡県）…… 166
05W-15 人と自然と動物と生きる（森のがっこう）つくり（愛媛県）…… 167
05W-16 こどもの森づくり・こども森キャンプ事業（大分県）…… 168

スギ等森林の有効活用支援事業

05T-01 市民参加による森林づくり「山と緑の協力隊」（長野県、滋賀県）…… 170
05T-02 環境と人・脱炭素社会に貢献する森林づくり（島根県）…… 171
05T-03 不登校児童生徒による少花粉スギ植栽事業（岡山県）…… 172

子どもたちの未来の森づくり事業

05子R-01 子どもたちと作り、進める「沼田式森づくり」加速化事業（北海道）…… 174
05子R-02 赤井川村の森づくりと環境学習事業（北海道）…… 175
05子R-03 写万部山麓緑化事業～海とつながる木育基地（北海道）…… 176
05子R-04 「ふるさと復興の森づくり@厚真町」事業（北海道）…… 177
05子R-05 こどもたちとつなぐ未来の森プロジェクト（青森県）…… 178
05子R-06 SDGsキッズ海岸防災未来の森づくり事業（宮城県）…… 179
05子R-07 若葉こども園の森整備事業（福島県）…… 180
05子R-08 田人林業体験フィールド活動事業（福島県）…… 181
05子R-09 畑小学校「学びの森」復活プロジェクト（千葉県）…… 182
05子R-10 森林環境教育みらいプログラム（東京都）…… 183
05子R-11 里山の手入れをしながら季節暦づくり（東京都）…… 184
05子R-12 みんなで育てるキョロロの森（新潟県）…… 185
05子R-14 子どもたちの未来の森づくり事業（石川県）…… 186
05子R-15 みんなの手で「もどそう！守ろう！石割山の緑を」（山梨県）…… 187
05子R-16 とうみ子どもがまんなかプロジェクトpart2（長野県）…… 188
05子R-17 どんぐりプロジェクト♪森の健康診断（長野県）…… 189
05子R-18 森林ESD「森あそび」の安全充実整備（長野県）…… 190
05子R-19 子どもがド真ん中　森のなかの多世代交流作り（静岡県）…… 191
05子R-20 六栗西山ふれあいの森整備事業　その３（愛知県）…… 192

05子R-21　どんぐり交流会の山づくり　その４（愛知県）…… 193
05子R-22　あさくら里山の保全・活用事業（愛知県）…… 194
05子R-23　中学生を対象とした木育活動・森づくり事業（愛知県）…… 195
05子R-24　あつまれ！忍びの森プロジェクト（三重県）…… 196
05子R-25　森のたまり場づくりと、ものづくりの実践（滋賀県）…… 197
05子R-26　緑の大阪！ SDGs・里山協働活動（大阪府）…… 198
05子R-27　漁業者による森づくり活動（兵庫県）…… 199
05子R-28　生駒市西畑町の棚田・里山の再生と創造（奈良県）…… 200
05子R-29　みんなでつくるドングリの森（鳥取県）…… 201
05子R-30　美保関で森活（島根県）…… 202
05子R-31　みんなで育てよう伊部つながりの森の整備事業（岡山県）…… 203
05子R-32　次世代に向けたきせつえん再緑化事業（広島県）…… 204
05子R-33　どんぐりを育てる秘密基地（熊本県）…… 205
05子R-34　未来につなぐ松林再生事業～小学生と共に～（大分県）…… 206
05子R-35　馬事公苑子どもの森づくり活動（鹿児島県）…… 207

学校環境緑化モデル事業

05学R-01　学校環境緑化モデル事業（北海道）…… 210
05学R-02　学校環境緑化モデル事業（北海道）…… 211
05学R-03　創立110周年記念及び石鉢緑の少年団結成記念「石フワリンの森再生事業」（青森県）… 212
05学R-04　学校環境の緑化を通じての環境教育の推進（岩手県）…… 213
05学R-05　盛岡市立仁王小学校　創立150周年記念環境整備事業（岩手県）…… 214
05学R-06　花いっぱいの町の花いっぱいの学校（宮城県）…… 215
05学R-07　仙台市立生出小学校創立150周年記念緑化事業（宮城県）…… 216
05学R-08　学校環境緑化モデル事業（宮城県）…… 217
05学R-09　木にふれあい　木に学ぶ（秋田県）…… 218
05学R-10　学校環境緑化モデル事業（果樹畑整備事業）（山形県）…… 219
05学R-11　ふれあいの森整備事業（福島県）…… 220
05学R-12　校庭の樹木整備事業（福島県）…… 221
05学R-13　SKGs -Sustainable Komagatasho Goals（持続可能な駒形小の杜 再生事業）（群馬県）… 222
05学R-14　藤岡特別支援学校　いこいの杜緑化事業（群馬県）…… 223
05学R-15　学校環境緑化モデル事業（群馬県）…… 224
05学R-16　蝶の舞う学校に（埼玉県）…… 225
05学R-17　創立150周年記念・学校緑化整備事業（千葉県）…… 226
05学R-18　150周年記念　ビオトープ 寒川憩いの泉再生事業（千葉県）…… 227
05学R-19　ビオトープ池整備工事（東京都）…… 228
05学R-20　御成小学校九十周年記念緑化事業（神奈川県）…… 229
05学R-21　仏向小学校60周年　校庭サクラ再生事業（神奈川県）…… 230
05学R-22　生地小学校「生地っ子しょうず」緑化事業（富山県）…… 231
05学R-23　福光中部小学校「中部の森」整備事業（富山県）…… 232
05学R-24　校庭および花だんの整備（石川県）…… 233
05学R-25　旭丘　四季を感じるプロジェクト（石川県）…… 234
05学R-26　春江東小学校学びの広場緑化事業（福井県）…… 235
05学R-27　磯部小学校創立150周年記念緑化整備事業（福井県）…… 236
05学R-28　学校環境緑化モデル事業（桜の木の植え替え）（山梨県）…… 237
05学R-29　学校環境緑化モデル事業（学校敷地内の緑化：手入れ）（山梨県）…… 238
05学R-30　上松小学校150周年記念事業環境整備（長野県）…… 239
05学R-31　学校環境緑化モデル事業（校地内の環境整備）（長野県）…… 240
05学R-32　学びの森づくり～観察林エリアを作る～（長野県）…… 241
05学R-33　しろやまこみち周辺整備事業（岐阜県）…… 242
05学R-34　お茶の木から学ぶSDGs（岐阜県）…… 243
05学R-35　創立150年記念緑化事業（静岡県）…… 244
05学R-36　ビオトープ周辺の環境整備事業（静岡県）…… 245

05学R-37　花壇の整備　樹木の剪定事業（静岡県）…… 246
05学R-38　樹木剪定・ガーデニング整備事業（静岡県）…… 247
05学R-39　つなげよう　緑と生命プロジェクト～くすくんと共に～（愛知県）…… 248
05学R-40　桜木小生き物の森復活大作戦（愛知県）…… 249
05学R-41　名張小学校百年の森整備事業（三重県）…… 250
05学R-42　学校環境緑化モデル事業（三重県）…… 251
05学R-43　水口小学校環境整備事業（滋賀県）…… 252
05学R-44　稲枝西小学校緑化リニューアル大作戦（滋賀県）…… 253
05学R-45　学校環境緑化モデル事業（京都府）…… 254
05学R-46　永寿小　野外活動とSDGs活動（大阪府）…… 255
05学R-47　用和小学校創立150周年記念緑化事業（大阪府）…… 256
05学R-48　柳本小学校創立150周年記念緑化事業（奈良県）…… 257
05学R-49　みんなのひろば 緑化事業 in 櫟本小学校（奈良県）…… 258
05学R-50　環境教育フィールド整備（和歌山県）…… 259
05学R-51　ネイチャールーム環境改善大作戦（和歌山県）…… 260
05学R-52　学校環境緑化モデル事業（鳥取県）…… 261
05学R-53　学校環境緑化モデル事業（鳥取県）…… 262
05学R-54　中西小学校校舎・校庭完成記念事業（島根県）…… 263
05学R-55　学校環境緑化モデル事業（島根県）…… 264
05学R-56　「映える写真スポット」の整備事業（岡山県）…… 265
05学R-57　学校創立150周年記念花壇整備事業（岡山県）…… 266
05学R-58　学校創立10周年記念の庭整備事業（岡山県）…… 267
05学R-59　志和小学校校舎新築開校記念緑化事業（広島県）…… 268
05学R-60　右田小学校開校150周年記念緑化事業（山口県）…… 269
05学R-61　三蒲小学校創立150周年記念ハッピーグリーン緑化事業（山口県）…… 270
05学R-62　学校環境緑化モデル事業（山口県）…… 271
05学R-63　香川県立善通寺養護学校 学校環境緑化モデル事業（香川県）…… 272
05学R-64　ハート池の整備及び樹木の剪定（香川県）…… 273
05学R-65　ふるさとの森 緑化事業（愛媛県）…… 274
05学R-66　羽根えがおプロジェクト（高知県）…… 275
05学R-67　学校環境緑化モデル事業（校内緑化整備事業）（福岡県）…… 276
05学R-68　第四小学校ふれあい池ビオトープ改修（長崎県）…… 277
05学R-69　西海市立ときわ台小学校ビオトープ整備（長崎県）…… 278
05学R-70　「みんなの森」等の整備（熊本県）…… 279
05学R-71　宇目緑豊小・宇目っ子の森事業（大分県）…… 280
05学R-72　芳満川水質浄化・河畔緑化推進計画（大分県）…… 281
05学R-73　都農町立都農南小学校「南っ子庭園」再生事業（宮崎県）…… 282
05学R-74　大宮小学校 夢の森緑化事業（宮崎県）…… 283
05学R-75　トンボとメダカが育つ大川内ビオトープ（鹿児島県）…… 284
05学R-76　学校環境の緑化教育を推進する（沖縄県）…… 285
05学R-77　ビオトープの整備を行い、環境教育の推進（沖縄県）…… 286

令和２・３・４年度事業

02災S-11　自然回帰・椿守の森づくり事業（森林の整備と連携して行う普及啓発活動）（島根県）… 288
02K-02　モンゴル国における環境教育を目的とした環境保護林造成事業（モンゴル）…… 289
03SDGs-02　八王子市寺田緑地の整備・緑化事業（東京都）…… 290
03子R-43　七隈の森を整備して、地球温暖化を防止しよう（福岡県）…… 291
04SC-15　企業との協働による「高梁美しい森」森林整備事業（岡山県）…… 292
04SDGs-03　実践！災害に強い森づくり～がんばろう！人吉球磨～（熊本県）…… 293
04R-22　西表島クリーン作戦を通した緑化促進事業（沖縄県）…… 294
04K-09　アマゾン森林火災先住民族消防団事業（ブラジル）…… 295

令和５年度　中央事業実施状況一覧…… 296

持続可能な開発目標

Sustainable Development Goals

エスディージーズ
SDGs

持続可能な開発目標（SDGs）は、貧困や不平等・格差、気候変動などの
さまざまな問題を根本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標です。

目標1　貧困をなくすこと

目標2　飢餓をなくすこと

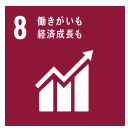
目標3　健康であること

目標4　質の高い教育

目標5　ジェンダーの平等

目標6　清潔な水と衛生

目標7　再生可能エネルギー



目標8　適切な良い仕事と経済成長

目標9　新しい技術とインフラ

目標10　不平等を減らすこと

目標11　持続可能なまちと地域社会

目標12　責任を持って生産し、消費すること

目標13　気候変動への対策

目標14　海のいのちを守ること

目標15　陸のいのちを守ること

目標16　平和で公正な社会

目標17　目標のために協力すること

森林の整備

05SC-01 木下沢渓谷冒険の森の会

木下沢渓谷冒険の森保全活動と環境教育

東京都八王子

事業概要

東京都八王子市裏高尾町にある木下沢下流域の森林を対象に、市民の憩いの場、レクリエーションの場、多くの生物が生息する場として利活用できる森林にしていくことを目的として、次のような活動を行っている。①歩道・遊歩道、ふれあい広場などの整備、②間伐、風倒木の処理・植樹などの森林整備、③裏高尾・木下沢渓谷連絡会議と連携した情報の共有、④自然とふれあい自然を知る行事の企画、提供、⑤イベント参加者による生物多様性に即した環境づくりの実施と学習。

事業成果

新しい拠点・整備エリアの周辺生物調査を継続して行い、認知向上に向けたガイドブックや生物図鑑、チェックリストを作成し配布した。この活動によって定期的に参加するメンバーのコミュニケーションは活性化し、イベント活動の指導者や協力スタッフの担当制が機能するようになり、初回参加者や親子の満足度の高い植樹や間伐を含めたプログラムが実施できるようになった。結果、年12回の定例作業に加えて年３回の親子体験イベント、14回のプチ体験イベントを実施した。自然体験を希求する都市住民に開かれた活動をという思いで、各種安全対策をした上でプログラムを展開できたことは大きな成果と考えている。

事業をよく知る関係者の声

・普通では体験できないことができる。（リピート参加者）
・子どもを連れての参加ではあるが、もっと森の整備をしてみたい。（リピート参加者）

参加者の声

・木を植えたのが楽しかった。（小学生）
・のこぎりでたくさん木を切れて面白かった。（小学生）
・木がドーンと倒れたのがすごかった。（小学生）

植樹

作業道整備

水生昆虫観察

生物図鑑

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.15ha
植付本数：100本
下刈面積：0.2ha
除伐面積：0.4ha
間伐面積：0.4ha
作業道整備：400m
生物調査：８回
イベント：17回

参加者数
都内：315人
都外：　50人
計　：365人

樹種
イロハモミジ、オニグルミ、ヤマグリ、ウワミズザクラ、イタヤカエデ

05SC-02　富士山緑の募金の森委員会

富士山緑の募金の森造成事業

静岡県富士宮市

事業概要

平成８年９月の台風17号は、富士山南東斜面に風倒木など甚大な被害を与えた。本事業は、その被害箇所の復旧を目的に開始された事業であり、国土緑化推進機構が提唱する「国民参加の森林づくり活動」の場として、地域の森林ボランティア団体に呼びかけ、今日まで実行委員会方式で緑の募金中央事業として実施している。

事業成果

平成12年度より植栽したヒノキ人工林エリア（16.85ha）の計画的な保育間伐（3.86ha）を、請負（富士森林組合）により令和４年度に引き続き実施した。また、植生調査などを継続するとともに、定期的に巡視などを実施した。

事業をよく知る関係者の声

・台風被害跡地への植栽開始から20年以上が経過し、ヒノキ林、広葉樹林ともに順調に生育しているものの、一部、シカによる森林被害が見られる。（ボランティア団体）

毎木調査

つる切り

下刈り後の清掃

灌木の除去作業

実績とりまとめ

作業内容
間伐面積：3.86ha
保全巡視：3,100m

参加者数
県内：53人
計　：53人

05SC-03 和木町里山研究会

和木町協働の森づくり事業

山口県和木町

事業概要

本事業は、「豊かで美しい森林づくり」と「地球環境の保全」を目的とする。和木町里山研究会が主体となって地元企業のENEOS㈱麻里布製油所の社員や家族、OB及び和木町、山口県の職員ボランティアと協働で和木町有林約1.3haの整備を2011年12月から継続している事業である。

事業成果

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により近年事業が進んでいなかったが、今年度は当感染症も収束傾向となったため予定どおりエネオスの森事業を実施した。ヤマモモ林などの周辺雑木の伐採や草刈りを実施した結果、活力のある森林によみがえったと感じる。

事業をよく知る関係者の声

・近年実施できていなかったが、久しぶりに当事業を実施できたことがよかった。継続して協働での森づくりを行い、活力ある森林を維持していければと思う。(50代職員)

参加者の声

・子どもにとっても森林に触れる機会が減ってきている中、当事業への参加は多角的に意義が大きい。(50代参加者)

作業のミーティング

ヤマモモ園の下刈り

クリの植樹

収穫したクリの仕分け

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：2.6ha
除伐面積：1.3ha

参加者数
県内：70人
計　：70人

樹種
クリ

05SC-04　(特非) グリーンベイOSAKA

グリーンベイOSAKA森の維持管理とコミュニティ・フォレストリー活動

大阪府堺市

事業概要

本事業の目的は、これまで植樹した森のクズの被害を防ぎ、維持管理活動を行うこと、さらに、森の中で地域の人たちと森を楽しむこと（コミュニティフォレストリー活動）である。主な活動は、植樹会、草刈会、作業後にコミュニティフォレストリーイベント（森カフェレストラン）を実施した。

事業成果

草刈会を終えて、森の中で「森カフェレストラン」を開催した。過去に植樹会や草刈会に来た方々が友人などとともに、森を見渡しながら楽しく語らっている姿を幾度となく目にした。この日は、コミュニティの方々が主役になれた日だった。

事業をよく知る関係者の声

・この日は森の樹々に包まれながらの催しをゆっくり楽しむことができ感激。また、みんなで20年間育ててきた共生の森を今後どのように活用していくか、今回のイベントはとても参考になる先行事例と感じた。（NPO共生の森事務局長）

参加者の声

・グループのメンバーたちに参加を呼び掛けたとき、森の中でイベントがあると伝えると、いつもの反応と異なった。（植樹会･草刈会に参加のグリーンフロント堺代表者）

植樹箇所の土壌改良

植樹会

草刈会

森カフェで天王寺動物園のスタッフによる講演会「自然の循環について」

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：250㎡
植付本数：140本
下刈面積：0.2ha
除伐面積：0.2ha

参加者数

府内：168人
府外：　30人
計　：198人

樹種

アラカシ、ウラジロガシ、タブノキ、エゴノキ、クスノキほか

05SC-05　(公財)トトロのふるさと基金

トトロの森と狭山丘陵周辺緑地での里山保全

埼玉県所沢市

事業概要

生物多様性保全のため里山環境を再生させ、この活動を普及することで経済・人員的支援につなげ、持続的な里山管理を目指す。活動内容は、①里山管理ボランティア「何かし隊」、地域の協力団体などを中心とした里山管理作業。自立した活動を進めるための道具の購入や里山管理に必要な各種講習会の開催。②危険・支障木などを職員又は外部委託にて処理。発生材を市民に頒布。より自前での作業ができるよう、ツリークライミングによる伐採講習を職員が受講。③新たなボランティアとそのグループ確保のための当基金の活動の理解を目的とした普及啓発活動。④トラスト地全域のナラ枯れ状況調査と補虫トラップの設置、萌芽更新伐採作業及び萌芽更新伐採の効果測定のための毎木調査を実施。⑤新たに取得した森の生物調査。結果を元に管理方針・計画を作成。既存の森についても生物調査、管理による成果評価により管理方針・計画の変更を検討。生物調査に必要な機材の購入、調査技能向上の講習会に参加。

事業成果

継続的な普及啓発活動により新たに3か所のトトロの森が増え、会員数も維持できている。里山管理ボランティア団体「何かし隊」も41名増加。里山管理作業、ナラ枯れ対策についても、継続的な作業や調査により、将来的に一歩一歩若返った森づくりを進めることができている。

事業をよく知る関係者の声

・貴重な狭山丘陵の自然を未来の子どもたちに手渡したい、と始まった活動は今年で34年目。今後も安全に森の手入れをする技術や自然を学びながら、森の魅力を多くの方に知っていただくことにも力を入れたい。(当基金理事)

参加者の声

・この一年、様々な活動をしてしっかりとトトロの森を管理されていることを実感し、これからも微力ながらトトロの森に関わりたい。(何かし隊10代女性)

「何かし隊」による竹林整備

事務局開催の応急手当普及講習

関係団体・ボランティアによる収穫祭

トトロの森ガイドツアー「トトロの森で虫を探そう!」

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：6.8ha
除伐面積：6.9ha
間伐面積：6.9ha
ゴミ拾い：0.7ha
生物調査：2.0ha
イベント：14回

参加者数

計　：1,242人

05SC-06 （特非）足尾に緑を育てる会

渡良瀬川源流の荒廃地緑化事業

栃木県日光市足尾町

事業概要

銅山の煙害で荒廃した足尾の山々に木を植え、緑したたる森に還すとともに、自然環境を大切にする心を育むことを目的とする。主な活動は以下のとおり。①小学生などの体験植樹及びボランティア募集による植樹会の開催、②植樹後の下刈りなどの管理作業、③荒れている植樹予定地の地盤改良工事。当会スタッフで作業し、技術的・体力的に困難な場合は外部委託する。

事業成果

今年度は6,888人が参加し、１万2,920本の苗木を植えた。これまで28年間で22万人が29万３千本を植えた。植樹活動には栃木県内をはじめ多くの企業の参加が増え、助成による取り組みのPRにより、その後の管理作業への参加も得られるようになった。植樹は初めてという人も多い中、木柵で階段状に整備し、黒土を入れる地盤改良整備を行ったことで、安全かつ円滑に植樹をすることができた。

事業をよく知る関係者の声

・栃木県が基盤整備した植樹地に、NPOが助成金を活用して地盤改良工事を行っているのはすばらしいことだが、企業や県が植樹地整備、緑化事業を継続して行うことも重要である。二酸化炭素排出削減やカーボンオフセットが叫ばれている現在、さらに国や県が緑化事業にもっと予算を出して整備してほしい。（サポーター参加者 50代）

参加者の声

・毎年の行事として会社で来ている。少しずつ緑が増える山を見るのが楽しみ。（40代）
・数年前の木が大きく育っているのを見て感動した。一人一人の力は小さくても多くの人が参加することにより実を結ぶことを実感できた。（70代）
・毎年緑が濃くなる様子は勇気づけられる。体が続く限り参加したい。（80代）

久蔵口植樹地の木柵嵩上げ作業

黒土を久蔵口植樹地へバケツリレーで運び上げる

体験植樹（植樹作業前に紙芝居を使って歴史や植え方を説明）

春の植樹デー（企業が参加）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.1ha
植付本数：1万2,920本
下刈面積：0.5ha
地盤整備面積：0.075ha
イベント：117回

参加者数
県内：2,239人
県外：4,649人
計　：6,888人

樹種
コナラ、クヌギ

05SC-07　(一社) Silva

国民参加による災害に強いめぐりの森づくり

神奈川県横須賀市湘南国際村町

事業概要

三浦半島の中央に位置し、水源林として源流から支流の水質を保ち、トウキョウサンショウウオも生息していた神奈川県有地「湘南国際村めぐりの森」は、現在、バブル期に開発された跡地として荒廃しており、標高220～300mのなだらかな丘陵地帯でありながらススキやメドハギなどの河川の植生のような貧栄養な景観が続く。当該地にて2009年より神奈川県のコア事業として、植樹による土地本来の森の再生を実践する。

事業成果

当該地にて2009年より神奈川県のコア事業として、植樹による土地本来の森の再生を実践しており、本年度は、春と秋の定例植樹事業開催時の２日間と年間作業へ1,372名が来場し、1.6haへ4,000本の潜在自然植生種を植樹し、植樹累計本数７万9,382本・2.32haの緑化につながった。また、当該地は、2024年９月に、環境省の「自然共生サイト」に認定され、国際的にも自然保護エリアとして認識された。

事業をよく知る関係者の声

・建材を商品として扱うことから経済林を中心に展開しているが、生態系の維持のためには、土地本来の森の再生が不可欠であると実感している。実際に植樹作業を体験したことで人の手で森を再生することができる達成感が環境教育にもつながると思う。(植樹祭参加者)

参加者の声

・いろいろな木々を植え、共生の森を築く大切さを教授いただいた。(60代)
・木の植え方を全く知らず、混植密植の植樹方法なども大変勉強になった。(30代)

植樹準備（使用済粒上活性炭を搬入）

植樹準備（苗木をミックスする作業）

植樹祭（苗木の移動）

植樹祭（植樹の様子）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.6ha
植付本数：4,000本
樹勢回復：500本

参加者数
県内：　612人
県外：　760人
計　：1,372人

樹種
土地本来の自生の樹種(シイ・タブ・カシ類等、25~40種)

05SC-08 兵庫ドングリ千年の森をつくる会

丹波平松の森づくり

兵庫県宍粟市、丹波市

事業概要

住みよい丹波の住みよい地域で安全安心の森づくりのため、丹波市春日町平松区の森林愛好会と一体となり、ドングリ植樹を通して地域の交流を図り、魅力ある森づくりを推進する活動を実践する。

事業成果

今年も丹波市で植樹会を開催した。平松区森林愛好会による体験イベント（間伐作業の見学、粉砕体験･原木シイタケの植菌など）も開催され､株主との交流を深めることができた。

事業をよく知る関係者の声

・新型コロナウィルスの影響も落ち着いて、コロナ前に近い状態でのイベントが開催できた。そのおかげで、各イベントの参加人数も増加傾向にある。丹波市平松区森林愛好会のご協力により、下刈り、補植、伐採、整地、植樹がスムーズに実施できた。今後も協力し合い、会員増加を図っていきたい。

参加者の声

・ドングリ拾いはいろいろな自然とふれあいながら、子ども時代に戻り、無心にどんどん拾うことができ楽しかった。植樹会では、森林愛好会の皆様と一緒にカレーを作った。一緒に作ることにより、丹波の森（平松区）の人々の温かさにふれることができて、心が洗われるように感じた。ドングリを通じて昔の日本の人々のふれあいを感じられた。

公園でドングリ拾い

下刈り作業

植樹地伐採・整備作業

植樹会

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1ha
植付本数：150本
下刈面積：3ha
ドングリ拾い、整地作業等

参加者数
県内：190人
計　：190人

樹種
クヌギ

05SC-09 玖珠郡森林組合

玖珠町ふれあいの森づくり事業

大分県玖珠町

事業概要

本事業は、森林のもつ多面的機能をいかし災害に強い森林をつくること及び自然がもたらす豊かさを体験し、自然の大切さ・すばらしさを学ぶことを目的とする。活動内容は、企業ボランティア（ENEOS㈱）、地元緑の少年団の参加により、下刈り、枝打ち、花壇整備などを実施した。

事業成果

クヌギ、スギの木の枝打ちをボランティア活動で行い、災害に強い健全な森林に導くことができた。

事業をよく知る関係者の声

・コロナ禍で活動ができなかった時期があったが、久しぶりに童話の森活動をけがや事故などもなく開催できたことがうれしい。参加された方々も指導者の話をよく聞き活動されていた。「毎回参加してるよ」との声を聞き楽しみにしてくださってる方がいるんだと思った。今後、参加者が喜んで活動できるようなメニューを考えていきたい。（町役場職員）

参加者の声

・久しぶりに森林保全活動に参加することができた。天気にも恵まれ、よい汗をかいた。日頃使うことのないノコギリによるクヌギの枝打ちで、指導者からは枝打ちをする意味を教えていただいた。森林整備は、災害防止、荒廃防止、健全の山づくりのためと学んだ。シイタケの収穫も初めて体験をした。活動後に食べた昼食の猪汁が美味しかった。今後も参加したい。（ENEOS社員）

下刈り

花壇整備

クヌギ原木の伏込場整備

スギ枝打ち

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：3.08ha
原木起こし・伐採：120本
鹿ネット補修：40m
花壇整備：４か所
クヌギ枝打面積：0.40ha
スギ枝打本数：20本
シイタケ駒打：2,000駒

参加者数

県内：46人
県外：20人
計　：66人

05SC-10　（公財）かながわトラストみどり財団

湯河原で進める企業の森づくり体験活動事業

神奈川県湯河原町

事業概要

湯河原町の協力を得て進める㈱日本触媒・湯河原万葉の森は、下流には町の浄水場があり重要な水源林である。そのため、水源林として下層植生の豊かな水源涵養機能の高い森林づくりを目指すとともに、生物多様性など森林の様々な働きへの理解深める体験活動を行うものである。主な活動は、間伐、水源整備、自然観察会など。また、この事業は企業のCSR活動を行うために、企業の要望に沿う形で活動内容などを計画している。

事業成果

以前に駒打ちした、シイタケのホダ木も６年以上が経過したため、新たにシイタケの駒打ち、仮伏せを行い、今後の生育に期待をしている。

事業をよく知る関係者の声

・10周年記念事業を行い、開所記念に植栽した少花粉スギや２年目に植栽したクヌギ・コナラの成長に森の歩みを感じた。記念事業としてクヌギ、コナラの植栽地に、活動エリア内で芽生えた広葉樹の実生を苗畑に移して育てた苗を植栽した。成長を見守り、継続して苗畑で苗を育てて広葉樹林を目指す。また少花粉スギの２回目の枝打ち（梯子使用）や間伐を行う継続的森林整備活動と森の自然を楽しめるような企画を提案していきたい。（森林インストラクター）

参加者の声

・普段味わうことのできない活動ができて良かった 。広葉樹の植林をしたが、自分が植えた木が立派になる姿を今後も見守っていきたい。貴重な体験をさせていただきありがたい。（日本触媒社員）

植樹後は防獣ネットを設置

原木の仮伏せ

間伐体験

10周年記念行事としてエコバックに葉っぱスタンプ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.001ha
植付本数：23本
下刈面積：0.001ha
枝打面積：0.002ha
間伐面積：0.002ha
シイタケ駒打：１回
イベント：１回

参加者数

計　：102人

樹種

ケヤキ

05SC-11　（公財）かながわトラストみどり財団

南足柄で進める企業の森づくり体験活動事業

神奈川県南足柄市

事業概要

緑の募金に協力する住友三井オートサービス㈱の森づくり体験活動が円滑に推進し充実した成果を上げるため、当財団の森林づくり活動に係わる蓄積したノウハウをいかし、活動計画の作成、それに基づく森林整備や環境整備、森づくり活動の指導などを行う。今年度は事務局によるベンチ作りと社員が集まり林内整備や間伐作業を行った。

事業成果

令和６年４月より新入社員の研修として、活動に参加してもらうことになった。活動内容は、CO_2吸収量の調査で、森の紹介、自社事業とからめた論理展開をすることで、自身の今後の仕事への関心も高めることができ、新入社員向けの最適なプログラムとして確立できた。

事業をよく知る関係者の声

・企業事務局や参加者からの希望を伺いながら、マンネリ化しないように活動を提案し、当日に安全かつ作業を進めながらも楽しんでいただけるよう事前準備を行った。活動当日はなぜこの作業をするのかをもう少し説明した方が良かったのではないかと思い、今後はその点も考慮しながら進めたい。また全体のエリアをどうしていきたいのかを森林所有者の意向も踏まえ、財団や企業事務局とも今一度確認して、活動内容を提案していきたい。（森林インストラクター）

参加者の声

・滑車を利用して木を倒すことが初めての体験であった。すごく貴重な体験になった。（SMAS社員）
・自分たちが測った部分だけで4 tのCO_2を吸収していることに驚いた。（SMAS社員）

下刈り作業

枝打ち作業

間伐作業

森林調査

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.02ha
枝打面積：0.04ha
間伐面積：0.01ha
森林資源活用：１回
シイタケ植菌：１回
林内整理：0.05ha
記念コースター作り：１回
森林調査：0.08ha
ベンチ作り：１基

参加者数
計　：172人

05SC-12　(特非) 埼玉森林サポータークラブ

さいたまの森林づくり支援事業

埼玉県越生町、ときがわ町、三芳町、小川町、桶川市、さいたま市、寄居町

事業概要

県内において森林ボランティア体験事業（植樹、間伐、下刈り）を実施する企業や学校などに対し、安全に活動できるよう支援・指導する。これにより地球温暖化防止のための森林整備が進み国民参加の森林づくり運動に寄与することを目的とする。

事業成果

今年度も、企業の森林ボランティア体験、学校などの体験学習の森林活動（植樹、間伐など）の支援・指導を実施した。温暖化による地球環境の変化により一層の森林整備が必要であることについて、参加者の理解が進んだ。

事業をよく知る関係者の声

・都市部の企業がボランティア体験により森林整備活動を行うことは、自然にふれあう機会が少なくなっている昨今、参加者が森林の機能や地球温暖化防止について考える良い機会である。また、小学生が自然の中で体を動かしながら森林作業を体験することは、森林の働きや自然の大切さに興味を持つきっかけとなったのではないかと思う。（緑化推進委員会関係者）

参加者の声

・斜面で木を植えるのは大変だったけれど、貴重な体験ができた。（小学生）
・植樹したヤマザクラに花が咲くのがとても楽しみ。（小学生）
・社会人になって初めて森づくり活動に参加し、大きな木を伐る体験ができた。森林を育てることを学ぶことができた。（参加者）

小学生の植樹体験

小学生の植樹体験

企業のボランティア体験（木の伐り方を学ぶ）

企業のボランティア体験（ロープを使って木を倒す）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.6ha
植付本数：382本
下刈面積：1.0ha
除伐面積：4.4ha
間伐面積：14.44ha
森林調査：2.4ha
落葉掃き、コースター作り

参加者数
県内：306人
県外：65人
計　：371人

樹種
ヤマザクラ、コナラ、ツバキ、ドウダンツツジ

05SC-13 フォレスト21さがみの森連絡協議会

多様性を高めるモデルフォレストづくり「フォレスト21さがみの森」

神奈川県相模原市

事業概要

森と人の関係を再構築し森づくりの輪を広げ、持続可能な社会の基盤となる生態系豊かな森をつくりながら、活用する事業の展開を目指す。本事業を市民参加によるモデルとして発信し、国内における放置人工林をはじめとした森林への関心離れへの解決に結びつけたい。主な活動は、①生物多様性や地域の環境に配慮した森づくり活動、災害に強い森づくりの推進 、②健全な森づくりのための知識・技術のスキルアップ、③初心者や子ども向けの森林環境教育や、森林サービス産業の創出に向けた活動、④森林環境のなかで心身をリフレッシュできる活動など。

事業成果

「人工林の多様性を高める森づくり」を実践していくため、実生苗探し、ドングリの播種、ギャップ地への補植、ナラ枯れ被害拡大防止のための防止テープ貼り作業、獣害対策ネットの設置、野生動物の継続的なモニタリングなどを行い、より多様性のある森林へと着実に進めることができた。

事業をよく知る関係者の声

・様々な樹種で構成された森林へと着実に近づいている。ドローン・IT技術を使って上空からのモニタリングなども行って総合的に様相を確認できるとより良いのではないか。（自治体森林・林業技術担当者）

参加者の声

・大変明るく和やかな雰囲気の中、自然の中で作業するのはとても気持ち良かった。（東京都40代女性）
・丁寧な説明で新しいことを学べた。体力は結構必要な活動と認識した。（神奈川県20代男性）

中道補修

ナラ枯れ対策

クヌギ実生苗の育成

ヒノキ林での間伐作業

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.05ha
植付本数：100本
下刈面積：0.3ha
除伐面積：0.6ha
間伐面積：1ha
森林資源活用（朴葉焼き、キノコ作り、山野草試食体験）：６回
その他：獣害対策、ナラ枯れ対策、道づくり、枝打ち（ヒノキ）、小鳥の巣箱かけ、看板（道票）の修復、実生苗育成、危険枯死木伐倒処理・倒木処理

参加者数
県内：127人
県外：133人
計　：260人

樹種
ミツマタ、ミツバツツジ

05SC-14　（特非）宮城県森林インストラクター協会

里山・里海協働育樹の森づくり事業

宮城県利府町、七ヶ浜町

事業概要

本事業では、コロナ禍後、一般親子や学校などの自然体験の促進を目指し、企業など多様な主体との協働により機能性の高い森づくりを行うことを目的とする。活動は、ENEOS㈱とともに整備活動を行うだけではなく、県内の親子や小学生、県外の中高生に対する自然体験イベントを開催した。また、地域ボランティアの充実を図るために、森づくり講習会を実施した。

事業成果

今年度から里山の整備だけではなく、東日本大震災で被災した海岸部の緑化を目的とした植樹活動に取り組み始めた。それに伴い参加者が楽しめる海岸エリアでのレクリエーションプログラムの充実も図ることができた。一方、里山ではこれまで悩まされ続けていたイノシシ対策として柵の大規模な整備が実施することができ、植えた苗木や甲虫養育溝などへの被害が軽減された。

事業をよく知る関係者の声

・イノシシ対策の柵の設置で、これまで整備してきた森への被害が少しでも減ることを期待したい。(60代ボランティア)

・恵まれた天候の中で、参加者が自然体験活動を楽しそうに取り組んでくれてうれしかったが、来年以降、暑さ対策はこれまで以上に気をつけないといけないと感じた。(50代ボランティア)

参加者の声

・ノコギリを使って木を伐ったり、ネイチャークラフトをしたり普段学校ではできない体験ができて良かった。(小学生ボランティア女子)

・例年の里山での活動とはまた違う環境での活動は新鮮だった。七ヶ浜町の植樹地に関しては海岸清掃も含めて今後も継続して整備をしていきたい。(協力企業ボランティア男性)

「真夏の森づくり大会」企業ボランティアによる遊歩道整備（利府町菅谷宮城県有林）

小学生対象の丸太引き体験（利府町菅谷宮城県有林）

「七ヶ浜町表浜緑地植樹活動」企業ボランティアによる広葉樹植樹（七ヶ浜町町有林）

「七ヶ浜町表浜緑地植樹活動」標柱設置（七ヶ浜町町有林）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.4ha
植付本数：127本
樹勢回復：83本
下刈面積：1.5ha
除伐面積：0.6ha
間伐面積：0.6ha
森林資源活用：２回
クラフト体験：６回
遊歩道整備：55m
イベント：４回
ボランティア・チェーンソー研修、整備作業ほか

参加者数

県内：334人
計　：334人

樹種

ソテツ、クランベリー、イタヤカエデ、アキグミ、イヌエンジュ

05SC-15　(特非) 信州フォレストワーク

「ぜんどこMCJの森」づくり

長野県長野市

事業概要

目的は、長野市七二会岩草地区の小高い丘にある荒廃した森林を、当団体、近隣住民、㈱MCJとの協働により、北アルプスを一望できる「ぜんどこMCJの森」として再生し、森づくりを通して、森に学び、森で楽しむ場を提供し、里山の保全と地域社会への貢献をすることである。主な活動は以下のとおり。①森林整備活動（つる切り、歩道整備、森林整備作業）、②里山講座（記念植樹、MCJ関係者及び近隣住民に対する林業体験）、③森カフェ（森で焚き火をしながらコーヒーを飲む憩いの場の提供）。

事業成果

森林整備はほぼ計画通りに実施でき、キックオフにも多くの人が参加し、順調なスタートを切ることができた。コンピュータ関連企業の方々が本事業をサポートし、かつ、協働として林業にふれる機会が持てたことは、持続可能な社会への小さいが明るい希望と思える。

事業をよく知る関係者の声

・㈱MCJさん、地元の方々の協力により長野市七二会の小高い山を「ぜんどこMCJの森」として、森に学び、楽しみ、里山の保全と地域社会への貢献をと活動を始めた。作業を行った北側急斜面、山頂部、南側の荒れた畑の雑木に加え、これから東側急斜面、西側斜面の森林整備に取り組み、少しずつ憩いの場づくりを進めていきたい。（80代一般会員）

参加者の声

・大自然の中で行う作業は、とても気持ちが良い時間だった。自然・自らのためにもなるすばらしい時を過ごせた。（キックオフイベント30代男性）
・社員の環境教育につながるこの活動が、荒れた森の再生へと発展していくことを期待している。（キックオフイベント60代男性）

除伐作業

ウインチによる材搬出

キックオフでの記念植樹

MCJ参加者とつる切り

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：４本
下刈面積：0.5ha
除伐面積：0.1ha
伐採跡地整備：0.1ha
歩道整備：70m
森林資源活用（枝葉チップ、薪、製材・テーブル作製）：７回
キックオフ、森カフェ

参加者数
県内：162人
県外：　6人
計　：168人

樹種
オオヤマザクラ

05SC-16 北海道林業技士会

「キリン千歳水源の森」整備の森づくり

北海道千歳市

事業概要

平成19(2007)年に北海道森林管理局石狩森林管理署管内国有林に設定された「キリン千歳水源の森(法人の森)」を整備するための活動として、枝打ち、つる切り、除伐作業を実施した。

事業成果

植栽木が大きくなり、除伐作業はかかり木になることが予想され、キリンビール社員によるノコギリでの作業は中止し、専門業者に委託した。結果、安全に除伐作業を実施することができた。

事業をよく知る関係者の声

・森林整備は順調に行われた。(指導者・樹木医会会長)

参加者の声

・参加社員の中に初めて枝打ちを経験する者が何名かいたが、枝打ちの目的を理解し、初めての手鋸作業に真剣に取り組んでいた。
・森のしくみや、生息する動植物について詳しく解説いただいた。
・お子様向けの説明も、資料など非常に分かりやすかった。
・チェーンソーの伐倒作業の迫力と知る由もない知識を得ることができた。

枝打ち作業

除伐作業

森の観察会

参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容
枝打面積：0.06ha
除伐面積：0.04ha

参加者数
道内：31人
計　：31人

05SC-17　(特非) 森のライフスタイル研究所

「安曇野エア・ウォーターの森」森林整備事業

長野県安曇野市

事業概要

安曇野市内での森林保全に貢献するために、市役所と森づくり協定を締結し、以下の事業を実施。①植栽、②下刈り・薮刈り、③伐採・搬出・地拵え。

事業成果

①前年実施した地拵えエリアに200本の植栽を実施し、森林の更新を促進。②これまで植えた苗木の生育を健やかなものとするため、苗木周りの雑草の刈り取りを行った。１年目植栽地：作業委託２回、本年度植栽地：作業委託１回、ボランティア作業：１回。③安曇野市の森林更新の計画のもと、対象地の伐採（笹薮の刈り取りなど）と地拵えを進め、次年度の植栽準備を行った。森づくりの循環をボランティア参加者に体感してもらうことができた。

事業をよく知る関係者の声

・地元に縁の深い企業がその地域に根ざして企業の森に参画していることは、地域行政として誇りに思う。（自治体関係者）
・順調に生育しているミズナラを見ると、活動地に適した樹種を選択していることを実感できる。（林業士）

参加者の声

・回を重ねるごとに社内横断的な参加者があり、社内浸透の力を感じている。
・自分たちが植えた苗木がちゃんと大きく育っているのを見ると、早起きし汗をかいてよかったと思う。
・来年は500本の植栽。参加者を広げていけるようにがんばりたい。

植栽

下刈り作業

下刈り後。順調に育つミズナラ

次年度の植栽のための地拵え

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.2ha
植付本数：200本
下刈面積：0.5ha
その他：皆伐0.25ha

参加者数
県内：70人
県外：17人
計　：87人

樹種
ミズナラ

05SC-18　（公財）大阪みどりのトラスト協会

三草山ゼフィルスの森における防鹿柵設置

大阪府能勢町

事業概要

大阪府緑地環境保全地域に指定されている三草山ゼフィルスの森において、シカによる食害を受けた植生を回復させるため、３年かけて指定地域14.48haのほぼ全域の周囲に防鹿柵を設置する。令和６年度は総延長距離約1,000mに金網フェンスを設置した。

事業成果

実施前に地元・近隣市町村の住民や周辺の活動団体などにも呼びかけ、シカによる食害の被害状況や現状を共有する説明会を実施し、設置作業への協力を求めた。計画作成時点から獣害対策の専門家による「設置ルートの選定」「事前準備」「資材素材検討」などのアドバイスを受け、設置作業でも専門家の指導を受けてこれまで保全活動に携わったことがない一般の方にも参加いただいて施業することができた。今後は設置を予定している残りのエリアに対しても、同様の取り組みを行う。

事業をよく知る関係者の声

・９月に資材の納品があってから半年ほどで約1,000mの防鹿柵設置を行うことができたのはすごいと感じる。これは、ボランティアの方々など携わってくださった多くの方のおかげで、感銘した。（三草山ゼフィルスの森保全検討会議会長）

参加者の声

・防鹿柵設置はもっと重労働だと思っていたが、用意されていた電動ドリルなどを活用して杭打ちなどを行えたため、楽しく作業ができた。完成イメージをあらかじめ詳細に共有しておいた方が、それぞれのレベル感を統一できるのではないかと感じた。（大防鹿柵設置大会参加者）

「三草山ゼフィルスの森」の将来を語る会

関大一中生徒による資材運搬

防鹿柵設置指導

大防鹿柵設置大会

実績とりまとめ

作業内容

説明会・設置ルート選定など
防鹿柵延長：1,000m

参加者数

府内：324人
計　：324人

05SC-19 （特非）信州フォレストワーク

「ぜんどこMCJの森」づくり

長野県長野市

事業概要

荒廃した森林を当団体、近隣住民、株式会社MCJとの協働により、北アルプスを一望できる森として再生し、森づくりをとおして、森に学び、森で楽しむ場を提供し、里山の保全と地域社会への貢献を目的とする。主な活動は以下のとおり。①森林整備活動、②里山講座（チェーンソー安全講習会、里山整備講習会）、③森カフェ（森で焚き火をしながらコーヒーを飲む憩いの場を提供）。

事業成果

つる切り作業は、危険木の高所に絡みついた「ラスボス」を特伐技術で会員が処理し、針葉樹伐採に取り掛かることができるようになった。山頂付近の危険木の処理及び広葉樹の択伐もほぼ完了し、見晴らしが確保でき、森カフェなどのイベントエリアとして安全に活用できるようになった。荒廃農地の整備では、雑木や切り株、不法投棄ゴミや朽木の処理を進め、また作業道も整備したことで、作業は具体的な公園整備へと移行しつつある。チェーンソー安全講習会では多数の地域住民の参加があり、好評を得た。

事業をよく知る関係者の声

・当初の荒れた状態から下草刈り、除伐、間伐が行われ、また山頂には北アルプスを望めるテーブルも設置され、憩いの場になりつつある。作業を安全第一で進め、一人の負傷者もいないことは評価に値する。今後はさらに間伐を進め、伐採木の活用、広葉樹の植樹、遊歩道の整備、東屋建築などを計画的に行い、より多く人達が訪れるような森になることを期待したい。（60代男性会員）

参加者の声

・研ぎ方をとても解りやすく説明していただいた。伐木実習ではチームプレイの重要さは勿論のこと、長い年月をかけて育まれている木々への感謝、根の状態、将来への想像力も大切なのだと勉強になった。（チェーンソー講習会：50代女性）

荒廃農地（藪払い後）

チェーンソー安全講習会

初めての火起こし体験

つる切り作業を特殊伐採技術で実施

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：5本
下刈面積：0.5ha
除伐面積：0.1ha
荒廃農地整備：0.1ha
作業道整備：50m
森林資源活用：枝葉チップ化、製材・テーブル作製
その他：里山講座、森カフェ

参加者数

県内：180人
計　：180人

樹種

オオヤマザクラ

05SC-20 日本曹達グループの森づくり推進協議会

日本曹達グループの森づくり事業

新潟県上越市

事業概要

日本曹達グループが起業してから100年を迎えることから、起業の地である新潟県上越地域の「くわどり市民の森」内で、地域に貢献するため、新潟県民・上越市民に親しまれる森づくりを実施する。本年度は、森林整備（除伐、下刈り）と植樹（モミジ、ウワミズザクラ）を実施した。

事業成果

モミジとウワミズザクラの植樹、森林整備（下刈りと除伐）と観察スポット３か所の整備を実施した。

事業をよく知る関係者の声

・上越市や公園指定管理者からの要請に応え、植樹した木の保育、森林整備を推進することができ、とてもありがたい。

参加者の声

・技術や経験を通じて地域に貢献できてありがたい。（日本曹達グループの森づくり推進協議会の構成員）

下刈り

除伐後

作業状況（土砂運搬・移動）

作業状況（ウッドチップ敷詰）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.02ha
植付本数：111本
下刈面積：0.3ha
除伐面積：1.6ha

樹種

モミジ、ウワミズザクラ

05SC-21 大阪府森林組合南河内支店

「大阪府ENEOS友好の森」森林整備事業

大阪府太子町

事業概要

手入れが行き届いていなかった私有林（スギ・ヒノキ）の間伐作業を行う。その際、専門家の指導を受け、安全面に留意しながらENEOS㈱社員が協力し合い、間伐の方法、道具の扱い方を覚える。また、森林を手入れする意義を学び、同時に子ども向けに間伐材を用いた木工教室で、地域の健全な森林の育成の意義を学んでもらう。

事業成果

意識して国産材を消費することが、日本の山を健全に保つことにつながるという意識を持っていただけた。子どもたちへも、木工体験を通じて国産材を意識して使うことが重要であることを伝えることができたと感じている。

事業をよく知る関係者の声

・前回の開催より１年半ぶりの開催であったが、事故・けがなども無く、間伐体験、木工体験の方々それぞれ良い体験になったと思う。（40代指導員）

参加者の声

・貴重な体験ができた。天気も良く心地よかった。
・間伐作業は非常に良い経験となった。木工教室に参加した妻・息子も大満足だった。
・間伐作業は初めてだったが、丁寧に教えていただきながらだったので楽しく、勉強になった。
・３歳児と一緒に参加。初めての金づちで可愛いウサギの貯金箱が作成できて子どももとても満足している。

伐倒木にロープ掛け

間伐体験

玉切り作業

家族で木工体験

実績とりまとめ

作業内容
間伐面積：0.1ha

参加者数
府内：140人
計　：140人

山武市蓮沼殿下海岸林の植栽事業

千葉県山武市

事業概要

津波被害によって失われた海岸林の機能回復を目指し、伊藤忠丸紅鉄鋼㈱・東京ガス㈱及び市民ボランティアの連携・協力による植林を実施。また、植林の前に枯損木の伐採と敷均し、地拵えを行った。①植林：0.4haに4,000本の植林。樹種は千葉県指定の抵抗性クロマツ。②枯損木伐採､敷均し、地拵え：津波の塩害などにより立ち枯れてしまっている木々を伐採・破砕・敷均し、地拵えを行い、新しく植林ができる環境を整備。

事業成果

企業の環境配慮型サービスと連携した取り組みは、募金事業との親和性が高いものであり、昨今のSDGs、ESGといった企業のニーズに合致する。さらなる募金事業の発展が期待できる。

事業をよく知る関係者の声

・2024年になってから全国各地で地震が発生している。海岸林の大切さの周知徹底が求められるなか、蓮沼での植林が継続されていることで、その一翼を担うと思う。さらなる継続を期待している。
・同じエリアで継続的に活動を続けていくことで、その経過が可視化できる。それが、森林ボランティアの良さだ。

参加者の声

・初めての参加だった。植林という言葉に壮大さを感じることができ、有意義なボランティアであった。(市民ボランティア)
・植林活動は非常に楽しく、あっという間の2,000本の植林であった。下刈りもぜひ参加させていただければと考えている。(企業担当者)
・スタッフの方々の支援で無事に植林活動が終了したことをうれしく思う。夏の下刈りも計画したい。(企業担当者)

植樹した抵抗性クロマツ

機械での地拵え

支柱を設置

植樹作業

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.4ha
植付本数：4,000本
枯損木伐採､敷均し､地拵え：0.4ha

参加者数
県内：　52人
県外：145人
計　：197人

樹種
抵抗性クロマツ

東日本大震災の教訓を伝える桜の植樹

岩手県陸前高田市

事業概要

平成23年３月11日に発生した東日本大震災、特に津波が襲った地域にいた多くの人びとの悔しい気持ちを後世に伝え、同じ悔しさを繰り返すことのないように、今回の津波の到達ラインをサクラなどの木々の植樹によって明らかにするとともに、今回の被災地ばかりでなく、全国に防災、減災について意識喚起することを目的とする。

事業成果

今年度も本事業を実施し、継続的な活動ができている。また、剪定の際に出る「枝」を利用し、草木染めのイベントを自主開催している。当団体の市内での認知度向上と地域住民との関係性づくりに役立つと思っている。

事業をよく知る関係者の声

・震災から13年が過ぎ、街並みも変わってきている。サクラは「ここより上に避難するんだ」という防災意識を再認識する目印となっている。土地の土の状態が悪く、何度もサクラが枯れたが、スタッフの皆さんの献身的なご努力によってやっと根付いてきた。１万7,000本のサクラが見守る優しい街ができることを楽しみにしている。(陸前高田市　植樹地地権者)

参加者の声

・しっかりとした事前準備で、スムーズに植樹を楽しむことができた。
・仙台出身で震災を体験。毎年募金はしているが、サクラの植樹は初めてであった。皆さまの説明と適宜あるサポート、事前の動画でやり甲斐のある活動であった。
・黙祷で気持ちを寄せ、貴重なお話もたくさん伺い、毎回、宝物の時間を過ごさせていただいている。

苗木にシカによる食害除けのネットを付ける

地元小学生を対象に植樹会を実施

サクラのメンテナンス（剪定）

津波到達地点に咲くサクラ

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：132本
樹勢回復：2,252本
除伐本数：10本

参加者数
県内：　36人
県外：948人
計　：984人

樹種
エドヒガン、オオヤマザクラ、ベニシダレ、カワヅザクラ、シキザクラ

3.11 復活の森づくり～千葉県一宮町東浪見海岸林再生事業(下草刈り)

千葉県一宮町

事業概要

オリンピック終了後の海岸林造成の早期達成のため、2022年４月に植栽したエリア、８m四方の竹簀・150区画、0.96haに植栽した7,350本の苗木を対象に下刈りを実施した。委託作業として、海岸林所有者の千葉県の森づくり計画に応じて２度刈り（６月中旬に１回、８月下旬に１回）をし、下草の成長が著しいエリア38区画については、７月下旬に１回追加した。竹簀外周の下刈りも実施した。下刈りの総面積は約2.16haで、そのうち企業協働であるリコーリース㈱とは、約0.13ha（20区画）を対象に下刈りを実施した。

事業成果

盛土した土壌の状況をかんがみながら下刈りを実施したことで、雑草と苗木の生長の競争をコントロールすることができている。小まめな観察が必要であるが、苗木の成長度合いを円滑に高めることができた。また、協働企業からのボランティア参加があり、労力提供も加わったことで、企業社員・家族の緑化への理解や参加意欲がより深まった。

事業をよく知る関係者の声

・苗木の生育状況は順調だと思われる。(千葉県北部林業事務所担当者)
・丁寧に植え付けているので、下刈り（保育）作業も丁寧に行うことで、海岸林の公益的機能の向上につながっていく。(森林作業実施専門会社)

参加者の声

・猛暑の中の作業であったが、事故もなく無事に終えることができた。参加者からも前向きな発言が多く、来年も開催の方向で検討したい。(協働企業担当者)

鎌を使って丁寧に刈る

下刈りの様子

下刈り前（釣ヶ崎海岸）

下刈り後（釣ヶ崎海岸）

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：2.16ha

参加者数
計　：58人

3.11復活の森づくり～千葉県山武市蓮沼殿下海岸林再生事業（下草刈り）

千葉県山武市

事業概要

津波被害によって失われた海岸林の機能回復を目指し、地元と都市の住民、企業ボランティア（伊藤忠丸紅鉄鋼㈱・東京ガス㈱）との連携・協力による市民参加型の森林整備事業を行った。活動は、千葉県山武市蓮沼殿下海岸防災林における津波被害林の再生として、以下２つのエリア、合計2.3haを対象に下刈りを２回実施した。

エリア１：2011年から15年計画で進めており、2024年で13年目。2022年春の植林で新規植林を終え、2026年まで下刈りなどの保育を継続（1.5ha）。

エリア２：2023-2024年春に植林を実施。面積は0.8ha。

事業成果

2023年植林地については、平均20㎝くらいの成長。苗木の活着は、８割から９割であった。2024年植林地についても、８割から９割の活着。一部、滞水が見られた場所の枯れが発生。苗木の成長はあまり見受けられない。

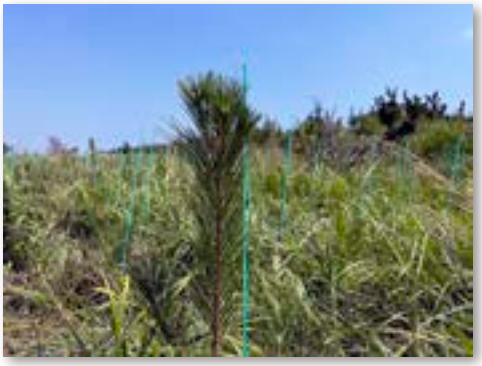
事業をよく知る関係者の声

・植えたクロマツは順調に育っており、順調な進捗である。一部、雨水の抜けが悪い区域があり苗の根腐れの原因となり枯れているが、全体で見れば大きなダメージとなっていない。経過観察が必要である。（林業事業体）

参加者の声

・参加者全員、本当に有意義で楽しい時間を過ごしたと言っていた。社内の数名が家族で次は参加したいと言ってくれた。（企業担当者）

・１年前に自分たちが植えた苗木が育っていっているのを見られたのも非常にうれしかった。（企業担当者）



下草に負けじと育つクロマツ

下刈り中

下刈り後

みんなで守る海岸防災林

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：4.6ha

参加者数

県内：254人
県外：117人
計　：371人

「岩沼・荒浜潮除須賀松の森」保育事業

宮城県岩沼市、仙台市

事業概要

東日本大震災により壊滅的な被害を受けた仙台市沿岸域の海岸防災林の再生に向けて、地域住民などとの協働により保育活動を行いながら、失った「みどり」の重要性やその働きなどへの理解と関心を深めてもらう。そして、海岸防災林再生に対する気運の醸成と、「みどりの文化」の普及啓発を図る。

事業成果

子どもたちや生徒、企業の参加を促すことに力点を置いた。子どもたちが、夢中になって楽しそうに草取りやつる取りに励んでいた。活動に全面的に協力をいただいた団体が創意工夫を凝らして、被災地の自然環境の回復状況の観察や、ビーチコーミングなど体験学習を行ってくれたことで、引率教員からは「充実した活動」と評価を得、活動の継続の要望があった。高校生を対象に、手鋸による枝落としと本数調整伐を実施したところ、好評であった。

事業をよく知る関係者の声

・子どもたちはマツの節を数え、その年月に思いを馳せて一生懸命に草を抜いていた。マツに「また来るから絶対大きくなるんだよ！」などと声を掛けている姿を見て、子どもたちと荒浜の防災林とのつながりが生まれたことを感じた。短い時間だったが、大きな意味のある時間になったと思う。実物に触れ、自分ごととして捉えることができた貴重な時間となった。（仙台市立小学校５学年担任）

参加者の声

・雑草を抜く作業をして、クロマツは貴重なんだと思った。普通の植物は２～３か月で大きく育つけど、クロマツは何年もかかるので大切にしたい。（仙台市立小学生高学年）
・２年前に植樹したマツは、大切に柵で囲まれており、順調に育っているように見えた。しかし、雑草の勢いも強く、特にクズが太い地下茎をびっしりと張り巡らしているのに驚いた。（30代女性）

高校生を対象とした「次代を担う青少年の海岸防災林保育活動」

小学生を対象とした「次代を担う子ども達による海岸防災林保育活動」

みどりの少年団ほか対象とした「次代へつなげよう！親子・みどりの少年団の海岸防災林保育活動」

企業ほか対象とした「次代へつなげよう海岸防災林再生に向けた県民協働の保育活動」

実績とりまとめ

作業内容

保育活動：約3.40ha
その他：海岸防災林周辺地域の自然環境観察ほか

参加者数

県内：121人
計　：121人

05S-01　（特非）遠野エコネット

森の笠地蔵プロジェクト2023

岩手県遠野市

事業概要

間伐材の薪利用の普及拡大と、薪を自力で調達するのが困難となっている一人暮らしの高齢者の支援を目的とする。主な活動は以下のとおり。①森林ボランティアと間伐・造材・集材・搬出・薪作り及び薪棚整備、②自力で薪調達困難な高齢者の調査（遠野市社会福祉協議会と協力して行う）、③自力で薪調達困難な高齢者の家に薪を無料で配達、④ひきこもり者を調査し薪作りの活動へ参加を促す、⑤マスコミやインターネットで情報発信。

事業成果

本事業を継続することで、確実に間伐のボランティアや薪作りに参加する市民が増えてきている。ひきこもりの状態にある方やその家族も薪作りに定期的に参加するようになり、薪作りの活動以外にも森林の観察会などにも参加できるようになった。数は少ないが薪作りを通じて、福祉分野での貢献が確実に進んでいる。

事業をよく知る関係者の声

・スギの間伐材の有効利用策として薪作りを行い、高齢者宅に届けているが、薪ストーブユーザーの中には、スギの薪は火持が悪いからいらないという人もいる。今後は、広葉樹の森も手入れをして、間伐が必要な山では間伐を行い、薪に加工することも検討してはどうか。（森林組合職員）

参加者の声

・間伐の体験と、間伐材の薪割りを体験させてもらい、間伐の大切さや環境を守る意味を学ぶことができた。（中学２年生 男子）
・家にじっとしているより、山で間伐したり、薪割りした方が健康にいいので、これからも参加したい。（60代女性）

間伐体験

造材した材をポータブルウインチで集材

薪作り

高齢者宅へ薪を運搬

実績とりまとめ

作業内容
間伐面積：30ha
森林資源活用（薪作り）：12回
薪配達：23回
（軽トラック48台分）

参加者数
県内：812人
県外：2人
計：814人

05S-02 （特非）環境生態工学研究所

北上川の上下流を結ぶ緑の再生活動

宮城県八幡平市

事業概要

目的は、旧松尾鉱山跡地における緑の再生を目指し、かつて植樹した苗を定着させ、次の樹種への遷移を促すための育樹を行うこと。主な活動は以下のとおり。①2008年度及び2014年度、2017年度に植えた苗（アキグミなど）の剪定、追肥、枯損苗（ナナカマド、ハウチワカエデなど）に対する補植（ミズナラ）を実施する。②団体参加の高校生に事前学習として森林の役割やその保全の意義について伝え、活動協力への意欲を高める。

事業成果

全360区を対象に、ミズナラ343本の補植、過去に植えた約1,200本の剪定や追肥作業を延べ427人で実施した。

事業をよく知る関係者の声

・団体参加者は、植樹後の苗木の成長に手応えを感じており、新たに植樹をして緑の再生の範囲を広げたい、と意見が出た。自然回復を期待していたが、ススキ原の跡地において引き続き植樹活動を実施したい。

参加者の声

・団体参加の高校教諭から、緑の再生には植樹だけでなく、育樹活動も大切であることや近隣で実施した過去の実績も踏まえ体験学習できることが良いと評価をいただいた。

育樹活動の様子

バーク堆肥で土壌改良

補植苗

下刈りと標識杭立て

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.36ha
植付本数：343本
樹勢回復：1,260本
下刈面積：0.32ha
その他：現地打合せ、事前学習会、協議会会合ほか

参加者数
県内：155人
県外：552人
計　：707人

樹種
ミズナラ

05S-03　（一社）女川未来会議出島プロジェクト

女川町出島の美しい森づくり事業

宮城県牡鹿郡女川町

事業概要

2011年の東日本大震災以後、極端な人口減少により荒れてしまった女川町出島の里山を整備し、島本来の美しさを回復させることを目的とする。2024年12月に本土との架橋が開通したため、島随一の観光スポットとなる可能性の高い出島配石遺構（通称出島ストーンサークル）周辺のスギ林の倒木処理や間伐を行った。

事業成果

出島配石遺構周辺の整備についてはボランティアによる草刈りなどを2019年11月から実施していたものの、周辺のスギ林は手付かず状態であった。2023年７月から緑の募金の助成を受けて林業関連資材などの購入や森林整備の研修を受けることができるようになり、本格的な森林の整備を進めることが可能となった。危険を伴う作業が多いため、参加ボランティアは限られたネットワークで募集していたが、そのネットワークが徐々に広がっている。

事業をよく知る関係者の声

・出島ストーンサークル周辺の景観が良くなり、来島者に自慢できる場所になった。これからも整備の範囲を広げていって、島全体をもっと美しい島にしたい。（行政区長）

参加者の声

・チェーンソーで木を伐倒したいと思っていたが、それが実現できてうれしい。そして、この活動が環境保護につながっていると思うと、やりがいが増す。（参加ボランティア）

伐倒と森づくりの講習会

スギの枝払い

歩道整備

出島大橋を後ろに集合写真

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：１本
下刈面積：1.0ha
除伐面積：1.0ha
間伐面積：1.0ha
チェーンソー研修：２日間
ロープワーク研修

参加者数
県内：84人
計　：84人

樹種
ハナモモ

05S-04 （一社）ウィーアーワン北上

平地の杜づくり　～被災した集落跡地を美しい場所へ

宮城県石巻市

事業概要

東日本大震災の津波被害にあった集落跡地を、地域共有の財産である里地里山へと再生することを目指した緑化活動やその推進、啓発を目的とする。主な活動は以下のとおり。①下刈り作業、②地拵え、③植樹、④杜づくりイベント、⑤月２回の杜づくり体験会、⑥種子や実生苗の山採りと育苗、⑦育苗エリアの整備、⑧竹林整備、⑨竹炭、もみ殻燻炭、焼き杭作り、⑩地域児童の杜づくり体験、⑪「環境×災害」企業研修などの受入れ。

事業成果

イベントには、全国各地から参加者があり、活動を応援する方々の広がりができてきた。災害により活用できない土地利用の新たな可能性として、自然環境を再生する取り組みは、他の被災自治体からも注目を得ており、視察者も多くあった。みどりを通した街づくり、災害復興、心の復興の一つのモデルケースとしての成果を確認できた。

事業をよく知る関係者の声

・毎日、目に入る思い出のある場所が荒地になっている様は、気持ちが良いものではなかったが、広すぎて自分たちでもどうにも仕方がないと思っていた。少しずつ、植えた木が成長しきれいになって、人が集まる様子があることが何よりうれしく思う。今後も、自分もできることはやっていきたい。（地域住民70代女性）

参加者の声

・イベントには毎回参加している。土中環境改善が進んでいることは現場に行き歩いてみると感じることができる。昆虫や植物の種類もとても増えた。生物多様性の観点でも期待していて、今後も関わり続け、この先の変化も見て行きたい。イベントでは、初めに参加者同士の自己紹介などあるともっと横の交流も進んで良いと思う。（イベント参加者40代女性）

植樹作業の説明（平地の杜づくり施工会イベント）

植樹（平地の杜づくり施工会イベント）

タケを親子で切っている様子（地域の子ども向け杜づくり体験）

春以降は苗木置き、冬には炭焼きをする場を整備

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
植付本数：600本
下刈面積：1.4ha
地拵面積：0.5ha
森林資源活用
（竹炭・燻炭焼き）：７回
イベント（平地の杜づくり、杜づくり体験会）：20回
育苗炭焼き場整備：９日
取水場整備：５日

参加者数

県内：346人
県外：161人
計　：507人

樹種

コナラ、クヌギ、イチョウ、トチノキ、ウリハダカエデほか

05S-05 雄国山麓ゆめクラブ

登山道、桜並木及びソメイヨシノ枯れ枝等整備作業

福島県喜多方市

事業概要

雄国山麓の自然保護・保全を図り、地域と連携し、資源を活用しながら地域の発展に寄与することを目的に、以下活動を実施。①登山道の整備：トレッキングの参加者が安全に楽しく歩けるよう、草刈り・倒木処理・階段を整備、②森林整備：訪れる人が安全に林内を散策できるよう、歩道の草刈り・倒木処理・除伐、③枯れ枝等の整備：来訪者の安全、樹木の保全のため、枯れ枝の切除、ソメイヨシノの維持のためサクラてんぐ巣病枝を除去、④枝垂れ桜並木の育樹：地域の観光資源、活性化策として育樹作業を実施。

事業成果

駒形地区から新たに２名の新会員を得た。森林整備などで採取したつるや球果を利用したリース作りを実施できたため、今後の新しいプログラムとして公民館活動などで提供する。

事業をよく知る関係者の声

・駒形地区の方々から「地域外の人たちなのに皆さん良く頑張っている」と評価をいただいた。さらに、新たな会員が駒形地区から２名増えた。地域との連携を大切にしていき、雄国山麓ゆめクラブの設立に協力していこうと機運が出てきた。

登山道の整備

高所作業車を使用し枝払い

シダレザクラの剪定枝搬出作業

自然解説をしながら自然に親しみ保全活動の理解を深める（扇ヶ峰トレッキング）

実績とりまとめ

作業内容

樹勢回復：10本
下刈面積：0.3ha
除伐面積：0.3ha
森林整備：８回
森林資源活用：２回
イベント：３回

参加者数

県内：37人
計　：37人

05S-06 （一社）あぶくまエヌエスネット

阿武隈南部里山共生ー活性化事業

福島県鮫川村

事業概要

福島県鮫川村葉貫地区は、高齢化が進み山林が荒れている現状である。県内外の参加者が山林の環境整備を進めることにより、山林も人も良好に共生できるよう持続可能な活動を広めていくことを目的とする。活動は以下のとおり。①間伐、②間伐した木を有効利用（薪、チップ）、③下刈り、④山林の環境で「ネイチャーゲーム」の実施、⑤松ぼっくりのクラフトなど。

事業成果

本事業により、山林整備の活動に拍車がかかった。子どもから大人までの幅広い年代の参加者が環境整備の実践を通して達成感を得られ、共通の活動ができたことで一体感が生まれていた。山林に入って整備活動やクラフトなど非日常の時間を共有することで、参加者自身がこの活動に関われたことへの感謝の気持ちと、メンタル面でリフレッシュができたことは大きな成果と受け止めている。

事業をよく知る関係者の声

・首都圏の子どもたちが山林整備活動に関われる機会は、貴重な機会。山林の現状を見て、整備活動をした後に、みんなで力を合わせて作業をすると、辛い仕事でも乗り越えるパワーとなった。今回は非常に良かった。（首都圏NPO引率担当）

参加者の声

・みんなで協力して間伐した木を運び出す作業は、大変だったけど楽しくできた。またその間伐材を薪として活用でき、無駄のないことに気づいた。（高校２年男子）
・薪割りは始め難しかったけど、慣れてきてきれいに割れると気持ちも爽やかな気分になれて良かった。（小学５年男子）
・後ろを振り返るときれいな環境になって気持ちが良かった。（小学６年女子）

間伐した木で薪割りに挑戦

小学生による間伐材の搬出

山林の環境で「ネイチャーゲーム」の実施

看板の設置完了

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：1ha
除伐面積：0.8ha
間伐面積：1ha
森林資源活用（薪割）：　４回
ネイチャーゲーム：１回

参加者数
県内：117人
県外：　80人
計　：197人

05S-07 学校法人 郡山開成学園

プロジェクトD（どんぐりプロジェクト）福島

福島県郡山市

事業概要

東日本大震災による津波で被災した森林を回復させるべく、日本環境協会が主催となって被災３県で採取したどんぐりを全国の方々に苗木まで育ててもらい、苗木を国有林などへ植樹する活動。本学は福島ふれあいの森で当初から協力していた縁があり、日本環境協会から郡山女子大学へ「プロジェクトD」を引き継いでいる。活動は、下刈り３回（小野自然倶楽部へ委託）、枝払い２回を実施している。

事業成果

以前、福島ふれあいの森の活動に参加したことがある沖電気工業株式会社の方から、日本環境協会を通じて活動に参加したい旨の要請があり、一緒に活動ができた。また、日本大学工学部の学生へ声を掛けたところ、４名の学生が参加した。リピートの方々、新規の方々と人々が参加し、徐々に活動が広がりつつある。

事業をよく知る関係者の声

・学内で枝払い活動の募集をして10名程度の参加に留まったが、リコージャパン福島支社、沖電気工業、日本大学工学部から協力を得られ、活動がスムーズに行うことができた。今後は、地球温暖化防止活動に興味のある団体に広く声を掛けたい。

参加者の声

・イベントがあれば声を掛けてほしい。（日本大学工学部）
・作業終了後に皆で食べたカレーが美味しかった。（附属高校生）
・暑くて大変だったけど、いい汗が流せた。（教職員）

作業方法の指導

枝払い作業

切った枝はチッパーで粉砕

下刈り後（小野自然倶楽部へ委託）

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：2.46ha
枝払い：２回

参加者数
県内：32人
県外：　2人
計　：34人

05S-08 ふれあい筑波

間伐による森づくり

茨城県つくば市

事業概要

里山の林内の風通しや陽射しを良くし、樹木や下層植生の光合成が促されるよう整備を進め、多様性のある森づくりを目指す。主な活動は、下刈りや10%の間伐、倒木処理を実施。間伐材は搬出してチップボードとして活用する。

事業成果

里山林としての下刈り、間伐による森づくりは、参加者延120名のボランティアの協力を得ることができた。間伐材は搬出してチップボードとして活用すべく企業と連携することができた。

参加者の声

・林間がきれいになって良かった。
・森が明るくなった。

下刈り

間伐

玉切り

搬出後はチップボードとして活用

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：2.2ha
除伐面積：0.3ha
間伐面積：1.6ha
森林資源活用：チップボード

参加者数
県内：　82人
県外：　38人
計　：120人

05S-09　（特非）北本雑木林の会

北本中央緑地　雑木林再生プロジェクト

埼玉県北本市

事業概要

高崎線沿いに残された雑木林を北本市が緑地公園として整備した「北本中央緑地」。この雑木林を再生し、さらに魅力あふれる緑地公園にするため､以下の活動を実施した。①老木・危険木の伐採、②散歩を楽しめるようサクラなどの苗木を植樹、③雑木林を囲むツツジなどの垣根の補充整備、④点在する雑木林に同じテイストの看板を設置し、一つの緑地ゾーンとして市民に分りやすく親しみがもてるようにした。

事業成果

看板・道標の設置は北本中央緑地のイメージアップに貢献し、初めて来た人でも分りやすく愛着を感じられるようになった。各林に設置した名前付きの看板は、各林のブランド化につながることや特徴をもった林にしていくためにも役に立つと思う。イベントの中で雑木林を巡るツアーなどにも大変有効になる。

事業をよく知る関係者の声

・今後継続して雑木林の更新を図ることは大変重要。今回の植樹は中央緑地の再生のスタートになると期待している。（市の関係者）

参加者の声

・近くの雑木林での植樹会は大変記念になった。樹木プレートに自分で名前を入れたので愛着がわく。（小学生）
・サクラを植えたので長生きして見守りたい。（近隣に住むご高齢者）

植樹の説明（雑木林で楽しむ集い）

植樹（森林ボランティアの日）

落ち葉かき（中学生ボランティア）

サツキの生垣作り（中学生ボランティア）

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：128本
落ち葉かき：2ha
イベント：５回
生垣補修

参加者数
県内：219人
計　：219人

樹種
サツキ、ツツジ、コナラ、エドヒガン、ヤマザクラほか

05S-10 山武に雑木林をつくる会

継続的な森林管理と将来世代への木育の推進

千葉県山武市

事業概要

目的は、森林の減少・劣化を防ぐため、継続的に育林などの森林管理を進めながら、森林作業で発生する森林資源の利用・提供を通して子どもたちへの木育を進めていくことである。主な活動は以下のとおり。①雑木林やスギ林などで、下刈り・間伐などを実践、②間伐材を利用して地域の小学生などに対して木工作授業など木育を実施、③間伐材による木工部材を他団体へ提供、④間伐や枝打ちで発生する木の枝をチップ化して福祉系NPOのブルーベリー園で活用。

事業成果

継続的に下刈り・間伐などを実践できていることが森林管理につながっている。また、当会で製作する木工部材が2024年10月に千葉市の幕張メッセで開催される県内最大級の環境イベント（エコメッセちば2024）で活用されることになり、さらなる広がりの可能性を確認した。

事業をよく知る関係者の声

・森林整備のフィールドを実際に利用して、保育・教育及び障碍者への支援を進めることで、森林管理と木育との連携のステップアップにつながる。（60代　NPO勤務）
・伐採見学や木工作教室などは子どもたちが地域の文化、森林の大切さを学ぶ重要な機会。保護者の行事と連携するなど子どもたちが参加しやすい工夫が必要。（小学校校長）

参加者の声

・スギやヒノキなど針葉樹のチップはブルーベリーの保温や保湿に非常に役立っており、間伐材の利用に少しは貢献できたのかなと思った。（40代女性）
・地域の木を使った工作や伐採見学の企画は子どもの教育に非常に良いと思った。（50代男性）
・伐採の難しさ、安全管理の重要性を改めて認識した。（60代男性）

間伐伐採指導

チップ作り

親子工作教室

幼稚園へ木工部材を贈呈

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：1ha
間伐面積：0.5ha
イベント：３回

参加者数
県内：147人
計　：147人

05S-11 日本山岳会 高尾の森づくりの会

広葉樹の植栽及び食害防止策設置事業

東京都八王子市

事業概要

目的は、広葉樹と針葉樹が混在する豊かな森に誘導するための森林整備。主な活動は、2024年春に240本を植樹するとともに、シカの食害対策としてツリーシェルターを設置。

事業成果

2024年春に、ツリーシェルターを施したことにより、植樹した苗木はシカの食害から守られている。2023年春の反省から地面との隙間から小動物が紛れ込むリスクがあるシカ柵は使用せず、ツリーシェルターについても、通気性の良いものを設置した。

事業をよく知る関係者の声

・ツリーシェルターは苗木各１本に取り付ける必要がある。工数がかさむが、シカなどの食害から守るには有効と考えられる。

参加者の声

・植樹地は想像以上の急斜面で足元は小石が多い。足場を踏み固めないと立っているのもやっとという状況だった。それでも必死に穴を掘り、イロハモミジやカエデなどの苗木を植え、ツリーシェルターを設置し、無事に植樹を完了でき、ホッとした思いだった。数年後、苗木が立派に育つ日を楽しみに下山した。

急傾斜での植樹作業

植樹風景遠景

１本１本にシカ食害避けのツリーシェルターを設置

植樹祭に参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：240本
下刈面積：0.2ha
その他：作業道整備、地拵

参加者数

計　：333人

樹種

ヤマザクラ、イロハモミジ、コナラ、ケヤキ、ホオノキほか

05S-12 任意団体 福祉と建築

森と街をつなげ地域のケア力を高めるPJ

三重県多気町

事業概要

目的は、ワークショップ・コミュニティ形成を通して地域住民が森林・空き家・健康の問題に関心を持ち、地域の課題解決のためのつながりをつくることや参加を促すことである。主な活動は以下のとおり。①森と福祉と街をつなぐ、コミュニティ（モバイル）足湯プロジェクト：自分たちで森を間伐し、その間伐材で地域住民が集まるきっかけとなる足湯を製作。②森と街と福祉をつなぐ集いの場プロジェクト：廃銭湯で集いの場を行い、街の景観と空家、森と健康について考えるきっかけをつくる。

事業成果

市内に二つしかなかった銭湯が廃業し、市内の人が集まる場が一つ減った。廃材が集まる銭湯での湯沸かしを店主と相談していたが、叶わなくなってしまった。その代わりに、間伐材を使った足湯の計画を考え、廃銭湯を中心としたコミュニティの形成、足湯の施工を実施できた。

事業をよく知る関係者の声

・廃業した銭湯だが、木材を使った取り組みで、人々がまた集まってきてくれるのは大変うれしく、ありがたい。（60代女性・廃銭湯店主）
・松阪市内のみならず、全国の廃業した銭湯が木材の利用でコミュニティを保存することができる可能性のある活動である。（一般社団法人せんとうとまち）

参加者の声

・斜面での作業が多く、体力とコツのいる作業だった。
・木の香りがよく、人と話しやすい足湯だと感じた。

廃銭湯での足湯作成ワークショップと健康相談会

ボランティアと森の整備体験会（薪割り）

ボランティアと森の整備体験会（間伐）

間伐材で足湯を製作

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.1ha
植付本数：200本
間伐面積：0.1ha
イベント：５回

参加者数
県内：70人
計　：70人

樹種
ツバキ、サクラ、スギ

05S-13 いき森づくりの会

北浅川上流地区の森にホタルを飛ばそう！

東京都八王子市

事業概要

目的は、森林内の土壌改善を通じて沢を復活させ、森全体を健全化させるとともに、水源涵養機能を高めながら生物多様性の高い豊かな森を創出する。主な活動は、①沢水の流れを停滞させている箇所の枝や土砂などの除去、②沢周辺の法面で表土が流出しやすくなっている箇所に、枝葉を利用して小規模な土留めを施工、③炭や有機物を活用した土壌改善、④溝や穴を掘ることでの大地の呼吸口作り、⑤活動エリアの危険木などの伐採など。

事業成果

簡易作業道脇に溝を掘ったり、道沿い法面に土砂崩落を抑えるための点穴作りなどの造作を継続した結果、土砂の流出を大幅に抑えられ、長く雨が降らない時でも、わずかながら水が残り続ける場所なども現れ、以前は見られなかった水棲生物を確認できた。活動エリアも森林と沢の一つの流域として手入れを進めることができるようになった。

事業をよく知る関係者の声

・森林再生や生物多様性の創出のため、場当たり的な生き物の放流をせずに根本的な要因を探り環境そのものを改善していこうという会の活動は日頃から高く評価している。森林荒廃という環境問題の本質をグローバルな視点で捉えた上で、常に実際に手を動かしその結果を観察しながら、ある意味悩みながら継続して実践していることがすばらしいと思う。（環境活動団体の方の声）

参加者の声

・昔に植樹し放置されたところも多く、そのことで環境劣化を引き起こしているという観点に気づけてびっくりした。そして、植えるわけでもなく地道な沢や斜面の土中の環境改善を施すことで、自然が今度は多様な植生になることはやりがいと希望が持てた。このような活動にふれ、実践する人が増えていくといいなと思う。活動して楽しいのと不思議と自分の体も整うのが面白い。（30代女性、会社員）

急傾斜面での土留め造作

沢の河床改善のための石積み工法を講師より指導いただき実践

沢の泥詰まり箇所での泥の除去作業

柵作り。講師による指導風景

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.2ha
除伐面積：0.2ha

参加者数

都内：　60人
都外：　73人
計　：133人

05S-14　(特非) ドングリの会

都市近郊の新しい里山づくり

東京都八王子市

事業概要

里山と人の心身、その双方の回復及び継続的な健康維持を目的とし、都市近郊の管理不足の森林の更新と整備を行い、受け皿としての地域組織を構築した。初期の企業参加による活動形態から、地域住民のみの完全ボランティア活動形態へ移行して、今期で丸２年が経ったが、自主的な活動ができる状態になってきた。

事業成果

最大の成果は、地域住民参画型の活動形態への移行が、流れに乗り始めたこと。また、自然環境としては、継続的な竹林の整備やササ刈りにより、根茎の抑え込みに成功していることや除間伐などの整備で森林の健康回復、植栽による樹種転換と森林更新について引き続き進展している。

事業をよく知る関係者の声

・暗く近寄り難い感じだった緑地が、整備することで明るくなり、散歩などで林内へ入りやすくなった。
・最近、子どもたちだけでも利用しているが、まだ少ない。近くの小中学校が積極的に活用した方が良いと思う。
・森の手入れをしている人は高齢者が多く、八王子には大学もあるので、若者がもっと参加できるようにしたらよい。

参加者の声

・竹藪に覆われていた所が、見違えるように明るくなり、作業中に散歩をする人から感謝の意を伝えられてうれしい気持ちになった。
・自分たちが苗床で育てた広葉樹が、植林の後しっかり活着してどんどん大きくなっているので頼もしく感じている。
・告知について、市当局の協力を得て、若者の参加者が増えるとうれしい。

植樹に使用する支柱作り

７種類の樹種を植樹

植樹エリアの見学と草刈り

緑地整備

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.4ha
植付本数：210本
森林資源活用：タケベンチ

参加者数
都内：420人
都外：　80人
計　：500人

樹種
オオシマザクラ、ヤマザクラ、ソメイヨシノ、イロハモミジ、コブシほか

一般市民による湘南海岸林整備事業

神奈川県藤沢市、茅ヶ崎市

事業概要

昭和初期から植栽が進められている湘南海岸林において維持管理をしている神奈川県藤沢土木事務所と連携を取り、海岸林の整備を目的として以下を実施。海岸林内のつる切り、下刈り、クロマツの植樹、枝打ち。

事業成果

3月23日に植林したエリア（国道134号茅ヶ崎市柳島交差点付近）は通行者や地域の目にも留まりやすい。苗の成長を見守りながら下刈りなど一から育林できる場所として引き続き活動を行っていきたい。

事業をよく知る関係者の声

・毎回、遠くからたくさんの人に来ていただき作業をしてもらっているので、大変助かっている。作業を通じて県で管理している砂防林の役割を知ってもらえる機会になればうれしい。（神奈川県藤沢土木事務所）

参加者の声

・初めての植林だったが植え方も分かりやすく、アドバイスや励ましをいただきながらできたので楽しみながら活動することができた。（30代女性）
・砂防林がどのように管理され、維持されているのかを知ることができてとても良い経験になった。（50代男性）

作業説明風景。クロマツにつるが巻き付き、下草が繁茂している

つる切り

枝打ち

クロマツを植樹

実績とりまとめ

作業内容
植栽面積：0.5ha
植付本数：90本
下刈面積：2ha
その他：つる切り、枝打ち

参加者数
県内：29人
県外：29人
計　：58人

樹種
クロマツ

05S-16 （特非）山の自然学クラブ

富士山南麓の森林復元と環境教育活動

静岡県富士市

事業概要

静岡森林管理署との協定により、台風被害のあったヒノキ人工林を広葉樹天然林に復元する森林再生活動を行う。主な活動は次のとおり。①広葉樹林への遷移を進めるための適応的保育管理（協定林4.65ha）、自生する母樹から種子を採取～苗を育成し、多くの樹種を補植、②同時に自然での活動体験や富士山の自然を観察する機会を設けて生き物、生態系・森の成り立ちに関する知識を深め、環境教育の効果を合わせて実施。

事業成果

新しい企業などからの問い合わせもあり、関心の高さを実感している。毎年参加する学生は入れ替わっていくが、現地で取り組む貴重な体験をしてもらっている。卒業してから社会人ボランティアとして参加する方もあり、継続性と新規性が保てている。各主体の事情に合わせて参加していただけるよう、今後も柔軟に応対して継続的な活動参加、協力関係を構築していきたい。

事業をよく知る関係者の声

・学生を継続的に参加させるためには、学校での取り組みよりも外部団体による受け入れがあった方が取り組みやすい事情があるため、貴重な実体験をさせるために重要な活動になっている。（協力して活動を進めている東京農業大学の教員）。

参加者の声

・継続的に行われているNPOの活動に受け入れをしてもらう形をとれているので、会社や各人の都合に合わせた参加が可能になっており、企画しやすい活動になっている。自分では得られない活動体験として、参加者の満足度が非常に高い活動ができている。（自主活動として参加している労働組合本部の担当者）

種子から育成した広葉樹を補植

種子の採取

採取した種子の調整作業風景

育成した苗を仮植え

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：350本
下刈面積：0.5ha
自然観察会：５回
活動報告会：２回
その他：種子採取、種子の調整・育苗ほか

参加者数

県内：　7人
県外：192人
計　：199人

樹種

種子から育成した広葉樹15種

05S-17 高尾グリーン倶楽部

みんなで集う多様で豊かな森づくり活動

東京都八王子市

事業概要

目的は、八王子市梅ノ木平国有林や隣接民有林を対象に植樹などの森林整備、そのフィールドや研修施設を活用した森林体験教育の実施である。主な活動は以下のとおり。①過密になっているスギ・ヒノキ人工林の間伐と被害木などの処理、②ギャップ地や間伐跡地への植樹、除伐、刈出しによる混交林化の促進、③小中学校や地域グループ、親子などを対象にした森林作業体験支援、④間伐材を利用した木製品の製作など。

事業成果

①刈出しや広葉樹の植樹を継続して実施したことでスギの人工林の混交林化が進んだ。②間伐・除伐などの作業を新規の森林で行ったことで、整備済み森林が拡大した。③親子などを対象に14回の森林作業体験を実施し、森林理解の増進が図られた。④間伐材を活用して椅子、どんころなどを製作して保育園に寄贈した。

事業をよく知る関係者の声

・５年生の授業として森林体験を行ったが、大自然の中での活動はみんなが協調的ですばらしかった。（小学校教諭）
・木材がどのように生産されるかを実践を通じて学ぶことができた。貴重な経験になったと思う。（高校教諭）

参加者の声

・木を１本伐るだけでも重労働であることがよく分かった。（男性参加者）
・除伐した跡の林が見違えるように明るくなり気持ちが良かった。（女性参加者）
・植えた木の成長を見にまた来たい。（小学５年生）
・山を良くするためには木を伐ること、その木を使うことが大事だ。（男性参加者）

林野庁親子会下刈り・補植作業体験

KDDI森林整備活動

広尾小学校植樹体験

定例作業除伐歩道作成

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.4ha
植付本数：340本
間伐面積：0.4ha
天然林施業・刈出し面積：0.1ha
つる切り・除伐面積：1.6ha
歩道整備：1.0㎞
体験活動：14回

参加者数
都内：821人
都外：115人
計　：936人

樹種
ホオノキ、カツラ、オニグルミ、トチノキ、ヤマグリほか

世田谷・川場上下流連携の森林活性化事業第Ⅳ期

群馬県川場村

事業概要

放置されている群馬県川場村内の人工林（針葉樹林＝スギ･ヒノキ林）を下流域の世田谷区住民が地元の地権者などの村民と協力して整備することを目的とする。主な活動は次のとおり。①地元住民と協力したボサ刈り・枝打ち・間伐、②植林後の低木育成のための下刈り、③間伐材を燃料に、近くにある広葉樹や竹林・松林の整備で発生するタケとマツを原料として炭焼きならびに地元で計画されているバイオマス利用への協力、④山間地散策路整備への材料提供作業協力などによる「循環型」の森づくりのサイクルの完成。

事業成果

前年度から新たな試みとして地元特産物のリンゴの植え替えに伴う伐採木を炭焼き材として活用する試みや、地元の若手林業家を炭焼き作業に導き、共同作業を実施する活動が本格化した。くらぶの活動以外に地元での炭焼きが行われ、利用量は飛躍的に増大した。

事業をよく知る関係者の声

・荒廃している林業地の整備に力を貸していただいている。今後ともバイオプロジェクトへの積極的な関与ともどもお願いしたい。（川場村村長）

参加者の声

・炭焼きの勉強を通じて林業地の整備に前向きに取り組む気持ちが持てた。何より下流部の市民の方たちとの共同作業が楽しい。（川場村中野地区在住者）

間伐作業。伐倒方向を定める

間伐後の玉切り

下刈り

炭焼き開始

実績とりまとめ

作業内容

間伐本数：71本
下刈面積：0.6ha
間伐面積：1.8ha
資源活用：炭焼き

参加者数

計　：96人

05S-19　(特非) 野外遊び喜び総合研究所　あばれんぼキャンプ

AKIRUNO BASEプロジェクト

東京都あきる野市

事業概要

東京都あきる野市にある里山「AKIRUNO BASE」は「子ども自身が自由な発想で遊びを実現する場」をテーマに、当団体のボランティアスタッフがプロジェクトチームをつくり整備を進めてきた。「AKIRUNO BASE」周辺には、いまだ手つかずの森林が残っている。本事業では、①地域の森林を守ること、②子どもたちが日常生活では体験することのできない森林での活動、森林での遊びから自然との共生や重要性に気づき、里山保全や森林保全への具体的な行動を起こすことのできる人を育てること、③近隣の幼稚園・保育園、学校、近隣住民とともに里山保全や森林保全を行い、豊かな緑と水に恵まれた居場所を創ることを目的として、小学生を対象としたキャンプ活動、当法人ボランティアスタッフが行う森林整備を実施した。

事業成果

イベント開催時、保護者の方に提出していただくアンケートにおいて、「AKIRUNO BASE」は、お子様にとって必要か、という質問に対し、「はい」と回答した保護者が100%であった。子どもの居場所として位置づくこと、定期的にイベントを開催する必要があると読み取れた。

事業をよく知る関係者の声

・近隣の幼稚園や学校などと連携をして、今よりももっと子どもたちの遊び場として活用したい。(40代地域住民)
・地域の方たちと連携して活動を進められる方法を模索したい。(70代地域住民)

参加者の声

・活動を通して里山がきれいになっていることが目に見えてわかる。子どもたちが楽しそうに遊んでくれているのがとてもうれしい。(20代女性、ボランティアスタッフ)
・毎日来たい！　帰りたくない！(参加者の子ども)
・すばらしい活動で、このような場所や機会を提供してくださってうれしい。また遊びに来させたい。(保護者)

「AKIRUNO BASE」活動場所

ボランティアスタッフによる森林整備

丸太切り体験

火起こし体験

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.4ha
間伐面積：0.4ha
その他：自然体験活動、森林整備

参加者数
計　：67人

05S-20 （一社）全国森の循環推進協議会

「山の学校」～水が繋ぐ地域と世代～促進事業

山梨県道志村

事業概要

目的は、未来を担う次世代のために、森林が有する多面的機能の向上や地球温暖化防止対策、国土保全などへの具体的な行動の取り組み案として、「山の学校」を継続、開校することである。主な活動は、水源林保全を体験学習する宿泊型・日帰り型「山の学校」の開校。水源地保全学習をはじめ、間伐体験や上下流地域の交流、川上地域食材の採集と調理体験などを実施。

事業成果

雨天時のメニューを体験した参加者が晴天時メニューへも参加を希望し、活動の浸透性を実感することができた。前回の参加者自らが植樹した木の成長過程を２回目の活動で確認できたことにより、身近に木の成長及び保全といったものを具体的に感じ取ることができたと思う。また、山へ興味を持っている様子を伺えたとともに、山の保全に関する意欲的な意見をいただくことができた。

事業をよく知る関係者の声

・水源となる民有林の現状を川下の方に知っていただく大切な機会。反省点としては、山にかかわりのない大人やお子さんの参加者にも伝わるように間伐作業と水との関係などを更に分かりやすく説明できると良い。安全確保にも気を配りつつ、山に入って木に触れていただき、森林整備作業の大変さ、木材の良さを知っていただき、木材活用につながると良いと思う。（川上のスタッフより）

参加者の声

・木を伐る作業が一筋縄でいかず驚いた。参加し、日々自分の身の回りでできる小さな保全活動を生活の中に意識的に取り入れて行きたいという気持ちになった。
・今回２回目の参加だった。前回に比べて子が山に興味をもって参加。自主性を見ることのできるイベントだと改めて思った。植樹した苗木が意外とまだ小さかったのを見て、ひとつの山になるまでの年月の重みを実感した。

手鋸で間伐体験

薪割り体験

植樹したスギ

木工体験

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：４本
森林資源活用：木工

参加者数
県内：21人
計　：21人

樹種
スギ

05S-21 （特非）緑のダム北相模

相模湖若者の森づくり、小手澤の森整備活動

神奈川県相模原市

事業概要

放置林を中高生が主体となって、間伐・枝打ちの森林整備作業を行う。さらに小金井市連携事業を受け入れ多様な参加者を獲得する。また、夏の体験学校で実施する流しそうめんに使用する竹林整備、早生樹であるセンダンを植樹するなど、小中高生が主体的に森林ESDに関われるフィールドを設定し、活動する。

事業成果

本会が活動するいくつかのフィールドの中で、軽トラックが入れる道が目の前にあり、間伐材活用のための搬出作業が最も簡単な場所に、中目木、大径木もあることが分かった。

事業をよく知る関係者の声

・高齢化によって地元の先輩方が始めた小手澤の維持が難しくなってしまったが、きれいにしていただき大変助かっている。若い皆さんが自然とふれあう場として活かされているのは地元住民の一人としてうれしい限りだ。これからもお願いしたい。（地主）

参加者の声

・小手澤の森に植えてあるセンダンの周りの草むしりをした。センダンは無事にすくすく育っていたし、成長が早い木なのでこれからが楽しみ。周りの草を取るのはセンダンも取ってしまいそうで緊張したが、終わるとセンダンの成長を邪魔する草が無くなり、見栄えも良くなった。（参加中学２年男子）

センダンの植樹

夏休みの体験活動で竹林整備

相模原市の公民館事業で丸太ベンチ製作

東海大付属高輪台高校の森林実習で測量を実施

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：30本
間伐本数：35本
イベント：４回

参加者数
県内：　50人
県外：290人
計　：340人

樹種
センダン

05S-22 （特非）日本の竹ファンクラブ

持続可能な竹林整備と普及啓発活動

神奈川県横浜市、中井町

事業概要

担い手不足による放置竹林を解消するため、竹林の持続的な保全と活用を行った。主な活動は以下のとおり。①竹林の間伐と整備：（春）タケノコの間引きと保護、（夏）若竹の育成と伐採、（秋から冬）高齢竹の伐採、②間伐材の活用と普及啓発活動：竹林内で行う「竹灯籠祭り」の開催、タケノコの間引きと母竹育成のための「タケノコ掘り」イベントの実施、③保全活動の持続的担い手育成のための「竹の学校」の開催。

事業成果

中井町マダケ林で昨年に続き２回目の「タケノコ」生育調査を実施。1,700本のタケノコが確認されたことで、表年と裏年の関係が確認でき、来年度から始める資源活用の目標が見えてきた。今年の「竹の学校」卒業生の中から数名の方が入会して今後も活動を継続してくれることになった。学校、企業のタケの間伐体験活動の広がりが見えた。

事業をよく知る関係者の声

・普段の整備活動に感謝。今後予定する町の竹林再生事業にも協力してほしい。（地元自治体関係者）。
・過疎化の進む地方の放置竹林を解消するには地主さんに頼るには無理がある。都市部のボランティアに頼るのも無理な時代になってきた。タケ、タケノコ、竹林に付加価値を創出し、原価をカバーする仕組みとセットでなければ継続が困難。

参加者の声

・いい汗かいて気持ち良い。（タケ伐り参加者）。
・夢中になりそう。（タケ伐り参加者）
・楽しかった。（タケノコ掘りに参加の子ども）
・感動した。（竹灯籠祭り入場者）

タケノコ保護育成活動（中井町マダケ林）

タケの間伐材処理（小机城址市民の森）

「竹の学校」の取り組みで垣根作り（小机城址市民の森）

竹灯篭祭り（横浜国際プール林浴の庭）

実績とりまとめ

作業内容
竹林整備：83回
竹灯籠祭り：２回
タケノコ掘り：２回
竹の学校：９回

参加者数
県内：　914人
県外：　 91人
計　：1,005人

05S-23 山北町丸山地区整備隊

山北町丸山地区森林整備事業

神奈川県山北町

事業概要

樹齢45年以上のカシ・ヒノキ・雑木林の森林生態系の維持・整備と森林整備の人材の育成を目的に、主な活動として、①不要木・枯木・実生木除去、枝下ろし、草刈りなど、②主に活動する学生の育成とSDGsの意識展開を実施した。

事業成果

活動地は学生の学びの場で１年生から３年間森林整備の基本をマスターする場所。12月に２年生に引き継がれ、2024年から日大サークル「森友」が行うことになった。

事業をよく知る関係者の声

・新型コロナウイルスの感染拡大時は当団体森林整備隊が活動した。隊員は森林整備活動のベテランで学生への指導も積極的に指導したが、学生が不参加により基本をマスターすることができず、中途半端になるのが残念。

参加者の声

・学生へ指導を行っていると自分も気付かない発見があり勉強になる。
・この体験が就職活動の問答に役立ち参考になっているとも聞いている。
・古参者として外気に触れる良い機会で楽しみにしている。

法面の下刈り

枝下ろし

フェンスのつる切り

チェーンソー組み立て・実技指導

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1.2ha
除伐面積：0.3ha
間伐面積：0.3ha
講習会（刈払い機、チェーンソー）：各１回

参加者数

県内：45人
県外：37人
計　：82人

05S-24 絵本の家 ゆきぼうし

親子が安心して遊べる「フーのきの森」整備事業

新潟県魚沼市

事業概要

訪れた親子が安心安全に遊べ、自然の大切さや動植物の生態系について学べる「フーのきの森」の環境づくりと認知度の向上、また、持続可能な森整備をスタッフ自らで行えるようになることを目的とする。主な活動は、(同) 杜の学校の自然再生医の指導の下、①森の環境見立て、②大地の再生講座、③実際の作業を通してのワークショップを、絵本の家ゆきぼうしスタッフと参加者と共に行った。

事業成果

森の現在の状況と、整備の仕方を、講師の先生から教えていただいたことで、今後の森の整備の方向性を定めることができた。また、大地の再生に興味がある新潟県内の多くの方が参加してくださり、今後の協力者や、相談できるネットワークが広がった。

事業をよく知る関係者の声

・外来種への対応など具体的なアドバイスもいただけて、大変勉強になった。(30代 魚沼市公園管理者)
・今回学んだ風の草刈りや水脈つくりを、ぜひ公園管理に取り入れていきたい。(40代 柏崎市公園管理者)

参加者の声

・あっという間の２日間だったが、目からウロコの連続だった。今までの草刈りの概念が覆された。ぜひ今回学んだことを、今後のフーのきの森の整備に役立てたい。(70代男性、ゆきぼうしスタッフ)
・“大地の再生”という言葉では収まりきらない深い内容だった。スタッフの皆さんの思いや参加された方から聞く、フーのきの森の創設者のおじさんへの思いにも胸が熱くなった。この講座に参加できたことは私の宝物としてこれからも大切にしたい。(40代女性、参加者)

点穴作業

水脈解説

タケ処理作業

風の草刈り説明

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：1.0ha
除伐面積：0.5ha
その他：大地の再生講座、森の整備ワークショップ

参加者数
県内：47人
県外：　2人
計　：49人

ヒノキ金池東シデコブシ群落再生保全活動

愛知県春日井市

事業概要

環境省準絶滅危惧種指定シデコブシの枯死寸前の群落が春日井市西尾町地内にあり、本格調査と再生、保全活動を行い、将来天然記念物指定を目指す。そして、西尾町シデコブシ群落守る会以外に、行政、企業、学生、市民と協働して活動をする。主な活動は、①入林のための歩道、自生地の柵設置、②除伐前の自生シデコブシ数調査、個体番号付け、③シデコブシ自生地の除伐と整備、④令和６年６月時点の自生シデコブシ数（新芽を含む）調査。

事業成果

枯死寸前の自生シデコブシ60本ほど（まだ見落としの可能性有り）を発見再生の環境をつくれた。行政（県有林事務所）が自生地一帯の森林を「うつつの森」と名付け、協定を結び入山、活動ができるようになり、技術のいる作業などを支援してくれた。企業、学生がたくさん協働してくれ、また、寄付の支援により活動が実施できた。

事業をよく知る関係者の声

・斜面に生育するシデコブシ群落は若い群落のため、どのようにして成立したかについて遺伝子解析などを行い、調査する必要がある。特に、近隣のシデコブシ群落との遺伝的関係を明らかにする必要があると思われる。また、日当たりの良い環境を維持するための作業も必要である。（国立大学法人愛知教育大学教授）

参加者の声

・人間の開発から生き残ったシデコブシ。ぜひ再生保全をしなくてはならない。（銀行支店長）
・いろいろ勉強になった。（企業の営業課長）
・除伐作業がきつかった。（大学生）
・これからが大変だ。（大学生）

下刈り

除伐

シデコブシ群落の調査番号付け

柵作り

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.2ha
除伐面積：0.4ha
大径木伐採：５本
調査番号付け：144本
歩道整備：200m
通路・階段整備：160m
柵作り：320m
看板設置：３枚
シデコブシ講演会：１回
講習会：１回
秋の里山フェア：２日
みどりフェスティバル：２日間

参加者数
県内：618人
計　：618人

05S-26 猿投の森づくりの会

猿投山北西山麓の環境林整備

愛知県瀬戸市山路町、白坂町

事業概要

猿投山北西山麓において、健全で活力ある人工林の育成と環境林としての機能を向上させることを目的とする。活動は、①「県有林やまじの森」「日本山岳会所有地」「東大演習林」において放置された人工林の間伐を行う。②雑木林では定期的に除伐し、保健保安林として機能維持させる。③自然観察道の笹刈り・除伐・道路保全を行い、近隣住民・ハイカー・登山者に「愛される森」となるよう整備する。④せと環境塾・なごや環境大学において一般応募者に森の手入れを体験してもらい、森の機能について学び、併せて「SDGs」についての教育を行う。

事業成果

不定期開催であった「わいがや講座」を４回開催でき、植物・生物・自然環境や人工林の手入れ、最新技術など学んでもらえた。不参加だった会員には、内容を会報に掲載し情報共有を図った。

事業をよく知る関係者の声

・森の手入れが進み感謝。（県有林事務所）
・「観察道がきれいに草刈りしてある」「植物の名前を教えてもらえる」など生物多様性のある森に整備している活動に対して言葉をいただいている。（瀬戸市環境課に届いた市民の声）
・人工林の間伐支援、森の整備が進みありがたい。継続を期待する。（東京大学生態水文学研究所）

参加者の声

・都会では感じられない「光や風・土や木の匂い」を感じることができた。リフレッシュでき、さらに子どもの「生き生き」とした姿を見ることができて、充実した時を過ごすことができた。次回の講座もまた参加したい。（「なごや環境大学」のイベントに参加の親子）

炭作りで窯詰め込み作業（せと環境塾）

土器を作ってみよう、素焼き作業（なごや環境大学）

県有林にて間伐作業

林道の丸太橋の架け替え作業

実績とりまとめ

作業内容
除伐面積：0.6ha
間伐面積：0.5ha
森林資源活用：ベンチ・シイタケ栽培･炭作り･木工材料等
イベント：せと環境塾「炭作り」、なごや環境大学「土器を作ってみよう」
自然観察道整備：2.3㎞
作業道整備：1.5㎞

参加者数
計　：763人

05S-27 とよはしきこり隊

自伐型森林整備支援事業（その2）

愛知県豊橋市

事業概要

安全な森林整備方法の普及を目指して、昨年度導入した高強度で軽量な牽引伐倒用具を隊の活動（間伐や公園内の支障木伐採など）で本格的に活用しつつ、自ら森林整備を行っている各種ボランティア団体ならびにそれを目指す一般市民にこれらを展示・紹介・実演する。また、自己完結できる間伐材の利活用を目指してチェーンソー製材に取り組み、用具の使用方法習熟に努める。

事業成果

牽引伐倒システムの本格運用により、明らかになってきた課題や改善点を一つずつ検証し、仮説を立てて試行を繰り返すことで、より進化したシステムを構築する展望が開けてきた。また、これらシステムを展示・紹介することで各団体や一般市民に向けた安全啓発の活動をより充実させることができた。また、チェーンソー製材による自己完結型の間伐材利用の方向性を定かにすることができた。

事業をよく知る関係者の声

・豊橋市の森林整備・安全普及啓発活動、公園整備に協力いただき、感謝している。引き続き市との連携に期待している。

参加者の声

・チェーンソーを使った実技が参考になった。（森林間伐作業講座参加者）
・安全に作業されているのを見て、手抜きは絶対しない覚悟ができた。（森林間伐作業講座参加者）
・これほど安全に気を付けて作業するものとは知らなかった。（整備支援・安全啓発活動参加者）
・森林に親しむきっかけとなった。（啓発イベント参加者）

豊橋市内民有林の間伐実施

チェーンソー製材準備・実施

製材・木工体験

森林間伐作業講座

実績とりまとめ

作業内容
間伐：0.3ha
森林資源活用：製材ほか
支障木伐採：20回

参加者数
県内：190人
計　：190人

05S-28 （一社）日本ボーイスカウト愛知連盟

常滑高坂野営場森林整備事業

愛知県常滑市

事業概要

野営場内の森林が鬱蒼としているため、明るい開放的な野営場とすることを目的とし、３年計画で森林整備を進める。整備終了後は、地域市民を交えた交流や、将来的には新城市で行っているみどりの少年団、ガールスカウトとの交流「どんぐり交流会」を実施していく。新城市は愛知東部地域、常滑市は愛知西部地域として活動の場を拡充していく。

事業成果

３か年計画の初年度で、完成後の活用など意見の広がりがあった。愛知県には野営場が２か所あり、西・東と地域を分け活動の拠点ができる期待がある。自然のすばらしさを体験できる、最高の場をつくりたい。

事業をよく知る関係者の声

・正直、全体像が見えにくい。ただ、１年目が終了して楽しみな感じがある。
・思い思いの作業で進んでいるように見えたので、統一した指導が必要である。

参加者の声

・明るくなった森林は気持ちが良い。
・片付けだけの参加だったが、満足感がある。
・３年後が楽しみである。ここで活動がしたい。

除伐作業説明

除伐作業

荷車で除伐木を運び出す

除伐完了後の林内

実績とりまとめ

作業内容
除伐面積：0.3ha

参加者数
県内：74人
計　：74人

05S-29 ガールスカウト愛知県第43団

明日を拓く、森の再生を目指して

長野県飯田市、愛知県安城市、新城市

事業概要

目的は、自然環境を守ることの必要性を参加者が学ぶことで、自分に何ができるかを考え、実行しようとする意識を持てるようにする。主な活動は以下のとおり。①長野県のガールスカウトと自然を守ることの必要性を知る交流キャンプ、②DVD『地球の復元に向けて』の上映会を行い、地域の人への環境保全の啓発、③「わたしたちにもできる環境保全活動とは何か」の意見交換会、④間伐材の利活用で地域の人へクラフト（木工）のワークショップを提供、⑤地域の人を対象に、里山の整備（歩道の整備や広葉樹の植樹、下刈り）。

事業成果

参加者は小中高校生から成人まで幅広い年齢層で、次代を担う若い世代も成人もみんなが「自然を守っていくこと」を自分のこととして捉える機会になった。また、環境保全活動に取り組む団体とのネットワークができた。

事業をよく知る関係者の声

・近年、気候変動や動植物の絶滅が進行し、人の暮らしを支えてきた自然からの恩恵が失われようとしている。森を再生する意義を知ることのできる機会となった。（環境アドバイザー）
・間伐材のワークショップは子どもたちが楽しみながら自然のもので創造力を養うことができて良い。（市生涯学習課職員）

参加者の声

・自然を守っていこうという気持ちを子どものころから身につけてほしいので、この事業に参加させたかった。（60代保育士）
・小さいころ、おばあちゃんのうちで薪で食事の支度をしていたことを思いだす。里山体験はとても豊かな気持ちになれた。（男子高校生）

あいcamp登山（飯田市）

「SDGsフェスタinあんじょう」で間伐材の利活用のワークショップ（安城市）

森林整備丸太橋製作（里山の森つくり／新城市）

植樹（里山の森つくり／新城市）

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：４本
下刈面積：0.01ha
間伐面積：0.02ha
森林資源活用：２回
森林キャンプ：２回
クラフト体験：２回
森林学習：５回

参加者数
県内：275人
県外：　23人
計　：298人

樹種
クヌギ

名張市赤目地域竹林整備・活用

三重県名張市

事業概要

目的は荒廃竹林による悪影響から動植物や景観を守り、健全な里山づくりを行うこと。主な活動は、伐採した竹材を商品加工し、地域の産業の発展に活用する。

事業成果

荒廃した森林、竹林により景観の悪化と沿道の見通しの悪さが課題となっていたが、下刈りと伐採を行ったことにより、見通しも改善し交通安全にも寄与することができた。また、伐採した木材、竹材は再利用を積極的に行うことで、新しい価値を見出し、参加者の視野も広がった。作業内容に応じて適宜、外部業者にも来てもらうことで安全面を徹底するとともに、会員の安全面の意識向上と知識を伝授してもらうことにより技術向上につながった。

伐採後、サクラ、ウメなどを植樹

裾刈り部分の延長刈りを予定

事業をよく知る関係者の声

・山林所有者であり地域代表として、この度の団体の活動で今まで懸念してきた事案（タケ、木の肥大化による弊害など）が解決され本当にありがたく感じている。

参加者の声

・いつも参加されている方に誘われ活動した。地域の人に「良くしてくれている」「きれいになった」など声をかけていただき、それがうれしく複数回参加することができた。また、機会があれば参加したい。自分の住む地域でも広げていければと思う。

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.05ha
除伐面積：0.25ha
間伐面積：0.25ha
フィールドワーク：２回
ワークショップ：10回
森林竹林整備：５回
食品加工：３回

参加者数

県内：288人
県外：　72人
計　：360人

05S-31 （特非）加茂女

里山整備で人を呼び過疎地域の活性化を図る

京都府木津川市

事業概要

目的は、過疎と高齢化で荒れてしまった里山を会で買い取って整備し、景観や環境保全とともに地域の活性化を目指すことである。主な活動は以下のとおり。①スギなどの成長を阻害するタケの伐採と下刈り（つる切りを含む）、②形質不良木の伐採、過密箇所の間伐と材の利用（路肩の崩落防止柵などに利用）、③景観保持のために遊歩道などへの植栽、④伐ったタケなどでの遊具づくり、⑤近隣市町村からのイベント参加者への森林環境学習会。

事業成果

今年度も、さらに作業道を延長し整備を進めた。森林組合からも応援を頼んで安全教育にも力を入れた。参加者は細い枝のカットから体験し、次の作業につなげることができた。遊具をつくったことでイベント参加者が増え、森林環境学習の場としても認知され、参加者の広がりの可能性を確認できた。

事業をよく知る関係者の声

・お陰で景観も良くなり、村から村への散歩が可能になった。（地元住民多数）
・荒れ果てていた山に入れるようになり、有害鳥獣の出没も緩和された。（京都府職員）

参加者の声

・荒れてどうしようもないと思っていたが、作業道を付けると整備ができることが分かった。（元地権者60代）
・荒れていても皆でするときれいにできることを学んだ。（参加者30代男性）
・自然とふれあえる機会に大変良い。（子ども連れ50代男性）

里山整備前の林内確認

タケが侵入したスギ林

作業道整備中

作業道整備完了

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：10本
下刈面積：1.1ha
除伐面積：0.1ha
間伐面積：0.5ha
作業道：200m
遊具製作：２基
イベント実施：９回
研修会実施：３回

参加者数
府内：266人
府外：150人
計　：416人

樹種
サクラ

05S-32　ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会

ゆめみヶ丘岸和田竹林整備事業

大阪府岸和田市

事業概要

目的は、里山の維持管理とソフト面の取り組みが受け継がれるようタケの資源活用を目指し、集った個人、団体、企業がゆめみヶ丘の荒廃竹林において取り組みを連携した活動を行う。主な活動は以下のとおり。①関係機関との連携・調整を行い、相互情報共有を図り荒廃竹林の適正管理を行う、②生物の多様性に富む森を創造する、③事業場所にて活動を通して広がった人の輪と、地域の人々が共に活動する場として、年１回開催を目指す「竹まつり」を企画運営し、連携する機会を継続的に創造する。

事業成果

「竹の和」のメンバーである㈱アワーズが、自社のバンブーアート企画のため、ゆめみヶ丘のタケを利用してもらったことで林床整理することができた。第２回竹まつり開催準備の際に、「竹の和」の活動が継続的になり、竹林整備が進んだ。

事業をよく知る関係者の声

・荒廃竹林の伐採が進み、里山活動における多様な利用方法が見出せるようになった。（近隣里山活動NPO法人理事長）
・フクロウの営巣を確認するなど、生態系にも好影響を与えている。（大学准教授）

参加者の声

・竹まつりに参加し、地元のタケを知ることができた。（30代男性）
・子どもが自然とふれあえる機会をつくれて良かった。（30代女性）
・雨で傾斜地が滑りやすく危なかった。（40代女性）

「竹まつり」の準備のため、階段を整備

クヌギ、コナラほか、計55種の苗木を植樹

竹林整備（委託作業）

メンマ作りに使用する幼竹を収穫

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.1ha
植付本数：340本
下刈面積：0.53ha
除伐面積：1.01ha
間伐面積：0.56ha
森林資源活用：タケチップ100㎥、バンブーアートへ竹材300本、山道の整備30本、収穫した幼竹をメンマとする取組50本

参加者数
府内：199人
府外：　11人
計　：210人

樹種
クヌギ、コナラほか

05S-33 ゆめほたるクラブ

里山を伐って・使って・繋げる連続講座

兵庫県川西市

事業概要

持続可能な里山保全に向けて、里山に携わる関係人口を増やすことで、里山整備と併せて里山資源の利活用に取り組む人材育成を行うため、座学と野外実習を組み合わせた「森林整備」「里山資源利活用」講座を実施。

・「森林整備」全５回：①里山林の特徴・現状・保全について、②安全講習・森林整備について、③救命救急、④野生動物被害対策、⑤減災・防災の森づくり」。
・「里山資源利活用」全６回：①生物多様性について、②森林資源利活用について、③グリーンウッドワーク、④ジビエレザー皮なめし工場見学、⑤薪作り、⑥ジビエ料理。

事業成果

里山の「保全技術と知識」だけではなく、「資源利活用」までの体系的な学びや、暮らしの見直しについて考えていただくきっかけを提供でき、広義で里山関係人口を増やすことができた。

事業をよく知る関係者の声

・里山保全に関する基本的知識やスキルの取得をはじめ、里山資源の利活用（用材から害獣対策によるジビエ利用まで）について幅広い講師陣を迎え、濃い内容であった。修了後の受講者からも高い評価を得たようだ。スタッフには講師陣との調整など苦労があったと思うが、彼らの努力と熱意を感じた。（ボランティアクラブリーダー）

参加者の声

・地元の自然環境を学びたく受講した。地域では人口減少の激しい地域もあり現実は厳しいが、里山の魅力を知ってもらえれば現状が変わるかもしれないと思っている。この度の学びをこれからの人生に活かしていきたい。（参加者20代）
・川上から川下まで学べた。木に関わる仕事をしているのに知らないことが多いと思った。受講料が安すぎると思った。（参加者30代）

広葉樹除間伐の実習

木の値段のつけかたについての座学

薪作りの実習

ジビエ料理の調理実習

実績とりまとめ

作業内容
「里山を伐って・使って・繋げる連続講座～ゆめほたる里山学校」講座：11回

参加者数
計　：19人

05S-34 （特非）Peace & Nature（ピースアンドネイチャー）

多国籍＆学生と共に挑む森林里山循環SDGs

兵庫県神戸市北区

事業概要

自然・国際教育に興味のある国内外の学生・若者を対象に、日本人と外国人が一緒になって新たなSDGsプログラムとして、植樹や間伐、間伐材の有効活用などの体験コースを実施し、若者を育みながら地域の森林・里山の整備・復元に取り組む。主な活動は、①植樹、苗木の手入れ、下刈り、②中低木の間伐と薪作り、③竹林の整備、間伐材の有効活用、④環境教育を含む現場でのSDGs教育、⑤チェーンソー、刈払機・薪割り機・電ノコ・ドリル・無煙炭化器などの取扱い指導とその活用。

事業成果

新たな仲間を増やしながら植樹や里山・森林保全に取り組むことができた。大沢エリアでは、休耕地を整備してオリーブを植樹。また、インターナショナルスクール、大学や各国留学生、市若手職員などが、チェーンソーほか各種道具の使い方をマスターしながら里山保全に取り組めた。

事業をよく知る関係者の声

・Peace & Natureの活動にはいつも外国人が参加されており、子どもから年配の方の幅広い参加者が会話も楽しみながら笑顔で活動されているのが特徴だと感じている。学校のSDGs探究学習や大学生のインターンシップを積極的に受け入れて若い人たちを育成しながら食や環境に取り組んでいるPeace & Natureへの期待はますます大きくなっている。（協賛企業社長）

参加者の声

・グローバル化が進む社会において、このような共通の志を持った国内外の幅広い方々が互いに協力し、持続可能な地域社会を創り上げる仕組みを日本全国に広めていくことが大切であると感じた。（インターンシップ大学生）
・里山で放置され問題になっているタケの伐採とSDGsとの関係が分かった。ノコギリでタケを切ったが、想像以上に切りやすかった。（SDGs探究学習参加の中学生）

休耕地へのオリーブ植樹のための地拵え（SDGs探究学習）

29本のオリーブを植樹（オリーブの植樹と里山保全活動）

マシンによるタケパウダー作り（オリーブの植樹と里山保全活動）

竹林の整備（里山保全活動）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：650㎡
植付本数：30本
樹勢回復：2.5ha
下刈面積：2.4ha
除伐面積：1.1ha
間伐面積：1.2ha
森林資源活用：174本

参加者数
県内：426人
県外：　84人
計　：510人

樹種
モミ、オリーブ

05S-35 （特非）棚田LOVERS

草刈り隊による森林、里山保全整備事業

兵庫県市川町、岡山県吉永町

事業概要

本団体の活動地域では家の後継ぎがいなく、森林や里山が荒れていく現状を解決することや、現在及び将来にわたって豊かな緑と水に恵まれた生活が維持することを目的とする。主な活動は、地域住民とともに結成した草刈り隊により森林、里山保全、草刈り、間伐、植樹を実施。また、岡山県にも遠征して保全整備事業を実施。

事業成果

草が繁茂し、放棄された棚田を４枚再生することができた。非常に大変な草刈りや整備も多かったが、普段、森林・里山とふれあう機会が少ない参加者が、棚田・里山を再生することで、整備することの大切さや日々の管理の重要性を学んだ。新しい女性の参加者も３名増えた。

事業をよく知る関係者の声

・息子も継がず、私の代で終わりだと思っていた棚田を、棚田LOVERSの皆さんが草刈り、再生、お祭りの会場として活用。おかげで、キャンプ地として引き継ぎ活かしていきたいという人が現れてくれ、とてもうれしく安心して任せられるようになった。（70代地域住民）

・棚田、里山の整備も非常に大事だが、水を入れてお米が育つようにするとさらに良いので、応援している。（60代地域の自治会長）

参加者の声

・人間活動によって世界中で生物が居場所を失っている。棚田の保全を通して生物の住み良い環境を守ることができる。多くの人が棚田のイベントを楽しんで、地球環境に関心を持っていただけることを願っている。（寄付者）

念入りに事前打ち合わせ、整備計画策定、地域との交渉を実施

何年も管理放棄された里山の草刈り

子どもも一緒に草刈り

岡山や大阪からも草刈り隊が集まり里山整備

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.05ha
植付本数：10本
下刈面積：0.5ha
間伐面積：0.05ha

参加者数

県内：　95人
県外：　62人
計　：157人

05S-36 鶴里ぶんぶん夢クラブ

養蜂から見える癒しの森里山再生活動

熊本県八代市

事業概要

目的は、地域の方にも積極的に参加してもらい、里山の美しい景観を次の世代に引き継ぐことである。主な活動は以下のとおり。①定期的な除草、除間伐作業と、安心して散策ができる森林空間づくり、②植樹を実施して里山の森景観づくり、③シイタケ駒打ちとシイタケの収穫計画づくり、④除間伐した木材の再利用、⑤植樹した樹木を守るための獣害対策、⑥ミツバチ研修会を実施し、日本ミツバチを守り、住み良い環境づくりを学ぶ。

事業成果

植樹した樹木の獣害対策を強化できた。チェーンソーと草刈り機を購入することができ、森の中に光を取り入れるための除間伐作業を実施できた。除間伐した木の玉切りや除草作業が捗っている。今年度はシイタケ駒打ちに小学生が参加してくれ、里山体験を楽しんでくれた。

事業をよく知る関係者の声

・樹木の獣害被害は思ったよりひどく、どこまで対策できるのか不安がある。(70代男性)
・除間伐・除草作業は人数が多い方が効率良くできるので、参加者が増えて欲しい。(60代男性)
・除間伐後、片づける作業は結構な重労働なので、若い方に参加して欲しい。(60代女性)

参加者の声

・私たちの里山の良さをもっと知ってほしい。(70代女性)
・チェーンソーの研修会に参加でき、使い方・安全対策について勉強になった。(50代男性)
・一輪車を押したり、スコップで穴掘りをしたり楽しかった。(女子小学生)
・シイタケ駒打ちは初めての経験で楽しかった。(男子小学生)

植樹

除間伐

防獣ネット張り

シイタケ駒打ち

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.3ha
植付本数：20本
除伐本数：20本
間伐面積：0.3ha
除草作業：3.5ha
防獣ネット張り：１回
チェーンソー、薪割り研修会、看板製作建立：１回
床掘り、施肥作業：１回
シイタケ駒打：１回
植樹会：１回
ミツバチ研修会：１回
その他：獣害保護、ミツバチ見学、エビネラン観賞

参加者数
県内：87人
計　：87人

樹種
ソメイヨシノ、イロハモミジ

05S-37 （特非）九州バイオマスフォーラム

間伐と薪割体験を通じた森づくりワークショップ

熊本県南阿蘇村

事業概要

目的は、林業体験を通じて、森林整備・保全が災害に強い森づくりにつながること、未利用の森林資源としての薪の活用が地球温暖化防止につながることへの理解と関心を持ってもらうことである。活動内容は、親子向け林業体験ワークショップを４回実施。地元の林業関係者を講師として招き、災害に強い森づくりや森林保全の重要性に関する講話、立木の伐採実演と間伐材搬出の見学、チェーンソー体験や薪割り体験と安全講習を行った。

事業成果

ワークショップの参加者数は110名と目標を10名超え、そのうち初参加の方が４割と裾野を広げられている。66名のアンケート回答者のうち、97%の方が「森林整備をすることが災害に強い森づくりにつながることを理解できた」、89%の方がワークショップの内容に「満足した」と回答した。

事業をよく知る関係者の声

・道路際の伐採作業では、近隣ホテルにアナウンスし、歩道に「作業中」の看板を立て、立ち入り規制を行い、通行人の安全を確保した。（伐採委託事業者）
・ワークショップ会場からトイレまで距離があったため、参加者が困らないよう仮設トイレを設置した。（当日運営スタッフ）

参加者の声

・林業に関わる方の実体験に基づいた話が面白かった。
・カーボンニュートラルの観点からも森林の適切な管理が必要だと分かった。
・間伐や伐倒により土砂の流れを予防することが理解できた。
・林業の大切さや林業従事者の育成が必要ということが分かった。

チェーンソーを使った玉切り体験

チェーンソーの使い方講習

電動丸ノコを使ったコースター作り

薪割り体験

実績とりまとめ

作業内容
除伐面積：20ha
間伐面積：20ha
暖談の会（森づくりワークショップ）：４回

参加者数
県内：131人
県外：　7人
計　：138人

緑化の推進

05RC-01　稲敷市立あずま北小学校緑の少年団

緑のまなび事業（稲敷市立あずま北小学校学校林等整備事業）

茨城県稲敷市

事業概要

目的は、手入れ不足となっている学校林の再生と敷地内樹木の剪定活動を行うことである。主な活動は以下のとおり。①学校林の剪定と下刈り（つる切りを含む）、②敷地内樹木の剪定、③記念植樹、④児童（本校緑の少年団）による森林環境学習。

事業成果

業者による環境整備により、安全に学校林の整備が実行された。敷地内の樹木剪定も行い、整った環境になった。児童の森林環境学習に使用することで、森林環境の大切さについてより深く学ぶことが期待できる。

事業をよく知る関係者の声

・植樹した苗木の成長を確認したり、森林環境学習を継続したりすることで、意識の向上につながる意義のある活動である。（50代PTA役員）
・学校環境が整備され、児童が楽しく学校林で活動できる。（70代近隣住民）

参加者の声

・自然環境が豊かな本校でのこのような企画は子どもの教育に非常に良いと思った。（40代女性）
・植樹した木を今後も大切に育て、思い出の木になるようにしたい。（小学生男子）

記念植樹

完成式典で記念撮影

整備前

整備後

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：１本
下刈面積：1,720㎡

参加者数
県内：61人
計　：61人

樹種
コハウチワカエデ

05RC-02　（特非）樹木・環境ネットワーク協会

活樹祭～親子森林教室 in 川崎町～

宮城県川崎町

事業概要

母子家庭の子どもたちは、家庭環境から野外体験や森林体験のような活動をする機会が少ない現状がある。本プログラムはキャンプのような野外体験と森林整備の体験を組み合わせることで、森林の課題と魅力にふれながら、木材の利活用への理解を促進することを目的とする環境教育活動である。実施した内容は以下のとおり。①森のクイズによる森林学習、②森林整備体験（伐採体験）、③キャンプ体験（薪割り、火おこし）、④木工体験。以上４つのプログラムを実施した。

事業成果

実施にあたり、るぽぽの森オートキャンプ場及び百のやどと協働し実施。また宮崎県母子福祉連合会の協力を得て母子家庭の家族を対象に参加者を募った。百のやどは、放置林の整備からはじめ現在ゲストハウスを運営している団体合同会社百による体験活動を実施。るぽぽの森ではキャンプ場ならではの活動として、薪を使っての火起こし体験、木のスプーン作りを実施。子どもたちの社会性の向上、母親同士の交流の時間もつくったことで、母子家庭という家庭環境の親のコミュニティを広げることにもつながったと思われる。本プログラムでは、るぽぽの森、百が参加し、地元の団体のつながりも生み出すことができた。

事業をよく知る関係者の声

・朝から晩まで、子どもたちと一緒に活動し、子どもたちから元気をわけてもらった１日となった。
・子どもたちの貴重な経験の場を提供していただき感謝。

参加者の声

・充実した内容と普段では体験できない内容で子どもたちも楽しめた。
・親子ともに大変充実した２日間となった。学校でも家庭でも、絶対にできないすばらしい経験をさせていただけた。

倒す木の方向を検討（間伐体験）

受け口をつくる（間伐体験）

薪割りの説明

年輪を数える

実績とりまとめ

作業内容
森林資源活用：薪割り、火起こし
間伐体験：３本
木工クラフト：１回

参加者数
県内：13人
県外：　2人
計　：15人

05RC-03 信州こどもの森づくり推進協議会

地域における園庭・裏山整備等モデル事業（２年目）

長野県上田市、東御市

事業概要

園庭緑化・裏山整備などに詳しい指導者がおらず、具体的な実践に着手できていない園が、新たに保護者や地域住民などの参加を得た取り組みを開始できるような支援モデルの構築を目的とする。本事業では、上田地域においてこれまで幼児期を対象にした森林環境教育や森林整備活動の実績を有する森林NPO団体（やまぼうし自然学校）と、保育・幼児教育の専門性を有する保育者養成校（上田女子短期大学）が連携した支援体制を構築した上で、①園庭・裏山などの整備計画策定、②園庭緑化・裏山など整備活動、③安全研修などをパッケージで支援するスキームを構築する。

事業成果

上田女子短期大学附属幼稚園では、卒園児保護者グループが結成され、５回以上活動に参加した卒園児を「やまもりキッズ」として任命する枠組みを創設。「やまもりフェスタ」では、多くの参加者を得るとともに、メディアにも報道され、地域に開かれた裏山整備活動の契機となった。また、長野県東御市和地域児玉山では、参加型の里山整備活動を開始。「子どもの遊び場づくり」という視点で活動を行い、地域づくり組織内でも高い評価が得られた。

事業をよく知る関係者の声

・本事業の自然保育（やまほいく）・森のようちえんの活動は、森や保育に詳しい森林NPOなどとの協働のモデル事業として評価できると感じている。地域資源の活用と地域一体となった子育ての拠点になり得る可能性を感じ、今後に期待している。（指導者）

参加者の声

・手入れされていなかった森が、自分たちの手によって整備されていく様子がうれしかった。今後もどんな森になって行くのかが楽しみ。（保護者）
・家族と裏山で過ごせて楽しい。（園児）
・あそび場が広がってうれしい。（園児）

植樹活動

ベンチ作りのための丸太搬出

やまもりキッズの任命式

除伐作業

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：５本
下刈面積：0.3ha
除伐面積：0.8ha
間伐面積：0.7ha
森林資源活用：３回
遊歩道設置：230m
その他：看板作り、森林調査、森林観察、森遊び、森林浴体験、ネイチャーフォト、クラフト、安全研修

参加者数
県内：833人
県外：　7人
計　：840人

樹種
オオヤマザクラ

05RC-04 くじらのもり

里山の新しい楽しみ方に挑戦！「安馬谷里山」アップデートプロジェクト（SDGs貢献事業）

千葉県南房総市

事業概要

千葉県南房総市にある安馬谷（あんばや）里山では、安馬谷里山研究会が保全活動を行ってきたが、高齢化などにより活動を持続することが困難となっている。本事業では、里山に新しい人の流れを作りだし、活用を促進することを目的に、以下の取り組みを実施する。①地元中学校と連携した里山整備活動、②里山の魅力を感じるワークショップ、③里山ガイドマップの作成、④ICTを活用したセルフガイドアプリ（はなもく散歩）の開発。

事業成果

講師を招き、新しいイベントを企画することができた。また、里山での整備活動を地元中学校と連携し、授業の中で実施できたことや、里山で培った知恵や自然の知識などを安馬谷里山研究会の方から直接伝える機会を作ることができた。里山マップや樹木名板の整備により、親しみを持って安馬谷里山に関わるきっかけをつくることができた。

事業をよく知る関係者の声

・新しいアイディアや考え方が導入され、里山の活用について実践できた。また、地元中学生へ里山の魅力や知識を伝えることができてよかった。（安馬谷里山研究会）
・地域の方の活動に対する想いや知識、技術について、直接聞くことができ、貴重な機会であった。里山の木の実を食べる良い経験もできた。生徒たちも里山の中で活き活きとしていた。（中学校教員）

参加者の声

・講師の里山の知識がすごかった。南房総にこのような豊かな里山があるとは知らなかったので新しい発見が多かった。（里山散策と里山アロマクリーム作りの参加者）
・里山の保全活動の手伝いをすることができて達成感があった。また、里山の植物の香りを感じたり、木の実を食べてみて里山にはたくさんの資源があることが分かった。（中学校生徒）

間伐作業

中学生を対象とした出前授業で樹木名板作成

安馬谷の里山散策と里山アロマクリーム作り

小学生を対象とした里山クラフト体験

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：1本
下刈面積：2ha
間伐面積：2ha
その他：樹木名板作り・設置、里山クラフト体験、里山散策と里山アロマクリーム作り、インスタ投稿まで“裏側”体験WS、虫探しツアー

参加者数
県内：232人
計　：232人

樹種
カヤ

05RC-05 県民との協働による森林づくり実行委員会

緑の祭典“かながわ未来の森づくり”2024 in さがみはら

神奈川県相模原市

事業概要

平成22年神奈川県での第61回全国植樹祭を契機として取り組んでいる森林再生について発信することや、県民との協働による森林づくりを推進していくため、市制70周年を迎え、都市と自然のベストミックスを掲げる相模原市において、森林とのふれあいを促進するイベント「緑の祭典“かながわ未来の森づくり”2024 in さがみはら」を開催する。併せて、県全体の森林・林業関係施策の成果などを示し、参加者の森林・林業への見識を高めるとともに、ナラ枯れ被害地の植樹を通じ、都市の貴重な緑の持続的な保全・再生について考える機会とした。

事業成果

多くの都市住民に都市林のすばらしさを満喫いただけるイベントとなった。特に、ナラ枯れ被害地の植樹活動を通して森林の再生を体験していただき、今後の森林の保全について考える良い機会となったと思う。

事業をよく知る関係者の声

・令和６年度の会場は、市街地内の森林で日頃から近隣住民の出入りも多い場所であったこともあり、参加申込み人数以上の来場者がみられ盛況となった。山林地域以外での開催により、森林が身近でない方々に興味を持っていただく良い機会となった。今後の課題として、公共交通機関を使っての来場である場合は、来場者が多いと見込まれる時間帯は、受付対応人数を増やすよう、あらかじめ人員配置するようにしたい。（神奈川県森林再生課長）

参加者の声

・身近なところに、すばらしい森林があり、改めて驚いた。天気にも恵まれ、１日森林体験をできて楽しかった。（公募参加者）
・いつもの森林が、緑の祭典会場になり感慨深い。多くの人に森林を体験してもらい、今後の森林の保全活動にも精を出していきたい。（地元森林ボランティア）

受付時の状況。多くの来場者で賑わう

式典の様子

植樹活動

自然観察会

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.3ha
植付本数：450本

参加者数
県内：705人
県外：　12人
計　：717人

樹種
コナラ、クヌギ、ヤマザクラ

倶知安町げんきの森　森づくり実践・教養講座

北海道倶知安町

事業概要

「百年かけての森づくり」をテーマに、地域の森を次世代へ引き継ぐために、地域の人々の参加による森づくり活動と幼稚園児によるキノコの植菌体験学習を含む森づくり実践講座をげんきの森で実施するとともに、森づくりのための人づくり活動として専門家・学識者などを招いての森づくり教養講座を積雪期に倶知安風土館で実施する。

事業成果

自然度の高い在来の森づくりを基本とする作業や、馬搬による自然にやさしい伝統的な森づくりへの関心が高まり、冬期の講座への参加が増え、今後の活動に興味持ったとの声が多く聞かれた。

事業をよく知る関係者の声

・本年度は、リピーターによる参加が定着したが、まだ活動が地域の人々に知られていない。更なる普及・啓発が必要である。活動の内容を地域に発信することに力を入れていきたい。100年後の森の姿を楽しみに活動を続けたい。

参加者の声

・長く倶知安町での森づくりの活動に参加してきたが、森への興味・知識が高まるにつれて森の見方が変わってきていることを実感している。往復４時間の移動も苦にならない。（札幌からの参加者）

幼稚園児と間伐材を利用した植菌体験

探鳥会と動植物調査

外来種オオハンゴンソウの除去作業

馬搬・馬とのふれあい体験

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.5ha
間伐面積：1ha
森林資源活用：ホダ木、薪
その他:森林教室、生物調査、森づくり作業、馬搬

参加者数

道内：105人
計　：105人

05RC-07 北海道士幌高等学校振興会

士幌町げんきの森 木育促進事業

北海道士幌町

事業概要

高校生や地域住民を対象に士幌町の森林環境教育を実施する。主な活動は、下刈り、伐倒、薪割りなど。外部講師として、十勝管内の木育マイスターを講師に迎え、地域林業について学習を深める。

事業成果

普段林業に関わることの少ない高校生が、今回の事業をきっかけに林業や森林環境へ興味関心を抱く結果となった。

事業をよく知る関係者の声

・助成金を活用することで、森林環境教育がより発展する可能性を感じた。経済と林業、地域産業などを合わせて考えると参加者の今後の進路などに有効ではないか。(同校勤務教諭)

参加者の声

・初めての環境の学習だったが、林業の話やイベントなど、何が面白いか、楽しいかなどが分かった。今後、実践を繰り返し、意欲的に取り組んで行きたい。(高校1年男子)

薪割り体験

下刈り体験

大径木除伐の枝移動

枝落とし体験

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.38ha
除伐面積：0.01ha
間伐面積：0.01ha

参加者数

道内：233人
計　：233人

05RC-08 （一社）脱炭素推進協議会

早生樹によるカーボンニュートラル貢献事業

宮城県仙台市

事業概要

早生樹によるカーボンニュートラル貢献事業の一環として、令和６年５月に宮城県加美郡加美町の林地にて早生樹植樹祭を開催。目的は、早生樹としてヤナギの一種に着目し、木質バイオマス発電の燃料利用についての有効性を探ること、迅速な生育特性を生かした木質バイオマス資源の循環利用システムを作ることである。当日の主な活動は、①377本の早生樹苗の植樹、②先行的に行っているほかの早生樹の成長状況の見学、③参加者による意見交換会。

事業成果

早生樹苗（ヤナギの一種）の植樹を宮城県で初めて実施したことで、早生樹の有効活用のための調査研究を行う第一歩を踏み出すことができた。また、地元林業会社や関係自治体などの方々に実際に見ていただくことができ、説明だけでは伝わりづらい臨場感を持って早生樹をPR広報することができた。

加美町植栽地地拵え後

加美町植栽地植樹風景

事業をよく知る関係者の声

・今回の早生樹（ヤナギの一種）には普及性があるのか。現在の落葉広葉樹を活用したほうが良いのではないだろうか。また、造林補助対象樹種になることが必要である。（関係緑化推進団体）
・課題としては、苗が普及していないことからその価格が高いといったコスト的な部分がある。（関係自治体）
・コスト面で補助制度の確立が必要。（地元林業会社）

参加者の声

・今後宮城県でもスギなどに代わる有用な木材の一つとなってくれればと期待する。（地元林業会社）
・様々な可能性を試すことは、今後の林業界にとって大変重要だと感じる。（地元林業会社）
・早生樹を活用した木質バイオマス資源サイクル構築に期待したい。早生樹の果たす役割は大きくなると思われ、成功事例を多くつくってほしい。（関係緑化推進団体）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.4ha
植付本数：377本
下刈面積：0.2ha
除伐面積：0.2ha

参加者数
県内：43人
県外：　8人
計　：51人

樹種
早生樹ハルシベヤナギ

「被災地に緑と心のふれあい森林づくり」事業

宮城県登米市

事業概要

緑とのふれあいなどを通して、沿岸被害住民と山村住民の交流を図りながら、東日本大震災からの復興を誓うとともに森林づくりの重要性を普及する。

事業成果

登米市において、南三陸町の被災住民を招いて森林体験を実施できた。数年ぶりに、相互参加で開催された植樹祭では、米川小学校みどりの少年団を始めとする地域住民と南三陸町の被災者との交流が行われ、双方の参加者は、心が和む楽しいひとときを過ごすことができた。特に被災地住民参加者からは、このような、野外での活動は貴重な取り組みであり、今後の継続を望む声が多数あった。

事業をよく知る関係者の声

・今年は相互参加による交流活動が行われ、参加された被災者の方々に喜んで頂けたことが何よりである。(50代 登米市担当部長)

・東日本大震災を風化させないためにも、みどりの少年団を含む登米市住民と、南三陸町などの被災住民との交流は必要と考えており、引き続き実施していただきたい。(50代 県事務所担当部長)

参加者の声

・自分たちで木を植え、達成感があった。大きく育ってほしい。(小学生女子)

・土を触ったり木を植えるのが楽しくて、自然がもっと好きになった。(小学生男子)

・地元の自然の中で植樹活動ができて、とても心が癒やされた。野外での作業は久しぶりだったので、爽快な気持ちになれた。(70代女性)

・自分が植えた木が次の世代のために育つと思うと、とても誇らしい気持ちになった。(70代女性)

スギを植樹

ドングリ（コナラ、クヌギほか）の播種活動

シイタケの植菌体験

シイタケの収穫体験

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：1,000本
播種活動、森林体験（シイタケ作りと収穫）、防災交流

参加者数
県内：138人
計　：138人

樹種
スギ、コナラ、クヌギほか

05 東震災 RC-02　（公社）宮城県緑化推進委員会

「森と海を結う・絆の森林づくりプロジェクト」事業

宮城県東松島市

事業概要

令和３年全国豊かな海づくり大会において東日本大震災からの復興を遂げた「みやぎの豊かな海」を県内外へ発信したことに加えて、令和７年全国育樹祭が本県で開催されることから、森林の大切さや、復旧した海岸防災林の姿を通じて、震災の教訓を広く全国へ発信する機会ができた。これらの大会を契機に、森と海、人々の絆をさらに深めていくため、沿岸養殖漁業の盛んな東松島市の浜市漁港に隣接し、東日本大震災の津波により被災した海岸防災林の再生を図り、水産業の環境改善を目指して、森と海の関係者や次代を担うみどりの少年団が協働で植樹活動を実施する。

事業成果

林業と漁業の関係者に加え、次代を担うみどりの少年団が協働で植樹活動を実施。より幅広い世代に「森と海」の関わり、森も海も豊かにする森林づくり（海岸防災林）の意義を伝えることができた。今後も県全体の豊かな森と海を育む活動を進めていきたい。

事業をよく知る関係者の声

・県行政においても「みやぎ森と海の交流促進事業」として、沿岸域での森と海との協働活動を推進しており、連携することで相乗効果が期待される事業である。今後も、平成31年度に発足した「宮城県水産林政部」における水産サイドと林政サイドとの協働プロジェクトを推進するツールとして、取り組んでいきたい。（50代 県水産林業政策室長）

参加者の声

・防災林は市街地の塩害も軽減する。山と森の栄養が海に流れて、海産物がよく育ち、いいものが水揚げできる。少しでも震災前の豊かな海に近づいてくれればと思う。（50代 県漁協塩釜総合支所長）

・釣りが好きなのでよく海に行く。魚がよく育つためにも木も大きく太く育ってほしい。（鳴瀬桜華小学校みどりの少年団員）

抵抗性クロマツを植樹

ヤマザクラを記念植樹

植樹会の様子

植樹活動に参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.2ha
植付本数：603本

参加者数
県内：100人
計　：100人

樹種
抵抗性クロマツ、ヤマザクラ

05 能登震 RC-01　（公社）石川県木材産業振興協会

組立て什器（組手什）を用いた能登半島地震復興支援事業(1)

石川県七尾市、輪島市、珠洲市

事業概要

「令和６年能登半島地震」により、避難所生活が長期化している中、避難所などでは、共用スペースでは多数の支援物資などが平置きされて生活スペースを圧迫したり、平時を超える利用者が滞在する中で、靴や傘が散在し、さらに避難者の生活スペースも日用品などが整理できない状況にある。そこで、常に変化する避難所などのニーズに応じて、自由に組み立てられる間伐材などを活用した組み立て什器「組手什」を全国の生産者から確保し、避難所などにおいて、物資整理棚、多数の避難者が利用できる下駄箱や傘立て、日用品を整理できる整理棚などを組み立てて提供した。

事業成果

避難所などにおいては、支援物資などの整理棚を提供することで、避難者などに効率的・機能的に支援物資などを配置・提供することができるようになった。また、下駄箱・傘立てを提供することで、スペースを機能的に利用するとともに、避難所内の衛生管理にも寄与した。個人スペースにも整理棚を提供することで、日用品を立体的に配置したり、木の香りや温もりで心地よい生活環境を整えることができた。さらに、被災地産の組手什を迅速に生産することで、被災地の間伐材などの使用を通して森林整備と雇用創出にいち早く寄与できた。

事業をよく知る関係者の声

・木の下駄箱を組み立て、設置していくにつれ、スギの香りにつつまれ、それだけで癒し空間になった。私たち被災者の心に木の温もりが伝わってきた。ご支援、本当にありがとう。（避難所運営責任者）
・組手什は避難所に絶対に必要だ。声を大きくあげて言いたい。（避難所運営スタッフ）

参加者の声

・娘と孫と参加したが、女性も子どもも一緒に楽しんで作れた。

組立て什器を搬入（石川県輪島市門前 支援物資倉庫）

皆で組み立て作業
（石川県七尾市「矢田郷地区コミュニティセンター」）

日用品を立体的に配置
（石川県七尾市「田鶴浜地区コミュニティセンター」）

通路のスペースも有効活用
（石川県輪島市「河原田公民館」）

実績とりまとめ

作業内容
組手什提供：
11,490本（21回）

参加者数
県内：344人
県外：　12人
計　：356人

05 能登震 RC-02　（公社）石川県木材産業振興協会

組立て什器（組手什）を用いた能登半島地震復興支援事業(2)

石川県金沢市、七尾市、輪島市、珠洲市

事業概要

「令和６年能登半島地震」により、避難所生活が長期化している中、避難所などでは、共用スペースでは多数の支援物資などが平置きされて生活スペースを圧迫したり、平時を超える利用者が滞在する中で、靴や傘が散在し、さらに避難者の生活スペースも日用品などが整理できない状況にある。そこで、常に変化する避難所などのニーズに応じて、自由に組み立てられる間伐材などを活用した組み立て什器「組手什」を全国の生産者から確保し、避難所などにおいて、物資整理棚、多数の避難者が利用できる下駄箱や傘立て、日用品を整理できる整理棚などを組み立てて提供した。

事業成果

避難所などにおいては、支援物資などの整理棚を提供することで、避難者などに効率的・機能的に支援物資などを配置・提供することができるようになった。また、下駄箱・傘立てを提供することで、スペースを機能的に利用するとともに、避難所内の衛生管理にも寄与した。個人スペースにも整理棚を提供することで、日用品を立体的に配置したり、木の香りや温もりで心地よい生活環境を整えることができた。全国の生産者から借用した加工機械などを活用し、被災地産の組手什も生産でき、被災地周辺の森林整備と木材産業の復興、そして雇用創出にいち早く寄与できた。

事業をよく知る関係者の声

・収納棚などを提供して、生活環境の改善に役立った。組手什の組み立てのワークショップの実施により、避難者同士や学生などのボランティアが対話・交流でき、さらに具体的な整理棚などの成果が見えるものが作れることで、避難者が前向きな気持ちになるきっかけにもなった。

参加者の声

・椅子の上などに荷物を置いていたが、スペースが限られたので、棚を作れてよかった。洋服掛けや子どもの椅子が欲しかったので、自分たちで考えて作れてよかった。

個人の生活スペースに設置する棚を製作中
（石川県輪島市門前東小学校体育館）

ボランティアとの交流で笑顔があふれる
（石川県輪島市楓の家）

大きな下駄箱も製作できる（石川県輪島市門前中学校）

組手什の製造

実績とりまとめ

作業内容
組手什提供：8,855本（16回）

参加者数
県内：202人
県外：　3人
計　：205人

05 能登震 RC-03　（公社）石川県木材産業振興協会

組立て什器（組手什）を用いた能登半島地震復興支援事業(3)

石川県輪島市、珠洲市、能登町

事業概要

「令和６年能登半島地震」により、避難所生活が長期化している中、避難所などでは、共用スペースでは多数の支援物資などが平置きされて生活スペースを圧迫したり、平時を超える利用者が滞在する中で、靴や傘が散在し、さらに避難者の生活スペースも日用品などが整理できない状況にある。また、仮設住宅団地や仮設住宅でも収納スペースが限定される状況にあった。そこで、被災地の森林整備の促進や木材産業の活性化、雇用の創出に寄与するように、石川県能登半島を中心にした木材産業関係者により生産体制を構築し、常に変化する避難所や仮設住宅団地などのニーズに応じて、自由に組み立てられる間伐材などを活用した什器「組手什」を組み立て、物資整理棚、下駄箱や傘立て、日用品を整理できる整理棚などを提供した。

事業成果

避難所や仮設住宅団地などへ、整理棚や下駄箱・傘立てを提供することで、スペースの機能的な利用や避難所などの衛生管理にも寄与した。避難所の個人スペースや仮設住宅でも木の香りや温もりで心地よい生活環境を整えることができた。さらに、全国の生産者から借用した加工機械なども活用することで、能登半島内の被災地産の組手什も生産することができ、被災地周辺の森林整備と木材産業の復興、そして雇用創出に寄与できた。

事業をよく知る関係者の声

・避難所や仮設住宅団地においても、集会所・個別住居では、スペースが限られているため、組手什は大変好評であった。具体的に棚の配置先や制作例を示すことで、多くの方が想い想いに制作されていた。

参加者の声

・屋外でのワークショップ、被災者同士や学生などのボランティアと対話・交流ができたことや棚などの成果が見えるものが作れたことで、前向きな気持ちになった。

「組手什」の組み立てを通して交流でき笑顔があふれる

「組手什」の組み立て活動の様子

傘立て

靴の収納棚

実績とりまとめ

作業内容
組手什提供：1万本
提供活動実績；34回

参加者数
県内：911人
計　：911人

05R-01　(特非) C・C・C富良野自然塾

健康な森づくりに関する作業および調査事業

北海道富良野市

事業概要

団体の活動が令和６年度で20年となるため、森林の環境が変化してきていることについて科学的評価することを目的とし、健康的な森林の基準を専門家や地域住民と一緒に、森づくりを考える機会を設けた。主な活動は、①地域の子どもたちを対象に森づくりイベント「へそ森クラブ」を実施、②元ゴルフ場での植樹活動、③間伐作業、④富良野以外の場所での森づくり企画で植樹会を開催。

事業成果

昨年に引き続き、森林評価のための環境調査を行った。その結果を地域の子どもたちとのイベント「へそ森クラブ」で共有することができた。自分たちの街に森林があり、変化しているということが分かったと思われる。

事業をよく知る関係者の声

・環境調査を昨年度から開始。客観的な意見を専門家から頂戴する機会が増えた。自動撮影カメラを設置したことで、エゾシカ、エゾタヌキ、キタキツネ、ヒグマなど多くの大型哺乳類が再生している森林を利用しはじめていることが分かり、ゴルフ場の自然返還が進んでいることを感じた。反省点としては、スタッフの減少に伴い、フィールド管理業務が滞ってしまったことだ。

参加者の声

・事業開始当初に木を植えたことがあり、その木の場所を訪れることができ良かった。また夫婦で木を見にきたい。(80代夫婦)

小学生12人による植樹活動

小学生67人による元ゴルフ場の植樹活動

野生動物観察のためのレコーダーを木の幹に設置
(森林調査)

環境調査

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1ha
植付本数：1,500本
森林調査、環境調査ほか

樹種
ハウチワカエデほか

持続可能な（カーボンニュートラル）地域づくりプロジェクト

北海道弟子屈町

事業概要

事業実施場所である弟子屈は、ひがし北海道有数の観光地である。その主流はドライブ観光であり、自動車による長期移動によって排出されるCO_2（年間推定630万kg）を植樹（１本14kg）によってニュートラル化することをテーマに、植樹祭及び住民・子どもたち向けの学習会（木育教室）を開催する。

事業成果

「そらの森プロジェクト」の活動から「カーボンニュートラル」のテーマになり13年目となる。植樹範囲も年々広がってきており、参加者も地域住民や子どもたち、障がい者、観光客らを含めて延べ600人を超え、森づくりの夢は順調に進んでいる。過去に植樹した際に台風の影響で育ちが悪かった区画のメンテナンスを実施できた。

事業をよく知る関係者の声

・雨天で延期になったが、無事開催できて良かった。すばらしい取り組みなので、規模を大きく、地域の盛り上げとともに自然を豊かにしてもらいたい。

参加者の声

・子どもたちとふれあいながら植樹ができて良かった。（30代女性）
・森をつくるという取り組みはすばらしい。（40代女性）
・植樹の後のジンギスカンで地域の方と交流できて良かった。（30代男性）

植樹祭

カラマツほか４種を植樹

植樹には子どもたちも参加

植え付ける苗と植樹場所風景

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.7ha
植付本数：210本
下刈面積：0.8ha

参加者数
道内：47人
計　：47人

樹種
カラマツ、ヤマモミジ、ドロノキ、アカエゾマツ

05R-03　(特非) 白神山地を守る会

白神自然学校遊々の森並びに植林地の除間伐材の伐採・再利用事業

青森県鰺ヶ沢町

事業概要

白神自然学校遊々の森は、整備されていない国有林を除間伐・地拵えしながら植林を実施してきた。その際に伐採して生産されたスギ材をリサイクルして有効に再利用することを目的に活動を実施。SDGsの「陸の豊かさ」を体験して、持続可能な取り組みを実践することで、木材を大切に使うことに対する理解者を増やし、木を大切にするネットワークを広げていく。

事業成果

雪囲いや平板を意識して、長い材を確保することを意識したことにより、多目的活用を可能にした。除間伐材なので、加工後は少し曲がった平板とかになっているが、有効に活用できる。

事業をよく知る関係者の声

・津軽森林管理署鰺ヶ沢事務所の森林担当官は、私たちの取り組みに、とても理解を示してきている。
・東北森林管理局の局長・森林整備部長も積極的に応援してくれるようになった。

参加者の声

・単なる植樹だけでなく、木を植え、有効に利用する取り組みは、言葉では分かっているが、体験でき理解できた。

ブナを植樹

クワを使用しての植樹

製材したスギの加工品

スギの枝葉はアロマの材料として活用

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：2.0ha
植付本数：125本
下刈面積：1.0ha

参加者数
県内：115人
県外：　30人
計　：145人

樹種
ブナ

05R-04　森林との共生を考える会

「癒しの森」にヤマザクラを100本植える

宮城県栗原市

事業概要

栗駒山の麓にある名所の「行者の滝」の隣接地は、平成20年の地震により荒涼とした場所となっている。この場所を緑豊かな植生に戻し、人々が集い、一休みできる森林にしたいという思いで活動を開始。令和４年に栗駒山系からヤマザクラの種を拾い、育てた苗100本を地域の方から植えてほしいと託され、さらに１年間育てた。その苗を今回の事業で植えることになり、広葉樹とサクラを合わせて358本植えた。苗の生育をよくするために排水路の整備や植樹後も補植や下刈りをして苗を守っている。

事業成果

長年製作依頼していたベンチが完成し、２脚設置された。昨年試しに８本植えたが無事に育っている。令和６年５月の植生調査時にはサクラも他の苗も元気に育っていた。これもバーク堆肥・肥料・チップを使いしっかり植えていることや、下刈りをして苗を守っている成果である。令和４年度から植えたサクラは合計92本。このサクラが「癒しの森」を華やかにしてくれることを願っている。

事業をよく知る関係者の声

・宮城北部森林管理署では、大変評価していただいている。宮城北部森林管理署からの推薦で令和６年の林野庁長官から感謝状をいただいた。今後の課題は、あと数年下刈り作業を継続する必要があるが、当会の高齢化問題により現地までの交通手段、作業員の確保をどうするかにあるかと思う。早期に現地のボランティア団体と共に作業できる体制を整えたい。

参加者の声

・大変な作業を続けていただき感謝している。（栗原市長）
・何度か参加しているが、来るたびに植樹面積が広がり、将来が楽しみ。（国の機関）

植樹活動

下刈りと支柱のメンテナンス

排水路整備

ベンチの設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.25ha
植付本数：358本
下刈面積：1.05ha
ベンチ設置：２基
穴掘り・肥料搬入と準備、生育調査、排水路整備：各１日

参加者数
県内：134人
県外：　3人
計　：137人

樹種
トチ、ミズナラ、サクラ

05R-05　(特非) こが里山を守る会

害虫被害木の整備と市民・子どもたち参加の里山保全整備事業

茨城県古河市

事業概要

コナラ・クヌギの広葉樹が主体となっているフィールド「稲宮の森」は、県内において大発生している害虫による立ち枯れ木が発生している。健全な樹木にも被害が及ぶ恐れがあること、立ち枯れによる倒木などにより人的被害の危険性もあるため、被害樹木の伐採・搬出と伐採跡地に里山の景観向上を図ることを目的に、ソメイヨシノの植林を実施する。里山の景観向上は、市民が里山とのふれあいなどにより関心が高まることが自然環境保全啓発につながる。

事業成果

害虫被害樹木と風倒木の伐採搬出処理を実施。伐採跡地には花木を植林、里山の景観向上を図ってきた。開花時期には市民の入山も多くみられ、身近なふるさとの里山を保全する認識が高まってきた。また、石油・ガス・電気などの料金高騰により、薪ストーブの利用が増加。その薪ストーブの燃料として、伐採材の薪材としての活用が高まってきた。

事業をよく知る関係者の声

・里山の保全活動着手前は「ごみ山」として、市民は里山の関心が無くなり、荒廃していたが、保全整備の進捗と里山で花見の観賞ができるなど、現在では市民の散歩コースとして活用されている。

参加者の声

・保全整備された里山に「ふれあう」ことができた。
・毎年開催している市民参加の観察会の実施などにより、里山とのふれあいが多くなってきた。

下刈り

被害樹木の伐採・搬出

害虫被害樹木調査体験でトラップ作り

自然環境（里山）保全観察会で「森の中のコンサート」

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.0ha
植付本数：50本
下刈面積：2.5ha
除伐面積：0.5ha
森林資源活用（薪）：5㎥
イベント2回

参加者数
計　：625人

樹種
ソメイヨシノ

05R-06 倉渕ヤマアジサイの会

ヤマアジサイの森の清掃活動とボランティア育成講座

群馬県高崎市

事業概要

森のボランティアが高齢化して後継の育成が急務である。本事業は、誰でもできる森のボランティア活動として、下刈りや集めた枝を粉砕してできたチップを再び森に撒く活動を実施。今回は、子どもが多く参加したため、鎌や剪定ばさみを使用し、実際に森をきれいにする作業を体験してもらった。

事業成果

小学生から80代の参加者まで活動に参加することができた。昨年に参加した子どもから「森が楽しかった」との声があり、今年度は親子で参加してくれた。当初の活動から比較すると若い人の参加が多くなった。森に来てもらえれば森の活動の楽しさを伝えることができ、森に親しみを感じてもらえることができると感じた。

事業をよく知る関係者の声

・毎年継続して活動しているので地元でも知名度がアップしている。これからも継続して活動してほしい。(地元70代)

参加者の声

・森の中は広くてすがすがしくて大変気持ちが良かった。(小学校５年生児童)
・遠いので少し億劫になっていたが、バスで行けたので参加して良かったと思う。(50代)

森の枝を集めてチップを作る

作ったチップを撒く作業

鎌や剪定ばさみを使用し森の手入れ

森のボランティア活動に参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：1.0ha

参加者数
県内：50人
計　：50人

05R-07 いずみのもり倶楽部

大人も子どもも楽しめる「あそびのもり」整備事業

群馬県太田市

事業概要

地域の方々や幼稚園の園児、保護者など、周りの人々が自然をより身近に感じ、ふれあうことができる環境で豊かな感性を育み、保護者も安全で安心できる子育て支援の森づくりを目指す。主な活動は、植樹祭を行い、園庭に植樹をすること。

事業成果

植樹祭を開催し、地域の方々や幼稚園の保護者が参加したことにより、地域とのつながりや人と人とのつながりができた。そして、園児たちが植樹を体験したことで、水やりをするなど、木を大切にする心が芽生えた。まだ木陰はつくれない大きさだが、景観が良くなった。

事業をよく知る関係者の声

・広さは十分である園庭だが、木陰ができる樹木が無く、夏は過酷な環境である。今回植樹したことにより、今後、木陰が増えると思うので、良かった。

参加者の声

・初めて植樹作業を行った。業者の方の説明を受け植樹を行ったが、ただ単に植えるのではなく、向きや角度など奥深い説明も聞くことができ、貴重な体験であった。(40代男性)
・植樹により木が増え、葉はなくとも、園庭の景観が一気に変わったことに驚いた。(保護者30代女性)

植樹作業（第１回植樹祭）

作業説明を受けながら植樹完了

子どもたちも植樹を体験

「あそびのもり」植樹完了セレモニーにて、木々と記念撮影

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.5ha
植付本数：53本
下刈面積：0.1ha

参加者数
計　：54人

樹種
アオダモ、アオハダ、シラカバ、アカシデ、コハウチワカエデほか

05R-08　（特非）地球と未来の環境基金

千葉県富津岬の松林再生植樹活動

千葉県富津市

事業概要

目的は、千葉県富津市の富津岬周辺の松くい虫の被害により枯れた松林の再生である。主な活動は以下のとおり。①松枯れで、灌木やタケ、雑草が生い茂り荒廃している松林内の灌木など撤去、地拵え、②クロマツの植栽、③植樹後の下刈り（２回）、④タケが繁茂した場所のタケの伐採、タケの抜根とかき起こし（業者委託で重機による作業）。

事業成果

大半のマツが枯れ、灌木やイバラ、ツル系植物などが繁茂し、不法投棄も目立っていた活動地は、灌木などを撤去することで明るくなり、不法投棄は減少した。SNSや当団体役員のネットワークで、首都圏在住の市民が植樹活動や下刈りに参加してくれた。通信系の企業から寄付を集めるなど、今後の活動に向けた財政基盤も一部獲得できる見込みがついた。

事業をよく知る関係者の声

・活動地の現況は、イバラやツル系植物が繁茂し、地拵え作業は危険を伴う作業で、ボランティアで実施できるレベルではない。チェーンソーや電気剪定鋏など道具を駆使できなければならないため、実施体制は慎重に考えるべきだろう。（地拵え作業に参加した造園技術士）
・活動地は公共交通機関が極めて少なく、自動車などでアクセスしないと参加が難しい。今年と同様で現地までの輸送手段（貸切バス）は大変ありがたい。（参加企業担当者）

参加者の声

・初めて植樹活動に参加した。木を植える行為は神聖な感覚を持った。（企業社員）
・植樹した場所が平坦な場所で、想像していたほど危険でなく、子どもたちも怪我なく活動できたので大変楽しかった。（家族連れ参加者・一般市民）

植樹地の下刈り（１度目）

地拵え作業中

植樹活動

植樹に参加された皆さん

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.093ha
植付本数：400本
下刈面積：0.14ha
地拵え面積：0.093ha

参加者数
県内：　9人
県外：40人
計　：49人

樹種
クロマツ

05R-10　あじさい保育園保護者会

遊びと五感を育む「里山園庭」プロジェクト

岐阜県美濃加茂市

事業概要

身近に森がない保育園の園児に自由な遊びや五感体験を提供するため、持続可能な社会のデザイン手法として知られるパーマカルチャーの理念をもとに、緑化だけでなく五感を使って遊ぶことができる園庭をスタッフや保護者、子どもたちと共に手作りしていく。主な活動は以下のとおり。①園庭のデザイン、②保護者や地域の人による資材集め、③専門家指導のもとで親子やスタッフと共に行う園庭づくり、④園庭の自然の観察とメンテナンス。

事業成果

保護者や地域の方そして園のスタッフが積極的に関わってくれた。五感を使った自然体験だけでなく、保育の在り方について変化が見られるようになってきた。緑化が進むだけでなく保護者、スタッフ、地域のネットワークが少しずつ生まれてきた。この様子をドキュメンタリー動画としてホームページにアップしたところ、多くの反響があった。

事業をよく知る関係者の声

・親子やスタッフが一緒になっての園庭づくりをすることで、子育ての当事者になる。保護者にとっては、関心や責任が生まれ、共に子育てをしていこうとする構えが生まれる。スタッフにとっても、どんな経験を子どもたちにさせたいかを考えることにつながる。また、子どもがどんな動きをするのか、退屈していないか、危険ではないかなど、子どもの姿を丁寧にとらえることにつながり、それが質の高い保育につながる。（岐阜聖徳学園大学教授）

参加者の声

・親子で一緒の作業をするのは、久しぶりで楽しかった。
・子どもたちが毎日過ごす園庭の環境が良くなっていくのはうれしい。
・子どもたちが毎日泥だらけになって帰ってくる理由がわかった。

（親子作業日に参加した保護者）

苗木を植える土づくり

親子で一緒に作業

三輪車で土留の丸太を運搬中

丸太の皮むき作業

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：169本

参加者数
県内：287人
計　：287人

樹種
アベマキ・ムクノキ・オニグルミ・ケヤキ・ハンノキほか

高山市森部地域 飛騨漆の森づくり推進事業

岐阜県高山市

事業概要

飛騨春慶漆器など漆製品の産地である飛騨では、植物の「ウルシ」を循環して育て、塗料の「漆」として使用してきた。そこで、「ウルシ」を荒廃した山林や耕作放棄地に約15年にわたり毎年継続して植樹し「育てて使う」森の再生を目指す。主な活動は以下のとおり。①種から育てた苗を荒廃した耕作放棄地などに植樹し、ウルシの森の再生を行う、②ウルシの植樹を通し、一般市民などに「育てて使う」大切さと森林環境・漆への関心を高める。

事業成果

耕作放棄地である高山市丹生川町森部植樹地の畑と田の試験植栽したところ畑は無事成長した。田で水分が多いところは枯れたが、50cm程度の畝を作り植栽したところ、無事成長した。植栽イベントには、一般市民、県・市の職員、木工スクールの学生、家具職人など多様な方が参加。植栽やウルシの循環利用などに興味を持っていただけた。

事業をよく知る関係者の声

・ウルシ植樹を市民に知ってもらうことで、地元の飛騨春慶漆器業の再興が期待できる。(50代高山市商工労働部職員)
・ウルシ植樹が荒廃した山林や里山に行われていることにより、健全な里山の保全が期待される。(30代木工スクール学生)

参加者の声

・自分が植えたウルシが大きくなるのが楽しみ。機会があれば数年後に見に来たい。(小学生男子)
・木を植えて育て、循環利用する一翼を担えることを体験できて良かった。(家具メーカー職人)
・子どもたちの参加による自然とふれあう植樹体験の機会は少ない。数年後には漆を樹液として得ることができるため、漆を採取する体験イベントも開催してほしい。(30代女性)

植樹イベント

下刈り

獣害柵設置（電柵）

畝立てし、ウルシ70本を植樹

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.29ha
植付本数：230本
下刈面積：2.0ha
除伐面積：0.1ha
イベント：1回

参加者数
県内：69人
県外：　1人
計　：70人

樹種
ウルシ

05R-12　(特非) 里山会公文名ファイブ

さとやま自然楽校

静岡県裾野市

事業概要

先人たちがつくった大切な自然財産である里山の荒廃を防ぐとともに、次世代へ継承及び来訪者が利用できる森づくりを実施し、地域活性化につなげる。

事業成果

今年度は、バックホウ・運搬車両などを使用して、車両搬入路・展望地・沢の整備、多目的広場に落葉広葉樹の苗木445本程を植樹。野鳥・昆虫が寄ってくる森に近づいた。

事業をよく知る関係者の声

・地道な活動だが、これからも子どもたちのためにも継続してもらいたい。(森林ウォーキングコースの利用者)
・若い会員を増やしたい。活動を継続したい。

参加者の声

・子どもたちが森の中で遊ぶ姿を見ていた参加者が、「また、来ます」と帰って行った参加者の声が、活動の力になっている。

広葉樹苗木の植樹

沢の丸太橋架け替え作業

親子七夕竹灯籠作り

県民森づくり大作戦イベントで落葉のプールで楽しむ子どもたち

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.0ha
植付本数：445本
イベント：18回
「野鳥・昆虫が寄ってくる」森づくり（雑木、竹林、植樹木の管理）：44回

参加者数
計　：264人

樹種
クヌギ、コナラ

05R-13 （公社）愛知県緑化推進委員会

みどりの少年団結成50周年記念事業

愛知県犬山市、瀬戸市、豊田市

事業概要

みどりの少年団が結成して50年となる記念行事として、当初（昭和49年度）から現在まで活動を継続している3団（犬山市今井みどりの少年団・瀬戸市みどりの少年団・豊田市六所山みどりの少年団）で記念植樹行う。また、記念誌を作成し、関係機関へ配布を実施する。

事業成果

今回、記念誌などを作成し、関係機関などに配布し、宣伝活動を実施した。結果、新たにみどりの少年団についての問い合わせもあり、発展が見込まれる。

事業をよく知る関係者の声

・みどりの少年団活動の励みとなり、今後につながると思う。（学校関係者）
・もっと、認知・脚光を浴びてもいいのではないか。（学校関係者）

参加者の声

・初めて記念植樹に参加した。将来が楽しみ。（低学年児童）
・50周年、お父さんやお母さんが生まれる前からあったんだと知った。（低学年児童）
・植える樹木をみんなで選んだ。（犬山市今井みどりの少年団）

豊田市六所山みどりの少年団の植樹の様子

犬山市今井みどりの少年団の植樹の様子

瀬戸市みどりの少年団の植樹の様子

みどりの少年団結成50周年記念誌

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：8本
イベント：3回
記念誌発行：800部

参加者数
県内：約50人
計　：約50人

樹種
ミカン、ブルーベリー、キンカン、リンゴ、イチジクほか

05R-14 タネカラプロジェクト

地域性苗木の育苗

滋賀県高島市

事業概要

目的は、地域の遺伝子資源を守り、地域性苗木の育苗と山への植樹を通して、生態系機能の備わった多種共存の森林を再生するものである。主な活動は以下のとおり。①地域の山の木から種を採取し、地域の遺伝子を引き継ぐ苗木を育てる「地域性苗木の育苗」、②地域性苗木を山林に植樹し、地域の生態系に配慮した「森づくり」である。

事業成果

苗高80cm以上になるものも出てきたため、植樹の予定を前倒しにして、約50本の大苗を植樹した。植樹にあたり、防鹿ネットの設置、植樹の方法、森づくり手法の検討、植生調査などについて、有識者を交えて研修形式にして行い、大変意義深いものとなった。苗木の育苗から植樹のステップに移行し、新たな協力者のつながり、参加者の輪の拡大、それに伴って会の認知度も上がっているように感じる。

事業をよく知る関係者の声

・周辺の山から種を採取し育てた地元の木で、生物多様性の森を造成することができればすばらしいが、広葉樹の造林の確立した技術がない。模索しながらの造林活動に意義を感じた。（森林インストラクター）
・年に１回は、活動報告会を実施して、会員への活動内容周知、会員獲得への広報活動を継続して行う必要がある。（60代男性）

参加者の声

・獣害の深刻さに驚いた。人の手による森づくりの取り組みが喫緊の課題だと感じた。（40代男性）
・苗木の作業は、木の根っこが見られたり、木々の成長を感じることができ、面白い。学習にも癒しにもつながる。（20代女性）
・子どもと一緒に種を見つけて歩くのはとても楽しく、遊びながら自然を知られる良い機会。（40代女性）

朽木ブナ林でタネ拾い

朽木苗場にて苗木の手入れと苗置き台設置作業

朽木植樹地にてトチノキ大苗植樹

朽木での植樹地植生調査

実績とりまとめ

作業内容
植樹本数：50本
育苗作業：５回
種子採取：３回
散策路整備：１回
森林調査：２回
獣害柵設置：２回
植樹作業：２回
育苗苗木：1,950本

参加者数
県内：120人
県外：　27人
　計　：147人

樹種
トチノキ、ヌルデ、ネムノキ、ウワミズザクラ、ホオノキほか

05R-15 （特非）大阪・うなぎの森植樹実行委員会

うなぎの森植樹祭（大阪・森は海の恋人）

大阪府高槻市

事業概要

2018年の台風により全滅した大阪北部の森林に腐葉土が川に栄養分になる広葉樹を植え、森林の早期復旧と絶滅危惧種の淀川の鰻の回復を図る。具体的には、大阪府木材連合会会員を始めマスコミ、漁業・森林関係団体、企業、ロータリー市民、子ども、行政、大学、NPOなど幅広い人々により、植樹、森林整備活動を実施し、参加者に森川海の生態系の保全と森林の早期復旧の大切さを体感してもらう。NPO「森は海の恋人」代表畠山重篤氏の「子供 海と森の教室」も開催する。

事業成果

今年の植樹か所はほぼ平地であり、転倒の恐れが減少した。また、毎年、子どもから大人まで様々な年代の方が参加されるが、今年は外国人留学生の参加があり、植樹活動に大変満足された様子であった。植樹活動に国境はないのだと感じた。

事業をよく知る関係者の声

・植樹を通じて他団体との新しい接点ができ、より良いパートナーとなればうれしい。（ボランティア団体）

参加者の声

・うなぎの森の活動は楽しい経験だった。いろいろな人と協力してヤマザクラなどを植えたり、楽園みたいな景色を眺めたりしているうちに、自分の心でもサクラが咲いているように感じた。うなぎの森の活動に参加したことがきっかけで、その楽しみを発見した。自然を保護したり、その美しさを保存したりして、私たちが自分の心を磨くのだと、しみじみ思い至った。（ロシアからの留学生）
・今回のボランティアは初めての植林活動だった。木の植え場所を探し、土を掘り、木を固定するのは難しかったが、みんなで一緒に頑張れた。10年、20年後、またうなぎの森に行って、大きくなった自分たちの植えた木が見られたらうれしい。（香港からの留学生）

植樹の様子

主な植樹場所は平坦で作業がはかどる

植樹木には防獣ネットを設置

植樹に参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1ha
植付本数：220本
下刈面積：1ha
除伐面積：1ha
森林教室：1回

参加者数
府内：204人
府外：　20人
計　：224人

樹種
ヤマザクラ、イロハモミジ、アカマツ

05R-16 龍神温泉の森をつくる会

龍神温泉生物多様性の森造成事業

和歌山県田辺市

事業概要

龍神温泉を核に、かつては70万人を超える観光客が訪れて龍神村地域であるが、令和４年には37万人と半減。地域では温泉だけでなく森林景観を豊かにすることを観光客回復の一つの手段とするため、温泉向かいにある５haの人工林を伐採して、平成30年に紀伊半島で新たに発見された野生種のサクラであるクマノザクラを中心とした四季の彩り豊かな森林の造成を進める。今年度は、地域住民と一緒に、10種の多様な樹種3,084本を植栽。

事業成果

昨年度からクマノザクラ1,610本を植栽し、森林の多様性を向上させ、四季の彩り豊かな森林を造成するため、1,474本の多様な樹種を植栽することができた。地域でも人工林一色の温泉周辺景観に対して、少しずつでも改善していくことの必要性が理解され始めており、次年度以降への取り組み継続にはずみがついてきている。

事業をよく知る関係者の声

・父は龍神温泉に桜を植えてきた。今回、温泉周辺に四季の彩り豊かな新しい森づくり始めることができて、亡き父も喜んでくれていると思う。これにより、少しでも龍神地域に来てくれる観光客や移住者が増えてくれるとうれしい。（実施団体会長）
・な植栽地に集団植栽されたクマノザクラが今後どのような成長経過を示していくのかを明らかにすることは極めて重要。（クマノザクラ新種記載論文執筆の林学者）

参加者の声

・昔から身近に見てきたサクラが新種だとわかり感激。（地域住民）
・私が植えた木が大きくなってきれいな森ができたら良い。（地元小学生）
・きれいな景観で花粉のない森が少しでも増えることはうれしい。（花粉症患者）

地元住民の方々も参加

植樹場所（遠景）

植樹

クマノザクラ成長調査

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.0ha
植付本数：3,084本
クマノザクラ成長調査：１回

参加者数
県内：46人
県外：　5人
計　：51人

樹種
クマノザクラ、アカシデ、イイギリ、トチノキ、コウヤマキ

05R-17 大塚寿会

おおつか里山桜並木回廊事業

島根県安来市

事業概要

約60年前に溜池完工を期して植樹されたサクラが、現在は枯渇雑木林と化している。本事業で桜並木を復元することを目的とする。植樹したサクラの苗木の健全な生育環境管理、溜池右岸部の里山区域を地域住民の新たなコミュニケーションの拠点となる環境整備を行う。

２年目となる本事業を事業創成期の仕上げの年度と位置づけ、事業目的を達成するため、①サクラの苗木の年間を通じた病虫害防止作業、②肥培管理・下刈り作業、③地域住民が四季を通じて豊かな心を育むのにふさわしい里山環境整備（ツツジ、モミジなどの低灌木の植栽）に着手する。

事業成果

今年度新たに植樹する区域の下刈り及び雑木伐採作業が、猛暑の影響を受けて、大幅な遅れとなったが、会員、森林組合有志の協力により、予定したサクラ、ツツジ、モミジ、クヌギ、クスノキなどの苗木を無事に植樹することができた。

事業をよく知る関係者の声

・少人数の高齢者中心の事業活動は限界で、植樹区域の今後の管理作業について、次世代へバトンタッチするPR活動などをしてほしい。
・事業目的となっている往年の桜並木が復活し、四季折々に渡り映える今後の里山景観が楽しみである。

参加者の声

・本事業実施区域の里山は日常生活で往来する道からは見えないところなので、生活道から見える里山地帯まで本桜並木回廊を延長してほしい。
・子どもの頃、溜池周辺で遊んだ風景、満開のサクラの元で家族・親戚で楽しんだ宴会が思い出される。往年の里山景観が復元されることを期待している。
・数年後に、溜池改修工事が完工すれば、溜池周辺部一帯が新たな里山景観となる。今後も、おおつか里山自然広場として整備しなければならない。

ユンボによる整地作業

ツツジの植樹

モミジの植樹

サクラの植樹

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.4ha
植付本数：230本
下刈面積：2.4ha

参加者数
県内：46人
計　：46人

樹種
ツツジ、モミジ、クヌギ、クスノキ、サクラ

05R-18 川西地区地域づくり推進協議会

荒廃竹林を伐採整備し緑豊かな森の再生事業

香川県丸亀市

事業概要

ごみの投棄場所となっていた荒廃した竹林を整備し、憩いの場や青少年の環境学習の場にすることを目的とする。本事業の最終年度と位置づけ、森林公園として不可欠な水道設備と周囲の環境整備、擬木とチェーンを使用した保護柵、竹林内の遊歩道（約70m）を完成させ、一段とイメージアップにつなげる。

事業成果

メディアによって大きく報道され、完成した遊歩道をひと目見ようと、県内各地から訪れ、竹林内のさわやかな風の流れと太陽の木漏れ日を体感していただいた。今後の話題提供に大きくつながるものと思っている。

事業をよく知る関係者の声

・荒れ果てた竹林、雑木林をこのように美しくよみがえらせたボランティアの皆さんに頭が下がる。５年間、事故もなくこれだけの仕事をされた皆さんは丸亀の宝である。今後とも維持管理も含め、お力添え賜わりますようお願いしたい。（地権者）
・過酷と言える作業だが、皆さんが一丸となって取り組む姿には本当に感心している。このようなすばらしい事業の記念碑を作成でき、職人冥利に尽きる。（石材店）

参加者の声

・作業中、散歩している方から「感謝の言葉」をいただくことが多くなった。（プロジェクトメンバー　70代女性）
・夏場の下刈りなどの作業が大変。（参加２年目　60代男性）

竹林の遊歩道整備

下刈り作業

小学生植樹体験の指導

擬木とチェーンを使用した保護柵

実績とりまとめ

作業内容
給水除草、水道工事、保護柵設置、遊歩道整備、環境整備

参加者数
県内：133人
計　：133人

05R-20 阿蘇地域資源利活用事業推進協議会

木に親しみ健康を学ぶ阿蘇の森林整備事業

熊本県阿蘇市

事業概要

森を愛し大切に思う人たちの拡大を目指すためには、森と人との関わりを楽しく学ぶ植樹会や環境教育を行う知識と体験ができる場を設けることが必要である。本事業では、①樹木と触れ合う遊びと学びの学習会、②草木の薬効や食など、専門家を招いた講演会及び調理教室、③植樹及び自生植物の解説名板設置、④キャンプ来場者、熊大薬学部学習会参加者、YMCA阿蘇キャンプ関係者を対象に植樹や学習会を実施。

事業成果

キャンプ場において、健康をテーマにした森林との関わりについて、楽しみながら学習を行う啓発事業を実施した。新しい取り組みで、非常に意義があった。植樹した「クロモジ」の漢方薬としての効能について、専門家からのレクチャーもあり、長寿社会に向けた、「健康な生活維持」の観点からも、良い学びができた。

事業をよく知る関係者の声

・薬用植物について、大学教授による講座と、薬用植物のハーブティー加工と試飲体験、それに、フィールドでクロモジの植樹と野草の名前・効能などの現場活動を行ったことで、多くの子どもや大人たちの自然に対する関心が増え、環境を大切にする心と健康維持の重要性を認識するとても良い機会であったと考えている。今後も、このような事業を進めて行くことが、自然環境の維持に必要だと思った。(こどもデザイン研究所　代表)

参加者の声

・キャンプ場からの案内を受けて、子どもと参加。ネイチャーゲームや薬草講座ハーブティー加工体験など、子どもも楽しんで体験・学びができた。(30代主婦)
・屋外での野草の名前や効能を聞きながら、何も知らないで通っていた道端にも、こんなに多くの薬草があったことに驚いた。良い企画だと思う。(40代夫婦)

クロモジを植樹

薬草の調理教室

樹木と触れ合う遊びと学びの学習会

樹木名板を設置。子ども向け優しい内容と２次元コードからは詳しい内容が見られる

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1ha
植付本数：300本

参加者数
県内：25人
計　：25人

樹種
クロモジ

05R-21 （特非）森と木の研究所

番所鼻海岸防災林保全活動

鹿児島県南九州市

事業概要

南九州市番所鼻海岸防災林の防災機能と保健休養機能の機能増進を図るため、以下の活動を行った。①下刈り作業と枯死木の処理、②近隣の大川キッズクラブの子どもたちとマテバシイなど180本を植樹、③植樹木を強風から守るためスギ板の防風垣、根返りした木を保全するため土留め工を設置。また、子どもたちの遊具として三角ハウスを製作。

事業成果

継続した下刈り作業などにより、これまでに植樹した樹木の健全な育成が図られるとともに、枯死木の処理や遊具の設置により、保健休養機能の増進が図られた。

事業をよく知る関係者の声

・緑の募金事業の導入により、観光地でもある番所公園の価値が大きく増進したと感じている。これをきっかけにして更なる保全活動を進めていきたい。（頴娃おこそ会事務局長）

参加者の声

・これまで番所鼻海岸防災林に中で子どもたちの活動は考えていなかったが、これからは大いに利用していきたい。（大川キッズクラブ指導者）

地元の大川キッズクラブ、頴娃おこそ会のメンバーと植樹活動

会員の樹木医による枯死木調査

チェーンソーによる枯死木伐採

完成した三角ハウス

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：180本
下刈面積：0.8ha
スギ板防風垣：12m
枯死木処理：25本
土留め工：１基
木製遊具：１棟

参加者数
県内：48人
計　：48人

樹種
ハマヒサカキ、ウバメガシ、モチノキほか８種

05R-22　(特非) 四季の会

森林のチカラ・森林の恩恵にふれあおう！～森のもつ８つのチカラ～

鹿児島県姶良市

事業概要

森林のチカラ・森林の恩恵にふれあおうと、①林間学校では、竹灯籠の作成やキャンプファイヤーで火の大切さや怖さを学ぶ、②森と海のつながりの学習として、垂水千本イチョウの見学、猿ヶ城渓谷で自然を学び、垂水海潟漁港では、森林が豊かな漁港を育てることや桜島国際防災センターでは、火山の成り立ちや防災について学ぶ、③センリョウ300本の植樹、④キノコ栽培教室、⑤タケノコ掘り体験と木工クラフト、森林ピックを実施。

事業成果

今年度は、「森林のチカラ・森林の恩恵にふれあう!」を事業名として、森林の８つのチカラについても学んでもらえた。林間学校では、新たに竹灯籠を作成し、子どもたちも感動していた。

事業をよく知る関係者の声

・手作りの昼食などを提供できたらよいと思う。(スタッフ)
・桜島国際火山防災センターでの研修は良かった。県内の林業に関係する施設の利用も考えても良いと思う。(スタッフ)
・スタッフへの事前研修も必要と考えられる。(スタッフ)

参加者の声

・タケノコ、山菜など山の恵みを肌で感じ共感した。(70代女性)
・森林の生育は長年かかるので継続してみんなで植樹などしたい。(70代男性)
・毎回、木工体験など楽しみである。(60代女性)

林間学校でのキャンプファイヤー

センリョウ300本の植樹

キノコ栽培教室。原木へヒラタケ種菌を塗り込み

特用林産体験でタケノコ収穫

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：300本
キクラゲコマ打ち：400コマ
ヒラタケオガ菌：1ℓ

参加者数
計　：247人

樹種
センリョウ

05R-23　西表植林クラブ

西表島クリーン作戦を通した緑化促進事業

沖縄県竹富町

事業概要

本事業の活動対象地であるユツン河口のマングローブ群生林は、漂着ごみの影響で幼木の成長が懸念されてきたことから、海洋漂流ごみ清掃活動と植栽の組み合わせによる緑化促進活動を実施する。ほか、今回は近隣のマーレ―海岸で清掃や環境学習を行う。①行政、関連協会や財団との協議活動、②住民との情報交換や共有（地域ネットワーキング）、③緑化促進活動「クリーン作戦と環境学習の会」、④活動運営ための運営指導（運営リーダ育成・啓発・ノウハウ移転）。

事業成果

３回目の植栽活動。台風の後で、どこに海底の砂が積もるのかがわかり、胎生種子が育つスポットを特定しやすかった。今後の植栽活動に活かせる。「活動運用マニュアル」のおかげで、島民たちで活動がしやすくなった。

事業をよく知る関係者の声

・各参加者が様々な条件下で作業できるよう、何か学びの場や研修などがあるとよい。（ボーイスカウト関係者）
・プロジェクト活動があったことで、海岸清掃と緑化促進をするきっかけとなった。また、移住や仕事で住んでいる住民と集落の住民と協働する機会が得られた。（島外出身者、移住者、ガイドやゲストハウス経営者）

参加者の声

・ユツン河口近隣の海岸でも活動ができ、漂着ごみの事情とマングローブ幼木への影響を知ることができた。（30、40代　保護者）
・子ども会と連携した活動となり、良かった。緑化活動や保全への関心が高まった。今後、島民同士で、どのように活動をしていく方法があるか検討していきたい。（40～50代　ユツン河口近隣住民）

漂着ごみ拾い

マングローブの胎生種子

植栽活動

ユツン河口で環境学習

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：30㎡
植付本数：250本
樹勢回復：50本
森林資源活用：250本
作業道修理：530m
海岸清掃：１回
環境学習：１回
運営指導：１回

参加者数
県内：45人
計　：45人

樹種
マングローブの胎生種子

国際協力

05KC-01　(公財) オイスカ

インドネシアマドゥラ島　水と生物多様性の保全に向けた緑化と環境教育の推進(第４期１年目)

インドネシア・東ジャワ州マドゥラ島スメネプ県、パメカサン県

事業概要

乾季には深刻な水不足、雨季には洪水等の被害が多発しているマドゥラ島で、水保全に向けた植林活動と持続的な環境保全活動を促進するため、環境教育・啓発活動を実施。主な活動は以下のとおり。21の学校及び周辺地域で苗木作り・植林活動・環境教育活動・水保全に関する学習の実施、沿岸部での植林活動、各校の代表児童生徒・教員を対象にしたエコセミナーの実施、雨水貯水設備設置。

事業成果

パメカサン県ではパデレガン村の村長の承認と地元海岸管理指導者の支援を得て、環境局の助言にも基づき、海岸林育成を目指した植林を開始、スメネプ県ではムルデカ公園で海岸樹種の植栽を開始した。２つの中学校に雨水貯蔵施設（各校に１基ずつ）と手洗い場（各４か所）を設置した。また、複数校の生徒や教員が学びあうエコセミナーを開催し、24校の生徒や教師、環境局や教育局の代表が参加した。

このほか、堆肥作り、リサイクル、清掃活動など、年間を通じて実践的な環境教育活動を実施した。

事業をよく知る関係者の声

・このプロジェクトは非常に有益で、複数回の講義やセミナーを通じて、幅広い知識が得られるとともに、他校の教員とも情報交換ができ、かけがえのない機会となっている。何より、乾燥していて不毛な土地だった私たちの学校が、緑豊かで涼しい木陰に包まれた環境へと生まれ変わったことに心より感謝している。(小学校教員)

参加者の声

・活動は楽しく、幸福感をもたらしてくれる。痩せていた学校の土地も、今では緑が増えて、涼しく、快適な環境になっている。今後も自然保護に貢献し、より積極的に参加できるような活動を続けてほしい。(中学８年生)
・活動は楽しく、独自性と創造性に溢れている。様々な活動があるため、常に興味深く、魅力的だ。(高校10年生)

沿岸部でのトクサバモクマオウの植樹

中学校での雨水貯蔵設備の設置作業

複数校から児童生徒の代表、教員を招いたワークショップを実施

高校で育った学校の小さな森

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：3.45ha
植付本数：2,706本

参加者数
県内：1,576人
他　：　11人
計　：1,587人

樹種
トクサバモクマオウ、マダガスカルアーモンド、モモタマナ、アカシア、マングローブなど

05KC-02　（公財）オイスカ

島嶼国フィジーにおける防災に向けた緑化と環境教育（第２期３年目）

フィジー・ビチレブ島ナンドロガ・ナボサ県、ナイタシリ県、ラ県

事業概要

気候変動や自然環境の劣化などにより、自然災害による被害が深刻化するフィジー・ビチレブ島において、レジリエンスの高い地域づくりを目指し、地域の環境保全と環境意識の促進を図るため、植林活動及び実践的な環境教育を実施する。主な活動は以下のとおり。学校及び周辺地域における植林・環境教育活動、育苗活動、マングローブ植林、パイロット的海岸林植栽。

事業成果

各校や地域との密なコミュニケーションにより、７つの学校・地域で植林活動を展開した。学校では、事前説明会を校内で開き、植林自体は住民と共に地域で実施。新たな緑化の拠点として、国立公園にも新たに苗床を設置し、レンジャーに苗木作りのノウハウや緑化の意義を伝えている。海岸樹種のパイロット植栽では、海岸林の役割を子どもたちや住民に分かりやすく伝えるために啓発動画を作成。植林活動やセミナーで活用し、参加者の活動への理解を深める一助になっている。

事業をよく知る関係者の声

・住民と共に環境保全に取り組んでいることがすばらしい。できるかぎりのサポートを続けたい。（森林局担当官）
・オイスカと取り組むことで、レンジャーたちも知識や経験を深めながら、緑化に携わることができ、感謝している。（公園管理責任者）

参加者の声

・学校に植林した苗木の一部は、迷い込んだ動物に食べられて枯れたが、もう一度植えたい。将来、学校の周りがもっと森に囲まれて過ごしやすい環境になるように、これからももっと木を育てていきたい。（生徒）
・子どもたちが植え、育てている木々は順調に育ち、心地よい環境をもたらしてくれる。たくさんの恵みをいただき、活動に参加できていることに感謝している。（校長）

コミュニティ植林

マングローブの植栽

国立公園に設置した苗床

森林・水産省の大臣も参加して国際森林デーを記念した植樹を実施

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：3.55ha
植付本数：4,744本

参加者数
県内：473人
他　：　60人
計　：533人

樹種
モモタマナ、マホガニー、フィジーマツ、シトラスなど

05KC-03　(特非) サヘルの森

地域住民によるアフリカの里山の再生と保護事業

マリ

事業概要

人々の生活に密接に関わるアフリカの「里山」に対して、住民自らの手で苗木を植え育て、将来的に育てた木を利用していくことで「里山」を再生・保護し、さらに住民の生活を安定させる。主な活動は以下のとおり。①住民による里山の再生（苗木配布による住民の小さな林作り、植林ワークショップ）、②里山再生モデルの実践（実践者の知識・経験を共有し、実践活動を広げる）、③試験地での植生回復技術及び栽培技術の開発。

事業成果

26か所の村・学校に合わせて苗木1万200本を配布して、住民の小さな林作りと学校林の育成を進めた。里山再生の実践では、5か村5名の新実践者を選抜し、苗畑を設置した。地域の里山再生を担う牽引者として、先輩実践者たちと共に育てていく。希望する住民を対象に苗木作りや乾期植栽の勉強会を開催し、多くの女性たちが参加した。試験地で直播した有用在来種は順調に育成している。

事業をよく知る関係者の声

・サヘルの森の支援をきっかけに、村の仲間たちと苗木生産組合を設立させた。これからはファナ地域でも植林はますます大切になるので、苗木生産で地域に貢献していきたい。（苗木生産者組合代表）

参加者の声

・亡き義父の農園（実践者として会が支援）を継ぐために勉強会に参加した。育苗や植栽の仕方を学び、手入れができていない義父の農園を継続していきたい。（勉強会参加者）

・良い苗木を生産できる方法を理解することができ、この勉強会は非常に興味深いものだった。サヘルの森の厚意に大変感謝している。（勉強会参加者）

実践者も手伝い、村人に苗木を配布

自身の里山に新実践者がユーカリを植栽

先輩実践者が育成する在来有用樹・カイセドラの林を訪問

経験を積んだ新実践者を講師として希望する住民が苗木作りを学ぶ

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：1万1,170本

参加者数
マリ：3,256人
計　：3,256人

樹種
ユーカリ、バオバブ、カシューナットノキ、シャカトウ、カイセドラ

05KC-04　（特非）環境修復保全機構

カンボジア国コンポンチャム州における持続可能な森林管理を目指した植林事業（フェーズ5）

カンボジア・コンポンチャム州バッティ地区寺院

事業概要

５年間の事業終了後には地域全体で自立的に緑化が推進されることを目指して、森林管理住民グループ、地方行政機関、小学校、寺院などと連携して、以下の活動を実施した。①地域住民と協働での在来樹種の植林（5,900本、4.2ha）、②ワークショップ（森林と生物多様性保全の重要性に関する啓発）、③森林管理住民グループの形成支援指導、④地域住民の持続可能な森林管理に関する知識・技術向上を図る研修、⑤持続可能な森林管理に必要な知識・技術、森林と生物多様性の保全の重要性を記したパンフレットの配布。

事業成果

バッティ地区の寺院において5,900本（4.2ha）の植林活動を実施するとともに、森林と生物多様性保全の重要性に関するワークショップの開催、森林管理住民グループの形成に関する支援、地域住民の持続可能な森林管理に関する知識・技術向上を図る研修などを実施することができた。しかし、植林後まもなくして洪水被害に合い、苗木の生存率は40%程度の結果となった。活着した苗木及び2024年６月に補植活動で植えた苗木については順調に成長している。森林管理住民グループを中心に、植林地は適切に管理されており、今後も定期的な管理活動が継続される。

事業をよく知る関係者の声

・植林活動をもっと行っていきたい。もっと苗木を提供してほしい。（僧侶）
・植林活動に参加して森林を保護していくべきだと思う。（僧侶）

参加者の声

・次世代のために木を守っていきたい。（住民）
・私の村でもぜひ植林活動を実施してほしい。（住民）

植林活動

補植活動

森林と生物多様性保全の重要性に関するワークショップ

森林管理住民グループ

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：4.2ha
植付本数：5,900本
補植活動：200本
ワークショップ：２回
森林管理に関する研修：２回

参加者数
カンボジア：59人
計　　：59人

樹種
メンガ、ケランジィ、オオミカリン、コキ

05KC-05　（特非）環境修復保全機構

2023年度　緑の国際ボランティア研修（カンボジア国）

カンボジア・クラチェ州

事業概要

研修員が国際緑化活動の重要性や緑の募金が果たす役割について理解を深めることを目的とする。主な活動は以下のとおり。①カンボジア国における森林保全並びに森林利用についての理解促進（講義・視察）、②国際緑化活動の必要性や緑の募金の果たす重要な役割についての理解促進（講義･視察）、③NGO（環境修復保全機構）が取り組む植林活動の視察、④地域住民と協働での植林体験、⑤地域住民との意見交換と交流活動、⑥成果発表に向けた森林資源調査、⑦研修成果の発表会。

事業成果

コンポンチャム州及びクラチェ州の植林活動地を訪問し、現地住民との交流、協働での植林体験活動、森林資源調査等を通して、現地の人々の緑化活動への関心の向上、相互理解の深化を図ることができた。

事業をよく知る関係者の声

・住民は緑の募金事業に積極的に参加しているが、緑の国際ボランティア研修により、日本人ボランティアと交流し、一緒に植林活動を行うことで、特に子どもがいる世帯等に広く植林活動への関心が広まると思う。ぜひまた研修を行ってほしい。（植林事業地住民）

参加者の声

研修員から次の声が寄せられた。「研修を通して国際緑化活動についてより深く理解できるようになり、将来の選択肢が増えた」、「緑の募金の植林地で一緒に植林した経験が、現地の子どもたちにとって今後環境について考えるきっかけになることを願っている」、「今後、発展途上国のプロジェクトに関わる際には、今回の研修で得た経験が大いに役立つと思う」、「日本にいるだけでは感じることのできない温暖化の深刻さを感じた。今後、地球温暖化対策や緑化に関わる活動にさらに積極的に参加していきたい」など。

「緑の募金」事業地における地域住民と協働での植林地管理活動（補植）

ゴムプランテーションにおける森林資源調査

トボンクムン大学にて現地大学生とグループディスカッション

小学校における聞き取り・意見交換

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：50本（補植）

参加者数
日本　　：11人
カンボジア：21人
　計　　：32人

樹種
在来樹種

05KC-06　（特非）イカオ・アコ

子供達と植えよう！マングローブの森づくり（SDGs貢献事業）

フィリピン・西ネグロス州イログ郡ボカナ村

事業概要

地球上の植物の中でも生産力（光合成によって生産する有機物の量）に優れるマングローブ林の二酸化炭素固定による気候変動対策に寄与することを目的として、マングローブの植林事業を行う。主な活動は以下のとおり。①住民による２万本のマングローブの採取とポットでの育苗後、２haに植林、②海岸清掃、③補植作業、④「子供達と植えよう！植林ツアー」に日本人の参加を促し、参加者を受け入れる。

事業成果

コロナパンデミックで、長期にわたり中断した植林事業を再開することができたことは、今後の展開にいいインパクトを与えると考えている。日本人ボランティアの協力を得て、２万本の植林を実施した。定着率は80%となっている。別途、農林水産省傘下の国際農林水産業研究センターが着目することとなり、ボカナ村が人工林の二酸化炭素吸収量の計測地の一つに加えられ、調査が進行している。

事業をよく知る関係者の声

・本事業のマングローブの生存率は80%で成功している。今後成長していけば、波浪があっても村が浸食されることがなくなる。そして漁師の生活と毎日の食料の確保に大いに役立つ。地道なプロジェクトであるが、住民が成果を継続的に虚心坦懐に受け入れると考える。しかし、次世代が環境活動へ完全に関与しないことが、将来として環境問題へつながる恐れがあると危惧される。（住民団体代表）

参加者の声

・本事業は植林に従事する住民にとって大きな助けとなった。サンクチュアリーの重要性を認識し、価値を高めることができた。そして、多くの住民を環境活動に参加させることができた。（住民団体メンバー）

・約５年ぶりに成長したマングローブを子どもたちと見れて、また一緒に植林ができてうれしかった。（植林ツアー参加者）

マングローブの苗を１m間隔で並べ植林

子どもたちの植林活動の様子

完成した作業道。苗の運搬の重労働を軽減

参加者の集合写真。マングローブ植林は子どもたちにとって生きた環境教育

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.0ha
植付本数：2万本
植林ツアー

参加者数

日本　　：　6人
フィリピン：189人
計　　：195人

樹種

マングローブ

05K-01 (特非) ASIA Environmental Alliance

インドネシア・プダワ村水源地保護事業

インドネシア・バリ州ブレレン県プダワ村

事業概要

バリ州ブレレン県プダワ村の住民の生活用水でもあり、聖地ともされている水源地の涵養機能の向上のために植林を行った。日本からは岩手大学の学生２名、東京都市大学の学生１名、NPO職員２名、現地からはガネーシャ教育大学教師、学生、NPO法人が参加した。現地では伐採などで、枯れてしまった水源地が多数ある。今回は水源地３か所に苗木を植え、うち１か所にはサインを設置した。

事業成果

受け入れ側のガネーシャ教育大学、NPO法人カイヨーマンの体制が整い、充分な人手と植樹エリアの土地所有者との交渉を円滑に進めることができた。また、カイヨーマンによる詳細な村内の水源地の調査が行われ、実際の水源地の状態を把握できた。今年度は、カイヨーマンの若者メンバーが増え、機動力が増し、昨年度よりもより広い場所に５倍の500本の苗木を植樹した。

事業をよく知る関係者の声

・ガネーシャ教育大学の学生は日本の方々の前で日本語でバリ文化を紹介する。彼らの日本語の勉強意欲を高める意味のある機会となっている。植樹活動は環境に対する学生の意識向上のために大事なものだ。今回のコラボレーションは水源地守るために意味がある。プダワ村には伐採により被害を受けた水源がたくさんあり、これらを復元するには多くの関係者の協力が必要だ。（大学教師）

参加者の声

・岩手大学の学生や他の人々と連帯感を持ち、木を一緒に植える貴重な経験を共有することができた。また、日本の学生との友情を深めることができた。将来、また森の復活復帰などの活動があると良いと思う。（大学生）
・この活動を通じて多くの経験を積むことができた。村の水源に大切である樹木の保全について学ぶことができた。また、日本人とたくさん話すことができた。（大学生）

植樹活動開会式

植樹された苗木

プダワ村での植樹活動

ガネーシャ教育大学環境セミナー

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：6.0ha
植付本数：500本

参加者数
インドネシア：49人
日本　　：　7人
計　　：56人

樹種
ガジュマル、エラ、ギンツンガン、マジャガウ、タケほか

05K-02　(特非) エクアドルの子どものための友人の会

アンデスの学校菜園を守る植林と緑の交流

エクアドル・カヤンベ市

事業概要

エクアドル・カヤンベ市の山間部の小学校は、標高が3,000m以上の高地に位置している。貧困で子どもの栄養不良率が30%を超す地域も多い。このため、学校菜園に取り組み、子どもたちに食事を出す活動を行っているが、植林によってこの学校菜園を強風と寒さから守り収穫を安定させ、栄養改善のための給食の安定化を図る。

また、日エ両国の子どもたちが絵画交流を通して自然への認識を深め、自分の住む地域への理解を通した自然保護の態度を育てる。

事業成果

今年は政府の事情で事業が遅れたにも関わらず、昨年同様に２校の生徒、保護者、教師合計約600名が植林とその後の育成作業に参加し、合計3,000本の植林を行った。

絵の交流も、世界で一番大きな絵に挑戦し、地域の自然を題材にしたすばらしい絵を両国で描き上げた。

事業をよく知る関係者の声

・植林に取り組む他の組織はなく、この事業は大変貴重である。
・学校の授業としても取り組まれ、子どもたちの植林や自然への認識が育った。

参加者の声

・両校の学校長より「植林は学校を守る働きをするだろう」という感謝の手紙が届いている。

植樹の準備の様子

植樹会

植樹された苗木

自然を題材にした絵を描き上げた

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.61ha
植付本数：3,000本

参加者数
エクアドル：350人
日本　　：100人
計　　：450人

里山保全のためのフォーレスト・ファーム

フィリピン・ラグナ州パエテ町

事業概要

丘陵山地に点在する農村集落を取り囲む里山林の面積減少を食い止めるため、草地化した緩傾斜地の森林再生とその維持で「森との共存」を図ることを目的に次の活動を行う。①地域の潜在在来樹種の植林で在来天然林を再生、②３～５年後に成長した樹木の一部と残枝や椰子殻を利用したバイオチャー（炭）の生成、③これらを近隣農家での自家消費と合わせて販売し、収益での事業継続を実現する。

事業成果

農村住民と、本活動に助言、協力してくれたフィリピン大学森林資源学部講師、ボランティア学生の積極的な協力で、計画どおり苗木の植栽、施肥、水やり、定期的草刈りを行えた。また、灌木やヤシ殻、残存枯れ枝を利用したバイオチャーの生成を、専門家を招きセミナーで実演、トレーニングを実施できた。隣接するラグナ県からも問合わせ・見学があり、成果の普及が期待できる。

事業をよく知る関係者の声

・ラグナ県内でも同様の事業を他地域で広めて行くことが地域全体の森林の保全、農村住民との共存に希望をもたらすきっかけになるものと思う。次年度以降も、県内の他自治体とも情報を共有して、本活動の成果のモニタリングや普及を後押ししていきたいと思う。（パエテ町住民自治組織長）

参加者の声

・丘陵地山村地域周辺の自然環境は、思ったより荒れており里山の森が少なくなっているのを実感した。自分たちが少しでも植林にかかわった森が増えていけば誇りに思う。（日本人、60代女性）
・現地では森林が農地などに代わり少なくなっていることが、私たちフィリピンに住んでいるものでもあまり知らなかった。農村の環境を知るよい機会を得ることができた。（ケソン市在住女性）

植林地の地拵え、苗木搬入

苗木植栽を農民参加で

現地技術セミナー講師陣

現地セミナー（バイオチャー作成技法体験）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.0ha
植付本数：1,430本
バイオチャー製造体験セミナー及び育林管理技術の講義：１回

参加者数
ラグナ県内：63人
県外　　：　8人
（日本人含む）
計　　：71人

樹種
Laneta、Raintree、Nara、Katmonほか

05K-04　(特非) ホープフル・タッチ

スーダン小学校の自立的な環境保護促進

スーダン・ハルツーム州

事業概要

砂漠化が進むスーダン・ハルツーム州遠隔農村地の小学校25校が、各地域で環境保護活動を自立的・持続的に実施することを目的に、次の活動を行う。【環境保護トレーニング】教師と小学生に①環境保護、植樹方法、苗木手入れのトレーニングを実施、②ミーティングによりコミュニティの環境保護アクションプランを作成。【植樹活動】①小学校や周辺エリアの清掃、②苗木の管理体制を組織化、③各校で果樹を植樹、④各校の自立的な苗木管理を確認。

事業成果

環境保護に関する知識や実践を、小学校に導入する機会を提供できた。植樹活動を通じ、その必要性だけでなく自分たちで実現可能な解決策についても理解が進んだ。対象とした教師や生徒だけでなく、コミュニティの住民・保護者も活動に参加し、各対象校・コミュニティで自立的・継続的に苗木が管理されていく体制を形成できた。

事業をよく知る関係者の声

・スーダンは農業大国であるはずだが、私たちの住む場所が砂漠化している大きな問題に誰も取り組もうとしない。自分たちに何ができるのか、子どもたちも考えて取り組むスタートになった。(小学校校長)
・スーダンの人々は常に政治的混乱に巻き込まれ、多くを失っている。内戦中に人々が環境資源を守る活動を実現したのは人々の励みになった。人々がこの活動を維持する経過を見守る必要がある。(現地農業専門家)

参加者の声

・友だちと一緒に木を植えるのが楽しかった。(小学生)
・木を植える時に、思ったより深く掘らなければいけなかったのが大変だった。(小学生)
・これだけ多くの木を植えるには､用具が足りなかった｡(小学校教師女性)
・植樹できたことはよかったが、大きな変化が起きるには長い時間がかかると思った。(小学校教師男性)

植樹のための校内と周辺の清掃活動

植樹準備

植樹した木の手入れに関するトレーニング

環境保護について子どもたちと考えるミーティング

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：2.15ha
植付本数：1,125本
環境保護に関するトレーニング：５地区25校×３回
苗木管理組織化ミーティング：５地区25校×３回

参加者数
スーダン：2,512人
計　：2,512人

樹種
マンゴー、オレンジ、ライム

05K-05　（公財）オイスカ

モンゴル南部のゴビ砂漠緑化と環境保全事業（２年目）

モンゴル・ウムヌゴビ県

事業概要

モンゴル南部のゴビ砂漠地域において、砂漠化防止のために、対象地域並びに学校で砂漠緑化のための植林活動や環境セミナーを行う。さらに、次世代を対象に学校敷地内での植林活動や環境教育活動を実施する。主な活動は以下のとおり。住民参加での砂漠緑化のための植林活動、４つの学校敷地内の植林活動・環境教育活動、環境セミナーの実施。

事業成果

前年度の取り組みを通じて、市内の学校からは緑化技術だけではなく、緑化後の管理方法についても追加で要望があり、今年度はそれらの内容もセミナーに盛り込んだ。苗木の成長率も通常の緑化に比べると良い成果が出ている。

事業をよく知る関係者の声

・市内の住民はオイスカの活動をよく知っており、２年目の住民と共に取り組む砂漠緑化の活動はとても意義のある取り組みである。（ウムヌゴビ県ダルンザドガド市長）
・日本由来のNGOであるオイスカには、日本で学んだスタッフもいるので、日本の技術とモンゴルの技術を上手に組み合わせることで、植林した苗木の成長率も高いと見られる。（ダルンザドガド市環境部職員）

参加者の声

・今回の活動を通じて、現在の環境問題は、自分たちの住んでいる地域だけではなく、世界中の国々の問題だと知ることができたことが、とても有意義だった。（生徒）
・植林や環境セミナーに参加して、改めて自然環境の重要性を認識した。将来は、自分も植林の専門家として植林活動に取り組みたいと思った。（生徒）

植栽する苗木（砂漠緑化のための植林活動）

植栽の準備

次世代を対象にした学校敷地内での植林活動

苗木の植え方や管理の方法を指導

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.15ha
植付本数：3,000本

参加者数
モンゴル：1,016人
計　：1,016人

樹種
ニレ、ポプラ、タマリクス、小リンゴ、モンゴルアンズほか

05K-06 高尾グリーン倶楽部

ラオス国における「村民の森」保全促進事業

ラオス・ビエンチャン県シビライ村

事業概要

森林劣化が懸念されるラオス国において、森林機能の向上と山村の所得機会の創出を目指し、集落の森や学校林など「村民の森」における植林などの取り組みを支援し、住民による地域森林の持続的な保全・利用の促進を図ることを目的としており、協働で植樹行事などを行った。

事業成果

ビエンチャン県シビライ村の村有林において村民と協働で植樹行事を行うとともに、森林産物を活用するためのセミナーや木工ワークショップ、森林見学会などの活動を行った。植樹祭には、ヒンヘップ郡長やシビライ村村長、森林局副局長をはじめ多くの関係者、村民が参加し、植樹啓発活動としてテレビで全国放映された。植樹祭に参加したラオス大学林学部の学生たちとの植林により造成された森林の観察会を行い、技術交流を行った。

事業をよく知る関係者の声

・日本のボランティアによる森づくり支援は、地域住民に育林意欲を喚起するために貴重である。(森林局副局長)
・森づくりや森林産物の利用に関して議論できて参考になった。(ラオス大学教授)
・村民や子どもたちに森林の大切さを知ってもらうよい機会になった。(ヒンヘップ郡長)

参加者の声

・いろいろな郷土の樹種を植えたので、将来どんな森になるのか楽しみ。(地元中学生)
・植えた苗木は自分たちが責任をもって育てる。(地元住民)

森林産物を活用するためのセミナー（うちわ作り）

シビライ村の村有林で村民とともに植樹行事を実施

植樹

造成熱帯林見学（ビルマカリン27年生）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：2.00ha
植付本数：2,222本
地拵面積：2.00ha
歩道作設：3.0㎞
森林講座：１回
森林セミナー：４回

参加者数
日本　：　91人
ラオス：166人
　計　：257人

樹種
ビルマカリン、シタン、チーク、ノタフォーベ、メンガほか

05K-07　（一社）地球緑化クラブ

正藍旗における地域密着型生態林再生事業

中国内モンゴル自治区シリンゴル盟正藍旗ホンシャンダーク沙地

事業概要

当地モンゴル族が中心となり設立されたボランティア組織「正藍旗博日嘎思公益緑化協会」協力のもと、地域に根付いた生態林を再生し、砂漠化防止と緑化、事業自立化を目指す。以下４項目を中心に取り組む。①急速に進行する砂漠化を低木類の植栽で防止、②在来種を中心に植栽することで、植生を回復させ生態林を再生、③植栽した苗木から挿し木や種子を得ることで緑化資材の自給化を図り、自立化した事業へと移行、④地域住民及び現地団体と共同で事業を進め、緑化活動に対する技術及び意識の向上を図る。

事業成果

初めての参加者も多かった。初めての作業で戸惑う者もいたが、経験者が率先して指導してくれたおかげで作業は円滑に進んだ。また、苗木の保管方法などに対して提案をする参加者や保管（仮植）場所を提供する近隣住民も現れるなど、より良い成果が得られるための積極性も生まれた。

事業をよく知る関係者の声

・昨年度の干ばつは想定以上で、多くの苗木が枯死する覚悟をしていた。しかしながら、参加者の丁寧な作業と日頃からの協力により、当地における活着率の平均値に近づけることができ安心した。当地での事業も３年目を終え、いよいよ私たち自らの手で事業を進める段階に入ってきた。まだまだ経験不足ではあるが、地球緑化クラブ現地スタッフらと引き続き協力し合い、継続的な事業を目指したいと考えている。（協会担当者）

参加者の声

・20年前までこの地は緑豊かな草原だった。それがあっという間に砂漠となってしまい､悲しい思いをしていた。しかし、３年間この事業に参加し、緑が増えていく姿を目の当たりにし、きっと近い将来あの美しい風景がよみがえると思えるようになった。（近隣住民植林作業参加者50代女性）

現地に搬入された黄柳の挿し穂

低木類苗木の植え付け作業

金網防護柵設置作業の様子

前々年度事業地の生育状況

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：5ha
植付本数：4万2,000株
植林地外周に金網防護柵を設置：800m

参加者数

中国　　：264人
現地スタッフ：　56人
計　　：320人

樹種

黄柳、旱柳、在来低木種

05K-08　(特非) 地球と未来の環境基金

アマゾン河口での河岸侵食防止植樹活動

ブラジル連邦共和国・パラ州ベレン市コチジューバ島

事業概要

観光開発、農地開発のために森林伐採が進み、河岸部で土壌流出が起きているアマゾン河口の島「コチジューバ島」で、土壌流出を食い止めることを目的とする。主な活動は以下のとおり。①地域住民参加による堆肥と苗木作り、②河岸部での混植密植方式での植樹、③マングローブ植樹、④島住民の環境保全意識を向上させるための環境教育。

事業成果

現地提携NGOが住民と話し合いの場を持ち、信頼関係を築いている。土壌流出に対する森林喪失の影響について、住民への環境教育の機会を設けた。島の学校や消防、警察など公的機関からの協力を得るための活動も成果が上がってきた。また、集落の人たちに堆肥と苗作りに参加してもらい、将来住民が苗木を自前で調達する知識やノウハウを覚えてもらっている。沿岸部に植えたマングローブ、河岸部の混植密植の植樹地は順調に生育している。

事業をよく知る関係者の声

・沿岸部は島外に住む人たちが別荘として土地を占有し、彼らは景観のために植生を切り払う。植樹で森に戻すことには全く関心を持たず、敵意を持って植樹した苗木が抜き取られたこともある。川岸から少し離れた住民の土地も植生劣化が進んでおり、作物や果樹を植え、裏庭から収穫物が得ながら、植生の改善を図り、土壌の保水力を高めることが島の土壌保全に役立つ。このことを根気強く啓発し、裏庭での生産を上げていこうという呼びかけに良い反応を得ている。(現地提携NGO代表)

参加者の声

・植樹が、島の環境問題を身近に考えるきっかけとなった。初めてのマングローブ植樹は島の沿岸部の保全に役立ちそうなので、続けて行きたい。集落の仲間が集まり、植樹に加え自分たちの土地で農作物の生産を上げ、生活向上に役立つことも行いたい。(住民リーダー)

河岸部で土壌流出が起きている島で植樹活動を実施

植樹活動に集まった島民

植樹活動

地域住民への環境教育

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.078ha
植付本数：1,830本
下刈面積：0.078ha

参加者数

県内：168人
県外：　45人
計　：213人

樹種

Bacaba、Açai、Acapurana、Bacuri,、Pau-ferroほか

キリマンジャロ山麓緑化及び社会林形成事業

タンザニア・キリマンジャロ州モシ県

事業概要

過去100年で約３割の森を失ったタンザニアの世界遺産キリマンジャロ山で、山麓住民、地元NGOなどと協力して、裸地尾根への森林再生、村内裸地での社会生活林形成に取り組む。主な活動は、①山麓の小学校に学校苗畑の立ち上げ、②NGOによる学校苗畑の定期巡回指導、③住民参加で劣化土壌に強い樹種による荒廃裸地森林再生植林及び蜜源樹苗木配布による村内での社会生活林形成、④住民の長期的な森林保全活動を側面支援するため、森へのオーナーシップ意識形成を目的としたステッカー作成、配布。

事業成果

村の垣根を取り払った地域連携による植林実践を継続するとともに、40村を集め、彼らの守る森への名付け、シンボルマーク作成に取り組んだ。山麓住民が自分たちの森への誇りと愛着を持ち、大切なものを守りたいという意識の形成に大きく寄与した。

事業をよく知る関係者の声

・村々を横につないでの取り組みは、キリマンジャロ山での森林保全を考える上で重要。まだ実施場所が限られており、さらにこの動きを広げる努力を望む。（県知事代理）
・毎月指導員による技術指導とアドバイスを得られて助かった。資材の供給を受けるだけでは、計画どおりに苗木を育てるのは難しかっただろう。（苗畑担当教師）

参加者の声

・蜜源樹の配布はとても良い。苗木がもっとあれば良かった。多くの村人が村内緑化に取り組むことで、良い環境と地域全体で養蜂ができる環境が自然と整う。今後が楽しみ。（苗木配布対象者）
・植林は雨のため何日間もかかり本当に大変だった。ブッシュの刈り払いなどもっとできれば良かったが、最近の天候を考えると２月くらいから準備した方が良いだろう。（植林参加者）

小学校に開設した苗畑

裸地尾根での植林風景

山麓村での苗木配布の様子

配布されたステッカーを手にする村の子どもたち

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.9ha
植付本数：3,000本
苗畑指導：12回
山麓村会議：２回
苗木配布：5,000本（カリアンドラ、コルディア、グレビリア）

参加者数
タンザニア：1,651人
他　：　2人
計　：1,653人

樹種
パトゥラマツ（植付）

05K-10　（公社）日本環境教育フォーラム

ジャカルタ湾岸　マングローブ林再生プロジェクト

インドネシア・西ジャワ州ブカシ県パンタイ・バハギア村

事業概要

ジャカルタ西部湾岸地域におけるマングローブ林の回復事業。エビ養殖池においてシルボフィッシャリー形式*造林と漁業を組み合わせた手法の森林回復を目的とし、オオバヒルギの植林を実施する。植林事業により将来的に自然生態系の回復が見込まれ、天然のエビ・カニなどの漁業資源の回復が期待できることから、森林回復活動と地域住民の生計向上効果の両立を目指す。また、地域住民に環境教育を行い、社会林業の重要性を啓発する。

＊造林と漁業を組み合わせた手法

事業成果

・事業実施地における優先種であるオオバヒルギの植林。
・計８haのエビ養殖地において、２×１m間隔の植付を行い、計２万本の植林を実施。
・植付に際しては、地域住民の要望に基づき海岸浸食の被害が発生している地点に防護林として線状に植林し、浸食による養殖池の流亡を防ぐ工夫を行った。

事業をよく知る関係者の声

・現地を管轄する林業公社職員からは、本事業の成果について、①予定どおりの植林を実施、②地域住民の参加で植林が実現、③地域の森林回復活動のモデルとなりえること､などの観点から大きな評価を得ることができた。また、環境林業省の社会林業プログラムの趣旨とも合致することから、環境林業省への成果報告なども勧められている。

参加者の声

・事業参加者は地元の漁民であり、マングローブ林が回復することに伴ってエビ・カニなどの漁業資源が増加することに大きな期待を抱いている。実際に過去に植林を行った地域では天然の漁業資源が復元され、その漁獲により収入向上につながっている。今回植林した苗木が活着し森林が回復するまでに数年が必要となるが、今後も自助努力を通じて森林回復に努めたい。(植林実施地域住民)

苗を固定する添え木を手渡す

苗木が流亡しないように添え木に苗を縛る

川やエビ養殖池の畦道にマングローブを植林

シルボフィッシャリー実践地

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：8ha
植付本数：2万本

参加者数
ブカシ県内：80人
県外　　：　2人
計　　：82人

樹種
オオバヒルギ

05K-11　（特非）環境修復保全機構

カンボジア国東部の里山再生を目指した緑化推進事業（フェーズ３）

カンボジア・モンドルキリ州、クラチェ州

事業概要

本事業は３年計画の３年目となる。事業終了後には地域全体で自立的に緑化が推進されることを目指して、森林管理住民グループ、地方行政機関、小学校、寺院などと連携して、以下の活動を実施した。①里山再生を目指した植林、②里山再生の重要性に関するワークショップの開催、③持続可能な森林管理に関する知識・技術力の向上を図る研修の開催、④適切な森林管理に必要な知識・技術と森林と里山再生の重要性を記したパンフレットの配付、⑤学校内における生育管理に関するコンペティションを実施した。

事業成果

地域住民と協働し、３年目にはモンドルキリ州のコミュニティ保護エリア及びクラチェ州の小学校にて合計4.0haの植林を実施した。さらに、里山再生の重要性に関するワークショップの開催や森林管理住民グループの形成支援、地域住民の持続可能な森林管理に関する知識・技術の向上を図る研修を実施した。森林管理住民グループを中心に植林地は適切に管理されており、生存率も高く維持されている。今後も森林管理住民グループによる持続的な植林活動が継続されることが確認された。

事業をよく知る関係者の声

・今後も小学校に植林活動を実施してほしい。（小学校校長）
・地域住民にもっとトレーニングを提供してほしい。（コミュニティリーダー）

参加者の声

・活動を続けたい。（村人）
・来年も実施してほしい。（児童）

補植活動（クラチェ州）

ワークショップの様子（クラチェ州）

植林活動（モンドルキリ州）

ワークショップの様子（モンドルキリ州）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：4.0ha
植付本数：5,600本
補植面積：0.67ha
補植本数：1,000本
ワークショップ：4回
森林管理に関する研修：4回

参加者数
カンボジア：166人
計　　：166人

樹種
メンガ、ケランジィ、オオミカリン、コキ

パレスチナ・セルフィート県での植樹事業

パレスチナ・セルフィート県ヤスーフ村

事業概要

ヨルダン川西岸セルフィート県ヤスーフ村において放棄されていた公共地を整備､植樹して公園として再生した。主な活動は、①農業専門家の指導でゴミや老木を撤去し、地ならしを実施、②土砂崩れ及び動物による食害防止のための石垣のフェンスを設置、③植樹のための穴掘り、苗やコンポストを調達、④地域住民と植樹会を実施、⑤点滴灌漑、ベンチやゴミ箱、公衆トイレを設置、⑥農業専門家による苗の生育状況のモニタリング及び栽培技術指導の実施。

事業成果

ヤスーフ村では、住民が安全に憩える場所に対するニーズが高かった。昨年度の事業終了時に、村人から上がったベンチやゴミ箱を置きたいという声を参考に、今年度はより憩いの場所として利用しやすいように、計画時からベンチやテーブル、ごみ箱の設置を含めた。公園としての開放は苗の定植状況を確認しながら、10月を予定したが、５月の植樹後に仮開放した数日間の間にも、たくさんの村人が訪れている。

事業をよく知る関係者の声

・当初予定していた場所は安全上の問題もあり、村の中心部にある公共地に植樹することになったが、結果としてたくさんの村人が来やすい場所に公園を造ることができた。植樹後の６月の連休中、夕方の涼しい時間帯から夜にかけて、１日に250人近い村人が夕涼みに来た日もあった。（ヤスーフ村農家組合長、50代男性）

参加者の声

・これまでヤスーフ村では公共地を緑化する事業は初めてだった。これからも村内の他の場所にも植樹して、緑を増やしたいと思った。（植樹会参加者、60代男性）
・植樹した苗をみんなで大切に育てて、果物狩りのイベントなどができるようになれば、と期待している。（植樹会参加者、30代男性）

土壌の流出を防ぐため石垣作り

リンゴの苗を植えるヤスーフ村副村長

アボカドの苗を植える

ベンチも設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.35ha
植付本数：389本
樹勢回復：180本
荒地整備：1ha

参加者数
パレスチナ：16人
計　　：16人

樹種
オリーブ、アーモンド、クルミ、グアバ、アボカド、リンゴほか

05K-13 （一社）マニスファンクラブ

中央カリマンタン国立公園周辺地域の環境保全事業

インドネシア・コタワリンギン県クマイ町

事業概要

開発で焼失した森を再生させるため、村の公園造りを通して森の再生を行い、国立公園近隣住民の環境保全の意識向上と生計の向上を図る。主な活動は次のとおり。環境保全を目的として、村の有志によるオランウータンの棲む森の公園造りを４年前から始め、国立公園に隣接するエコパーク内のバッファーゾーンに植樹を行う。また、村の有志の協力により、村の保育園生と小中学生へ校外授業による環境教育活動を行う。

事業成果

事業全体で5,500本の苗木を植樹し、遊歩道作設を160m行った。宮脇メソッドによる植樹方法を踏襲し、在来種中心に植樹を行った。また、過去に植樹したエリアの苗木が中木程度に成長していることを確認した。村の幼稚園、小中学校の生徒に環境教育を行い、プランテーション、村落周り、国立公園を含む保全地域の３つの異なる場所の動物について取り上げ、環境による生態系の差異や食物連鎖の状況をイラストで説明した。

事業をよく知る関係者の声

・このプロジェクトは、私たちの村の未来にとって非常に重要だ。植樹を通じて、自然環境を守るだけでなく、次世代に豊かな自然を残すことができる。（村のリーダー）
・環境教育プログラムは、子どもたちにとって貴重な学びの機会となった。動物や植物について学ぶことで、彼らの自然に対する理解と関心が深まった。（教師）

参加者の声

・動物たちについて学ぶのはとても楽しかった。特にオランウータンの話が面白かった。（小学生）
・植樹活動に参加して自然の大切さを実感した。自分の手で木を植えることができてうれしかった。（中学生）
・植樹活動はチームワークの大切さを学ぶ良い機会だった。みんなで協力して達成感を味わった。（中学生）

小中学生が植樹

植樹された在来種

小中学生に環境教育を実施

過去に植樹した苗木が中木程度に成長

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.02ha
植付本数：5,500本（うち助成金で2,000本植付）

参加者数
インドネシア：107人
計　　：107人

樹種
在来種

中国内蒙古・ホルチン砂漠の砂漠化防止活動

中国内蒙古自治区通遼市

事業概要

過放牧や過開墾等の人為的な経済活動により急速に砂漠化が進行した中国・ホルチン砂漠の植生の復元及び地元住民の自立支援を目的として、次の緑化・砂漠化防止活動を行う。①荒漠地150haを封柵し、ニンティアオ・黄ヤナギなどの植栽で植生回復を図る、②井戸を掘削し、灌水機材も準備して植栽木への灌水を実施、③ニンティアオの種を播種し、植栽よりも更に効率的に植被率の向上を促進、④ポプラの草取りや家畜侵入を防ぐ封柵の保守管理などを行い、活着率を向上させる。

事業成果

主要樹種であるニンティアオ造林方法を、植栽よりも費用対効果の高い播種に重点を移した。植栽量を前年比半数以下の10万本に減らす一方、播種量を前年比２倍の2,000kgに増やし、播種手段を人力から牽引式播種機による動力化と効率化を試みた。秋以降の発芽率調査や翌春の生存率調査など、引き続き効果の確認が必要であるが、将来的な効率化の見通しが得られた。住民の事業に対する期待感や信頼感は、作業参加時の彼らの表情や作業態度から昨年以上に肌感覚で実感することができた。

事業をよく知る関係者の声

・地域全体の課題である放牧地の回復は、我々の文化である家畜との生活を続けるために欠かせないものだ。この事業は、大切な文化や伝統を次代に継承することを重視している点が非常に気に入っているし、徐々に村人にも理解されているようだ。（庫倫旗ガボウ牧場・副場長）

参加者の声

・当初植えた苗木は大きく育った種類もあるが、ほとんど育っていないものもある。緑化はとても長い時間が必要なことを知った。毎年苗木を植えるが、前に植えた苗木管理の方が大変で、植えるだけで終わりだと思っていたがそれは間違いだったとわかった。（ガボウ新村村民）

緑化樹の植栽

植栽木へ灌水

家畜などから樹木を守るための柵作り

緑化作業に動力機械を導入

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：18.7ha
植付本数：12万3,000本
播種面積：103ha

参加者数

中国：303人
計　：303人

樹種

ポプラ、ニンティアオ、黄ヤナギ、マツ

05K-15 南遊の会

ベトナムにおけるマングローブ林再生事業

ベトナム・ホーチミン市カンザー地区

事業概要

一度破壊されたマングローブ林を本来の多様性に富んだ森に回復させることが目的。主な活動内容は以下のとおり。①放棄塩田での植林作業、③植林地における成長モニタリング調査。

事業成果

新たな放棄塩田約２haに2019年と同じ３種の苗を植林した。また、これまでの植林地では植林苗が順調に生育していることがモニタリング調査によって確認された。植林作業やモニタリング調査には南遊の会のスタッフに加え、日本とベトナムの大学生を中心としたボランティアが参加するとともに、森林管理署職員十数名が植林指導にあたった。社会人の参加者には学生時代にこのスタディツアーなどに参加経験を持つ者もいて、本活動が両国の若者の環境意識向上に着実に貢献していることが改めて確認された。

事業をよく知る関係者の声

・放棄塩田や放棄養殖池での植林活動は二酸化炭素吸収源の拡大に直接的に貢献するもので、温暖化対策として有益な活動になり得る。（マングローブ研究者）
・新型コロナで停止していた活動が再開され、参加者も順調に集まっており、今後の継続的な活動に期待したい。（活動支援団体職員）

参加者の声

・戦争博物館での枯葉剤の被害、マングローブの森が支える生態系、マングローブ林の美しさを知り、短い期間ではあったが実際に植林をすることで、活動の大きな意義を感じることができた。（20代日本人学生）
・植林の経験はまったくなかったが、私が植えた木が大きく元気に成長し、祖国のより良い生活に貢献することを願う。（20代ベトナム人学生）。

森林管理署でのマングローブ生態系についての学習

森林管理署職員による植林指導

放棄塩田での植林作業

成長モニタリング調査

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：2ha
植付本数：4,000本

参加者数
日本　　：120人
ベトナム：120人
　計　　：240人

樹種
ヒルギダマシ、ウラジロヒルギダマシ、マヤプシキ

05K-16　(特非) イカオ・アコ

フィリピン沿岸部の自然再生のための植林事業(2年目)

フィリピン・西ネグロス州 サンエンリケ郡タバオ・ベイベイ村

事業概要

目的は、浸食される沿岸部の住民の生命と財産を守り、生態系が保全され漁獲高が回復することを目的として、マングローブを植林することである。主な活動内容は以下のとおり。①沿岸部にマングローブの苗（ボガロン、バカウ）を植林、②地域住民による定期的な沿岸の清掃活動、③地元の高校生を対象とした環境教育の実施、④当団体のスタッフによる住民団体のメンバーへの技術指導。

事業成果

住民団体の代表が中心となり、自ら清掃活動の担当者や日程等を決めている。清掃活動は、毎週行うようになった。住民団体のメンバーの活動への意識が高まり、それに伴う行動が変化し始めている。課題として、潮の流れにより、カキが苗に張り付いたり、土地の浸食がさらに進み植林した苗が倒れたりと環境面で深刻な問題が起きている。そのためモニタリングを強化し、粘り強く補植を行っている。

事業をよく知る関係者の声

・植林したマングローブの苗を成長させるのは難しかった。しかし、活動地の住民団体やユース団体のメンバーがマングローブ林の重要性について理解できたことは良かった。(現地コーディネーター)

参加者の声

・もしもマングローブが大きく成長したら、家族たちに様々なものを残すことができる。そうなれば、自分をとても誇りに思う。(現地住民団体のリーダー)
・私たちがすばらしい経験を得たのと同時に、活動地の環境がよりきれいになり始めた。自然とコミュニティの両方で利益を得ている。(現地住民団体のメンバー)
・本事業の一員として、植林などの環境活動に参加でき、とてもうれしかった。(現地ユース団体のメンバー)

植林前に参加者に対してレクチャー

植林の様子

フェンスの中に苗を植林しているところ

スタッフがユースメンバーに対して行った講義

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.7ha
植付本数：1万7,000本
環境教育：1回

参加者数
フィリピン：383人
他　：　1人
計　：384人

樹種
ボガロン、バカウ

05K-18　(特非) アイユーゴー

マダガスカルにおけるSchool Forestry 作り活動による環境保全事業

マダガスカル・アナラマンガ地区アンバニツナ村

事業概要

School Forestryの目的は、学校の中で植樹し、樹木を育成しながら環境保全の意義を学ぶことである。これまでマダガスカル共和国アナラマンガ地区で10数年間、広大な高原に住む住民と緑化運動を行ってきた。今年からは樹木を植えるだけでなく、教室で植林一般の説明から種の選別方法などまで指導し、現場では苗床作り、植樹、植樹後の管理などの実施指導を行う。活動によって樹木が育つ頼もしさを学びながら自然環境を守る意義を感得していく。

事業成果

この活動は、植林を身近に感じることができること、それにより環境の保全、再生への意識を高めることができると思われる。今年対象校の周辺の学校から教師たちが教室での活動や植樹現場などを見て、自分たちの小学校もこの教育を導入したいと多数声がかかった。

事業をよく知る関係者の声

・日本で植林活動を行う仲間に話すと、日本ではこの事業はとても無理でしょうとの返答があった。気候変動など環境問題は不変で持続する問題だけに、途上国から発信することにより、日本にそれを逆輸入することができればと考えている。

参加者の声

・小学校の校長は、大切な事業だ、と。市長や村長は、この活動を継続して進めてほしい、とのこと。それが教育の面での話か、樹木の生産性への期待なのかは、時間をおいて再度話してみなければわからない。他の学校の教師は、ぜひ自分たちの学校に来てほしい、と言い、自分たちも子どもたちと一緒に植樹をしたいという気持ちにあふれていた。

種を手にして調べる子ども

授業中の掲示内容

苗床

植樹をする子どもたち

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：5ha
植付本数：1万650本

参加者数

マダガスカル：700人
他　　：　1人
計　　：701人

樹種

絶滅危惧種８種

05K-19　(公社) アジア協会アジア友の会

ネパール・シンドゥパルチョーク郡におけるコーヒー育苗と栽培による環境保全(1期3年次)

ネパール・バグマティ州シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村

事業概要

地震崩壊後の環境復興を植林や森林公園づくりによって実施してきたが、環境保全植林のみではなく換金作物の組み合わせによる保全を行うことがより植樹活動の定着につながる。そのためコーヒー植林及びコーヒー苗木作りと遮光植林を行い、自然を守りながら地域産業を成立させる第一歩となる持続可能な環境保全活動を実施する。モデル農園のエリアをはじめとして、その近隣の農民の育成、そのほかの区にも活動を広げることを目指す。

事業成果

村の区長会でコーヒー植樹の紹介を行い、区長の理解を得ると同時に、各区全体へも紹介され、他区より希望者が増えた。日本人専門家、また現地専門家による講習会を行う際にも村全体にインフォメーションを行い、育成の知識及び技術への参加機会の提供を行った。モデル農園では実が付き始め、育成後の集荷、販路の確保など次へのステップへ移行できる成果を得ることができた。

事業をよく知る関係者の声

・２年前にモデル農場に植えたコーヒーが花芽をつけた。がんばれば２年後に開花し実が付くことを確認できたことで参加者のモチベーションが上がったようだ。土壌浸食防止処置を行っているサイトの土留めにコーヒーを植えていくことも考えられるので、今後村でのコーヒー植樹の発展の可能性は大きいと思う。(日本人専門家)

・村へのコーヒー植樹の導入は大変ありがたい。村がコーヒーで有名になることに期待している。(村行政長)

参加者の声

・教師を引退し、農業収入の拡大と共に自分自身の土地を有機作物の育成により守りたいと考えていた。モデル農園でのコーヒーの育成状況を見て、自分もトライしたいと考え、この支援で植える機会を得た。200本を植え順調に成長している。実がなるのが楽しみだ。(農民)

植林実施の様子

苗木の輸送

日本人専門家講習

農民へのコーヒー圃場見学会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：5.3ha
植付本数：2,150本
下刈面積：8ha
育苗：1万100本
整地：モデル農園づくり

参加者数

日本　　：　10人
ネパール：270人
　計　　：280人

樹種

コーヒー、日蔭樹（ニマロ、バドハロ、ターキ、コイラロ、ライコニュなど）

05K-20 ウータン・森と生活を考える会

ボルネオ島での在来種の森林再生と環境教育

インドネシア・中央カリマンタン州西コタワリンギン県クマイ郡ジュルンブン地区

事業概要

生物多様性の宝庫であるボルネオ島では、森を皆伐してパーム油生産のためのアブラヤシ大規模農園を造成することによる森林減少が問題となっている。オランウータンの保護で有名なインドネシアのタンジュン・プティン国立公園とアブラヤシ農園の緩衝地帯であるジュルンブン地域にて、地域住民が主体の森林再生と生物多様性保全のために、①荒廃地（火災跡地や金採掘跡地）での在来種を中心とした植林、②住民の収入創出になるアグロフォレストリーの実験としての果樹の植林、③地元の学生へ活動を伝え継承していくための環境教育を行う。

事業成果

火災跡地よりも土壌の荒廃の酷い金採掘跡地での植林を初めて試みたが、過去の植林経験を踏まえ荒廃地に強い樹種を選んで植えたところ、70%と期待以上に高い活着率であった。環境教育に参加した近隣の高校の環境サークルが事後も継続してフィールドに通っており、森林保全への知識の定着・継承及び愛着が高まっている。

事業をよく知る関係者の声

・荒廃地、特に金採掘跡地の森林回復に挑むプロジェクトはまだまだ少ないので、それに挑戦する活動を応援したい。植樹後の活着率も良いので今後に期待している。（50代、地元環境保全NGO担当者）

参加者の声

・植林は木を植えるだけでなく森の中に苗木を探すことから始まるなど、多くの過程を経ていることがわかった。（高校生）
・学生たちに環境のことを教えるこのすばらしい活動を継続してほしい。学校訪問にもぜひ来てほしい。（高校教諭）

高校生たちが環境教育に参加し火災跡地で植樹をした

火災跡地に植樹する果樹の接木苗

金採掘跡地での在来種の植林

金採掘跡地での植林のモニタリング

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：8ha
植付本数：4,040本
下刈面積：8ha
森林火災学習：１回
植生調査学習：１回
植林体験：１回

参加者数
インドネシア：68人
計　　：68人

樹種
アルー、バランゲラン、ニャトー、マンゴー、マトアほか

05K-21　(特非) NEKKO

鉄砲水から棚田と子供の未来を守る植林事業

フィリピン・イフガオ州バナウエ市・ウハ町

事業概要

新型コロナウイルス感染症による失業とプロパン等の燃料の高騰のため、止む無く煮炊き用の伐採が急速に進む。村と棚田を守るための植林が急務である。

事業成果

今後も続く活動の試金石であり、事業継続への実績作りと準備を同時に行う繊細な事業運営が必要であった。ウハ小学校に隣接する斜面の約3haに、在来樹種のナラを植樹して、小学校を大雨時の鉄砲水から守る防災林を造成した。本年度は植樹ボランティアに小学校やPTAだけでなく、地元の警察署と消防署からの参加があった。制服着用とパトカー、消防車を乗りつけての参加だったため、地域住民にとっては、無償ボランティアからお祭りに参加するような意識の変化があったと考えている。今後の活動も警察と消防、軍への協力要請は続けたい。

事業をよく知る関係者の声

・本事業の外部講師は、事業の立案段階からの良き理解者である。氏は、イフガオ州が棚田観光によって棚田が荒廃していくことを20年以上前から予言しており、それを食い止める唯一の方法が植林であると言い続けている。本事業は小学校を鉄砲水から守るだけでなく、棚田の水資源を守ることになると期待している。氏は現在も本事業への参加を地域住民に呼びかけている。

参加者の声

・地元小学校の女性教諭たちからの声を紹介する。「今回は学校が長期休業の時に植樹をしたから、子どもたちが参加できなかった。ぜひ来年は学校の授業としてこの植樹に参加したい。子どもたちに実際の行動を体験させて、本当の環境保全について考える機会にしたい」。この声を受けて、本事業は子どもたちが安全に植樹活動できる場所の特定を始めている。

植樹前に外部講師から植林の必要性の説明を受ける地元小学校の児童

苗木を運ぶボランティア。植林現場までは警察車両が苗木運搬を手伝ってくれた

急な斜面、危険な箇所を植林

急斜面での植樹作業

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：3ha
植付本数：2,000本
下刈面積：5ha
除伐面積：5ha

参加者数
フィリピン：720人
計　　：720人

樹種
ナラ

05K-22　(特非) AMDA社会開発機構

水源保全とアグロフォレストリー推進事業

ホンジュラス・エル・パライソ県内4市19コミュニティ

事業概要

山間部に居住する農民が自然と共生し、将来にわたり豊かな生活が守られるように、環境と調和した持続可能な農業に必要不可欠な植樹を実施する。主な活動は以下のとおり。19のコミュニティにおいて、①土壌の流出防止や食料源となる苗木の植樹、及び苗床の設置、②獣害を防ぐための囲いと標識の設置、及び水源を守るための樹木や健康な生活のための水の重要性などについての講義。

事業成果

対象地域において、苗床で育てた7,709本を含めて、1万2,418本を植え、さらに、ホンジュラス政府機関から寄贈の5,037本の苗木を植えることができた。自然環境と調和した農業について農民の意識を高めることができたほか、事業に参加したことによりコミュニティの団結力が増し、より良い地域づくりに向けた取り組みが活性化した。また、湧水地の周りにも植樹し、柵で囲むことにより、水源への獣害を減らすことができた。植樹した果樹は農作物として、食糧・栄養不足解消の一助となることが期待される。

事業をよく知る関係者の声

・コミュニティで協力して種から苗を育てるなどしたことで住民の結束が高まった。様々な種類の木を植えて森林を多様化することの重要性などを教えつつ実際に植樹作業、モニタリングすることは自分にとっても大変良い学びとなった。(植樹指導者)

参加者の声

・水源の重要性や水源を清潔に保つことの大切さなどを村の仲間と一緒に学んだことはすばらしい体験だった。私たちの水源や森林を取り戻すために木の苗を育てることを通じて、環境・自然を守ることの大切さを学んだ。また植樹については1種類の木だけでなく、多様な植物が共存していけるように植えることが大事で、それが私たちの健康を守ることにつながることも学んだ。(市民)

植林作業中

水源地を囲う作業中

水源視察

コミュニティ苗床管理

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4.86ha
植付本数：1万2,418本
苗床設置・管理：19か所
水源整備・管理：19か所

参加者数

ホンジュラス：1,551人
計　　：1,551人

樹種

アボガド、ベニノキ、タマリンド、パパイヤ、シロマメモドキほか

05K-23　(特非) シャンティ山口

タイ北部山岳地域パンカー村の森林再生と農村開発

タイ・パヤオ県ポン郡パーチャンノーイ地区パンカー村

事業概要

代々の農地を守り安定した農業収入を得るために「GMO(遺伝子組換)トウモロコシ畑」を「果樹林」に転換し、持続可能な森林農業とともに荒廃した大地を緑豊かな農地にすることで森林を蘇らせる。また、自立と持続可能で安定した豊かな生活の向上を実現し、環境保全型森林農業と循環型社会形成のモデルとして地域に普及する。

事業成果

今年度転換した果樹は4,160本、植栽面積は34.1haで、生育調査と病害虫や土質などの障害調査も行った。植栽地の一部は2つの村の住民所有地で、各住民は農作物を共同で収穫・出荷し、相互に学習などを行い、植栽や育成などの知識が豊富なため、近郊の模範となって他村から学習に訪れる農家が後を絶たない。特に栽培が難しいドリアンについては優れたリーダーが存在し、栽培設備や管理の工夫、ノウハウを熱心に指導している。住民の士気も向上し、SDGs実践など地域への波及が期待される。

事業をよく知る関係者の声

・近年直面している緊急課題は、気候変動、異常洪水、長期にわたる干ばつに作物はついていけず、唯一の自給の陸稲も秋の異常な豪雨に収穫は平均30%にとどまるなど、自然の恵みを糧としている山岳民族の生きるすべを奪っている。唯一の望みはこの事業での果樹への転換にある。今後も継続して手伝ってほしい、できれば、より多く、早くお願いしたい。みんなが期待している。(村長)

参加者の声

・今年は植えた後、雨が降らなかった。3日ごとに水を持って行ったので枯れずにすんだ。(30代男性)
・ドリアンは、水がないとできないので水引のパイプを作って、寒冷紗をつけている。(30代女性)
・まだもらっていない人はたくさんいる。みんなに少しずつでももらえたらうれしい。(30代女性)

プロジェクト説明会

希望者面談

マンゴー植付

ドリアン栽培の工夫。寒冷紗設置状況

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：34.1ha
植付本数：4.160本

参加者数
タイ：228人
計　：228人

樹種
ドリアン、マンゴー、ランブータン、オレンジ、マヨンチッド

05K-24　(特非) 地球市民の会

ミャンマー・シャン州における森林を活用した農業生産技術の普及と実践事業

ミャンマー・シャン州リンケー町

事業概要

森林を活用した農業生産技術を普及する。主な実践活動は次のとおり。①森林を活用した農業生産技術普及体制の構築、②日陰栽培の可能なコーヒー5,000本と果樹500本の植林、③モデルファーム整備、④日陰栽培技術・環境保全研修の実施、⑤次年の植林に向けた5,000本の苗作り、苗床建設、給水施設整備、⑥防火帯作り、農業グループによる管理計画の策定などの植林後の維持管理体制の構築。

事業成果

前年度までの成果をさらに他の地域に広げることができた。地域住民の関心が非常に高いコーヒーを選んだことで、グループ外のコーヒー生産者が15名以上増加した。農業グループの主導により、令和6年の雨季に育苗した2,000本のコーヒーと150本の果樹を植え付けることができた。政情不安や作物価格の変動による経済的困難のため、住民はコーヒーや果樹の栽培に益々関心を持っており、グループは継続的な栽培を決定している。

事業をよく知る関係者の声

・現在は政情不安なので、今食べるものに困っている人も多くいる。事業地は比較的安定しているが、経済的に困難な状況が続いていることには変わりがなく、中長期的な視点で見ると環境保全と収入向上が同時にかなう今回のような事業は評価することができる。若者がタイへ流出しているので、将来的に活動を担っていく人を育成していくことが課題である。(森林省オフィサー)

参加者の声

・新しい知識を得られる機会をいただいたことに非常に感謝している。以前から聞いていたが、実際に栽培に参加できて、新たな希望が生まれた。もっと若い人が参加してくれると良い。得た知識をできる限りシェアしていきたい。(研修参加者)

日陰栽培技術研修の様子

デモファーム苗床でコーヒーの種まき(来年植え付け用の苗作り)

コーヒー植え付けの様子

デモファームの畑周囲の鉄条網

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：8ha
植付本数：5,500本
下刈面積：7.8ha

参加者数
ミャンマー：181人
計　　：181人

樹種
コーヒー、ココナツ、グアバ

次世代の森づくりを担う人材育成事業

いぶり自然学校的森づくりリーダー育成事業

北海道苫小牧市

事業概要

地域の中高生や近隣の大学生が地域での森づくり活動に参加することを通して、森林を中心としたローカルSDGs（地域社会の持続的な発展）の中心的な担い手を育成する。主な活動は以下のとおり。①「森林整備体験事業」地域住民と共に森林整備作業を行う、森林整備の専門家の講義の開催、②「ローカルSDGsリーダーシップ研修」SDGs専門家、社会起業家講義の実施、③「森づくり手法を活用した森林内企業体験、商品開発」林産物を活用した商品開発及びマルシェへの出展。

事業成果

森のようちえんや親子森づくり体験のOBやサポーターとしての役割の強い若者層をメインターゲットとして設定することで、自主的な参加や森林の課題や循環、SDGsを自分ごととして身近な問題として捉える参加者が見受けられた。意図的に若者にアプローチしていくことで、参加者の層が多様化し、地域住民との相互的な交流が生み出された。

事業をよく知る関係者の声

・例年よりも若者が参加することで、地域の参加者だけではやりきれない力仕事がはかどった。子どもたちも喜んでいて、活気のある活動になった。こういった若者が継続的に参加してくれたり、地元で働いて一緒に活動を担っていってくれると未来への可能性を感じる。（地元参加者）

参加者の声

・地域の参加者との交流がとても印象的だった。森づくりや林業のイメージは、専門的で難しいイメージがあったが、意外と普通の人がやっていて、優しく丁寧に作業を教えてもらえて楽しかった。（札幌から参加の大学生）

樹木調査の様子（森づくり講座）

植樹（森林整備体験）

マルシェ準備（ヴィヒタ作り（サウナ用））
（地域づくり起業体験）

マルシェ出展（地域づくり起業体験）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.4ha
植付本数：10本
下刈面積：2ha
間伐面積：2.5ha
薪の生産：12回
樹液採取：１回
森林調査：１回
マルシェ：２回
勉強会：３回

参加者数
道内：344人
道外：　10人
計　：354人

樹種
アカエゾマツ、トドマツ

森林・里山ボランティア　入門講座

東京都青梅市、奥多摩町、京都府亀岡市、兵庫県宍粟市、香川県さぬき市、丸亀市、まんのう町、徳島県三好市他

事業概要

体験から一歩進んで、森林ボランティア活動に継続して関わる若き担い手を育てることを目的とする。主な活動は、東京、関西、四国３か所での18歳～40歳代を対象とした講座の実施で、それぞれ５回連続の講座を実施する。 第１回：オリエンテーション、レクチャーなど、第２回～第４回：道具の使い方、間伐など人工林の整備、雑木林 の整備、竹林整備など、第５回：振り返りなど。

事業成果

今年度は新たに35名が参加し、森林・林業・農山村について理解するとともに、森林保全活動に参加する若者を増やすことができた。

事業をよく知る関係者の声

・若い人たちといろいろな世代の人が、講座で交流することで、学びであったり、今後の活動のヒントを得られることが一番大きいと思う。（四国講座に関わるNPO関係者）

参加者の声

・講座を受講したからと言って個人では何もできないが、自分と同じように何かしたいと思っている人を誘って、山や田舎に足を運んでいろんな経験をしたい。（関西講座参加者）
・林業や野生動物管理においても、地域住民と連携した取り組みが重要であり、これからも継続的な支援と協力が求められる。（四国講座参加者）

雑木林整備（東京都青梅市）

竹林整備（京都府亀岡市）

間伐（兵庫県宍粟市）

振り返り（香川県高松市）

実績とりまとめ

作業内容
除伐面積：1.5ha
間伐面積：1.5ha

参加者数
県内：35人
計　：35人

05Z-03 (公財) Save Earth Foundation

人工林の生物多様性保全活動のモデル化

千葉県山武市

事業概要

健全な人工林の育成と人の手を加えることで生物多様性に富んだ森づくりに着目し、環境改善の方法をモデル化する。専門家を招き、林内の動植物の調査や生物保護対策を実施。また、人工林管理や山武市の銘木サンブスギの植林と保育を行った。地域内外のボランティア参加者を増やし、人工林育成の意義や、林内と溜池を観察し、生物多様性の尊さを伝え、次世代の環境保全を担う人材育成を行った。

事業成果

溜池の水生生物の避難場所として機能する水路を延長し、土壌の流出防止のための土木作業を実施。またミゾソバを溜池周辺に移植した。生物調査では、オオシオカラトンボ、カワニナ、コミズムシ、ドジョウ、ハエ目の一種、ヒメゲンゴロウ、マツモムシ、ミズムシ（甲殻類）が確認された。人工林の管理は、定期的な間伐と、広葉樹の植林を実施した結果、希少種のキンランとギンランが確認された。

事業をよく知る関係者の声

・搬出先した材が、木の駅や製材所など、活用されていることは良い。
・植生や動物の種類など、調査もちゃんとしている点もすばらしい。
・場所が分かりにくいこともあるが、市民の森にしては近隣住民にあまり知られていないことはもったいない。広報や回覧板で紹介するのも良いのでは。

参加者の声

・間伐が、こんなに大変な作業だと思わなかった。（40代会社員男性）
・日本の貴重な生き物がたくさんいて、その生き物たちの住処を守る活動ができて良かった。（40代主婦）
・生物調査や実験などは、土地所有者など許可が必要で自然観察でさえ難しいが、ここではたくさん学べるので楽しい。（東京都高校生）

水生生物調査風景

溜池で確認されたアズマヒキガエルの卵塊と幼生

サンブスギ間伐作業の様子

広葉樹の植林

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1ha
植付本数：175本
下刈面積：1.3ha
除伐面積：0.3ha
間伐面積：0.3ha
植樹会：１回
自然環境教育：６回

参加者数
県内：159人
県外：160人
計　：319人

樹種
ケヤキ、ガマズミ、コナラ、ムラサキシキブ、イロハモミジ

05Z-04　(特非) フジの森

木を伐り、使い、植える、未来の森づくり

東京都檜原村

事業概要

高校生・大学生が、木を伐採し、製材した材木を使って、ツリーハウスを作り、端材を薪などの燃料として使う。また伐採跡地に、無花粉の苗木を植え、森の循環を体験した。主な活動は以下のとおり。①ヒノキ、スギの伐採、②ツリーハウスを提案・施工、③伐採予定地内での道づくり、④伐採・搬出、チェーンソーによる簡易製材、製材所での製材を見学、⑤無花粉ヒノキの植樹、苗木周りの下刈りなど。

事業成果

手鋸で伐採体験を計画したが想定以上の参加があり、見学にとどめた。伐採した丸太をウインチなどの道具で土場に引き出すところを見せて説明し、搬出の難しさ、技術、安全対策の配慮などを参加者に伝えた。丸太を製材して、木材が利用可能になることも理解できたようだ。苗木も無事に活着した。森と木を知る機会を提供できたので、さらに林業や森林に携わることに関心を持つように考えたい。

事業をよく知る関係者の声

・参加した生徒たちは、苗木を植える際に草の生えた斜面で滑って立つことができないことにまず驚く。次回から長靴を持ってくる生徒もいる。道のないところに入って作業することができるのも魅力なので、このような機会をもっと増やし、自然地での対応、特にヘビやハチなどのリスク回避を身に付けさせたい。(50代教員)

参加者の声

・今、都心の気温は30℃でとても暑いが、木々や草、虫、川がある豊かな自然ではここまで涼しいのかと思った。地球温暖化から地球を守るには豊かな自然はとても重要なものなのではないか。それも含めて豊かな自然の大切さやすばらしさを広めていきたいと思う。(高校生)
・木を育てて製材することにこれだけ手間と時間と人を使っていることを改めて実感した。木材と携わってくれた方々に感謝しなければいけないなと思った。(高校生)

チェーンソーによる簡易製材を見学

無花粉ヒノキを植樹

植栽地で下刈り

ツリーハウス建設。土台部分が完成

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.1ha
植付本数：80本
下刈面積：0.2ha
道づくり：100m

参加者数
都内：111人
計　：111人

樹種
無花粉ヒノキ

Cheer call ～炭焼きで里山まもっぺ!～

福島県鮫川村

事業概要

学生と地域住民、役場の方々と交流しながら、昔ながらの里山の暮らしを学び、文化継承を行うとともに、地域の活性化に取り組む。具体的には、集落内での人口減少や高齢化の問題による、伝統的な茅刈りや炭焼きの技術継承不足に焦点を当て、主に福島県鮫川村富田地区私有林、中野地区私有地をフィールド地とし、学生による伝統的な茅刈り文化や炭焼き技術の継承を目的とし、活動している。

事業成果

地域住民の方々に協力していただき、交流を行いながら、茅葺屋根に使用する茅を刈り取る作業や炭窯に使用する樹木の薪割りなどを行った。また、集落の伝統行事である酉小屋という竹で組んだ小屋にお供えものを入れ燃やすという行事にも、参加させていただき、どのように昔の人がこの土地を大事にし、伝統行事を通して、集落同士の仲を深めてきたかを実際に体験することで学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

・茅葺屋根の改修に携わることは、かつての日本の暮らしや先人の知恵を感じることのできる大変重要な体験であり、多くの学びを通した教育の現場として、大変重要な意味を持つ。建築の中でも特に独自性･専門性が高く、一朝一夕に関わることが困難なこと、また資材調達する茅場が限られているため複数年計画となることから、目的･年度目標・進歩状況など、今後も関わる学生間での情報共有が課題と考える。(役場職員・男性)

参加者の声

・茅葺屋根を１枚建て替えるのに、これだけの量の茅が必要なのかと純粋に驚いた。(20代男性)
・茅を太く束ねてしまい、全て束ね直しになり、大変苦労した。しかし、それらも昔ながらの伝統的な継承がなければ、廃れてしまう技術であり、教えていただいたことに感謝をしなければならないと感じた。(20代女性)

作業工程説明（鮫川村中野地区）

草刈り作業（鮫川村中野地区）

製炭方法についての説明（鮫川村渡瀬地区）

生産された炭（鮫川村渡瀬地区）

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1ha
（チガヤ、スゲ、ススキ）
炭焼き見学：１回
伝統的行事参加：１回

参加者数

県内：　8人
県外：61人
計　：69人

05Z-06 （特非）よこはま里山研究所

都市の里山資源の活用推進事業

神奈川県横浜市

事業概要

都市の里山保全活動で産出する間伐材や伐木材を有効活用することで、持続的な里山保全及びその活動を推進する。主な活動は次のとおり。①間伐材などの生木を活用したグリーンウッドワーク（GWW）ワークショップの定例開催、②経験者や講師の技術向上を目指したGWW 研修会の開催、③活用を意識した樹林地整備・里山保全活動の定例活動の実施。

事業成果

里山保全活動で産出する里山資源活用の検討を開始し、グリーンウッドワーク（生木で木工）の活用技術の取得、この技術を生かした講習会の開催準備（道具の整備、講習方法の習得）、ワークショップ参加者により指導者要請を行い自立的活動の準備が整った。

GWW ワークショップのプログラムの整備・定例化により、自立的活動を開始することができた。

事業をよく知る関係者の声

・今年度は年間を通したプログラムに沿って、計画的に活動を行うことができた。一方で集客状況があまりよくなかったので、グリーンウッドワークのネットワークを活用した集客を進めていきたい。（講師）
・東京周辺でグリーンウッドワークを定例開催している場所が限られているので、NORA（（特非）よこはま里山研究所）が継続して会場を提供することには大きな意味がある。（会員、GWW 経験者）

参加者の声

・楽しい体験ができた。本で見たのと実際に行うのは違う。勉強になった。（ワークショップ初参加者）
・四角い材料を丸く削るのが楽しかった。（ワークショップ参加者）
・森の中で、カトラリー作りに集中することでリフレッシュできた。（団体メンバー参加者）

ワークショップ風景。削り馬で材料を固定し、ニマ風器作り

材から削り出して作った木べら

定例会の森林整備・伐木

観察会

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：5.4ha
除伐面積：5.4ha
間伐面積：5.4ha
植林地整備・里山保全活動：20回
グリーンウッドワークワークショップ：7回
グリーンウッドワーク研修会：2回

参加者数
計　：400人

05Z-07　(特非) NICE日本国際ワークキャンプセンター

グローカル環境リーダー育成ワークキャンプ

青森県鰺ヶ沢町、栃木県益子町、石川県小松市、静岡県掛川市、三重県名張市、大阪府富田林市、島根県美郷町、熊本県水俣市

事業概要

森林保全活動を通じて、国内外の若者と地域住民をつなぎ、森林保全への意識と行動をともに高め、グローカルな交流や連携を生むことが目的である。主な活動は以下のとおり。①全国８県8か所で、間伐・下刈り・歩道作り・植樹などの森林保全ワークキャンプ（合宿型ボランティア活動）の実施。②リーダー訓練合宿に合わせ、成果報告会や事業のプロモーションイベントを８回開催（東京４回、愛知２回、大阪２回）。本事業を実施することで、次世代の環境リーダーが育成され、国内外の若者が森林問題に取り組むモデルとして全国各地に広がり、また参加したボランティアや住民が保全活動の新たな担い手として活動を発展していくことも期待している。

事業成果

前年度後半から外国人の来日もできるようになり、海外の若者が日本の森林問題の現状を知り、課題に取り組むことができるようになった。一緒に活動する日本人、受入側の地域としても、国際色豊かな交流ができ、三方良しの活動となった。

事業をよく知る関係者の声

・久しぶりに外国人参加者と活動ができた。コロナで内向き志向な人が増えたと感じているが、わざわざ日本にやってきて、ボランティアをしてくれるのは本当にありがたいしうれしい。（赤目受入団体）
・まとまった人数の若者が活動してくれると作業が進む。とても助かる。（都賀GR受入団体）

参加者の声

・森の中で汗を流し、誰かの役に立ったという実感、みんなで協力して生活したことなど、ワークキャンプ中の経験が、高校生たちにとって、かけがえのない思い出の一つとなり、成長の機会となり、より良い未来へつながっていくとよいと思う。（栃木youth参加者）

植樹祭の準備（青森県鰺ヶ沢町）

竹林の整備（栃木県益子町）

雑木伐採やつる切り（石川県小松市）

放置竹林を伐採し、そのタケを使って「簗漁（やなりょう）」の簗（やな）作り（島根県美郷町）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.5ha
植付本数：150本
下刈面積：2.7ha
除伐面積：2.3ha
間伐面積：2.5ha

参加者数
県内：　3人
県外：　98人
計　：101人

樹種
ブナ、イタヤカエデ、ミズナラ

05Z-08　書と生き物愛好会　愛知支部

間伐材を利用した書道における固形墨の開発

愛知県西尾市

事業概要

全国的に広がる放置竹林問題を解決しつつ、SDGsの視座から芸術科書道で扱う固形墨を開発し、新たな環境教育・書道教育について考える。主な活動は以下のとおり。①SDGsカードゲームの実施、②放置竹林問題を学ぶ、③タケの伐採方法を学ぶ、④タケの伐採活動（２回）、⑤竹炭作り、⑥固形墨作りを墨匠から学ぶ、⑦SDGs墨作り、⑧墨の比較分析、⑨SDGs墨の紹介と竹炭頒布会の開催。

事業成果

１年を通して放置竹林問題に向き合えたことが大きな成果である。若い世代（高校生）に授業の一環としてアプローチし、理解を深めてもらうことができた。また、本活動で岡崎森林組合、西尾市産業振興課、奈良県の墨匠とのネットワークができ、継続的な活動も可能となった。次年度は間伐材の固形墨化の精度を上げて製品化し、学校教育の中で扱えるようにするなどして地域貢献までつなげたい。

事業をよく知る関係者の声

・書道に関する用具・用材についての研究で、これから墨のあり方への視座として大変興味深い。（大学教員）
・高校生が自分の環境について考えたり、森林環境税の使われ方などにも目を向けるよい機会だったように思う。竹炭頒布会を今後も実施してほしい。（市役所職員）
・若い世代が森林問題について目を向けられるように連携できたらと思う。（森林組合）

参加者の声

・自分たちでタケを切って、竹炭を作り、それが固形墨になるとは思わなかった。またやってみたい。（高校生）
・細粉した粉が真っ黒で手が汚れたのと、膠が臭かったからなかなか扱いに苦労して少し嫌だった。（高校生）
・竹炭を配ったり、墨を市役所で紹介するなど、学校で体験できないようなこともたくさんでき、自分たちの地域の問題に本気で向き合えたから充実していた。（高校生）

市役所の方から放置竹林問題について学ぶ

タケの伐採方法を学び、実践

伐採したタケを焼成

地域でのSDGs墨の紹介と竹炭頒布会の開催

実績とりまとめ

作業内容
間伐面積：0.032ha
竹炭焼成

参加者数
県内：48人
計　：48人

05Z-09　京都府立大学　森林ボランティアサークル 森なかま

大学生による森林・竹林整備

京都府京都市、南丹市、京田辺市、宇治田原町

事業概要

森づくりから木工品、炭作りまでの木質資源の循環利用を普及させ、日本一森林に関心を持つ学生が多い大学にすることを目指す。主な活動は以下のとおり。①演習林で森林整備を実施、②三山木・宇治田原において、不良竹の伐採と搬出、③伐採した間伐木や竹材を利用して木工作品を作成し、炭焼きやバウムクーヘン作りなど資源の循環を図り、森の市やSNSを通じてPRする。

事業成果

演習林では下刈りによりツタ類を除去した。また異常繁殖したソヨゴやヒサカキを除伐することでアカマツ稚樹などの健全な育成に貢献できた。また、間伐や枝打ちで林内環境を適切に整えた。三山木ならびに宇治田では竹林の整備を行い、伐採した竹を有効に利用した。コロナ禍が明け、新入生勧誘を進めたこともあってか参加者が増え、活動が活発化した。これらの成果を踏まえて活動を継続したい。

事業をよく知る関係者の声

・今年度は活動が活発となり森林整備や木材・炭の利用などを学生の皆さんにはより身近に感じてもらえたと思う。一方、学生活動の弱点でもあるが、世代間での引継ぎが上手くいかないと活動が継続されないことがあるので、次世代の人材育成に尽力してもらいたい。（演習林職員）

参加者の声

・枝打ちはステップを使って木に登るのが最初は怖かったが、慣れれば楽しかった。つい枝を切りすぎてしまい、適切な状態にするのが難しかった。（参加者、３回生）
・間伐では、皆で協力して樹木を切り倒すことに達成感を感じた。活動場所は傾斜がきつかったが、活動に参加するにつれて比較的スムーズに登れるようになった。（参加者、２回生）

除伐作業（大枝演習林）

間伐作業（大枝演習林）

枝打ち合宿（大野演習林）

三山木での竹林整備

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.4ha
除伐面積：0.4ha
間伐面積：0.2ha
その他：炭焼き合宿、希少種調査、資材の運搬

参加者数
府内：197人
計　：197人

05Z-10 大阪能勢田尻菊炭振興協議会

次世代と共につくる里山と菊炭の未来 2023

大阪府能勢町、池田市

事業概要

日本の茶の湯文化だけでなく里山保全においても重要な地域固有の製炭業(菊炭)が放置林や獣害で衰退している。この課題解決に次世代と共に取り組む。地元及び近隣の高校生の参加を働きかけ、菊炭窯の見学や里山見学会、里山管理作業体験などを実施。里山学習に意欲的な近隣市小学校への里山出前講座やオンライン授業の実施。安全な里山管理作業のために女性を対象とした機材の取扱講習会を実施。

事業成果

里山活動に関心のある近隣市の小学校の若手教師が中心となり、6小学校4年生約500人を対象に「菊炭と里山づくり」のテーマでオンライン授業を開催。更に児童が植樹会にも参加した。高校生は植樹活動で山林活動の実際を学んだ。植樹会には若手の茶道関係者が自ら参加者を募り、多数参加。また里山作業安全講習会を農林業で活動を広げる女性を対象に開催。講習会の必要性を改めて認識した。

事業をよく知る関係者の声

・植樹会と植樹地のその後の管理も含めて参加者に声をかけていくことが大切だと思う。(森林ボランティア)
・高校生にとって自分たちの住んでいる里山の状況を知り、植樹を体験できたことは海外の森林環境の状況を学ぶ上での大きな土台となるだろう。(地元高校教師)
・子どもたちに里山の保全や文化としての菊炭を知ってほしかった。授業から実際の体験につながったことは本当にうれしい。今後もつないでいきたい。(小学校教師)

参加者の声

・子どもが授業で関心を持ち、植樹に参加した。刺激的な体験だった。授業がなければ菊炭の存在にも気づくことがなかったのでとても良かった。(植樹会参加の保護者)
・刈払機を使う女性も増えているが、我流で行っている。今回の授業は講義だけでなく実践の時間も多く、参加できて良かった。(女性のための刈払機講習会参加者)

近隣市小学校社会科教員見学会受入れ(菊炭と原木クヌギ植樹地学習

近隣市小学校6校児童教師500名を結ぶオンライン授業(菊炭と里山づくり)

菊炭と里山を未来につなぐ植樹会参加者(菊炭学習と植樹体験)

女性のための里山安全作業講習会(刈払い機講習会)

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.2ha
植付本数：200本
除伐面積：0.4ha
木工クラフト：21回
その他体験イベント：7回

参加者数
府内：881人
府外：　7人
計　：888人

里山活性化と次世代リーダー育成事業

大阪府貝塚市

事業概要

次世代を担う学生（近畿大学ゼミ生、大阪ECO動物海洋専門学校１、２年生）が、活動を通じて里山に関心を持ち、課題を認識して、森づくりのリーダーとなるように取り組む。主な活動は、休耕田でのウバメガシ苗木植栽、浜辺で海藻を集めて苗木の肥料として活用。除間伐体験活動も地元住民やボランティアと一緒に実施する。除間伐した空間には、育てた苗木を植栽し、複層林化を目指す。

事業成果

学生たちにとっては、のこぎりで木を切ったり、丸太でコースターをつくったり、また鎌で草刈りをしたり、里山での活動は貴重な体験になった。近畿大学ゼミ生は、間伐などで作業を協力しながら実施した今回の活動を通じて、ゼミが一つにまとまった。大阪ECO動物海洋専門学校は、1泊２日で、自然観察活動も実施した。サンコウチョウなど野鳥の声を聞いたり、里山ならではの体験となった。

事業をよく知る関係者の声

・海からスタートする新たな試みである。他の地域では苗木がすぐに全滅というケースもある。今回、上手く成功している。休耕田の苗木は、すぐに森林へ移植するのもいいだろう。海藻の肥料効果はゆっくりでると思われる。（指導者：京都大学、大阪大学などの学識経験者）

参加者の声

・森林と海とつながっていることを実感した。木を伐採するのは大変で、森林管理の大切さを学んだ。間伐や草刈りなど普段の生活ではできないことをさせてもらえた。海藻アオサの課題をはじめ里山が直面している問題を知る貴重な機会となった。イベントがあればボランティア協力する（大阪・関西万博事前イベント参加者）

アオサ回収

アオサをよく水洗いして山で苗木の肥料に利用

苗木植栽、下草刈り

間伐作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.08ha
植付本数：45本
下刈面積：0.08ha
間伐面積：0.02ha
森林資源活用：５本

参加者数

府内：121人
計　：121人

樹種

ウバメガシ

05Z-12 鳥取県立智頭農林高等学校森のしずくクラブ

緑をとりもどせ！土砂崩壊防止をめざして

鳥取県智頭町

事業概要

多雪により、ススキの植生のみとなっていた学校林内の山腹斜面が、シカの食害を受けて裸地となってしまい、その結果、豪雨時に土砂崩壊を起こすため、山腹緑化を試みる。主な活動は以下のとおり。①高校生の支援の元、シカの忌避樹木の苗を地元小学生が山腹斜面に植樹、②シカの食害防止のために２ｍ四方のプロット状にスチール製の防護柵で囲う、③小学生に対して植樹の必要性を教授する。

事業成果

総合的な学習の時間に林業をテーマとして学ぶ小学生に対して、植樹の必要性を教授し、経済林育成とは異なる広葉樹の植樹を体験してもらえたことは、森林の持つ公益的機能を理解する上で有意義であった。

事業をよく知る関係者の声

・これまで財産区などで地元の方からの指導を受けた学習を続けてきた。新しく高校生との植樹体験は、経済林の育成とは違った視点での体験となり、森林教室や質疑応答などの時間を設けたことは、地元の基幹産業である林業を担っていく若者の考えを知ることができたことと併せて、小学生にとって有意義であった。（小学校引率教諭）

参加者の声

・初めて木を植えてどんな感じに育つのか楽しみで何年も待てないかもしれない。私は自然のことで人が手を加えない方がいいと思っていたけど、人の手を加えた方がよりきれいで美しい林になることを知った。特に印象に残ったのは木や山があることで水があふれないようになっていることがすごかった。

高校生に教えてもらいながら小学生が植栽

シカが食べたがらない木を植栽

植栽風景遠景

森林教室風景

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：50本
森林教室：１回
防護柵設置：１回

参加者数

県内：48人
計　：48人

樹種

オオバアサガラ、エゴノキ、ネジキ、ウリハダカエデ、ゴマギほか

森づくりを目指す若きリーダー養成事業

鳥取県智頭町、高知県高知市、南国市、香南市、四万十市ほか

事業概要

大学生を中心とした森づくりに関心を持つ若者が森林や里山の保全活動などへの参加を通じて、将来の森づくりを担うリーダーとして育つことを目指す。主な活動は次のとおり。①人工林の除間伐や里山、竹林の整備作業の実践研修、県内外の森づくりや地域づくりの取り組み事例の視察・体験研修などを実施、②他団体や民間企業と連携してツリーハウスづくりや里山整備の実践活動などを実施。

事業成果

大学生に加えて、新たに各市町村の地域おこし協力隊及びその卒業生も研修事業に参加し、地域振興の視点も入れた多角的で高次な研修となった。土日の定例会研修の他に、会の平日作業への自主参加も増加し、より実践的な研修ができた。さらに、県内外の森づくりや地域づくりに携わる団体、個人との意見交換や情報共有を通じてネットワークが拡大。新たな民間企業とのつながりも拡充できた。

事業をよく知る関係者の声

・この研修事業を通じて若い方々に数多く参加、応援をいただき大変感謝。継続して関わっていただけることを期待している。（他ボランティア活動団体代表者）
・研修内容の多様性や充実ぶりは高く評価している。研修生にとっては仲間同士のつながりは大切なことでありネットワークの広がりは重要。この研修事業を通じて築いたつながりを大切にして頑張ってほしい。（行政関係者）

参加者の声

・チェーンソーなどを使った森林整備作業の実践や子どもたちの遊び場、癒しの空間としての森の活用といった視点など、大学の授業では得られない貴重な体験となった。
・楽しい学びの中に毎回新たな気づきや発見があって大変有意義な研修だった。
・様々な人や団体とのつながりと視野が広がり、「林業＋α分野」の展開を考えるうえでの参考になった。

人工林の除間伐作業研修

竹林整備

合宿研修

森のようちえん

実績とりまとめ

作業内容
〈主な研修内容〉
養成講座の開催：14講座
（開催日数43日）
人工林の除間伐作業：８日
里山整備作業：９日
竹林整備作業：２日
ツリーハウスづくり、
森のようちえん：13日
合宿研修：４回

参加者数
県内：204人
計　：204人

つながる・つなげる・
子ども若者応援事業

05W-01 胆振・体験から学ぶ推進協議会COLD

裏山を活用した「ようちえんの森」整備手法移転事業

北海道苫小牧市、浦河町、札幌市、鷹栖町

事業概要

小学生を対象に展開している放課後体験活動「森っこアフタースクール」と連携し、馬による森林整備をからめた森林環境教育活動を提供した。また、かつての参加者がボランティアとして活動に協力した。土日を活用し、保護者参加のイベント「森っこホリデー」を実施した。蓄積されたノウハウの移転のためにスタッフ研修を行い、別の裏山フィールドで整備活動のデモンストレーションを行った。

事業成果

これまでは、一つの幼稚園の裏山でこだわった活動を展開してきた。様々な人材が育成されるという成果が生まれ、参加者だった子どもが整備の主体者になり、保護者がスタッフとなるなど、多世代による活動が展開されるようになってきた。本事業で出稽古的な機会を得ることができ、自身の技量や経験をより多面的に活かし、より向上させたい、というモチベーションを生み出すことができた。

事業をよく知る関係者の声

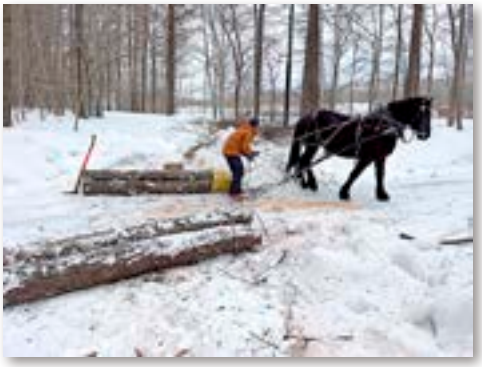
・森林を所有する園として、専門家や卒園児、その保護者が手入れをしてくれることは、その後を追う我々としては大変参考になり、有意義かつありがたい。その姿が今の園児、職員にとっては「目標」「憧れ」になる。このように、幼稚園という一つの立場が、森や馬を通して世代や業界を超えてつながっていくことに大きな意義を感じている。（森のようちえん園長）

参加者の声

・OBとして、主体的で専門性の高い活動提供や技術習得ができたことがうれしい。とても面白く、かつての自分を振り返る機会になっている。（大学生ボランティア）
・子どもたちが育った園の森で、今度は私自身の自己実現ができる場と機会になっている。その頃やりたかった活動を今の子たちと、他の保護者の方と展開できることに意味を感じている。（元保護者・スタッフ）

子どもたちによる森林整備デモンストレーション

森のようちえん活動（職員研修）



里山整備で伐採された材を馬で搬出

森林整備で出た材で薪作り

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.5ha
間伐面積：6.3ha
森林資源活用（日常型自然保育活動）：40回
その他：親子イベント、職員・スタッフ研修

参加者数
道内：　81人
道外：　25人
計　：106人

05W-02 森っこ

親子で自然に親しむ活動拡充のための事業

茨城県水戸市、那珂市、茨城町、日立市

事業概要

自然の中で親子のかけがえのない時を過ごすこと。その経験が、自然を愛し、地球規模の環境問題に対する意識と行動へつながることを目指す。身近な自然の中で、子どもはのびのびと五感を使って遊び、大人は癒され元気になる。主な活動は、4～12月まで月3回程の定期活動の開催と、土曜にファミリーデーの開催、水戸市や他団体が主催する環境や子どもに関するイベントに出店を行った。

事業成果

活動エリアにあまり知られていない緑豊かな公園、山などを加えたことで、参加者が乳幼児と過ごせる自然環境のある場所を知ることができた。他団体の協力を得て、子育て中の大変さを緩和する緑の中の癒しの会（森林セラピーやヨガ）を開催できた。また水戸市と協力し、森林公園フェスティバルや水戸市環境フェアに出店し、活動のPRと募金呼びかけの場をつくることができた。

事業をよく知る関係者の声

・日中、親と子のみで過ごすことの多い方にとって、親1人でなく、スタッフや参加者みんなで子どもを見守り遊ぶことは、とても気分転換になっていると思う。
・森や川などの自然の中で活動することによって、子どもたちは、のびのびと自由に遊び、時にはすごく集中している表情が素敵だと思う。（正規スタッフ1年目、30代女性）

参加者の声

・森の中を散策しながら、身近な草花や虫のことを知ることができてとても楽しい。ファミリーデーでは、少し歳の離れた子どもたち同士の交流があり、互いによい影響を与え合っていると感じた。自然の中で子どもたちはのびのびと遊び、大人もゆっくりと話す時間があり、親子ともにとても充実感に満ちあふれたひとときを過ごせる。（参加者30代女性）

春の大鍋さんぽ

環境フェア出店

せせらぎあそび

クリスマス木工工作

実績とりまとめ

作業内容
定期活動、ファミリーデー、森林フェス、環境フェア：12回

参加者数
県内：214人
計　：214人

05W-03 子育て支援ステーションニッセ

「木育」を通した里山コミュニティづくり

千葉県千葉市

事業概要

未就学児と小中学生の親子を対象とし、「木に親しみ、木から学び、木と共に生きる」という『木育』の考え方を軸に、以下の内容を実施した。①森林循環について、実践を通して理解を深める、②木や森と人（生き物）の暮らしのつながりを学ぶ、③森に棲む多様な生き物の生態や自然環境とのつながりを学ぶ、④木育普及啓発イベントで新たな参加者を募り、同時に森づくりの担い手を養成する。

事業成果

森や自然の中での子どもたちの育ちに関する講演会の開催や、隔週のサークルタイムで未就学児の親子が頻繁に森に集う機会を設けることができ、新しい森づくりの担い手を獲得、養成することができた。継続して参加している子どもたちが小学校高学年から高校生になり、異年齢の子どもたちが一緒に活動することで森に関する知識や技術が受け継がれていく様子が非常に印象的な１年となった。

事業をよく知る関係者の声

・森では大人も子どもも皆で関わり合いながら活動している。今後も家族の枠で閉じるのではなく、体験や学びを共有し合える環境（コミュニティ）づくりを目指していきたい。（40代サポートスタッフ）
・今年度行った森の樹々に関するクイズラリー等を今後も活かして、新しい参加者が楽しみながら森に親しめる機会を意識的に設けたい。（40代サポートスタッフ）

参加者の声

・子どもも信頼されて大人と同じように道具を使わせてもらえることが誇らしげな様子だった。（小学生保護者）
・森や生き物について、講師のほか普段あまり関われない中高生にも教えてもらっていて、異年齢で関わりながら森について学べる環境がすばらしかった。（幼児保護者）
・どのようにすれば苗木が大きく育つのか分かった。また森に来て樹々の成長を見るのが楽しみ。（小５男子）

子どもたちが「自分でやりたい」と意欲的に取り組む

森の中での読み聞かせ

森の樹々に関するクイズラリー

親子が頻繁に森に集う機会を設けることができた

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.12ha
植付本数：32本
樹勢回復：10本
下刈面積：0.28ha
除伐面積：0.03ha
間伐面積：0.02ha

参加者数
県内：1,202人
県外：　86人
計　：1,288人

樹種
マテバシイ、ウメ、モミジ、アオダモ、ヤマアジサイほか

05W-04　（特非）フジの森

森が好きになるキッズキャンプ場

東京都檜原村

事業概要

未就学児や小中学生が、森で木と触れ合うことで森の楽しさを知り、森の保全活動に興味を持つことを目指すキャンプ場を整備する。主な活動は、①川の生き物探しと森を歩き、薪割り、②自然観察と流しそうめん、③木工クラフトとたき火でダッチオーブン、④柴刈り、薪割りと薪窯のピザ、⑤スギの葉のクリスマスリース作りとカレー、⑥火起こしとヨモギ団子作り、インデアンテントを体験。

事業成果

森の楽しさが体験できるように、季節に合わせたプログラム、食事を提案した。森の中で歩くこと、生き物を探すこと、森で枝を拾い工作に使うことや、薪として利用すること、様々な道具で丸太を割って薪にすることなど、子どもたちには新鮮な体験だった。また森に来たい、森で遊びたい、森で美味しく食べたいとの声も聞かれ、このような企画をさらに発展させたい。

事業をよく知る関係者の声

・子どもたちが夢中になるのは、普段はできないたき火など火に関連するプログラムだ。このフジの森として、森の手入れ、間伐、間伐材で薪割り、薪を使った料理で、薪窯で焼くピザ、焚火でダッチオーブンやマシュマロ焼き、薪コンロでウドンなど、森の手入れと食を結び付けているのは、良い着眼点である。子どもたちに、火の怖さ、扱い方を教えるにはすばらしい環境を備えている。

参加者の声

・沢では、石をめくったら意外とたくさんの生き物がいて、探すのがとても楽しかった。（中学生）
・舞錐式の火おこしは、コツが分かるまでに時間がかかり、いやになったが、最後に炎が大きく燃え上がった時は、頑張ったかいがあったとうれしかった。（小学生）
・ヨモギ団子は、切ったりしているときにいい香りがして、なんて贅沢なことをしているのだと感動した。（母親）

渓流で生き物探し

油圧薪割り機で丸太を割る（柴刈り、薪割りと薪窯のピザの回）

昼食は薪窯で焼いたピザ

スギの葉のクリスマスリース（リース作りとカレーの回）

実績とりまとめ

作業内容
自然観察：２回
クラフト：２回
柴刈り：１回
火起こし：１回

参加者数
都内：60人
都内：31人
計　：91人

05W-05 ライフラボ多摩

里山と私たちの暮らしのつながり事業ー森の恵みを生活に還元するー

東京都町田市

事業概要

子どもが将来、身近な自然の恵みを生活に組み込むことを目指し、里山資源の循環とカーボンニュートラルの仕組みを体験する。そのために、親子自然体験プログラム（全6回）を次の内容で実施した。①地域の里山の現状を知る、②里山の恵みを循環させる生活を体験する、③エネルギーとしての里山資源の可能性を実感する。また、里山を活用してこれらの活動ができるように整備を進めた。

事業成果

親子を対象とすることで、子連れで里地里山での活動に参加しやすくなった層、子どもに体験させたいという層の参加があった。一方で大人のみや学生の参加もあり、多様な世代の交流の場ともなった。子どもにとっては、里山で自然の恵みを比較的身近な場所で体験する機会となった。大人にとっては、地域の里山の恵みとそれを保全することの大切さの再確認ができた。

事業をよく知る関係者の声

・親子自然体験プログラムは、里山の自然の恵みやつながり、野菜を育てる際の様々な方法や動向、食と農を考える視点などについて専門的な解説があり、充実した体験ができるようになっていた。事業目的「子どもが将来、身近な自然の恵みを生活に組み込むことを目指し、里山資源の循環とカーボンニュートラルの仕組みを体験する」は、五感と知識の両面から提供できたと感じる。（大学教員）

参加者の声

・地元の堆肥で野菜を作ることで、地域で、ものが循環していることを実感した。（20代女性）
・有機の農場と周辺の里山の環境は貴重で、残していかなければならないと思う。（40代女性）
・収穫の際、下の方の土まで触ることができ、とてもふかふかした状態であることに感銘を受けた。細かくなった腐葉土もありその感触も五感で感じた。（60代男性）

シイタケ植菌（親子自然体験）.

シイタケ仮伏せの前で集合写真

シイタケの本伏せ

収穫したジャガイモをソーラークッカーで茹でる（親子自然体験）

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.02ha
除伐面積：0.05ha
森林資源活用：１回
森林資源活用：２回
親子自然体験プログラム：６回

参加者数
都内：78人
計　：78人

05W-06　(一社) Silva

知る和が広がる！子供たちと森づくり体験教室

東京都品川区、港区、神奈川県横須賀市

事業概要

日本の森林を守るためには次世代である子どもたちに森の機能や役割を伝えていき、森林の重要性を知ってもらう必要がある。根源である自然の重要性を知り、関心を持たなければ、人間はどんどん自然からかけ離れた存在になってしまうことに危機感を抱いている。そのために、４小学校の子どもたちを中心に森の講座や植樹体験、調査、植樹前の準備作業などを一緒に行い、森の重要性を伝えた。

事業成果

森の講座や森を活かすための作業や植樹体験を次の内容で行った。①「前年度学校内に植樹された潜在自然植生種の苗木を当事者である児童の手で追跡調査するための毎木調査」「校庭内で本来の植生を用いた森の再生に挑戦する中で地元の植物や景観も学習しよう!と地域の景観巡り」、②小学校の新校舎誕生時に校庭へ移植予定の森の『種』ともいえる小さな森づくりとして、苗木を記念植樹した。

事業をよく知る関係者の声

・６年生が６つの授業「森の講座・土壌調査・土壌づくり・植樹・経過観察・戸越の鎮守の森巡り」を通して、森の豊かさや環境を守る大切さを学んだ。Silvaの熱いメッセージが子どもたちの心に響き、今年度も６年生がこの活動を引継いでいる。卒業生が、森づくりへの自分なりの考え方をもって巣立ってくれることを誇りに思う。（学校長）

参加者の声

・ぼくの将来の夢は自然を守るネイチャーガイドになること。学校で学んだ自然の大切さを観光客に伝えたい。（小学生）
・この前は毎木調査のやり方を教えてくださり、ありがとう。最初は木の測り方が分からなかったけど、上手く測ることができた。木のことについて少し知ることができたと思う。（小学生からの手紙）

植物観察会

森の講座

森の作業

植樹祭

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：333㎡
植付本数：3,000本
植物観察会：１回
森の講座：１回
森づくり体験：１回
植樹祭：１回

参加者数
県外：140人
計　：140人

05W-07　田園調布学園大学みらいこども園　園庭委員会

子どもたちの感性を育む園庭の森づくり

神奈川県川崎市

事業概要

都市の乳幼児期の子どもたちのセンス・オブ・ワンダー（自然を通した五感、好奇心、探求心）を豊かに育むため園庭の森づくりを目指す。主な活動は以下のとおり。①子どもたちが里山で自然にふれて遊ぶ、②里山で拾ったドングリを園で苗として植え育てる、③園庭で植樹会を行う、④樹木や大苗に触れながら感性を育むために子どもたちと樹木の名札の作成や水やりなどの樹木管理を実施する。

事業成果

市内の里山に出向き、あまり整備されていない自然環境の中での遊び体験は、子どもたちにとって森の匂い、葉や樹々の形、初めて見る蜘蛛など新しい刺激を受ける経験となった。植樹は、参加者のこれからの人生において自然を身近に感じる貴重な体験になった。子どもと職員で継続して水やりなどの世話をして成長を見守ることで自然環境に興味関心を寄せている。

事業をよく知る関係者の声

・「子どもたちの感性を育む園庭の森づくり」を目指し、園、大学チーム体制で計画を進めてきた。里山体験や園庭植樹体験は、子どもたちはもちろん、参加をした園職員、保護者、学生にとっても自然体験や環境作りの大切さを実感する機会となった。また川崎市市制100周年・全国都市緑化かわさきフェアも踏まえ、市内の都市緑化にも大きく貢献する機会となった。（田園調布学園大・仙田）

参加者の声

・他の参加者の方と力を合わせて植樹できたことは、親にとっても子どもにとっても貴重な体験となった。体験を通し、自然の恵みを感じ考えられる子に成長してくれると思う。（保護者）
・作業自体が楽しかった。親子で植樹したことで「共に育てていく」気持ちが沸き、園と保護者との楽しみとしてのシンボルとなっていくと感じた（大学生）。

里山体験自然遊び（聞こえる？）

ドングリ苗作り（植え付け後）

植樹会（園児、保護者、学生、教職員、地域ボランティアさんによる植樹）

樹木の名札作り

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：12本
その他：里山体験、材料検査、土壌改良

参加者数
県内：142人
県外：　5人
計　：147人

樹種
イロハモミジ、ヤマボウシ、ドウダンツツジ、ギンモクセイ、スモークツリーなど

05W-08　なつかしい未来協議会

佐渡島森のようちえん・がっこうつくり

新潟県佐渡市、石川県珠洲市三崎町

事業概要

佐渡島と甚大な地震被害を受けた能登珠洲市などで、環境整備や基本的インフラの整備を行いながら、安全で楽しい森の学校のハード･ソフトをつくることを目的とする。主な活動は以下のとおり。①自治会と個人事業主と協力し､ゆずろ公園内の老朽化し破損の多い遊具を撤去し、安全な場所にする、②公園内の荒れた森や道を再整備する、③子どもたちが喜ぶ森のようちえん・がっこうのハード・ソフトづくり、④森のようちえんと林福連携の先進事例の指導者を招き、勉強会を行い、環境整備をする。

事業成果

佐渡で実施した環境整備の経験や知見、そして地中環境の専門家や県外ボランティアとの連携が、困難を極めた能登地震災害支援と森のがっこうつくりに役立った。多くの専門家が、ボランティアとして、能登に駆けつけ、被災者と子どもたちの環境を少しでも良くしようと、力を尽くしていただけた。

事業をよく知る関係者の声

・能登地震による被害で､水やトイレなどのインフラが､半年ほども麻痺する中で、能登に常駐して水などの環境整備してくださったこと、どこから手をつけて良いか分からないほどの混乱と困難に、寄り添い共に復旧してくださったことなど、大変ありがたかった。まだ、復旧の目処が経っていない現状だが、今後ともご助力のほどお願いしたい。(珠洲市被災者　珠洲市会議員)

参加者の声

・地震でいろいろと我慢しなければならなかったが、のびのび自然の中で遊べて、とても楽しかった。
・子どもでも災害支援のボランティアとして、活躍できることを誇りに思った。(森のがっこう　参加者、子ども)

森のようちえん・がっこう オープンキッチン作り

森のがっこう環境整備でバンブーアスレチック作り

森のがっこうつくりで環境整備

企業と団体ボランティアの協働で井戸掘り

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.6ha
下刈面積：0.8ha
除伐面積：0.4ha
森林資源活用面積：1.2ha
森のがっこう環境整備面積：1.3ha

参加者数

県内：431人
県外：283人
計　：714人

05W-09 さかのくち活性化協議会

体験フィールド「ハッピー山」の整備事業

福井県越前市

事業概要

未来のある子どもたちだけではなく、老若男女問わず、幅広く環境学習の場を提供できること、かつより身近な森にすること、またバイオ炭作りを浸透させること目指す。主な活動は次のとおり。①気軽に歩くことができる遊歩道の延長、②バイオ炭の研修会と間伐材、剪定枝を利用したバイオ炭作り、③獣害対策、④散策をしながら里山の自然を楽しみ、子どもたちの自然体験の場として提供する。

事業成果

一昨年は竹でのバイオ炭作り、昨年は勉強会も実施したが、身近に感じる人は少なかった。今回、間伐材や剪定枝を使って、バイオ炭作りの取り組みを簡単に実施したことによって地元の方たちもコツをつかめたように思う。遊歩道が広がったことと、ワイヤメッシュで塞がれていた入り口に開閉式の門扉を設置することができたので、自由な散策や自然体験できるスペースが広がった。

事業をよく知る関係者の声

・竹材や廃材などで炭を作り、バイオ炭作りの良さを広めながら荒れた山林を整備し、獣害問題の解決にもつなげたい。今後は整備や獣害問題について地区外の人たちとも考えられる研修の場になってほしい。(50代、指導員)
・山の手入れで各団体や子どもたちの遊び場にもなり自然に触れたり環境問題を考えるよい場ともなっている。(70代、地元環境部会員)

参加者の声

・クマ騒動で野外活動が難しくなり、子どもたちに自然体験をさせてやりたいとずっと思ってきたが、身近な森に近い環境で実施できて、とてもうれしい。(保育士)
・深い山というわけでもないのに、いろいろな山野草(イカリソウ、ショウジョウバカマなど)を観ることができてよかった。(参加者)
・キジが孵化した後の卵を初めて見た。すごい。(参加者)

気軽に歩くことができる遊歩道で自然体験

自然体験。いろいろな形の葉っぱを見つけた

竹材や間伐材でバイオ炭作りを体験

シカによる食害防止のためワイヤメッシュ設置

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.5ha
草刈り：3回
伐採枝運搬：1回
整備作業：4回
獣害対策：4回
森の学び(里山の自然とのふれあい)：5回
バイオ炭作り：2回

参加者数
県内：237人
県外：　1人
計　：238人

05W-10　（特非）なかまフィールドうじゅうの森

里山にふるさとのある子を育むうじゅうの森事業

山梨県韮崎市

事業概要

人のくらしと里山の関りを知るために親子で里山に入り、森や木を感じ、関わることを通じて全身で学び、森と人とをつなぐことを目的として、０、１、２歳児とその親とで「うじゅうの森」に集まり、様々な自然体験活動を行った。主な体験活動は、①森林資源を利用した工作、②薪割り、たき火を通じての自然エネルギーの活用、③森林散策、④伐倒、森の中で製材、⑤里山・森林以外での活動など。

事業成果

令和５年７月より、新しい道具などを揃えることで、もう少し踏み込んだ森づくり活動を親子で実施できた。また、令和６年４月からは実施回数を増やしたところ、会員数がぐっと増え、参加率も上がった。林業体験だけでなく、畑や田んぼ、川などの活動の中に森での活動が加わることで、参加者の皆さんが構えることなく森づくりに参加できる形になった。

事業をよく知る関係者の声

・０、１、２歳児親子を対象とした伐採や製材をやったことはなかったが、リスク管理などをしっかりした上で、どう関わるかを大事にすれば実施可能。そこから参加者が得られるものも大きいのではと感じた。（50代講師）
・子どもにとって自分が作業に関われなくても、一緒にいる、同じ空間で感じることがとても大事で、いろいろな自然体験活動は貴重な体験となる。（40代保育士）

参加者の声

・森の中がこんなに涼しいなんて知らなかった（猛暑で森の中に広く集えるスペースを作った）。虫がいて、鬱蒼としたイメージで嫌だなと思っていたが、森の存在の大切さを知り、見方が変わった。（２歳児母）
・自分一人ではできない活動を、みんなと一緒にできてとてもありがたい。子どもと一緒にできる形を模索してくれて、親子でとても貴重な経験ができた。（１歳児母）

木を切って出た木屑で遊ぶ子どもたち

雨の森散歩。いつもと違う森の様子を感じる

伐倒した木との関わり（皮を剥く）

親子で森とつながろう（造材&製材、ロゴソールでの製材）

実績とりまとめ

作業内容
伐倒体験：１回
製材体験：１回
製材した木で椅子作り：１回
山仕事と木登り：１回
ほか毎月２～４回森で活動

参加者数
計　：841人

05W-11 社会福祉法人 州浜会

四季を味わい、山の恵を感じる　里山をめざそう！

長野県松本市

事業概要

「子どものために山を活用してほしい」と願いのこもった土地で、子どもたちが駆け巡り、人々が集う場所を目指す。循環型社会が提唱されている中で、自然界には何があり、何が生まれ、どう関係しあい、どう還っていくのか。その世界観を“体感”を通して、生きていく上での糧になっていく“生きた学び”を実践する。主な活動は、①林床整備、②山にあるもので遊具と薪小屋作り、③シイタケの駒打ち。

事業成果

マッチ１本からどう火を起こすのか。山にあるもので、どれをどう使えば良いのか。大人も子どもも山での知恵を聞きながら実践してみる。「これは使えるかな」と、山の中を歩くようになり、木や枝、葉っぱなどに目を凝らし観察する。なぜなのかと疑問に思い親に聞くも「なんでだろうね、不思議だね」と返される場面が多く見受けられた。子どもも大人も自然界と関わる良いきっかけとなった。

事業をよく知る関係者の声

・山での遊びは体も心も養われて、笑顔になれる。（講師）
・自然な顔をして過ごしている子が多く、街中の園では見せないたくましい姿に驚いた。自然には不思議な力があると感じる。（副園長）
・大人たちが楽しそう（まるで子どもみたい!）に互いの知恵を絞り合い、活動に取り組んでいる姿が印象的。子どもたちの目にどう映ったのだろうか。（保育教諭）

参加者の声

・（一年前と比べて）だいぶヒトと山が馴染んできた気がする。（保護者）
・林業関係者の話を聞いて生きる知恵を学べた。（保護者）
・子どもが楽しくはしゃいでいる姿を見て、私も山が好きになった。この子たちが大人になって次の子どもたちの代になっても豊かな自然が残っていてほしい。（保護者）

シイタケ原木運び

シイタケの本伏せ

木の切断（ノコギリの使い方やコツを教わる）

檜皮葺き風薪小屋作り

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.3ha
森林資源活用（遊具、薪小屋）：２回
野外活動：５回
シイタケ駒打ち：50本

参加者数
県内：171人
計　：171人

05W-12　（一社）よだか総合研究所

根尾川の森　プレーパーク

岐阜県揖斐川町

事業概要

不登校の子どもたちが、自然とのポジティブなつながりをつくり、環境に対する意識を高める。森の時間で、自由に過ごし、子どもたちが心と身体を回復させる。子どもと一緒に森について学び、環境に対する意識を高める。主な活動は以下のとおり。①樹木医を招いての学習会、②森の手入れ、③森の整備計画の作成、④土壌改良。

事業成果

樹木医を招き、木や森について学んだ後、枯れ枝を切ったり、つる切りをしたりして、参加者と一緒に森を整えた。また、水はけの悪い土地を観察し、森の土中環境について考え、土壌改良も行った。人が一方的に森を使うのではなく、人にも森にも良い環境とは何だろうと、子どもたちと一緒に考える時間となった。今後も、自然界の働きの手助けをし、健やかな森をつくり、人も森も活き活きした場所にしていきたい。

事業をよく知る関係者の声

・樹木の特性、形状、状態、土壌ほか様々な視点から観察する必要が大切だと改めて痛感した。また、人間の視点だけでなく、樹木の気持ちも考慮して折衷案を見出すことが大切だと気付かされ、今後に活かしたい。（スタッフ）
・学ぶことがたくさんあり、貴重な時間となった。木に寄り添える方法を模索したい。（スタッフ）

参加者の声

・何気なく見ている木、生きようとしていることに気づく時を得られ、うれしかった。（参加者大人）
・木とまずは同じ生命体の自分として向き合う、よくみて感じて、どうしたいのか、心地よい状態なのかどうか、情報を読み取り、多角度からいろいろな立場から環境を考える、そんなものの見方を学んだ。また、子どもとの関わり方も同じだなと思った。（参加者大人）
・樹木医になりたいと思った。（参加者子ども）

木槌で叩いて、音の違いを比較して樹の内部の状態を考える

森の沢を観察

尾根で植生の違いを観察

水はけの悪い土地を観察

実績とりまとめ

作業内容
森の学び：２回
土壌改良：0.3ha

参加者数
県内：44人
計　：44人

05W-13 （一社）里の家

森の子フィールド整備と実践、森林体験フィールドのあり方研究

静岡県浜松市

事業概要

次世代の豊かな自然保育を生み出すための森のフィールドづくりを目指し、将来にわたり森の維持・管理・運営ができる体制を整える。浜松市郊外にある約３haの二次林をフィールドに森のようちえんとして「森の子」プログラムを実施した。フィールド整備として、竹林の伐採とチップ化、常緑樹の伐採と整理を森林組合職員と行った。植樹を行い、森の遊具として、アスレチックネットなどを設置し、焚き火場や階段作りを行った。

事業成果

2023年度の森の子参加者は延べ125人。２回行った。10月と１月の連休の集中整備では、伐採や整理などを行い、風の通る里山となった。マミーの森の取り組みで浜松市SDGsコンテストにエントリーし優秀賞を受賞、授賞式で地元保育園とつながることができた。

事業をよく知る関係者の声

浜松市SDGsコンテスト優秀賞を受賞し、審査員から「保育士や林業の専門家と協力しながら、環境教育プログラムを実施している。自然保護、子どもの遊び場の創出、災害に強い森づくり、木材利用を視野に入れた植林など、里山を多面的に活用できるよう整備している。里山の整備に当たっては、多様な世代に渡って協力者を募っており、持続可能な取り組みがされている」と、評価された。

参加者の声

・子どもたちが、参加後、園で里山遊びをするなど、楽しかったとの感想があった。（保育園職員）
・継続してほしい。（園児の保護者）
・子どもたちがすぐに仲良くなって自然の中で発見し、遊びをつくっていく楽しさがあふれていた。（一般参加者）
・自然の中で自由に遊ぶ森の空間が、子どもの成長にとって大切だと改めて感じた。（講師）

マダケの伐採、除伐作業

階段作り

アスレチックネットの設置

つるを利用してリース作り

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.5ha
植付本数：35本
除伐面積：0.5ha
間伐面積：0.5ha
体験プログラム：14回
集中整備（遊具設置、伐採等）：5回

参加者数
県内：144人
県外：　2人
計　：146人

05W-15　（一社）ウインダムファーム

人と自然と動物と生きる（森のがっこう）つくり

愛媛県久万高原町

事業概要

引きこもりなどから再度社会にチャレンジする青少年たちや、障がい者、子どもたちと保護者が当事業を通じて笑顔になるような、人と自然と動物が共生する森のようちえん・がっこうづくりを目的とする。主な活動は次のとおり。①土地を整地して動物とのふれあい環境を整える、②町内外の子どもたちや障がい者の乗馬体験、動物とのふれあい、③木工体験や森林浴、動植物観察などの森林環境教育。

事業成果

木や雑草に覆われた荒れ地を地拵え・整地し、地盤が緩い場所には赤土と砂を投入し、こうして動物（馬やポニー）を自由に走らせることができる広さの放牧場を作り、森のがっこう・ようちえん事業の拠点を整備した。放牧地づくりでは柵の設置や周辺の環境整備で町内外からボランティアを募集し、子どもたちを中心に延べ約100名が集まり、今後の新たな参加者候補にすることができた。

事業をよく知る関係者の声

・地盤が緩く雨が降るとすぐに泥状になり赤土や砂を大量に入れることになるなど想定外の事案が多々あり課題となった。（スタッフ）
・雑草だらけの荒れ地が見違えるようになって驚いた。町おこしの観点からも今後の活動が楽しみだ（町役場職員）
・人と動物の共生を中心にしたユニークな森林教育だ。幼稚園や児童クラブ、障がい者施設などと連携して継続して行いたい。（障がい者支援施設職員）

参加者の声

・子どもと一緒に一つのことができたのが、とてもよかった。（柵作りの参加者・女性30代）
・家族で来ました。自然の中で馬とかに触れてとても癒された。（小屋のペンキ塗り参加者・男性30代）
・お馬さんに乗れてうれしかった。（花の植栽参加者・小学生男子）

凹凸を削って平地にする

柵作りイベント全景

花植えする子どもたち

完成した牧場全景

実績とりまとめ

作業内容
伐採面積：0.5ha
草刈面積：5ha
廃材撤去：４t車7台分
地拵・整地：8ha
植付本数：17本
縦杭設置：100本
横板設置：100枚／２回
花植・草刈：２回
ペンキ塗り・花植：２回
馬小屋作り：
木板15枚／１回

参加者数
県内：105人
計　：105人

樹種
ブルーベリー

05W-16 （一社）畑とキャンプの自由な学校みんなの学校

こどもの森づくり・こども森キャンプ事業

大分県大分市

事業概要

目的は団体所有の森林整備である。子育て世代、若者世代が中心となり、その森の整備を行うことで、子どもたちの森林教育を行う場を形成することである。また、その整備された森を活用し、こども森キャンプを実施して、子どもたちの森に対する理解を深め、自己肯定感を高める。内容としては、①森の整備活動（下刈り、伐採、剪定、柵の整備）、②地域の若者へのボランティア研修（リスクマネジメントなど）、③こども森キャンプの実施、自然体験をとおして森に親しみを得る。

事業成果

ヤブが生い茂った森、また剪定が行われていない森であったが、伐採と危険な枝を剪定すること、また柵の整備が進んだことで子どもが安全に活動できる森になった。整備活動では、子育て世代の親が参加して、整備の大変さについて身をもって感じていた。また地域の若者が整備とこども森キャンプの運営を担う部分が生まれた。そのことで、次世代のリーダー養成にも繋がった。一過性のイベントに終わらず団体としても、森の整備を担う人材が育った。

事業をよく知る関係者の声

・実際に現地を見た際に、子どもたちが安全に森に入って観察できる場所が増え、望ましい森になったと感じた。（自然観察指導員）

参加者の声

・ひみつきちを作りやすくなった。（参加者、小学生）
・安全性が高まり、子どもを預ける際に心配が減った。（参加者、保護者30代）

地域の若者が整備に参加

こどもの森で柵の整備

こども森キャンプ

こども森キャンプで焚き火

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：1ha
除伐面積：1ha
間伐面積：1ha
自然体験：20回
ボランティア研修：３回

参加者数
県内：62人
計　：62人

スギ等森林の
有効活用支援事業

05T-01　(特非) 地球緑化センター

市民参加による森林づくり「山と緑の協力隊」

長野県上松町、滋賀県多賀町

事業概要

学生や一般市民が森林に親しみを感じ、積極的な森林づくりに関わることを目的に、長野県及び滋賀県において森林整備のボランティア活動を企画する。①長野県赤沢自然休養林で２回、木曽ヒノキの成長のため除間伐を行う。②滋賀県多賀町の高取山で１回、少花粉スギ苗の植樹を行う。

事業成果

滋賀県多賀町での植樹は悪天候のため、地域山林組合が行う林産物生産活動（シイタケホダ木、薪）を実施した。植樹については、後日、地域山林組合へ依頼し、植樹を無事に行えた。森林の恵みを活かす学びを得ることができた。

参加者の声

・継続されている作業に参加することができて良かった。貴重な森林を放棄するのでなく保全活用していけるようにやれることをやっていきたい。リフレッシュできた。ありがとう。（50代男性）
・木を伐り倒すのは、TVでみるよりずっと大変だった。（40代女性）

間伐作業（長野県赤沢自然休養林）

間伐作業後の集合写真（長野県赤沢自然休養林）

シイタケの駒打ち（滋賀県多賀町高取山）

薪作り（滋賀県多賀町・高取山）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.17ha
植付本数：300本
間伐面積：0.46ha
森林資源活用：シイタケホダ木、薪
森林教室：３回

参加者数
県内：　1人
県外：35人
計　：36人

樹種
少花粉スギ

05T-02 銀林の恵み森活プロジェクト実行委員会

環境と人・脱炭素社会に貢献する森林づくり

島根県大田市

事業概要

伐期を迎えた人工林を皆伐した後、環境と人にやさしい少花粉スギ苗を植栽し、少花粉スギの植栽面積の拡大を図ることを目的とする。主な活動は以下のとおり。①人工林0.64haの皆伐・地拵え、②地拵え後の下刈り・片付け、昨年度植栽エリアの坪刈り、③少花粉スギ苗の植栽、残材の薪割りイベントの実施、④学習講演会の実施。

事業成果

昨年に続き、少花粉スギ苗の植栽を行い、植栽面積の拡大化を図った。この取り組みは、大田市より先進的な取り組みとして評価された。新規地元企業の参加もあり、一定の広がりがあった。残材の利活用では、持ち帰り自由の薪割り体験会を実施し、約８㎥を薪とした。学習講演会の参加人数は、少花粉スギの拡大の意義の周知もあり、予定の参加者数で成功した。事業全体の参加人数は、昨比＋22人の122人であった。

事業をよく知る関係者の声

・これだけのボランティアをよく集めた。（林業事業体）
・少花粉スギのことを初めて知った。今後、大切なことである。（森林NPO団体）
・植栽の準備が大変だったと思う。（林業従事者）
・ポット苗は、すばらしい。（山主）

参加者の声

・植林は、大変と思っていたが、簡単で楽しかった。（40代親子）
・次回は、多くの人を参加させたい。（50代地元企業）
・行政職員の参加を増やしてほしい。（30代男性）
・少花粉スギの大切さがよくわかった。（40代女性）

地拵え作業

下刈り作業

親子で植栽

薪割り機で薪割り体験

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.64ha
植付本数：1,400本
皆伐・地拵面積：0.64ha
下刈面積：0.82ha
森林資源活用：約８㎥
学習会：１回

参加者数
県内：122人
計　：122人

樹種
少花粉スギ苗

05T-03 ボランティア団体わしがやらねば

不登校児童生徒による少花粉スギ植栽事業

岡山県井原市

事業概要

不登校児童生徒が少花粉スギの植栽などに取り組み、持続可能な人に優しい森づくりに貢献し、自己有用感の向上を図ることが目的である。主な活動は以下のとおり。①地拵え（下刈り、小中径木伐採、棚積み）、②少花粉スギコンテナ苗の植栽、③薪作り、④シイタケホダ木作り。

事業成果

家庭に引きこもりがちな不登校生徒が家から出て、定期的に森林に入ることによって、外出して作業を行う習慣が身についた。地拵え、スギ苗の植栽、シイタケホダ木作り、薪作りに取り組むことによって、森林資源の有効活用についてもその知識や技術を習得できた。それによって引きこもることにより失いがちな自信が回復され、自らの可能性にも気づきはじめたのではないかと思われる。

事業をよく知る関係者の声

・山林をステージとして、主役である中学生と大人たちが、植栽作業を主目的に活動を実施した。そこには、作業手順の理解、安全対策、技術の習得など多方面にわたって収穫は大きいと思う。参加者全員の達成感や意義を感じられた。自然との関わり合い、作業を通しての人間関係、そして安全意識など事業に関わるものとして、今後の人生に生かしていただきたい。（山林所有者）

参加者の声

・作業を通じて、作業以外の場でも自分ができることをやっていきたい。（中１男子）
・木が伐られていく度に、日の光を感じて、達成感を感じた。（中３男子）
・伐採の大変さ、危険性を学べた。様々な年齢の方々と活動することで、新たな知識が身についた。自然とふれあい、貴重な経験を積めた。（20代男性）

山の神様参拝

地拵え作業

植栽作業

ホダ木作り

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.07ha
植付本数：200本
下刈面積：0.07ha
森林資源活用
（シイタケホダ木・薪）：123本

参加者数
県内：92人
計　：92人

樹種
少花粉スギ

子どもたちの未来の森づくり事業

緑の募金では、「ファミリーマート夢の掛け橋募金」並びに㈱ファミリーマートの募金寄付により都道府県緑化推進委員会推薦事業として「子どもたちの未来の森づくり事業」を実施しています。

子どもたちと作り、進める「沼田式森づくり」加速化事業

北海道沼田町

事業概要

目的は、なるべく化石燃料を使わず馬を活用した整備作業の活動を通して、子どもたちへの森林環境教育活動の推進と、北海道的里山モデルの構築を目指すことである。そのため、町内の子どもや保護者、教育委員会や沼田町役場などと連携し、馬による森林整備を組み込んだ森林環境教育活動を提供した。また、札幌や東京など首都圏からの子どもや保護者に活動を紹介し、協力していただいた。

事業成果

子どもや保護者に対する活動として取り組みが始まった活動が、保護者や関係者、あるいは企業のCSR活動として取り組みたいという法人の興味や関心を引くこととなり、子どもを始めとした様々な主体に対する活動提供の可能性が高まってきたことはとても大きな成果であると考えている。今後の継続的な活動推進のための方法の一つとして、関係性を構築していくことが重要だと考える。

事業をよく知る関係者の声

・自然学校の運営を側面的に支援する行政の立場として、動物の専門家やボランティアスタッフが手入れを一緒に進めてくれることは、本当に有意義であり、ありがたく思う。地元の子どもたちにとっては「憧れ」になる。このように、動物を使った森づくりが、森や馬を通して世代や業界を超えてつながっていくことに大きな意義を感じている。（沼田町役場担当者）

参加者の声

・先進的な森づくりに関われていることにとてもうれしさを感じる。より主体的で専門性の高い活動提供や技術習得ができたことがうれしい。（大学生ボランティア）
・動物と一緒に活動することでいろいろな効果を持つことを知り、学びを得る場の機会になっている。自分が小さい頃にやりたかった活動を子どもと他の保護者の方と展開できることに意味を感じている。（保護者）

薪割り

馬による伐倒木の搬出

樹液採取

枯れ枝処理・焚き火

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：１ha
間伐面積：１ha
森林資源活用：薪作り、樹液活用
その他：子ども向け自然体験活動

参加者数

道内：161人
道外：　28人
計　：189人

赤井川村の森づくりと環境学習事業

北海道赤井川村

事業概要

目的は、森づくりと地球環境保全の大切さを学び合うこと、森林の育成と全ての命との共生、異年齢・多世代間が育ち合い、夢と希望をはぐくむことである。そこで、幼児、小・中・高校生、近隣住民が、支援団体による指導・協力により、次を実施した。①森林環境学習会、②植樹会（苗木200本）、③ポット苗作り講習会、④異年齢・多世代グループによる感想発表会。

事業成果

イベントは２回実施。森林環境学習会では、積極的に参加する姿が見られた。植樹会では、高校生が子どもや高齢者をサポートする姿など、異年齢・多世代間の貴重な交流が見られ、支援団体の方々の安全確保への多大な貢献もあり、無事に200本の植樹を完了できた。感想発表会では、協力して意見を出し合い、助け合ってまとめていた。以上、当会が掲げる目的の浸透が図られたと実感できた。

事業をよく知る関係者の声

・植樹地として、作業道並びに林道を整備する方向性も検討しながら選定。植樹した立木の生育を眺めてもらえる環境整備を期待しつつ、初年度としては、参加者の方々の声から伺えるように、本事業に対する意欲・感謝などの声が多かったことに対し、事業の目的は達成できているものと推察。（赤井川村職員）

参加者の声

・木を植えるのが楽しかった。参加して良かった。（小学生女子）
・木を植える体験、異年齢交流の時間がとても楽しかった。また参加したい。（中学生女子）
・森についてより深く学ぶことができた。（高校生女子）
・雨の中だったが、子どもたちと楽しく作業ができた。貴重な体験だった。これからも参加したい。（60代男性）

森林環境学習会

トドマツ、イタヤカエデ各100本を植樹

感想発表会

整地作業

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.2ha
植付本数：200本
地拵他面積：0.2ha
整地面積：0.2ha
イベント（学習会）：２回

参加者数
道内：189人
計　：189人

樹種
トドマツ、イタヤカエデ

05 子 R-03　（特非）長万部町緑と樹を愛する会

写万部山麓緑化事業～海とつながる木育基地

北海道長万部町

事業概要

写万部山登山口付近の北海道新幹線工事に伴うトンネル掘削残土埋立地において、植樹・植栽や地域材を活用した木製遊具や建造物などを通して、子どもたちの森林環境学習・木育の拠点を整備。主な活動は、①植樹や花苗の植栽、②地域材を活用した木製遊具の製作、③地域の子どもたちと木育活動を行いながら、木育の基地作り。

事業成果

昨年整備した木育基地に間伐材を利用した遊具（シーソー）を追加製作した。登山口には様々な木を植樹し、登山口と木育基地内にベルを製作した。

事業をよく知る関係者の声

・登山口付近に遊べるビュースポットができて良いことだ。広く周知した方が良いと思う。（登山者）

参加者の声

・木育の基地の活動に参加した。自分で植樹した木が成長するのも楽しみで、場所は少し街から遠いけど子どもを連れて遊びに来たいと思える広場だと思った。これからもこのような活動へ子どもと一緒に参加したい。（参加保護者女性）

枝を使ってカトラリー作り

手作りシーソー

登山口と木育基地内にベルを製作

植樹した苗の保護作業

実績とりまとめ

作業内容
植栽本数：100本
その他：木育活動

参加者数
道内：68人
計　：68人

樹種
エゾヤマザクラ、クリ、ナラ、アオダモ、オニグルミほか

05 子 R-04　（特非）北海道市民環境ネットワーク

「ふるさと復興の森づくり＠厚真町」事業

北海道厚真町

事業概要

目的は、胆振東部地震で崩落した斜面の森を復元するために地元住民による森づくり活動を行い、ふるさとの自然環境と防災について学び続けていくこと。主な活動は、①厚真町の林の樹木からタネを採る、②採取したタネ（球果、果実など）から種子以外の部分を取り除き、育苗箱やポットに植える、③生態学的混播混植法により、地元のタネから育てた苗木を植栽、④森林と地域の歴史についての学習。

事業成果

新たな場所での活動となり、崩落場所の森林の回復を拡大できた。一般市民の参加も多く、より一層関心を高められ、地域の樹木を育てる重要性や森が果たす役割を理解してもらえた。タネ採り・タネ播きには児童の放課後クラブと連携し多くの子どもたちが参加。一部の苗木をクラブに保管し、苗木の成長も観察してもらえた。また、菌根菌を与えた苗木については、今後も成長を比較・観察していく。

事業をよく知る関係者の声

・子どもたちに、住んでいる地域について知ってもらえた。植樹から森林の必要性を学んでもらえた。（主催者）
・厚真町だけでなく地元の団体などと協働した事業にし、最終的には地元で活動してもらいたい。地元団体の運営協力を呼びかけたい。（コーディネーター・講師）
・菌根菌を使用した苗の成長によっては、今後の森づくりにいかせるので期待している。（厚真町職員）

参加者の声

・土を触ったり、苗を植えるのが新鮮だった。自然に近づけた感じがした。（一般参加者）
・厚真町の周囲には火山の影響でできた地層が多いことが勉強になった。（一般参加者）
・地域を知ることができ、自然とふれあえる機会が子どもに良い。森林整備は地域防災につながると深く理解した。（一般参加者）

樹木の役割を説明しながらタネ採り

苗木をポットに植え替える

菌根菌の感染苗作り

防草シート上に苗木を植える

実績とりまとめ

作業内容
植栽面積：１ha
植栽本数：100本
タネ採り：１回
タネ播き：１回
苗木作り：２回
調査：３回
勉強会：３回

参加人数
道内：74人
計　：74人

樹種
ハルニレ、ヤチダモ、ホオノキ、ミズナラ

こどもたちとつなぐ未来の森プロジェクト

青森県むつ市

事業概要

青い森が県名の由来である緑豊かな地域に生まれ育った子どもたちと未来に向けた森を育て、森の大切さを伝えていく。主な活動は以下のとおり。①伐採後の地拵え、②地元の木、青森県及びむつ市の指定木「ヒバ」の植栽、③SDGsの森と海の豊かさを守る落葉樹「ヤマザクラ」の植栽（県及び市との連携）、④子どもたちによる植樹体験（地元小学校及びクラブチームとの連携）、⑤子どもたちへ森の大切を伝えるための森林教室。

事業成果

本事業３年目の集大成として、これからも継続的に植樹活動を通じて地域の子どもに森の大切さを伝えるため、「ヒバ樹齢200年を目指す市民の森プロジェクト」を実施。誰でもヒバの香りを楽しめる悠久の森をつくるため、ヒバの大苗をシンボルとして植樹することで、子どもたちへ植えて・育てて・使う大切さを伝えることができた。

事業をよく知る関係者の声

・前年度までの２年間は、コロナの影響もあり、植樹の時間より林業の現場を実際に見学･体験する時間が多く、植樹は数本程度であった。子どもたちがもっと苗を植えたかったとの声から、今年度は植樹に時間を割いてもらい、プロの方とたくさん植樹した。この体験で、子どもたちに充実感が広がっていた。（50代小学校教諭）

参加者の声

・昨年、自分たちが植えた苗が大きくなっているのを確認できて、うれしかった。また、自分たちで植えたヒバやサクラの成長を見るために山に来たい。（小学生女子）
・森林がどのような働きをしているのかが分かった。私たちの生まれたまちが地球に貢献できていることを誇りに思った。

支柱杭打ちが完了した植樹地

植樹

森林教室

看板・標柱設置後

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.2ha
植付本数：300本
下刈面積：0.4ha
支柱設置：300本
森林教室：１回

参加者数
県内：94人
計　：94人

樹種
ヒバ、ヤマザクラ

05 子 R-06　（特非）宮城県森林インストラクター協会

SDGsキッズ海岸防災未来の森づくり事業

宮城県仙台市、七ヶ浜町

事業概要

東日本大震災で失われた宮城県の海岸防災林再生活動を継続的に実施していくため、未来を担う子どもたちに参加してもらい、海岸防災林を自分のものという意識を持ってもらうことを目的とした。また、コロナ禍で思い切り自然体験ができていない子どもたちに、海岸防災林や海岸の開放空間でのびのびと活動してもらう機会を創出した。小学生から高校生までの幅広い世代に、海岸防災林の植樹や保育活動、海岸でのビーチコーミングとマイクロプラスチックゴミ清掃活動、運河での釣り活動などを体験してもらい、楽しい思い出づくりと海岸防災林を自分たちで育てていく意識を芽生えさせた。

事業成果

これまでの抵抗性クロマツを植樹して育てる単一の植樹活動から、育ってきた抵抗性クロマツの中にサクラなどの広葉樹を植樹できるようになった。肥料を入れて丁寧に１本ずつ植えつける作業は、楽しさや充実した樹木学習につながった。また、新しい企業５社が海岸防災林での活動を開始。たくさんの新しい出会いと、新しいフィールド・海岸防災林活動プログラムを創出することができた。

事業をよく知る関係者の声

・子どもたちが海岸防災林で活動する良い機会である。すばらしい事業だ。（宮城県水産林政部森林整備課保安林班）
・七ヶ浜町の復興のため、町の活性化とより良い環境づくりに尽力していただき感謝。（七ヶ浜町関係者）

参加者の声

・海岸防災林整備活動のほか、海岸清掃や釣り活動など、１日で様々な体験ができてすばらしい。（小学校教諭）
・疲れたけれどきれいになったので良かった。年３回くらいは活動したい。（参加企業の支社長）
・協定地外の法面からクズが侵入するためその対策を行ってほしい。（地域ボランティア）

除草

植樹

間伐したクロマツの搬出

広葉樹保育活動

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.29ha
植付本数：820本
樹勢回復：7,940本
下刈面積：8.0ha
除伐面積：1.15ha
間伐面積：0.65ha
枝打本数：890本
森林資源活用：９回
森林教室：10回
自然体験：10回
作業研修：６回

参加者数
県内：1,706人
県外：　1人
計　：1,707人

樹種
オオシマザクラ、クロマツ

05 子 R-07　学校法人　中沢学園

若葉こども園の森整備事業

福島県会津美里町

事業概要

園で所有する「若葉こども園の森」を整備し、園児と保護者の方へ、豊かな自然環境下で教育活動を行う。そして、活動を通して自然への興味関心を高め、森林と人との共生への意識の醸成を促すことが目的である。主な活動は以下のとおり。①若葉こども園の森の整備と保護者による下刈り、②森の探検活動（うち６回は指導者を招いて一緒に散策）、③森に設置する看板作り、④クヌギの苗植樹。

事業成果

専門業者の整備により、活動がしやすくなったおかげで、広場の椅子に座って森の案内人の方から話を聞いたり、安全に坂道を上り下りしながら散策を楽しむことができた。また、保護者に下刈りに参加してもらったり、子どもたちが自分たちの森をこれからどうしていきたいか考えながら看板作りを行ったことで、今まで以上に自然、森を大切にしていこうという意識が高まった。

事業をよく知る関係者の声

・家庭では自然の中で遊んだり自然にふれあう機会が少ないため、園外保育などで子どもたちがいろいろな経験をして知識を増やしていくことがとても大切で貴重だと思う。地域に情報を発信する機会を増やし、他団体にも研修の場として使わせるなど地域に開いていけば、より多くの人の手も入ってよいのではないだろうか。（森の案内人70代）

参加者の声

・森の案内人の方の話に子どもたちは興味津々。キラキラした目で葉っぱや木の実を見つけていて、とても素敵な体験ができた。私自身も知らないことをたくさん知ることができて面白かった。（園外保育参加の保護者の方）

植栽

保護者による下刈り

森の案内人と森探検活動

子どもたちで考えた森づくりの看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.032ha
植付本数：20本
看板作成：20枚
森探検活動：25枚
現地調査：１回

参加者数
県内：1,405人
計　：1,405人

樹種
クヌギ

田人林業体験フィールド活動事業

福島県いわき市

事業概要

自然散策して、森林とふれあい心豊かな人間形成と社会全体の利益の増進に寄与するため、荒廃した山林の整備を実施した。主な活動は、①フィールドにおける不要木の除伐作業、②遊歩道の整備（重機による粗造りと砕石敷均）、③サクラ・ハナモモなどの植樹体験活動である。

事業成果

植樹体験参加者を一般募集したところ多くの参加者があった。活動を通して、参加者に森林整備の大変さと大切さを理解していただいた。来年も参加したいとの声があり、広がりを感じた。

事業をよく知る関係者の声

・昨年、道路に面した広場に植樹したハナモモが立派に咲き、景観がとても良くなり、子どもたちの声が聞こえて楽しい。（地域住民70代）
・この広いフィールドと長い遊歩道の整備・管理は大変だと思うが、頑張っていただきたい。（山林事業者60代）

参加者の声

・楽しかった。植樹の後のピザが美味しかった。（小学２年生）
・同じ木でも、若い木と老木では、CO_2吸収量が違うことを知った。（小学５年生）
・植樹はある程度簡単にできるが、管理（つる切り・下刈り）は大変だと思う。私たちは、植樹することを応援するので頑張っていただきたい。（主婦60代）

フィールドの整備後（つる切り、除伐作業）

遊歩道の整備（砕石敷均）

大苗を運ぶ子どもたち

植樹活動

実績とりまとめ

作業内容
植栽本数：58本
フィールド整備
遊歩道整備

参加者数
県内：231人
計　：231人

樹種
ソメイヨシノ、ヤマザクラ、ハナモモ、コブシほか

畑小学校「学びの森」復活プロジェクト

千葉県千葉市

事業概要

畑小学校の裏にある竹林はかつて学びの森として授業内及び課外授業の場であったが、荒れ果ててしまい、立ち入ることができない状態だった。そこで、竹林を整備し、子どもたちの安全な学びの場を復活させるために、以下の活動を行った。①入口、歩道、境界線フェンス・水路フェンスの整備、②倒れたタケの運び出しと倒れそうなタケの伐採、③伐採したタケの活用（運動会、門松、竹灯籠、竹炭、竹ぼっくり、キーホルダー）、④タケノコ掘りを実施し、タケが増えすぎないように管理する、⑤PTA会員の勧誘を行い活動の継続継承をしていく。

事業成果

伐採したタケを利用するイベントの開催で親子の参加者が増えた。転落の危険がある水路北側を立ち入り禁止にすることで敷地の全範囲を整備することができた。計画管理を行うメンバーも新規で７名増えた。

事業をよく知る関係者の声

・定期的に校内にある竹林に入る機会がつくられることで、児童が竹林の良さ（自然環境や文化など）とその管理の大変さを経験できるのは有難い。今後、児童が学ぶことができる環境づくりのためにも、無理なくできる活動やそれを支えるメンバーと資金が継続して必要だと考える。（教頭先生）

参加者の声

・竹林の整備のために伐るタケ、残すタケの見分け方を教えてもらえて良かった。（小学生女子）
・竹林は、薄暗く怖いイメージがあった。整備後は、日差しが入り込んで気持ちの良い空間になっている。（中学生女子）
・畑小はタケをいろいろ使っている。運動会、竹ぼっくり、竹灯籠、水鉄砲、門松、キーホルダーが良かった。（小学生男子）

境界線フェンスの設置

タケノコ掘り

看板を設置

伐採したタケを利用して門松作り

実績とりまとめ

作業内容
間伐面積：0.1ha
クラフト教室：３回
タケノコ掘り：２回

参加者数
県内：360人
計　：360人

森林環境教育みらいプログラム

東京都品川区、青梅市

事業概要

次世代を担う子どもたちの「主体的に森林課題に取り組む態度」と「責任ある行動」の育成のため、体験的継続的な学びの機会を提供する。主な活動は、①森林関連NPOの方を小学校へ派遣し、森林環境問題についてのゲストティーチングを実施、②帰校後、森林環境に対する課題や林業体験から得た気づきをもとに、「森林を活用した生活を考える」をテーマに各校で探求学習を実施、③アイディアを発表するためのプレゼン大会を実施。

事業成果

多くの学校から申し入れがあり、社会課題や自然環境への関心の高まりと体験的な学びの場に魅力があるとの意見を得た。事業後は、森林体験学習やプレゼン大会を通して主体的な姿が育っていることを感じた。この事業を継続することで多くの児童、大人が社会課題に向き合って自分ごととして捉えるきっかけを作っていけると確信した。

事業をよく知る関係者の声

・森林体験に関わる費用を負担いただいたことに大変感謝。来年度も取り組みたい。(大井第一小学校主任教諭)
・このような教育プログラムを構築できたことは評価できる。(林業従事者)
・講師の育成と今後の受け入れ学校数増加に伴うスタッフの確保が課題である。(ゲストティーチング講師)

参加者の声

・間伐で木がよく育つこと、下草が生えることなど良い影響が出てくることも実際目で見ることができ、理解することができた。(児童A)
・プレゼン大会で、多くのアイディアが出てきてびっくりした。特に、家庭生活に落とし込んで、木材を大切に利用する取り組みには感心した。(校長A)
・社会科の林業単元を教えるのに、とても苦労していた。今回の体験を通して自分の中の教材が増えた。(教員A)

「森のお話」

間伐体験

間伐材の搬出

間伐材の活用を考える座学

実績とりまとめ

作業内容
間伐本数：５本
森林体験学習：４回
事前授業：４回
プレゼン大会：４回

参加者数
都内：305人
都内：305人
計　：305人

05 子 R-11　(特非) フジの森

里山の手入れをしながら季節暦づくり

東京都檜原村

事業概要

目的は、里山について知るために、年間を通して森の手入れや観察を続け、子どもたちが五感で楽しむ自然体験プログラムづくりを目指すものである。主な活動は、以下のとおり。①柴刈り、②センサーカメラを設置、設置の見直し、データ確認、②木工クラフト、③薪割り、④生き物観察と記録のまとめ、⑤お花炭作り、⑥樹名板の取り付け、⑧歩道の整備。

事業成果

里山の自然である植物や昆虫の観察は、分かりやすいが、センサーカメラによる動物の行動を知ることは、驚きだったようだ。四季の変化と、季節の応じた体験プログラムは子どもたちも楽しみにしていたが、雨や雪のため中止となったのは残念だった。予備日を設けて、対応することも課題だ。

事業をよく知る関係者の声

・この事業地は、人工林、落葉広葉樹林（二次林）、草地、渓流があり、里山らしい自然、風景がある。子どもたちにとって探検しがいのある場所である。樹名板など、あまり整備しすぎると、勉強の要素が強くなるため、子どもたちが自分の発想、好奇心でこれは何だろうと、考えるきっかけをどう仕掛けるか考えたい。（教員50代）

参加者の声

・檜原村に行くと知らない虫たちや植物をみることができた。「町中では見ることができないほど、自然が壊されてしまっているんだ。」これからもどんどん整備が続いて、虫たちの居場所が少なくなったらどうなるのだろう。今回、この現状に気づけたので、植物をもっと大切にして、この現状をより多くの人に広めていきたい。（中学生）

生き物観察用のセンサーカメラを設置

柴刈り

生き物観察

炭になったクリのイガ

実績とりまとめ

作業内容

川遊び：１回
柴刈り：１回
木工クラフト：２回
生き物調査：２回

参加者数

都内：98人
計　：98人

05 子 R-12　松之山自治振興会

みんなで育てるキョロロの森

新潟県十日町市

事業概要

里山の魅力や機能について体験的に学び、その保全を図る活動意識を醸成することを目的とし、「キョロロの森」の整備と植林及び里山の保全体験活動を実施する。主な活動は以下のとおり。①植林予定地の整備、②散策道の改修工事、③植樹イベント、④木育イベントなどを実施した。

事業成果

「キョロロの森」における荒廃地を除根・整地し、新たにブナの植樹を行うことができた。樹齢10年未満の植林樹木について枝打ちを行い、樹木の生育促進効果が確認できた。関係者の協力を得て、かつての植林地において除伐作業を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

・「キョロロの森」の活用について、単なる観察だけではなく参加者が楽しめるような取り組みを考えていただきたいという意見があった。（キョロロ友の会会員）

参加者の声

・森林の育成や再生について理解が深まった。（修学旅行の生徒）

ブナ植林予定地での除伐作業

ブナを植樹（植樹イベント）

年輪を数える（木育イベント）

親子で除伐作業（木育イベント）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.02ha
植付本数：100本
下刈面積：0.2ha
除伐面積：0.02ha
イベント：２回

参加者数
県内：25人
県外：39人
計　：64人

樹種
ブナ

05 子 R-14　石川フォレストサポーター会

子どもたちの未来の森づくり事業

石川県小松市、輪島市

事業概要

第66回全国植樹祭は、2015年５月に石川県で開催され、式典参加者による記念植樹が小松市の「憩いの森」で行われた。植樹された樹木は順調に成長しているが、継続した保育が必要である。地域のシンボルとなる森に育て、学童の「森の学び」のフィールドとして整備する。

また、輪島市町屋町金蔵地区には、美しい里山や奥能登の原風景をとどめる棚田維持に不可欠な用水用溜池周辺の山林保全活動が地域住民により行われているが、高齢化に伴い次第に困難となっている。この地区は歴史的資源が残されており、世界農業遺産「能登の里山里海」の一翼を担うべく地元住民並びに小中学校と連携し、未来に引き継ぐ地域の象徴的な森づくりを行う。しかし本年度事業においては、2024年１月に発生した能登半島地震の影響で森林の保全維持が難しくなっており地域住民代表と協働で実施した。主な活動は、以下のとおり。①「憩いの森」では植樹した樹木の下刈り及び林内からの眺望改善などを図るために隣接区域の下刈り・除伐、②輪島市町野町金蔵地内では、管理地までの安全な道線確保と管理地周辺の整備を地域の金蔵共有山林管理会と連携して実施。

事業成果

輪島市町野町金蔵地内については、能登半島地震の影響でさらに地元住民の人手不足が深刻な状況であるが、金蔵共有山林管理会と連携して実施することができた。

事業をよく知る関係者の声

・「憩いの森」では、地域の学童による森林整備の見学会が好評で、今後小松市が主催する県民森づくり大会に合わせて、見学会を実施したい。（憩いの森管理事務所員）

参加者の声

・輪島市町野町金蔵地内については、能登半島地震で地元住民の参加者が減少しているが、当会の活動を高く評価されている。（地元住民代表及び地元会員）

下刈り（憩いの森）

整備後（憩いの森）

除伐・下刈作業（金蔵地区）

下刈り（金蔵地区）

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：8.4ha

参加者数
県内：142人
計　：142人

05 子 R-15　（特非）富士トレイルランナーズ倶楽部

みんなの手で「もどそう！守ろう！石割山の緑を」

山梨県山中湖村

事業概要

荒廃した登山道の補修・整備を通じ、緑を戻す環境活動の大切さを実感してもらう。主に、石割での①自然観察、②荒れた登山道について考える活動、③山で遊ぶ楽しさを実感する活動、④山を守るために、木柵階段を設置し、登山道の法面に井桁で木組みを設置した。

事業成果

荒れた登山道の状況、原因を理解した上で登山道整備を実施。参加者は森を守るため土壌の安定を優先に考えることを学んだ。小学生にとっては少し難しかった様子だが、「自分たちの遊び場」を守るための一つの方法を実践し、重労働だけど楽しいことと記憶されたようだ。子どもたちに「保全」の芽が出た瞬間に立ち会えた。また、この子どもプログラムをPRする場において（SNSやInstagramなど）、登山道整備のボランティア参加を希望する方も多く存在していることに気づかされた。

事業をよく知る関係者の声

・登山道補修・整備の際、もっと子どもたちに施工を任せてみても良かった。途中で終えてもスタッフで完成させる計画でも良かった。（環境省富士五湖管理官事務所）
・３回目の自然観察と山での遊びは、自然の中で遊ぶことが心から楽しいと感じた表情が印象的だった。楽しい場所を自分たちの手で守るという意識が芽生えたのではないかと感じた。とても大事なことだ。（安全管理スタッフ）

参加者の声

・登山道整備に子どもたちはとても楽しく参加していたと思う。（小４女児の母　30代）
・季節を変えて参加したい、今回の学びをもとに、ほかの山に登りたい。（小１男児の母　40代）
・帰るのが寂しいぐらい楽しかった。（小６男児）
・また、みんなと登山道整備をしたい。（小６女児）

山での遊び

ガイドによる動物の生態解説

丸太運び

法面に井桁の木組みで土壌の安定を図る

実績とりまとめ

作業内容
森林資源活用：22本
（倒木・間伐材）
イベント（森の学び）：２回

参加者数
県内：18人
県外：22人
計　：40人

とうみ子どもがまんなかプロジェクトpart２

長野県東御市

事業概要

地域住民との協働のもとで地域の子どもたちの元気な育ちを応援することを目的に、地域環境を活用した体験活動を実施した。昨年度に引き続き小学２年生以上の子どもたちを対象とした。主な活動内容は、「里山の散策・探検」、「森林整備や遊歩道整備」、「整備で出た材木を焚き木として活用した野外調理」など。子どもたちとの対話を通して活動を計画・実施した。

事業成果

今年度については「植林」という形で緑を増やす取り組みを実施できた。特に、地域スタッフの意識が変わったことが大きな収穫であったと感じている。子どもたちについても荒廃地だった場所を整備してくことで目に見えてきれいな森に変わっていったことを体験し、森への関心の高まりが伺えた。整備後のフィールド散策時の表情が非常に良かった。

事業をよく知る関係者の声

・参加してくれた子どもたちが良い表情で充実した様子が見られた。その反面まだまだ活動が必要な子どもたちがいるのではと感じた（保育士50代）
・植生の学習は大人が特に夢中になって聞いていた。誰かに伝えたい。（保護者スタッフ40代）
・植林の目的が、参加する子どもたちの子どもや孫たちのため、という話を伺い感動した。（地域スタッフ60代）

参加者の声

・生き物や自然が大好きで学べる機会もあり、毎回とても楽しみだった。（小学３年）
・ノコギリを使って森林整備をしたり、料理をしたり、活動が楽しかった。（小学３年）
・ほかの学校や違う学年の友達ができた。（小学２年）
・子どもたちが楽しそうだった。無為に遊ぶ機会も場所も限られていると、親が実感した。（参加保護者）

野外調理のための火起こし体験

水生生物探し

階段増設作業

植林作業

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.8ha
植付本数：35本
下刈面積：0.4ha
除伐面積：0.6ha
野外活動：９回
自然観察：１回
遊歩道整備：４回、約200m

参加者数
県内：64人
計　：64人

樹種
ナナカマド、エノキ、クリ、ナツハゼ、ウグイスカグラ

05 子 R-17　宗賀地区地域振興協議会

どんぐりプロジェクト♪森の健康診断

長野県塩尻市

事業概要

里山整備を通じ、小学校児童の自然体験学習の場として活用し、森林の役割を学び、森林や里山に親しみを持ち、地域愛を醸成することで地域活性化・地域振興を目指すことを目的に、森の健康診断や里山整備を実施した。

事業成果

森の健康診断を通し、森林や里山に親しみを持つ意識の醸成につながった。また、森林整備により、自然体験学習の環境が整い、子どもたちの安全確保に加え、有害鳥獣出没の抑止効果も期待できる。

事業をよく知る関係者の声

・山に入り、肌で感じ、体験することで、より深く山のことを学習できると感じている。ここでの体験が記憶の中にとどまり、将来へと引き継がれていくことを願っている。（どんぐりプロジェクトメンバー、森林公社職員）

参加者の声

・森林整備は大変だ。（小学生）
・実際に木を倒せて良かった。（小学生）
・森のことを学習できて良かった。（小学生）

どんぐりプロジェクトメンバーによる日程や「森の健康診断」の説明

胸高直径測定

間伐体験

出来上がった受け口

実績とりまとめ

作業内容
除伐・下刈作業
イベント（森の健康診断ほか）：3回

参加者数
県内：46人
計　：46人

05 子 R-18　（一社）富士見パノラマリゾート（多摩市立八ヶ岳少年自然の家）

森林 ESD「森あそび」の安全充実整備

長野県富士見町

事業概要

都会の子どもたちが森の中で、安全にのびやかに遊んでもらうことを目的とし、森の整備及び老朽化した装備の補充、入替えを実施した。

事業成果

今回の助成金で購入した機材などにより、これらのアクティビティのフィールド整備及び安全管理上の危険木の撤去、老朽化したアクティビティの装備などの更新を適切に行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

・指定管理者として適切にアクティビティの安全管理ができた。今後もこの体制を維持し、このフィールドで体験をする子どもたちに有意義な経験をもたらしてほしい。（多摩市役所の担当者）

参加者の声

・森というフィールドで思う存分楽しむことができた。（移動教室の児童）
・引率する学校側としては安全管理がしっかりとされているフィールドで子どもたちが伸び伸びと体験する姿に感動した。（移動教室の先生）

危険木の伐採

危険木の撤去

ブランコの設置

森あそびアクティビティ更新後の全景

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：5.0ha
危険木の撤去：16本
枯枝の撤去：2.0ha
アクティビティの更新：
5か所

参加者数
県内：52人
計　：52人

子どもがド真ん中　森のなかの多世代交流作り

静岡県浜松市

事業概要

山里の過疎地に住む親と子どもを対象とし、親が見守るなかで、未就学児～低学年の子どもたちも一緒に遊びながら森づくりを実施する。親や地域の人も参加できるようにすることで、家族同士及び多世代交流の機会を提供する森づくりを目指す。主な活動は以下のとおり。①理事長所有の敷地（山林、竹林、原野、栗林）合計で約1,500坪の整備、②宿泊所として古民家と納屋の改修（約230坪）、③16畳のスペースを図書館にし、納屋も寝泊まりできるよう整理と改修を行う。

事業成果

理事長が所有する山林・竹林・栗林の整備が進み、林内の環境・状態を改善でき、子どもたちが遊べる場を整備できた。自然の少ない「まちなか」の親子も遊びに来られるよう、空き家（母屋と納屋）を整理・改修し、泊まれるようにしたことで、期間を通して、５組の家族が宿泊して、焚き火や木工、クリ拾いなど森の遊びを行った。また、ベトナムの家族がクリ拾いに参加。近隣の人が訪ねて交流したり、東京や千葉、近隣の市町から来訪者があった。

事業をよく知る関係者の声

・敷地面積が約2,000坪と広いため、整備は簡単ではない。それでも、空き家と納屋の改修は大きく進み、荒れていた家屋が寝泊まりできる状態になったのはすばらしい。

参加者の声

・「まちなか」から宿泊を伴う参加ができたのはうれしい。子ども同士が一緒に泊まり、料理したり、焚き火をしたりして楽しかった。（木曽市の家族　40代保護者）
・「まちなか」ではできない焚き火、木登り、川遊びなどができて、夢のようだった。（浜松市の家族　30代保護者）
・ベトナムでは体験したことのないクリ拾いがとても楽しかった。来年、田んぼなど、ぜひ手伝いに来たい。（ベトナムの家族、40代、母親）

手すき和紙の職人と遊ぶ会

栗林でクリ拾い

古民家を改修して、子どもたちが工作できる場を提供

改修した納屋の庭で遊ぶ子どもたち

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：1ha
間伐面積：0.3ha
竹林と雑木の伐採：0.5ha
その他：遊びと宿泊、クリ拾い

参加者数
県内：40人
計　：40人

六栗西山ふれあいの森整備事業　その３

愛知県幸田町

事業概要

昭和中期まであった六栗西山の薪採りの森を復活させ、子どもたちに里山の魅力を伝えていくとともに、子どもたちの憩いの場にするために、地域の新旧住民が放置竹林を除去し活動拠点エリアを整備する。活動は、小中学校、大学などと連携し、環境整備や植栽などの活動を実施する。そして、里山に残された「山桜を見る会」も開催し、コミュニケーションを図る。

事業成果

竹チッパー機を導入し、より効率的な活動が可能となった。六栗区新旧住民参加者が、至学館大学を受け入れ里山交流会を実施。毎回多くの学生が参加され、一気に整備エリアの景色が改善された。そのほか、豊坂小学校のアジサイ植栽体験、南部中学校の雑木伐採体験、豊坂保育園児野外の活動などを実施し、多くの保護者に本活動への理解を得ることができた。これらの活動状況を毎月「六栗西山森の道だより」で発行し、六栗区民全世帯に周知することができた。人間環境大学の協力にて六栗西山森の道整備隊活動エリアの環境調査を実施することができた。

事業をよく知る関係者の声

・幸田町役場がSDGs未来都市に採択された申請書において本事業を高く評価し、掲載していただいた。さらに地元六栗区内企業から本活動に賛同があり、「山の景観が良くなっている。活動参加者に敬意を表する」と評価をいただいた。これらの評価を継続するためにも、より多くの一般参加者が気楽に参加できるよう周知と活動現場での安全に留意したい。

参加者の声

・荒れていた竹山が、みるみるうちにきれいになり景色が良くなったことを誇りに思う。（整備隊員60代男性）
・里山を整備することにより森が生き返ったように思った。（小学４年女子）

至学館大学受け入れ環境整備活動

豊坂小学校４年生アジサイ植栽活動

竹チッパー講習会活動

山桜を見る会活動

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.1ha
下刈面積：1.0ha
除伐面積：1.0ha
イベント（里山広場整備）：19回

参加者数
県内：400人
計　：400人

樹種
アジサイ

05 子 R-21　（一社）日本ボーイスカウト愛知連盟

どんぐり交流会の山づくり　その４

愛知県新城市

事業概要

平成８年度より、ボーイスカウト、ガールスカウト、みどりの少年団が相互の交流と親睦を図るため、毎年「どんぐり交流会」を実施してきた。主な活動として、①交流会でどんぐりの苗木の植栽とシイタケの菌打ち体験を実施、②健全などんぐり山を将来にわたり、利活用できる山づくりを目指して、以前植栽した箇所の除間伐を実施。

事業成果

昨年に比べ参加者も増え、どんぐり交流会、どんぐり山の整備を順調に実施することができた。また、参加者が２回目以上の参加経験があったこともあり、スムーズに除伐作業を行えた。

事業をよく知る関係者の声

・除間伐を４年実施してきた結果、山が見違えるほど明るくなった。引き続き維持管理も大切にし、まずは除間伐の実施により、どんぐり山全体を整備したい。

参加者の声

・大勢の力のすごさを実感した。
・自分の植えたどんぐりの苗木が成長し、その姿を見に来るのが楽しみ。
・今度は、植えた木の除間伐に参加したい。
・やった成果がはっきりと見ることができた。

どんぐり山の整備

シイタケの菌打ち体験

どんぐり苗木の植栽

スギ２本の枝落とし作業（外部委託）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.03ha
植付本数：200本
除伐面積：0.22ha
シイタケ菌打ち本数：200本

参加者数
県内：132人
計　：132人

樹種
コナラほか

05 子 R-22　あさくら里山を守る会

あさくら里山の保全・活用事業

愛知県知多市

事業概要

地域で唯一残された里山を50年ほど前に賑わっていたころの里山へと取り戻し、地域住民の憩いの場とするために整備を行う。整備の過程においては、地域住民と子どもたちの積極的な参加を促し、子どもたちが自然の大切さや自分たちが守るという意識向上を図っていく。主な活動は以下のとおり。①里山整備（下刈り、小径整備、落葉・倒木処理、寒肥など）、②サクラなどを植樹、③イベント（ふるさと探求ウォークラリー、桜を見る会）を実施。

事業成果

引き続き、「ふるさと探求ウォークラリー」と「桜を見る会」を実施できた。春には多くの人がサクラを見に訪れるようになった。近くの園児が定期的に来るようになった。

事業をよく知る関係者の声

・散歩道が整備され、散歩が楽しくなった。
・真夏の作業には十分に注意する必要がある。

参加者の声

・地元の人に久しぶりに会えてうれしい。（里山参加者）
・園外実習を実施することができ、ありがたい。（保育士）
・坂道が階段状になって歩きやすくなった。（利用者）
・春のイベント「桜を見る会」が里山で実施できて良かった。桜がきれい。

ふるさと探求ウォークラリー

サクラを植樹

春のイベント準備でサクラなどに寒肥

落葉処理

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：３本
下刈面積：１ha
イベント（ウォークラリー、桜を見る会）

参加者数
県内：275人
計　：275人

樹種
サクラ、フジバカマ

中学生を対象とした木育活動・森づくり事業

愛知県東栄町

事業概要

目的は、地元の中学生たちが森林整備体験活動を行うことにより地域資源の有効活用を学び、SDGsの達成に寄与するためである。主な活動は以下とおり。①間伐材搬出体験活動のために作業道を整備、②作業道整備のために伐採が必要な木を伐採、③中学生のための森林体験活動（丸太の搬出作業、ウッドチップ作り、チェーンソーアート体験など）。

事業成果

今年度からの新事業であるが、近隣町村の中学校や森林組合、県事務所にも事前に出向きこの事業の主旨を説明したところ、賛同していただける意見が多かった。新聞に掲載されたこともあり、都市部住民にも中学生による森づくり事業をPRすることができた。

事業をよく知る関係者の声

・中学校では林業の授業がないので、地元の産業を知る上でも貴重な体験ができた。
・今後も続けてもらいたい。（中学校長）

参加者の声

・初めてチェーンソーを使ったが、バッテリーチェーンソーだったので音が静かで怖くなかった。（中学１年生女子）
・座学で地球温暖化について説明を受け、地球温暖化を抑えるための森林の役割や大切さを学べて良かった。（中学１年生男子）

作業道の整備

チェーンソーを使い椅子作り（森林体験活動）

ウッドチップ作り（森林体験活動）

木陰で座学（森林体験活動）

実績とりまとめ

作業内容
大径木伐採：12本
作業道拡幅：63m
砕石敷設：50ｔ
イベント（奥三河森づくりプロジェクト）：１回

参加者数
県内：73人
県外：　2人
計　：75人

あつまれ！忍びの森プロジェクト

三重県伊賀市

事業概要

「伝統工芸・伊賀焼」の里で、荒廃した薪炭林を手入れし、かつてのように松茸のとれる楽しい山を取り戻すことが本事業の目的である。主な活動は、①立ち枯れのマツなどを伐採、②下刈り、③生息・生育している動植物に関して調査、④一般の方にも安全に森の中で活動してもらえるように歩道を整備、⑤森を身近に感じてもらう木育ワークショップ（整備で出た小枝を利用したカトラリー作り）、⑤親子を対象とした自然観察会や森林環境学習を通して、森の楽しさを伝える活動（自然観察指導員による指導）である。

事業成果

立ち枯れマツなどの危険木を伐採集積して安全に森の中に入れるようになった。また、水辺環境を手入れして、ヒツジグサの生育改善・オニヤンマの産卵場所の保護・モリアオガエルの産卵場所の保護などを行い、自然観察会を行える新しいフィールドを創出することができた。定点カメラを用いた継続的な観察や地道な植物の調査では、新しい森づくりを考える上で貴重な知見も多く得られた。自然観察会では、近隣の津市からも参加する方々も見られ、ほかのイベントにおいても多くの参加者を得られた。

事業をよく知る関係者の声

・地域住民の支援を得た体験活動は里山再生に必要な力である。参加児童の笑顔が未来につながる活動になる。事業継続を強く望む。（丸柱地区市民センター長）

参加者の声

・貴重な体験だった。子どもたちにとって巣箱作りは初めてのことで、キツツキが入ってくれたらいいなと楽しみにしている。（巣箱作り体験参加　保護者）
・息子に、活動した森でのキツツキのドラミングを伝えるインスタ動画を聞かせたら驚いていた。（巣箱作り体験保護者）

コシアブラの古木を利用して橋作り

ルーターを使って小枝に彫刻する子どもたち

キツツキの巣箱作り体験

水辺の生き物探し

実績とりまとめ

作業内容
森林資源活用：３本
作業道整備：30m
危険木伐採：52本
イベント
（木育ワークショップ）：３回
（自然観察会）：４回
（苔勉強会）：１回

参加者数
県内：215人
県外：　43人
計　：258人

05 子 R-25　山中比叡平里山倶楽部

森のたまり場づくりと、ものづくりの実践

滋賀県大津市

事業概要

小中学生が豊かな自然環境の中で森のしくみや生き物を理解するために比叡平団地に隣接する「青い鳥の谷の子ども広場」をつくる整備活動を行ってきた。本年度は今までの成果を展開するために、天候に左右されず、小中学生がいつでも自由に集い、話し合いながら生き物観察ができる「森のたまり場」づくりに取り組んだ。具体的には中心となる広場に手作りの「あずまや」を設置した。

事業成果

新たに１か所の野鳥観察ステージと子どもたちが集える「あずまや」を設置した。野鳥・昆虫の観察会を４回、講演会・講習会を２回、里山体験活動を４回開催した。「青い鳥の谷子ども広場」の整備により、小学校の課外環境教育、幼稚園児の「里山散歩」、休日の親子連れの訪問に広く利用されている。

事業をよく知る関係者の声

・地域の情報誌である月間「やまひだより」に毎月活動記事を載せ、広く活動内容知らせているため、多くの賛同の声が届いる。
・小学校関係者から謝辞が届いている。

参加者の声

・森に住んでいる昆虫の生態を知った。普段何気なく捕まえている昆虫たちの面白い生態について興味深く聞けた。
・自然とのふれあいと授業での学習が比較して学べ、良い環境教育が身に付いた。
・散策中に森の中には、思いもよらないところにゴミが落ちていて驚いた。日頃から森を大切にする心を養っていかなければならない、と改めて感じた。
・森は、管理しないと木の枝からんだりしてもじゃもじゃになるんだなあ、と思った。

あずまやの屋根作り（ヒノキの皮貼り）

野鳥観察会

昆虫講演会

里山体験活動で薪割り

実績とりまとめ

作業内容
森林資源活用（薪）：200束
イベント
（野鳥観察会）：４回
（昆虫観察会）：３回
（講演会）：２回
（講習会）：１回
（里山体験活動）：５回

参加者数
県内：約100人
計　：約100人

05 子 R-26　(特非) クワガタ探検隊

緑の大阪！SDGs・里山協働活動

大阪府池田市

事業概要

日本古来の自然観に基づき、地域自然に里山を復活させ、クワガタムシやカブトムシとのふれあい活動を通して、子どもたちに「共生・感謝・畏敬」などの価値を未来に継承させていくことを目的とする。主な活動は、①自然探検活動、②飼育講習活動、③読み聞かせ活動である。

事業成果

本事業において、クワガタ・カブトムシの里山塾やモミジ祭、植樹祭、河川のクリーン活動などのイベントを10回実施、大勢の方々が参加した。毎年発刊している「輝け!クワガタ探検隊の総括誌」についても今年度27巻として発行できた。

事業をよく知る関係者の声

・イベントで「クワガタ探検隊家族」がスタッフ役を担当し、子どもたちへもNPO活動を体験させた。小学４年生の少年が説明役として参加者にていねいな説明をしていた。着実に、“未来の森の守り人”(子どもたち) が育っていることを実感できた。

参加者の声

・分別が大変だったが、河川付近をきれいにする活動は重要だと思う。(猪名川クルーン作成 (ゴミ拾い参加者))
・大きいカブトムシ、クワガタの幼虫に触れて楽しかった。(オオクワガタ・カブトムシ里山塾参加者 幼児)

猪名川クリーン作戦④には189名が参加

池田市主催の「春団治まつり」にて創作紙芝居を上映

コナラを植樹した“未来の森の守り人”

カブトムシ、クワガタの幼虫とのふれあい

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：20本
イベント：10回

参加者数
計　：784人

樹種
コナラ

05 子 R-27　（一社）淡路水交会

漁業者による森づくり活動

兵庫県淡路市

事業概要

目的は、柴浸け※によるアオリイカ産卵床造成にあわせ、一般県民にも呼びかけながら植樹活動を進め環境の保全と地域貢献を図ることである。

※柴浸け：地域に自生するウバメガシなどを伐採し、アオリイカの産卵床に活用するもの

事業成果

毎年、植樹地近隣小学校へ植樹活動協力を依頼し、植樹後には山と海のつながりなどについて水産教室を実施している。このことにより、海と山との関係をはじめ、環境保全についての知識を深めてもらうことができた。

事業をよく知る関係者の声

・海に栄養分を増やすための取り組みはすぐに大きな成果ではないが、こつこつとやっている。子どもに森や海の大切さを認識してもらえたら良い。（70代漁師）

参加者の声

・初めて自分で木を植えたけれど、うまくできたと思う。すくすく伸びて魚やイカを育てるのに役立ってほしい。（小学生女子）
・植えるのは少し難しかった。木を植えると海のために役立つと初めて知った。（小学生男子）

ウバメガシを植樹

植樹後は「水産教室」で海と森の関係を学ぶ

植樹完了後

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1.5ha
植付本数：600本
下刈面積：2ha
イベント（水産教室）：1回

参加者数
県内：115人
計　：115人

樹種
ウバメガシ

生駒市西畑町の棚田・里山の再生と創造

奈良県生駒市

事業概要

生駒市西畑地区は人口減少に伴い、農業も衰退して棚田・里山が荒廃している。地元自治会の要請により、棚田・里山の景観整備を最重要項目として、棚田・里山の自然の魅力を見出すべく棚田に来る家族連れや、子どもたちに楽しんでもらえるように活動している。主な活動は以下のとおり。①休耕棚田の景観整備、②里山林の整備、③休耕棚田に果樹や山野草を植栽、④山の林に植樹、⑤「山のようちえん」野外教室の場を提供、⑥小学生対象の棚田・里山「校外学習」を実施。

事業成果

国道308号線から水車に至る沿道に栽培したヤグルマギクやコスモス、ヒマワリが咲いて、水車からの小川両岸のアジサイなどが季節ごとに来場者の眼を楽しませている。景観整備も自治会との共同草刈りも予定どおり実施。１月の大とんども地元行事として定着した。

事業をよく知る関係者の声

・西畑町自治会は2003年に「いこま棚田クラブ」を設立以来、共同作業（草刈り・側溝の水路清掃・大とんど）など年間を通じて、実施している。「いこま棚田クラブ」が毎週活動することで、西畑町の景観整備が維持されており、20年以上が経過した。地元の人たちや自治会のメンバーから、活動に対して感謝の意をいただいている。

参加者の声

・棚田･里山を活用したならコープと提携の「菜の花プロジェクト」は10月～翌年６月まで、月に１回家族連れで参加（１月と２月は除く）し、午前中は菜の花の手入れで土に親しみ、午後は棚田のミニイベント（サツマイモ掘り、椎茸の菌打ちなど）という活動で、大変楽しい。（菜の花プロジェクト参加者）

自治会との共同草刈り

自治会との共同「大とんど」

「山のようちえん」でアジサイの剪定

クヌギを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：５本
下刈面積：1.1ha
除伐面積：0.1ha
森林資源活動（ホダ木）：100本
山のようちえん：21回
稲刈り：１回
奈良県イベント：１回
シイタケ菌打ち：２回
大とんど：１回
菜の花栽培：７回
自治会と草刈他：５回
近畿大学実習４回
向山間伐整備：15回

参加者数

県内：　709人
県外：　867人
計　：1,576人

樹種

クヌギ

みんなでつくるドングリの森

鳥取県鳥取市

事業概要

目的は、園児たちが育てた苗木を自分たちで植え付け、成長を見守ることで森林への関心の醸成を図り、森のともだちを増やしていくこと。主な活動は、「森の教室」に参加した鳥取県内の３つの保育園の園児たちを対象に、園児たちが育てたドングリの苗木を森林公園に植栽する「植樹会」を開催した。

事業成果

事業初年度に植樹したコナラ苗の樹高が３ｍ近くになり、ドングリの森ができつつあることを実感している。

事業をよく知る関係者の声

・地球温暖化や気候変動による環境の変化は私たちの生活だけでなく、地球に住む多くの生物にいろいろな影響を与えている。この環境の変化を抑えるためにも環境保全意識の高揚を発信できる事業として、また「未来を植え育てる事業」として今後もこの活動の輪を広げていただきたい。（森林公園指定管理責任者）

参加者の声

・非常に有意義な活動である。育てた苗木を山に植えるという貴重な体験ができた。今日植えた苗木がやがて森になり、私たちの暮らしを守ってくれることを子どもたちが学ぶ良い機会となった。今日植えた苗木が、高校生になる頃には大きな木になりドングリが実ると話すと、子どもたちは驚いていた。（幼稚園園長）

生分解性ポットに入れてコナラを植樹

植樹地

看板を設置

植樹に参加した子どもたち

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：74本

参加者数
県内：95人
計　：95人

樹種
コナラ

05 子 R-30　ミホツ姫命稲穂の会

美保関で森活

島根県松江市

事業概要

身近な里山空間を創出することで、森の学びと遊びを体験できるようにし、100年後の子どもたちへプレゼントすることを意識しながら、地域のシンボルとなる森づくりを目指す。主な活動は、里山空間（以下、フィールド）の拡張作業と子どもたちの野外活動の中での自然観察会、除伐作業、間伐材などを再利用したクラフトを実施した。

事業成果

機材の準備ができたことで作業を委託せず自力で実施できた。また、フィールドの拡張を進めたことで、空間を分散して活動ができている。新たに活動者も加わり、次期への継続が期待される。参加する子どもたちも、新規に10人増えた。当フィールドにリピートする子どもたちも多くなり、認知度が上がった。前年度に引き続き松江市農林基盤整備課の主催で小学校の森林学習にも活用され、フィールドとして定着してきたことを成果として意識している。

事業をよく知る関係者の声

・今年度は整備作業を自力で実施してみるということで、見守らせてもらった。慎重に自分らのできることを見極めながら実施していた。今後も無理をせず長くこの活動を続けてほしい。町内の方々からも信頼を得てきているのを感じている。課題は、できる作業とできない作業の見極めをし、無理しないこと。（NPO法人もりふれ倶楽部事務局長）

参加者の声

・活動を根気強くやっている。自分たちにも学びの機会を作ってくれており、ありがたい。（80代男性 平日作業参加者）
・町外からも人が来るようになるとは思わなかった。大変なことも楽しみながらやっている。（70代男性）
・ここで作業に参加すると仲間ができた。子どもたちのためにも続けてやってほしい。（70代男性）

チェーンソーの取り扱い講習会

オトナの森活

火起こし体験

森の花草を使った工作

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：１本
下刈面積：0.125ha
除伐面積：0.75ha
オトナの森活：14回
森林資源活用：２回
自然観察会：３回
野外活動：６回
生態調査：１回

参加者数
県内：75人
県外：　2人
計　：77人

樹種
ハナモモ

05 子 R-31　片上・伊部つながりの森実行委員会

みんなで育てよう伊部つながりの森の整備事業

岡山県備前市

事業概要

「伊部つながりの森」は岡山市の㈱ティシーシーが森林所有者である伊部区有林管理会と協定を締結し、同社が社会貢献活動として森づくりを行うため設定した。この場所を活動の基地として平成25年に片上、伊部自治会及び㈱ティシーシーよる実行委員会を設立し森林作業だけでなく、森林を活用した体験学習に取り組み、本年で10年目である。備前市内４小学校５年生児童がともに森林体験（マツの植栽、シイタケ菌の植菌）、森の役目について学び交流を通じて親睦を高めた。伊部小学校５年生より森の出前授業の要請があり授業を行った。また、伊部つながりの森では、伊部つながりの森「夏遊び」及びおかやま森づくり県民基金イベントを開催した。また、地区行事の利用もあった。

事業成果

昨年に続き、つながりの森内の歩行困難の道をコンクリート舗装できた。また、備前市が赤松の再生の取り組みを開始し、伊部区有林会用地での再生イベントでは、当会も地拵えを実施し、参加した。

事業をよく知る関係者の声

・令和６年度には継続のための活動資金が課題となる。植栽から大きく成長した木々の手入れなどの作業内容へ変更が必要になってくるのではないか。

参加者の声

・ドリルを使用したシイタケの植菌が一番印象深い。植樹は指導者に手伝ってもらい、言われたとおりするのが精一杯だった。（小学５年生）
・野外授業の提供はありがたい。さらに継続をして森についての認識を学ばせたい。（教師）

伊部つながりの森で「夏遊び」を８年ぶりに開催

植樹指導

アカマツ（桃太郎松）を植樹

つながる森にて巣箱作り

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.2ha
植付本数：310本

参加者数
県内：215人
計　：215人

樹種
ヤマザクラ、アカマツ（抵抗性：桃太郎松）

05 子 R-32　東広島市立高屋西小学校PTA

次世代に向けたきせつえん再緑化事業

広島県東広島市

事業概要

当校には約1,300㎡の植物園「きせつえん」がある。開設時は当時の校長と植物学者の博士が話し合いを行い、園内の木々の選定を行ったと伝えられている。開設以来大掛かりな手入れは行われていないため樹齢も高くなっていた。そこで本事業では、次世代の子どもたちのために活気ある「きせつえん」となるよう、以下を実施した。①雑木を除伐、②四季を通じて見ごろを迎える樹木を選定（14種）し植樹、③樹齢が高く安全でない木を除伐、④土留めの崩壊部分の修繕。

事業成果

「きせつえん」開園以来初の大掛かりな手入れということで学校、PTA、地域の方が目を向ける良い機会となった。今後の維持管理の話し合いや、子どもたちにどうやったら自然とふれあってもらえるかなどの意見交換ができた。

事業をよく知る関係者の声

・学校予算だけでは維持できない「きせつえん」をきれいにしていただき感謝している。（校長先生）
・開園以来初の手入れが行われとても良かった。（地域の方）

参加者の声

・植樹の際に、木の説明や土の作り方、今後この木はどのように成長していくかなどの説明を行ってもらってとても勉強になった。（４年生児童）
・木を持ったことがなかったが、初めて持った。とても重かった。（４年生児童）

高齢樹木の除伐

重機による土留め補修及び植樹準備

樹木などの説明授業

14種、27本の選定木を植樹

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.13ha
植付本数：27本
下刈面積：0.07ha
除伐面積：0.01ha

参加者数
県内：121人
計　：121人

樹種
ソメイヨシノ、ヨウコウサクラ、オオシマザクラ、カワヅサクラ、ノムラモミジほか

05 子 R-33　(特非) ITAL

どんぐりを育てる秘密基地

熊本県人吉市

事業概要

令和２年熊本豪雨被害の風化防止と里山の風景を未来の子どもたちに継承するために、どんぐりを育て植樹活動を行う。主な活動は以下のとおりである。①どんぐりを育てる苗床の整備と発芽したどんぐりの植え替え作業、②どんぐり貯金箱設置、③植樹活動、どんぐりの実から苗木を育て、植樹を実践する体験型環境教育。

事業成果

苗の植え替え作業は本来の時期では無かったがしっかりと根づいた。どんぐり貯金箱を設置したところ小さな子どもも参加でき、多くの人に知ってもらうきっかけとなった。また植樹活動では、植え替えた青井阿蘇神社の苗だけでは足りず、南稜高校よりクヌギの苗200本を提供していただき植樹できた。植え替え作業に参加していただいた方が友だちを誘って植樹活動に参加していただくなど、少しずつ広がりが見えはじめた。

事業をよく知る関係者の声

・人吉球磨地域のような田舎の子どもであっても、山に行き木を植える体験はなかなかない。実を植え、苗木に育て、植樹をすることで、生命の不思議を間近で体験し、土の感触や匂いなどに触れる経験により五感を磨くことができる。より多くの子どもたちに体験してほしい。(30代・男性教諭)

参加者の声

・植樹をするどんぐりの苗木は葉っぱが茶色で枯れていた。植えることで根をはり緑の葉っぱが出てくると初めて知った。(30代母・子ども２名と参加)
・はじめはシャベルの使い方が分からず穴を掘るのに苦労したが、だんだん慣れて楽しかった。また、ぜひ参加したい。(男子小学生)

苗床の整備しどんぐり苗を植え替え

どんぐり拾い

どんぐり貯金箱設置

クヌギを植樹

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.2ha
植付本数：230本
下刈面積：0.1ha
作業道整地：100m
苗植え替え：30本
どんぐり拾い：200個

参加者数
県内：69人
計　：69人

樹種
マテバシイ、クヌギ

05 子 R-34　奈多狩宿住吉海岸の松林を守る会

未来につなぐ松林再生事業～小学生と共に～

大分県杵築市

事業概要

放置され荒廃化した海岸松林を整備し、多くの人々が将来にわたり環境・観光・健康資源として利活用できる海岸林にする。主な活動は以下のとおり。①雑木の除伐やマツの間伐により空き地となった松林内の抜根及び整地作業、②地元小学生や地域住民、市内外の賛同者などと松くい虫抵抗性松苗1,150本の植樹、③小学生へ緑の野外学習としての環境教育、一般参加者へ森林を育てるための技術指導など、④松林内で高校生やインターナショナルスクール生等による松葉かきで松露の発生など生態系の保全、年３回の松林内の下草刈り作業で景観保全。併せて海岸砂浜もプラスチックごみなどの収集を実施。

事業成果

雑木の除伐後の切り株を重機により抜根及び整地作業を実施したことで、安全にスムーズな作業ができるようになった。植樹の植え穴掘りや植付作業も効率よくでき、下草刈り作業も作業時間の短縮を図ることができた。

事業をよく知る関係者の声

・継続した活動によりきれいなった松林の中で、雑木やグミ、カズラなどの生茂っていた場所は多くの切り株が残り、下草刈り作業や今後の植樹の妨げになると気になっていた。今回の事業できれいに整地でき良かった。今後も継続した植樹と広い面積で大変ではあるが、下草刈り作業や間伐など維持管理に取り組んでもらいたい。(60代自治会役員)

参加者の声

・初めてマツを植えて楽しかった。これから大きく育つのが楽しみ。(小学生男子)
・緑の野外学習でマツやほかの木のいろいろなことを教えていただいた。(小学生女子)

重機による抜根及び整地作業

小学生へ植樹指導

高校生ボランティアと一緒に植樹

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.9ha
植付本数：１,150本
下刈面積：30ha
抜根及び整地：３ha
松葉かき：３回
緑の野外学習：２回

参加者数
県内：296人
県外：　30人
計　：326人

樹種
抵抗性クロマツ

馬事公苑子どもの森づくり活動

鹿児島県南九州市

事業概要

子どもたちが森林内で楽しく遊び、林業体験活動を行う中で森林・林業への理解を促進するための活動を実施。主な活動は、①植樹、つる切りなどの保育作業の体験活動、②森林内を散策しながら森林の働きなどを学ぶ活動、③スギ材を使用した木工教室、④歩道整備、施設を案内するサイン整備、「こどものいえ」の建設。

事業成果

植樹後の下刈り、つる切り及び補植など保育活動を中心に活動できた。また、施設を案内するサイン整備と「こどものいえ」を建設したことにより、子どもの森がより充実したものとなった。

事業をよく知る関係者の声

・放置されていた市有林が緑の募金事業を導入したことで見違えるようになった。市としても今後この森を生かせるような取り組みをやっていきたい。（南九州市長）

参加者の声

・統一活動日に参加。子どもたちは、新鮮な活動ができて貴重な体験となった。可能ならば引き続き継続して開催してほしい。（統一活動日参加者）

ヤマザクラを植樹

木工教室ではスマホ、リモコン入れを作成

サイン整備（子どもの森とミツバチの森の分かれ道）

統一活動日に参加した地元の児童クラブの皆さん

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：15本
下刈面積：0.5ha
除伐面積：0.5ha
森林資源活用：0.4㎥（歩道整備、横断工設置、木工教室、こどものいえづくり）

参加者数
県内：54人
計　：54人

樹種
ヤマザクラ

学校環境緑化モデル事業

緑の募金では、「ローソン緑の募金」並びに㈱ローソンの募金寄付により都道府県緑化推進委員会推薦事業として「学校環境緑化モデル事業」を実施しています。

05 学 R-01　（公社）北海道森と緑の会

学校環境緑化モデル事業

北海道札幌市立幌西小学校

事業概要

令和７年度の開校100周年記念事業の一環として記念植樹及び樹木環境整備事業を行った。植樹セレモニー当日は全校児童で校庭に集まり、校木であるポプラの植樹をお祝いするために児童会が司会進行を行い、全校で校歌を合唱した。ポプラに大きく育ってほしいという気持ちを込めて歌い、100周年に向けた気持ちづくりができた。

事業成果

校歌に校木である「ポプラ」が出てくる。しかし、現在本校の敷地内にはポプラは植えられていなかった。開校100周年に向けて、校木であるポプラを植樹したことで、学校への愛着や愛校心を生むことができた。また、幌西の森が豊かになり、四季折々の美しい自然にふれることでより良い環境を守り、これから大切にしていくことで自分たちの学校を創造していこうとする心を育むことができた。

事業をよく知る関係者の声

・セレモニーの中で、ローソンの方からご挨拶いただいた時に、子どもから「よく行くローソンで、こんなことをやっているんだ。」と声が挙がった。驚きとうれしさの気持ちから出た歓声だった。このようなつながりがたくさん生まれることで、学校だけでなく家庭や地域も一緒になって、子どもたちを見守る形へと進んでいくのではないかと新しい可能性を感じた。

参加者の声

・子どもたちの表情がとても明るかった。児童会長の「校木が帰ってきました。」という言葉がとても印象的だった。学校のシンボルである校木が戻ってくることが、実は子どもたちにとってはとてもうれしいことだったのではないか。
・全校合唱の校歌もグラウンドに響き渡り、とてもすてきだった。参加していた地域の方々も懐かしさと後輩の頼もしさに聞き入っている様子であった。

植樹セレモニー

植樹セレモニーは児童会が司会進行

校木であるポプラなどを植樹

事業看板と記念撮影

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.026ha
植付本数：26本
イベント：１回

参加者数
学内：890人
学外：　50人
計　：940人

樹種
ポプラ、ヤマグワ、ヤマボウシ、ニシキギ、コデマリ、ドウダンツツジ

学校環境緑化モデル事業

北海道岩見沢市立北村小・中学校

事業概要

小学校・中学校が一貫校としてスタートを切る記念、シンボル事業として、エゾヤマザクラ、アカエゾマツの記念植樹を行った。この緑化活動を通じ地球温暖化防止などの環境問題を考えることにつなげていく。

事業成果

緑豊かなまちづくりとかけがえのない木々を守り育てる気持ちを養うことができた。また、地球温暖化や森林破壊などの環境問題について、意識を強めることができた。

事業をよく知る関係者の声

・新しい木が２本も増えたことで、緑豊かな景観へと変わり、新たな出発の良い門出となった。代表の子どもたちは、植樹の体験をすることができ貴重な経験となった。
・植樹段階では青々とした木々が春には花を咲かせ、秋には葉を落とすなど、四季折々の姿を見ることが楽しみである。

参加者の声

・木の成長を見守り、今後は環境問題にも目を向けたいと思う。
・木の成長とともに、自分の成長や時間の経過を感じるきっかけにしてほしい。

代表の子どもたちが植樹を体験

アカエゾマツを植樹

代表児童・教職員など170人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：３㎡
植付本数：２本
イベント：１回

参加者数
学内：150人
学外：　20人
計　：170人

樹種
エゾヤマザクラ、アカエゾマツ

05 学 R-03　（公社）青森県緑化推進委員会

創立110周年記念及び石鉢緑の少年団結成記念「石フワリンの森再生事業」

青森県階上町立石鉢小学校

事業概要

児童が自然の中で遊んだり学んだりすることで、より身近に自然を感じ、健やかな心・頭・体・生活の成長につなげていくことを目的とし、本校の児童が、より優しく、よりたくましく教育目標「太陽のように輝く子」のように育ってほしいという願いを込め、以下を実施した。敷地内の一角にある「石フワリンと石くまオンの住む森」の環境整備、校庭のサクラの枝の剪定、募金PR看板の設置。

事業成果

「石フワリンと石くまオンの住む森」の環境整備の実施により、教室からも様々な動植物を観察することができた。今まで教師が連れて行かなければ行かないような森であったが、児童が自ら森に行って遊ぶようになった。栗を拾ったり、キツツキを観察したりし、それをうれしそうに教えてくれた。子どもの笑顔と優しさが増えた。校庭のサクラは、春に全校写真を撮る自慢の木でさらに自慢になった。

事業をよく知る関係者の声

・子どもたちが毎日ふれる自然が「きれい」になり、四季の変化などの子どもの心に感じさせるものがはっきり分かるようになった良い事業だ。
・もともとあった石や木の根など、児童が走り回ることも考えると、安全性をもっと高める必要があった。
・より利用価値の高いものにするためには、２年に１度程度の実施にし、もう少し拡大した事業にしてほしい。

参加者の声

・「とてもきれいになってうれしいし、みんなで遊べるのが楽しい。」「植物には、様々な種類があるんだね。どんな花が咲くのかな。」「キツツキがきていたよ。森は動物にとっても宝なんだね。」（児童の声）
・子どもたちにとって、自然環境はとても大切だ。整備いただき、教室では得ることのできない子どもたちの学びの場や遊びの場になった。ありがたいことだ。（教育委員）

「石フワリンと石くまオンの住む森」の環境整備実施前（左）と後（右）

完成式典

代表児童・教職員など84人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：３本
下刈面積：0.25ha
除伐面積：0.25ha
イベント：１回

参加者数
学内：77人
学外：　7人
計　：84人

樹種
ドウダンツツジ、ヨシノザクラ、テマリカンボク

05 学 R-04　（公社）岩手県緑化推進委員会

学校環境の緑化を通じての環境教育の推進

岩手県八幡平市立田頭小学校

事業概要

学校敷地内の樹木が大きく成長したことや、講堂への採光や学級農園の日当たりを良くするために、以下の環境整備を実施した。①講堂付近のサクラ10本と、学級農園付近のナナカマド11本、シダレザクラ１本の枝払いや剪定、②今回の事業の記念として、校庭にサクラ２本、庭園にイロハモミジ１本を植樹。

事業成果

学校敷地内の樹木の枝払いや剪定をしていただいた結果、景観がすっきりとした。講堂内にもより日差しが入るようになり明るくなった。また、学級園への日当たりも良くなったことで、植えた種や苗の成長も良くなり、児童が意欲的にお世話活動を行っている。台風などの強風で枝が折れる心配も減り、安心して生活できる学校環境を整備できた。

事業をよく知る関係者の声

・学校予算だけでは実施できない環境整備作業を本事業の助成金で実施することができたことに感謝する。この事業をきっかけに、さらに環境整備が必要な場所も明らかになり、各所へ協力を要請しながら計画的に学校環境の緑化整備を推進していきたい。また、地域の植樹作業への児童の参加も継続していきたい。

参加者の声

・講堂脇のサクラと学校農園脇のナナカマドの剪定をしていただき、明るくすっきりとなり、日当たりもとても良くなった。イロハモミジとサクラの記念樹もありがとうございます。この記念樹に、僕たち田頭小学校児童の学ぶ姿や遊ぶ姿、運動する姿を見せていき、この記念樹と共に助け合いながら成長していきたい。これから、この記念樹の成長を見るのも楽しみだ。（６年児童会長）

高木のサクラ、シダレザクラ、ナナカマドは剪定・枝払いを実施

記念植栽

児童・教職員など73人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.003ha
植付本数：３本
枝払面積：0.055ha
イベント：１回

参加者数
学内：65人
学外：　8人
計　：73人

樹種
植樹：サクラ、イロハモミジ
枝払・剪定：サクラ、シダレザクラ、ナナカマド

05 学 R-05　（公社）岩手県緑化推進委員会

盛岡市立仁王小学校　創立150周年記念環境整備事業

岩手県盛岡市立仁王小学校

事業概要

仁王小学校創立150周年を祝して記念事業を実施し、本校の歴史と伝統を振り返り、今後の本校の進む方向性を確かなものにするとともに、記念事業の一環として環境整備事業を行った。中庭の緑化及び整備を通じて、児童への環境教育に資するとともに、児童はもとより教職員や保護者、地域を始めとする関係者の本校への誇りと愛着をより一層の育む機会となった。

事業成果

殺風景で自由に出入りすることができなかった中庭が、本事業での整備を通じて、休み時間などを利用して自由に出入りすることが可能となった。多くの植物などに触れることもでき、環境教育の面からの効果や、心情的な面からも癒しの空間となっている。また、記念事業の一環として整備したことで、児童及び教職員、保護者などが本校への愛着をより一層育むことができる貴重な事業となった。

事業をよく知る関係者の声

・今回創立150周年記念事業の一環として本事業を推進するにあたり、地域や関係者から多くの協賛金に御協力いただいた。これは、本校が改めて地域の支えによって成り立っていることを確認する機会であり、本校が今後一層地域とともに歩み続けることを期待するものである。また、子どもたちも木々や植物と同様に健やかに成長し続けることを願いたい。（創立150周年記念事業協賛会会長）

参加者の声

・創立150周年の節目で記念事業として中庭整備を行ったことは意義深い。子どもたちにはこの中庭とともに仁王小学校で学ぶ喜びや誇りを感じてほしい。（PTA会長）
・中庭がとても明るく華やかになりとてもうれしい。中庭で友達と仲良く遊んだり、植物を観察したりできることがとても楽しみ。これからも全校でこの素敵な中庭を大切に使っていきたい。（学校児童会計画委員）

完成式典

代表児童より今後の中庭活用抱負の挨拶

シランを記念植栽

児童・教職員など25人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：100㎡
植付本数：739本
除草面積：250㎡
除伐本数：４本
張芝面積：100㎡
切石据付：20個
イベント：１回

参加者数
学内：20人
学外：　5人
計　：25人

樹種
イロハモミジ、エゴノキ、ウワミズザクラ、ハウチワカエデ、ヤマボウシほか

05 学 R-06　（公社）宮城県緑化推進委員会

花いっぱいの町の花いっぱいの学校

宮城県柴田町立柴田小学校

事業概要

既存の学校花壇の老朽化が進んで、横木が腐食してもろくなっていたため、古い花壇を取り壊し、石と階段でできた花壇「わくわくガーデン」を整備した。「わくわくガーデン」には、町の特産品であるユズやブルーベリー、アーモンド、ハーブなどを植えて、１年中楽しめるように工夫した。

事業成果

校舎と体育館の前にたくさんの花が植えられ、学校の雰囲気が一段と明るくなった。冬の花を全校で植栽したが、花壇の名前のとおり、みんな「わくわく」しながら活動していた。休み時間は、花壇のそばの階段で日向ぼっこをしてくつろいでいる姿も見られる。また、校舎前に３か所の階段が設置されたことにより、校舎から校庭への児童の動線が確保された。

事業をよく知る関係者の声

・果樹の収穫は、将来につながる活動で、子どもたちが伝統として引き継ぎながら活動をしていってほしい。（学校運営協議会委員）
・校舎前にできた３か所の階段は、子どもたちの安全な避難経路を確保する上でとても大切で、安全・安心な学校づくりとしてすばらしい取り組みである。（学校評議員）

参加者の声

・ブルーベリーやユズ、アーモンドを植えたので、それを収穫するのが楽しみ。（５年児童）
・花壇の周りを歩くと、チョウチョやミツバチが飛んでいて、何か楽しくなる。（１年児童）
・階段や大きな石があるので、そこに座っていると気持ちが良い。（４年児童）

校舎前の「わくわくガーデン」

完成式典

児童・教職員など68人が参加

植えられた木の近くには事業看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.015ha
植付本数：30本
イベント：１回

参加者数
学内：60人
学外：　8人
計　：68人

樹種
サクラ、ユズ、ブルーベリー、アーモンドほか

05 学 R-07　（公社）宮城県緑化推進委員会

仙台市立生出小学校創立150周年記念緑化事業

宮城県仙台市立生出小学校

事業概要

仙台市立生出小学校150周年記念の一環として、記念緑化事業に取り組んだ。活動は以下のとおり。①記念樹を150周年のシンボルとし、愛校心を高めるとともに自然を愛する心を養う、②樹名板の設置（150周年記念プレート）により、記念樹が緑の基金によって植樹されたことを後生に残す、③枝落下の危険がある樹木の剪定により、児童が安全に樹木の下で遊べるようにする、④学校花壇の整備を行い、緑に囲まれた環境をつくる。

事業成果

植樹記念式典は児童の心に残る式典となった。児童たちは記念樹の成長を見守ったり、記念プレートをのぞき込んだりしており、愛着を持っていることが伝わる。樹木の剪定により、安全性が高まり、空間も広がり、見通しが良くなったことで、樹木の下で遊ぶ児童も増え、憩いの場となっている。花壇の整備で、花を愛でる児童が増えた。

事業をよく知る関係者の声

・150周年記念にふさわしい植樹式典だった。記念樹として選んだハナミズキは「永続性」の意味があるとのことで、これからも親子で見守っていきたい。（PTA役員）
・150周年記念プレートがあることにより伝え続けていける。（同窓会長）
・強風や大雨で樹木の大枝が落下し、児童のケガが心配であった。剪定により安心できた。（学校運営協議会委員）

参加者の声

・記念植樹式典は初めて参加した。この木が150周年のシンボルであり、みんなで大切にしていくことを後輩たちに伝えていきたい。（６年生児童）
・樹木の剪定により安全に児童が遊べるようになった。プール周辺の樹木の剪定は、プール内に落ち葉や虫が以前より入らなくなったので、とても良かった。（高学年担任）
・自然を大切にする心が育つと思う。（保護者）

ハナミズキ横に設置された樹名板の除幕式

代表児童らが植樹に参加

枝落下の危険がある樹木の枝を剪定

代表児童・教職員など141人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：１本
イベント：１回

参加者数
学内：118人
学外：　23人
計　：141人

樹種
ハナミズキ

学校環境緑化モデル事業

宮城県涌谷町立月将館小学校

事業概要

本事業は、学校敷地内の緑化活動を目的として行われた。具体的な活動としては、次の２点である。①校庭の東西にあるプラタナスやトチノキなど、背の高い樹木の手入れを行う、②緑が少なかった校庭南側へ新たに植樹場所を整備し、実のなる樹木を植える。

事業成果

高所のため手入れが困難で伸び放題だったプラタナスやトチノキの剪定で、校庭の樹木がすっきりとした。また、殺風景に感じられていた校庭南側に植樹をしたことで、緑に囲まれたすばらしい学校環境となった。児童は、季節を感じられる樹木、学習にも役立つ樹木を植樹したことで、樹木の成長を楽しみにしている様子がうかがえる。さらに、様々な樹種を植樹したことで、樹木への興味関心が高まった。

事業をよく知る関係者の声

・緑の募金という一人一人の優しい気持ちが、大きな形となり児童のための緑化事業につながっていることがすばらしい。植樹された木々が、児童と一緒に成長していくことが楽しみだ。（PTA会長）
・㈱ローソン様の「緑の募金」により、月将館小学校みんなの森が完成し、すてきな式典に心が温まった。森も校木と同様に子どもたちの成長を見守ってくれるだろう。森の適切な管理が大変かもしれない。（PTA本部役員）

参加者の声

・「緑の募金事業」完成式典の一環として、みんなの森の植樹作業を環境委員のみんなと一緒にできて良かった。在校生のみんなに世話を頑張ってほしいと思う。（６年児童）
・植樹をしながら、この木は何年たったら校木プラタナスみたいなでっかい木になるんだろうと思った。早く実を付けてみんなを喜ばせてほしい。（６年児童）

７種類の樹木を植え、高木のプラタナスやトチノキは剪定を実施

植樹の様子

代表児童・教職員など157人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.016ha
植付本数：９本
イベント：１回

参加者数
学内：151人
学外：　6人
計　：157人

樹種
シラカシ、コナラ、スモモ、ハナカイドウ、ハナモモほか

木にふれあい　木に学ぶ

秋田県大仙市立南外中学校

事業概要

学校敷地内（旧テニスコート）での緑化の取り組みを通して、環境保全の意識向上と地域の自然環境への関心を高める。作業は以下のとおり。①サクラ（ジンダイアケボノ）20本 の植樹、②サクラ・スギなど10本の整枝作業を実施した。

事業成果

今回の取り組みにより、自然環境を保全する意識と、豊かな自然に恵まれた地域への愛着を高める機会が得られた。身近な校庭に生徒全員が植樹したことで樹木への愛着が増し、樹木を大切に育てる意識が醸成された。

事業をよく知る関係者の声

・現在は使用されていない旧テニスコート脇にサクラを植樹することにより、樹木の成長を間近に観察できるようになった。また､将来サクラの花が咲く頃には地域の方々にもご来校していただき、憩いの場として活用されることを期待したい。

参加者の声

・みんなと協力してサクラを植えることができた。これからも地域の緑を大切にしたい。（中学１年生）
・自分たちの手で緑を増やせて良かった。また、自然の大切さについて、あらためて考えることができた。（中学３年生）

完成式の様子

サクラを植樹

生徒・教職員など66人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.005ha
植付本数：20本
整枝本数：10本

参加者数
学内：61人
学外：　5人
計　：66人

樹種
植樹：サクラ
剪定：スギ

学校環境緑化モデル事業（果樹畑整備事業）

山形県鶴岡市ちわら菜の花こども園

事業概要

園庭の緑化を推進するとともに、園児に対する食育の一環とするため、５種（カキ、クリ、リンゴ、サクランボ、ブルーベリー）計17本の果樹を植樹した。また、果樹を育てる過程で育ち方を観察することにより、植物の成長に興味を持ち、また収穫までの苦労を知ることで食物を大事にする心を育む。

事業成果

樹木がなく殺風景な園庭に果樹を植樹したことで、景観が良くなった。毎日の水やりを行うことで、植物を観察する動機付けとなった。植樹により持続可能な開発目標（SDGs）の達成に多少なりとも貢献できた。

事業をよく知る関係者の声

・今はまだ小さな苗木だが、水やりなどの管理をしっかりと行い、大きく育ててほしい。
・果樹は病害虫対策が大切になるので、りっぱな果実を育てるには苦労もあるが、園児と共に頑張ってほしい。
・野菜のようにすぐに収穫はできないが、収穫できる日が待ち遠しい。

参加者の声

・早く実がなってほしい。（園児）
・早く食べてみたい。（園児）
・水やりを頑張りたい。（園児）
・小さな苗木のため、しっかりと育てられるか心配。（職員）
・何年後か、果樹林となった景色を見てみたい。（職員）

記念植樹

５種の実のなる木を植樹

園舎の近くに看板を設置

園児・教職員など40人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：約0.09ha
植付本数：17本

参加者数
園内：34人
園外：　6人
計　：40人

樹種
カキ、クリ、リンゴ、サクランボ、ブルーベリー

ふれあいの森整備事業

福島県矢吹町立三神小学校

事業概要

東日本大震災以降、環境整備ができなかった「ふれあいの森」を子どもたちが自然にふれあえるような場にすることを目的として事業を実施した。主な活動は、枝落としや遊歩道の整備（除伐、ロープ設置）。

事業成果

３年生では、年に２回、春と秋に森林環境学習を行っている。春には「ふれあいの森」の奥には行けなかったが、秋には奥まで散策することができるようになった。木の名前を調べてネームプレートを作ったり、森にいる鳥や虫などの観察を行ったりすることができる。環境を考える学習にも広がる。

事業をよく知る関係者の声

・福島県森林・林業・緑化協会の方に相談しながら、書類作成や式典の準備をスムーズに進めることができた。整備については、西白河森林組合の方と打合せを行い、現場を確認しながら進めることができた。初めて全校生で散策した際、子どもたちは歩けるようになった遊歩道に感激し、とてもうれしそうだった。

参加者の声

・ふれあいの森を整備してくださり、ありがとうございます。今までは、草が多く、狭い範囲でしか散策できず、近くにたくさんの自然があるのに、思い切り活動することができなかった。今回、整備していただいたことで、より多く自然にふれあうことができる。これから、様々な活動で、ふれあいの森を活用していきたい。（６年児童）

整備された「ふれあいの森」の前で完成式

サルスベリを記念植樹

代表児童・教職員など132人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：１本
遊歩道除伐面積：0.34ha
遊歩道ロープ設置：290m
イベント１回

参加者数

学内：127人
学外：　5人
計　：132人

樹種

サルスベリ

校庭の樹木整備事業

福島県大玉村立大山小学校

事業概要

学校創立150周年記念と関連付けて、学校環境の整備を実施。主な活動は以下のとおり。①ジュウガツザクラの植樹、②高木剪定（サクラ11本、クヌギ１本、エノキ１本、ハナミズキ３本、モクレン１本、ユズリハ１本、ツバキ２本、モミジ１本、カリン１本、）、低木剪定（ユキヤナギ１本、ドウダンツツジ２本、ヒラドツツジ６本、アオキ１本）。

事業成果

樹木がきれいに剪定され、学校環境が整った。児童の環境に対する意識、特に緑化に対する意識が高まった。記念樹としてジュウガツザクラを植樹したことにより、樹木に対する愛着が芽生えた。ローソンの緑化貢献事業として取り組んでいる緑の募金から、今回の経費が支出されていることを知り、人々の善意が環境問題の改善につながると気づいた。

事業をよく知る関係者の声

・無駄な枝が抜かれて樹形が整い、栄養が枝に集中し、良い花が咲く。（記念植樹（ジュウガツザクラ）、樹木剪定作業を行った園芸業者）
・学校創立150周年の良い記念となった。（記念事業の看板を製作・工事を行った施工業者）

参加者の声

・ローソンがこうした事業にお金を出していることを初めて知った。自分も今度募金したい。
・校庭の木が本当にきれいになってうれしい。
・二回咲くという珍しい桜の花を見てみたい。

（参加した児童）

完成記念式典

児童が向かっている方向に植樹や剪定された木々

ジュウガツザクラを記念植樹

児童・教職員など52人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：１本
剪定本数：32本
イベント１回

参加者数
学内：47人
学外：　5人
計　：52人

樹種
植樹：ジュウガツザクラ
剪定：サクラ、クヌギ、エノキ、ハナミズキ、モミジほか

05 学 R-13　（公社）群馬県緑化推進委員会

SKGs -Sustainable Komagatasho Goals（持続可能な駒形小の杜　再生事業）

群馬県太田市立駒形小学校

事業概要

40年ほど前の開校当時に植えた木々が大きく成長して、密集し、蛇や害虫のすみかになっている。また、大量の落ち葉の発生や落木の危険などの恐れが出てきている。本事業では、伐採や剪定、植樹を積極的に行うことで、いつまでも人に優しい自然環境を持続していくという、正しい環境緑化について児童が実体験として学ぶ機会をつくる。

事業成果

「木を伐ることは自然破壊だ!」などと誤解している子どもたちに、本事業を頭髪に例えて話したことで、伐採や剪定などの必要性を理解させることができた。また、安心安全につながる見通しの良い学校環境を実感させることができた。環境緑化に関わる多くの方々の姿を間近で目にしたことでキャリア形成の一助にもなったと考える。

事業をよく知る関係者の声

・樹木を伐採、剪定することで見通しが良くなり、不審者対応の意味からも安心安全な学校となった。
・「伐りすぎて木がかわいそうだ」「CO_2を吸収する木を伐ることは環境に優しくないのではないか」などの意見が寄せられた。学校だよりや口頭で、緑を育む上では伐採や剪定も必要であることを伝え、御理解いただいた。

（保護者）

参加者の声

・今回の伐採や剪定により、学校全体が明るくなった気がする。また、毎年大変だった秋の落ち葉掃除も楽になると思う。今回の植樹で駒形小のシンボルツリーであり、学問の木とも言われるカイノキが３本となった。その木に見守られ、勉強を頑張りたい。（児童代表）

カイノキを記念植樹

伐採前（左）、伐採後（右）

看板を設置

児童・教職員など366人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：１本
伐採・剪定本数：110本
イベント：１回

参加者数
学内：354人
学外：　12人
計　：366人

樹種
植樹：カイノキ
伐採・剪定：マツ、キンモクセイ、トチノキ、サザンカ、シュロほか

藤岡特別支援学校　いこいの杜緑化事業

群馬県立藤岡特別支援学校

事業概要

開校10周年に合わせて、校舎北側にある雑種地に４品種合計20本のオリーブの苗を植樹し、近い将来的に「オリーブ園」として活用できるように土壌改良や整地、緑地化を行った。「オリーブ園」は生徒の学習活動の拠点として、さらに、地域の方々にも憩いの場となるよう遊歩道やベンチなどを順次整備を進め、本校生徒と地域の方々との交流の場として有効利用できるようにする。

事業成果

生徒の環境学習並びに果樹の栽培学習、収穫した果実の利用方法、農産物の６次元化についての学習など、多岐にわたる学習活動を行うことができるようになった。造園や木工の学習では、遊歩道の整備や休憩施設やベンチなどの製作を手掛けることも可能となった。また、本校生徒と地域の方々とのコミュニティの場として活用されることが期待される。

事業をよく知る関係者の声

・校舎北側にある雑種地を有効活用するために整地し、オリーブの苗を植樹したことにより、景観が良くなった。生徒が授業内でオリーブの果実の収穫作業や管理作業などの体験学習を行えるようになった。遊歩道などの整備を進め、地域の方にも快適に利用していただけるようなオリーブ園にし、地域の方と生徒とのコミュニケーションの場として活用していきたい。（校長、教職員）

参加者の声

・これまでは植物などを栽培することができないような空き地で、授業では単純な石拾いや除草作業ぐらいの活動だった。今回の事業でオリーブを植樹し「オリーブ園」となったことで、生徒ひとりひとりが「オリーブが元気に育つように」と、思いやりの心を持ってオリーブの栽培管理や環境整備作業に取り組めるようになり、とてもうれしい。（生徒）

令和５年10月２日にオリーブ４品種を植栽

植栽後のオリーブ

生徒・教職員など41人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：10a
植付本数：20本
整地面積：10a
イベント：１回

参加者数
校内：37人
校外：　4人
　計　：41人

樹種
オリーブ

05 学 R-15　（公社）群馬県緑化推進委員会

学校環境緑化モデル事業

群馬県富岡市立妙義小学校

事業概要

子どもたちの自然環境への理解や興味関心を広げ、感性や表現力、生きる力の向上を目的とし、主に以下の活動を実施した。①ミカン３本の植樹：植樹後は、環境ボラティア委員を中心に水やりや除草など周辺の環境整備を定期的に行い、全児童でミカンの木の成長を見守っている、②ヒマラヤスギ･マツの剪定：枝葉が大きくなっているため、子どもたちの安全面を考え、剪定を行った。

事業成果

ミカンの植樹経験は、木々（自然）と私たち（人間）との関わりを考え、持続可能な社会（私たちの未来）とは、どのような社会であるか、子どもたち自身が考える教育の機会となった。また木の成長を見守る活動を通して、モノを大切にしようとする心を育てるきっかけとなった。ヒマラヤスギ・マツの剪定により、木の成長を遅らせ、美しい樹形に保つことができた。

事業をよく知る関係者の声

・パンジーが植えられていた妙義小学校の庭園に、ミカンの木が３本加わり、さらに自然あふれるきれいな庭園になった。
・ヒマラヤスギが大きく成長し、枝葉が公道まではみ出ている状態であった。強風時は枝の落下の可能性があり近くを通ることが危険だと感じていたが、今回の剪定で安心して道を通れるようになった。

参加者の声

・大きなミカンの木に成長するよう、水やりなどの世話を子どもたちが積極的に行ってほしい。
・ヒマラヤスギ・マツを剪定し、緑豊かなきれいな妙義小学校であると感じた。
・今回の事業を通じて、自然について深く考える教育的意義のある活動にしてほしい。

植樹は授業内で全児童44名で行った

児童・教職員など32人が参加

剪定したヒマラヤスギ、マツ

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：３本
剪定本数：２本
イベント：１回

参加者数
学内：23人
学外：　9人
計　：32人

樹種
植樹：ミカン
剪定：ヒマラヤスギ、マツ

05 学 R-16　（公社）埼玉県緑化推進委員会

蝶の舞う学校に

埼玉県久喜市立本町小学校

事業概要

本校の50周年を記念して、児童・職員・保護者・地域の記憶に残るよう、記念樹としてミカンの木を植樹した。ミカンの木を植えることで蝶を集め、隣接する本校のビオトープの自然をより豊かにすることがねらいである。また、植樹と併せて、校地内の緑化環境を整えるため、伐採や伐根を実施した。

事業成果

１学期に植樹を行い、11月に完成記念式典を行った。全校児童が参加して式典を行ったため、「50周年の木」として強く印象に残った。また、植樹後にミカンの木に蝶が集まっている。隣接するビオトープの方にも飛んでいっており、本事業のねらいである「ビオトープの自然をより豊かにすること」「蝶の舞う学校にすること」に向けてより大きな効果が期待できる。

事業をよく知る関係者の声

・校地内の自然環境を整えるための予算などの関係で断念していたが、本事業により着手できなった伐採・伐根を進めることができ、環境を整えることができた。また、開校50周年記念行事ともタイアップし、「50周年記念樹」としてミカンの木を植えたことで、児童や保護者・地域への意識付けにもつなげることができた。

参加者の声

・ショベルカーで木を植えるところを初めて見たので、驚いた。総合的な学習の時間の授業で、しかけをつくってビオトープに生き物を集めたが、ねらいとする生き物が来た時にはとてもうれしかった。このミカンの木にいろいろな生き物が集まって、本町小の自然がもっと豊かになってくれると良いと思う。また、実際にミカンを食べてみたら、とてもおいしかった。来年も食べたい。（３年生児童）

記念樹ミカンの木をクレーンで移動

代表児童がミカンの木を植樹

代表児童・教職員など314人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：25㎡
植付本数：２本
除伐面積：250㎡
イベント：１回

参加者数
学内：310人
学外：　4人
計　：314人

樹種
ミカン

05 学 R-17　（公社）千葉県緑化推進委員会

創立150周年記念・学校緑化整備事業

千葉県白子町立南白亀小学校

事業概要

本校は、児童数125名の今年創立150周年を迎えた伝統校である。この150周年の節目に、サクラを植樹して生きた記念品を残し、子どもたちとその成長を見守っていくことを目的に本事業を行った。また、敷地外の道路までに枝が広がっていた大きな樹木５本の剪定を行った。

事業成果

創立150周年記念事業として、植樹することにより、子どもたちの樹木の成長を願う気持ちを、より高められた。式典の中で、事業が募金から成り立っているという説明を受け、日頃の募金と実際の活動との結びつきを感じることができた。また、剪定については、以前は職員が路上の落ち葉回収に、毎日多くの時間を割いていたが、その必要がなくなり、負担が軽減した。近隣住民から「学校の葉が敷地に入ってくる」といった声も無くなった。

事業をよく知る関係者の声

・150周年の節目に、子どもたちにとって記念となる植樹ができた。木々の成長を見守ることをとおして、自然・生命を大切にする心情を育み、木々とともに、健やかに成長してほしい。剪定は、木々の木陰が体育の見学者の待機場所になっていたので、枝を長めに残してもらって良かった。剪定した枝はすぐに緑の葉が付きはじめ、木の生命力・再生力を実感させることができた。（関係職員）

参加者の声

・植樹ができ、150周年の記念を学校に残せて良かった。この歴史とともに、自分たちも成長し、夢を叶え、将来満開の花を咲かせたい。卒業しても、学校に行ってサクラの成長を見守りたい。木の枝が切られたときは、少し寂しい感じがしたが、切った場所から枝や葉が付きはじめて驚いた。風で大きい木や枝が折れないか心配だったけれど、今は風が強い日も安心してグラウンドで遊べる。（児童）

完成式典

サクラを記念植樹

代表児童・教職員など149人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：20㎡
植付本数：２本
剪定面積：50㎡
剪定本数：５本
イベント：１回

参加者数
学内：140人
学外：　9人
計　：149人

樹種
植樹：サクラ
剪定：ケヤキ、プラタナス

05 学 R-18　（公社）千葉県緑化推進委員会

150周年記念　ビオトープ 寒川憩いの泉再生事業

千葉県千葉市立寒川小学校

事業概要

前庭の老朽化した池を再生させ、子どもたちの憩いの場や自然観察の場とするために、PTAと協力して池の改修工事を行った。主な活動は、老朽化したフェンスの撤去、池の補修、ビオトープとしての流れや池の新設工事、周囲の植栽など。

事業成果

改修工事を行った結果、水の流れのあるビオトープが完成した。完成してから２か月程度だが、既に子どもたちの憩いの場となっており、休み時間にビオトープ周辺に集まって、水の音を楽しんだり、生き物を探したりする子どもたちがたくさんいる。子どもたちからは、「どんな生き物がいるのか」、「これからどんな生き物が集まってくるのか」などの発言が聞こえてきた。暖かい季節になり、生き物が集まってきたときに子どもたちがどのような反応をするのか、とても楽しみになるビオトープになった。

事業をよく知る関係者の声

・これまでの状態と比較すると劇的な変化を遂げたと感じる。子どもたちの関心をかなり集めているのが見ていて分かる。今後どのような生き物をビオトープに生息させるか検討し、子どもたちの情操教育にも役立つようなビオトープになってほしい。ビオトープは、完成後の維持管理が大切になるので、子どもたちのためになるような管理をしていく必要がある。（理科・園芸主任）

参加者の声

・学校に流れる川や池があるのがすごい。
・水の流れる音が聞こえるのが楽しい。
・水の中にはどんな生き物がいるのかな。
・春や夏になったらオタマジャクシやカエルは見られるかな。
・ヤゴは絶対に見つかると思う。

（子どもたちの声）

作業の様子

記念式典

記念植樹

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
ビオトープの制作
（小川：1.8m、池：1.8×２m）
植付本数：５本
イベント：１回

参加者数
学内：554人
学外：　32人
計　：586人

樹種
モミジ、ヤマボウシ、ハナミズキ

ビオトープ池整備工事

東京都青梅市立第七小学校

事業概要

150周年事業の一環で、児童が四季による自然の変化にふれながら、小曾木の自然に親しむ態度とともに、観察する力、環境を大切にする力を育むことを目的として、学校敷地内にあった池を新たなビオトープ池にするための池の内外の環境整備を行った。ビオトープ池作りは、専門家からの児童への講話を軸に進め、ビオトープの土は学区域内の休耕田から採取し、土の中で眠っていた「種」を復活させながら、生き物が自然と集まることを目指した。

事業成果

ビオトープ池内外の自然環境及び設備環境の改善により、ビオトープ池を軸とした本校の新しい環境学習を推進する計画が立てられた。また、専門家によるビオトープ池整備に対しての助言、２回にわたる児童へのワークショップにより、小曾木ならではのビオトープ池が完成し、さらに、児童のビオトープへの意識づけが大きく変化した。

事業をよく知る関係者の声

・良かったこととして、ビオトープ池が児童にとって良き学びの場になる可能性を秘めていること。そして、ビオトープ池に地元の休耕田の土を利用していることもあり、自然への興味関心だけでなく、地域への愛着にもつながることを期待している。課題としては、ビオトープ池の維持管理部分。人とコストとの両面について、地域として何か協力できたらと思う。

参加者の声

・自分たちで考え、作業して作ったビオトープ池をこれからもずっと大切にしていきたい。どんな植物が芽生えてきて、どんな生き物がやってきて、どんな生活や姿を見せてくれるのかを観察するのが今からとても楽しみ。（児童）
・休耕田の土を掘り起こし、200袋の土嚢袋に詰めて運んだのは大変な作業だったけれど、その分どのようなビオトープになっていくのか、今後が楽しみ。（児童）

専門家によるビオトープ池整備のワークショップ

意見を付箋に書き出してビオトープ池を構想

ビオトープになる予定の池に石と休耕田の土入れ

土（泥）の中に眠っていた種が発芽して草が成長

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.2a
植付本数：３本
下刈面積：２a
除伐面積：２a
イベント：６回

参加者数
学内：54人
学外：20人
計　：74人

樹種
ミカン、サンショウ、ジューンベリー

御成小学校九十周年記念緑化事業

神奈川県鎌倉市立御成小学校

事業概要

本校の90周年記念の事業として、中庭中心に緑環境を整え、枯れかかっていたシンボルツリーの植え替えを行った。主な活動は以下のとおり。①キリ５本の植え替え、②サツキ100本の植樹、③芝生整備、④遊歩道整備。

事業成果

創立90周年記念式典では、６年生が代表して参加し、運営を行った。三部制で、第一部は、御成小学校中庭リニューアル記念とシンボルツリーであるキリの植樹を行った。中庭は芝生を整備し、囲むようにサツキをきれいに植え、土が流れないよう遊歩道を設置したので、緑あふれるすてきな憩いの場となった。また、シンボルツリーの植樹によって、子どもたちにとって命をつなげる大切さを学習する機会となった。

事業をよく知る関係者の声

・90周年を機に、学校の緑を手入れすることができて良かった。特に、シンボルツリーである「キリ」が枯れかかっていたため、植樹して次の世代につなげられて良かった。また、子どもたち、卒業生にとって中庭は憩いの場である。整備されたことによってさらに気持ちの良い空間となった。

参加者の声

・本校のシンボルツリーは、校章のマークになっている「キリ」である。ここには最後の１本が植えられていたが、残念ながら枯れてきてしまった。そこで、昨年の春に花が咲いた後、種を採り、それを植木屋さんに大切に育てていただき、苗木となった。生き残った５本のうちの１本を中庭に植えた。この先、子どもたちと一緒に大きく育ってくれたらうれしい。そして、いつかすてきな花をまた咲かせてほしい。

緑化整備

完成式典でキリを植樹

整備された中庭

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：105本
芝生整備
遊歩道整備

参加者数
学内・学外：約100人
計　：100人

樹種
キリ、サツキ

仏向小学校60周年　校庭サクラ再生事業

神奈川県横浜市立仏向小学校

事業概要

横浜市立仏向学校の創立60周年記念事業の一環として、校庭側に並んでいた倒木の危険があるソメイヨシノの老木を伐採し、新しくソメイヨシノの苗木を植樹した。さらに、ソメイヨシノについての説明看板を設置した。

事業成果

植樹時には多くの児童が観察し、苗木に触れ、土をかける体験を通じて自然と親しんだ。たくさんの児童が集まり、事業者からも植樹についての説明をいただくことができた。植樹の様子は令和５年度の創立記念式でビデオ上映され、全校児童と共有された。成長過程を見守ることに期待が高まっている。

事業をよく知る関係者の声

・創立60周年に向け、記念植樹と位置付けることで児童の学校や地域に対する愛着をはぐくむことができる。今回植えたサクラを児童のみんなで大切に育ててほしいと願っている。卒業後にも児童が学校を訪れ、サクラの成長を見ることで自分の成長を感じたり、小学校のことを懐かしく振り返ったりする機会となってほしい。（地域代表者）

参加者の声

・植樹に参加して、自分たちで土をかけた苗木が大きくなるのを見ていけるのは、とても良い経験になる。これから毎日、木が育っていくのを見られると思うとわくわくする。（児童代表）
・仏向小学校を代表する木として、力強く育ってほしい。学校がもっと緑に囲まれて、成長していく木を友達と一緒に見守るのはすてきなことだと感じる。（児童代表）

倒木の危険があるソメイヨシノの伐採

ソメイヨシノを植樹

苗木の土かけを体験

代表児童・教職員など50人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：１a
植付本数：３本
イベント：１回

参加者数
学内：40人
学外：10人
計　：50人

樹種
ソメイヨシノ

生地小学校「生地っ子しょうず」緑化事業

富山県黒部市立生地小学校

事業概要

目的は、ビオトープ環境の再整備及び学校周辺部の危険木の伐採である。主な活動は以下のとおり。①学校周縁部の高木（危険木）の伐採・剪定作業、②ビオトープ周りの中低木の剪定作業、③ビオトープのシンボル的なヤナギやミカンの木の剪定。

事業成果

学校周縁部の剪定・伐採をしたことにより、竜巻や突風の影響で、倒木する恐れが少なくなった。また、ビオトープの周辺に、光が降り注ぐ環境を取り戻すことができ、児童が、「生地っ子清水」を利用した多様性について学習する環境が整った。

事業をよく知る関係者の声

・平成13年に学校関係者や保護者で整備した「生地っ子清水」を中心としたビオトープの木々が成長し、電線に触れたり、落ち葉や折れた枝が周辺の道路や民家に落ちたりして危険な状況になってきていたが、児童が安心して遊べる空間に変わった。花壇に縦割り活動で花を植えていたが、外からよく見えるようになった。

参加者の声

・木が伐られると虫が戻ってくるのか不安だけれど、ミカンの木に日が当たり、逆にアゲハチョウなどが寄ってきやすくなったと思う。春が楽しみだ。
・ぼくたちの「生地っ子清水」がすっきりとした。清水に生息している「トミヨ」も喜んでいると思う。

ビオトープの低中木の剪定・伐採後

高木枝おろし前（左）、後（右）

ベコニアを植え花壇を整備

児童・教職員など約20人が参加

実績とりまとめ

作業内容
剪定・伐採本数：14本
イベント：1回

参加者数
学内・学外：約20人
計　：約20人

福光中部小学校「中部の森」整備事業

富山県南砺市立福光中部小学校

事業概要

目的は、明るい緑、安心して活動できる、子どもたちがはつらつと学ぶ学校づくりである。主な活動は以下のとおり。①樹木の手入れ、②植樹、③樹木の看板作り、④観察池のビオトープの整備、⑤たい肥作りのコンポスト作り。

事業成果

樹木の手入れを行うことにより、森が明るくなり、日光が差し込み、明るい中で活動できるようになった。看板設置により、生活科の探検で役立った。枯葉を自作のコンポストに入れることで森がすっきりした。約10年ぶりに観察池に水が流れるようになり、水生生物の観察に役立っている。

事業をよく知る関係者の声

・学校の予算だけでは、これだけ大規模な整備はできない。今回、この事業を活用させていただき、思い切って整備することができた。
・予算の中で、剪定する樹木の選定、安価でできるビオトープの設置などを検討するのに苦労した。
・業者の都合により、剪定が年末にずれ込んだり、年を越したりしたため、今後は、早めに計画を立て、行動していきたい。

参加者の声

・実のなる木を植えた。早く食べてみたい。（植樹した児童）
・明るい森になり、ドングリやクリなどの木の実を発見しやすくなった。（生活科に参加した児童）
・池に水が流れていてびっくりした。早く生き物を観察したい。（理科の観察に来た児童）

子どもたちの手で植樹（左）、自作のコンポスト（右）

10年ぶりに水が流れた観察池

看板と植栽したイチジクと記念撮影

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：４本
剪定等本数：８本
水循環設備：一式

参加者数
学内：350人
学外：　5人
計　：355人

樹種
ヤマボウシ、シャクナゲ、イチジク、ザクロ

校庭および花だんの整備

石川県白山市立鳥越小学校

事業概要

児童の豊かな心の育成と地域に開かれた学校づくりのため、校舎前の緑化・環境整備を行った。主な活動は以下のとおり。①校舎周りの樹木の剪定、移植、②花壇の土壌改良と宿根性の植物を植栽、③シンボルツリー植樹、④児童が植物栽培を行うためのプランターと鉢を玄関前に設置。

事業成果

地域の生活道路に面する校舎まわりが明るくなり、学校に関心を寄せてくれる人が増えた。道路の向こう側の水田と校舎側の花々は美しい景観をつくっている。児童は自分で植えたプランターを毎日眺め、草花の成長や寄ってくる昆虫に喜んでいる。豊かな心の育成につながるだけではなく、学校前に人の目が集まることで、防犯効果も期待される。

事業をよく知る関係者の声

・学校周りが明るく、地域に好評である。水やりが大変だと思うので手伝える人を紹介したい。(学校運営協議会委員より)
・花を見ると元気が出る。(登下校見守り隊より)
・子どもが土を触るのは良いこと。続けてほしい。(保護者より)

参加者の声

・ポットで小さかった苗をプランターに植えたら、だんだん大きくなってうれしい。(児童)
・花が咲いて、ハチとチョウチョが遊びに来た。虫も花が好きなんだな。(児童)
・かわるがわる(宿根の)花が咲いてとてもきれい。花の名前を知ったらより関心が湧いた。(教員)

児童がプランターに植物を植える

校舎前の緑化・環境整備を実施

植樹されたハナミズキと看板

児童・教職員など83人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.1ha
植付本数：１本

参加者数
学内：80人
学外：　3人
計　：83人

樹種
ハナミズキ

旭丘　四季を感じるプロジェクト

石川県白山市立旭丘小学校

事業概要

学校生活の中で、四季を感じる空間をデザインするために季節の花木を植栽し、理科・生活科・総合的な学習の時間に活用する。

事業成果

学校生活の中で、四季を感じる空間をデザインし、理科・生活科・総合的な学習の時間に活用することができ、有効であった。また、児童の安全のために校庭の樹木の剪定を行うことができ、大変助かっている。

事業をよく知る関係者の声

・完成式典の様子から、子どもたちに「ローソン緑の募金」事業の主旨が理解され、緑化や草花への関心が高まっていることが伺える。

参加者の声

・植樹後、栽培委員会が中心となり、全校児童に植樹の様子を周知した。みんな開花を楽しみにしている。

記念植樹

植樹されたドウダンツツジ

代表児童・教職員など21人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：３本

参加者数
学内：17人
学外：　4人
計　：21人

樹種
ドウダンツツジ、モクレン、ハナミズキ

春江東小学校学びの広場緑化事業

福井県坂井市立春江東小学校

事業概要

本校は17年目を迎え、子どもたちが主に理科や総合的な学習で活用するビオトープが水漏れするなど、学びの場が十分でない状態であった。そこで、本事業へ本校のビオトープ周辺（学びの広場）の緑化・整備などを要望するに至り、地域で愛育しているアーモンドなどの木の植樹を行った。

事業成果

令和５年11月７日に本校児童の代表６年生、教職員、県緑化推進委員会専務様、ローソン福井森田店店長様・福井支店店長補佐様、中部エリアサポート部参事様などを迎え、式典を行った。本事業で、学びの広場が緑化・整備されたことにより、授業はもちろんのこと、休み時間においても学習の場、又は憩いの場として活用できている。春以降にはメダカを中心とした生物の成長なども見られ、より充実した学習活動が展開されることが予想される。

事業をよく知る関係者の声

・この事業では、町の㈱ローソンのレジの近くにある募金箱に集められたお金が活用されている。家族、学校だけでなく、そのような地域の方の大きな善意によっても、学校の教育活動は支えられていることを子どもたちが理解する機会になったと考える。式典に参加した６年生は、特に、地域の人への感謝を忘れずにしたいという意見を持つことができたのが大きな収穫の一つである。

参加者の声

・すてきなビオトープを作っていただき、ありがたい。アーモンドやオリーブの木なども植えていただき、学校に緑が増えたのでうれしかった。機会があったら募金をしたい。
・ローソンの募金を活かした緑化事業の経験を踏まえて、私はこれからもSDGs活動に貢献したい。地域の水や田んぼをきれいにして、ケラを棲ませたい。

緑化・整備された「学びの広場」

理科や総合的な学習で活用されるビオトープ

代表児童・教職員など71人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：19本
下刈面積：約25㎡
ビオトープ面積：約44㎡
イベント：１回

参加者数
学内：65人
学外：　6人
計　：71人

樹種
アーモンド、オリーブ、サツキ、コキア

05 学 R-27　（公社）福井県緑化推進委員会

磯部小学校創立150周年記念緑化整備事業

福井県坂井市立磯部小学校

事業概要

本事業は、学校の環境緑化整備を通して、児童が環境教育に感心を持ち、自らより良い環境づくりや環境の保全に配慮した行動がとれる能力や態度を身に付けられることを目的に行った。主に、10年以上手入れのできていなかったビオトープ周りの樹木を剪定し、児童が安心して生き物とふれあえる環境を整え、有効活用できていなかった中庭を整備し、創立150周年記念樹の植樹を行った。

事業成果

樹木剪定後のビオトープは大変明るくなり、蜂の巣が撤去され、刺される心配もなくなった。児童が安心して生き物とふれあえる環境が整い、毎年清掃をしてくださっているPTAの皆様も喜んでいる。また、中庭には150周年記念樹も植樹することができ、創立150周年に対する機運も高まるとともに、児童らは、この木を何十年先までずっと大切にしていきたいという思いを持つことができた。

事業をよく知る関係者の声

・保護者代表として、完成式典に参加させていただいた。令和6年度に磯部小学校創立150周年の式典が開催されたが、本事業に携わった6年生の児童は在籍時に直接携われないのが保護者として残念であった。この緑化事業で、児童代表として6年生が記念樹の植樹に携われたことは良かったと感じている。これから児童の成長とともに、大きな木に成長するのが楽しみである。（PTA会長）

参加者の声

・緑の豊かさを守っていくことの大切さに気づけたので、この木をずっと守っていきたい。大きく育ってほしい。
・みんなが知っているローソンが緑豊かな環境のために様々な活動をしてくださっていることを知ったので、自分も緑の募金をしようと思った。
・募金をしてくださった方に感謝して、150周年記念樹と一緒に、これからも大きく育っていきたい。　（児童）

ビオトープ周りの樹木剪定を実施

ヤエベニシダレザクラを記念植樹

代表児童・教職員など79人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：10㎡
植付本数：1本
高木剪定本数：21本
低木剪定本数：4本
イベント：1回

参加者数
学内：73人
学外：　6人
計　：79人

樹種
植樹：ヤエベニシダレザクラ
剪定：マツ、エノキ、カイヅカイブキ、モッコク、モミジほか

学校環境緑化モデル事業（桜の木の植え替え）

山梨県甲府市立新紺屋小学校

事業概要

本事業は、本校校地内の倒木などの危険性があるサクラの老木の伐採と新たなサクラの植樹の取り組みを創立150周年の記念事業として行った。植樹したサクラの木をこれからの学校の歴史を築くシンボル的な存在となるように成長を見守り、児童には植物を大事にする心を醸成したいと考えている。

事業成果

老木の伐採により、倒木などの危険がなくなり児童が安全に生活できる環境が整えられた。植樹記念式典を開催したことで、多くの人の助けにより植樹が実施できることを学ぶことができた。若木が植樹されたことで、児童が休み時間などを使って水やりを自発的に行うなど、自然を愛する心が育った。

事業をよく知る関係者の声

・老木の伐採、また新たな樹木の植樹を通して、学校の今までの長い歴史に思いを馳せる機会になった。植樹した若木を見ながら、これからどんな風に育っていくのか楽しみである。（参加児童）
・植樹記念式典を開催していただいたことで、多くの人の助けによって、植樹ができたということが実感でき、感謝する気持ちを持つことができた。（参加児童）

参加者の声

・老木を伐採していただいたおかげで、児童が安心して活動できる環境となった。植樹をしていただき、児童は積極的に水やりを行ったり、樹木の成長に関心を持つようになった。創立150周年にこの事業を行っていただいたことで、樹木を通して今までの歴史に思いを寄せたり、未来を楽しみする機会になった。（学校職員の声）

記念植樹

植樹記念式典の様子

代表児童・教職員など59人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：２本
植付面積：15㎡
伐採本数：１本
伐根本数：１本
周辺整備工事：15㎡

参加者数
学内：53人
学外：　6人
計　：59人

樹種
ソメイヨシノ、ジンダイアケボノ

学校環境緑化モデル事業（学校敷地内の緑化：手入れ）

山梨県立高等支援学校桃花台学園（山梨県笛吹市）

事業概要

目的は、校内緑化の推進、学校環境を整える気持ちの醸成、学校創立10周年記念植樹として位置づけて長く愛される学校づくりの決意を全校で共有すること。主な活動は次のとおり。①サクラの剪定、②キンモクセイの記念植樹、③生徒職員、関係者による完成記念式典の実施。

事業成果

桜の木の剪定により、枯れ枝や駐車場まで伸びていた枝がなくなり、景観が良くなった。植樹したキンモクセイが創立10周年記念として残り、学校の歴史の１ページとなった。緑を育て守る活動を通して、生徒の自然を愛する精神を醸成し、環境教育の推進を図ることができた。

事業をよく知る関係者の声

・学校創立10周年の記念事業と緑化推進という環境教育をうまく組合せることができた。
・ローソン緑の募金事業を知り、小さなことからも大きな成果が生まれることが実感できた。
・ローソンとの今後のつながりにも期待が持てるような貴重な出会いとなった。

参加者の声

・はじめて植樹を体験し、良い思い出になった。キンモクセイや校内の樹木を大切にし、学校環境を整備していきたい。（高校３年生徒）
・創立10年を迎えた本校が次の10年に向けて、緑あふれる学校環境を大切にすることを植樹した樹木の成長とともに再認識していきたい。（校長）

サクラの枝剪定

完成記念式典の様子

キンモクセイを記念植樹

生徒・教職員など160人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：10㎡
植付本数：３本
剪定本数：５本
イベント：１回

参加者数
学内：160人
計　：160人

樹種
キンモクセイ

上松小学校150周年記念事業環境整備

長野県上松町立上松小学校

事業概要

創立150周年記念事業の一環として学校環境整備事業を実施した。主な活動は次のとおり。①危険木ソメイヨシノの伐採事業、②地域おこし協力隊による伐採木を活用した150周年記念品作成ワークショップ。

事業成果

危険木ソメイヨシノの伐採により、通学路を利用する子どもたちの安全確保だけでなく、生活道路として利用している地域住民の方々の安全確保につながった。地域おこし協力隊の方による150周年記念品作成ワークショップは、伐採木の有効活用でき、木の特性に触れる機会になるとともに、SDGsにつながる活動となった。

事業をよく知る関係者の声

・被害が出る前に危険木を伐採し、子どもたち、地域住民の安全確保ができたことは良かった。
・敷地内には伐採を必要とする樹木もあり、計画的に整備作業を進めていく必要がある。
・ソメイヨシノが伐採され寂しさもある。今後、植樹をして、季節の移ろいを感じられるようにしたい。

参加者の声

・春には花を愛で、長年子どもたちの成長を見守り続けていたソメイヨシノが伐採されたことは寂しくもあるが、伐採木を活用し、150周年記念のペン立てや看板を作成できたことは意義あるものだと思う。
・150周年記念で作成したペン立てを大切にしていきたい。

150周年記念品としてペン立てを作成

危険木を伐採し安全が確保された通学路

記念式典には児童・教職員など186人が参加

伐採木ソメイヨシノを活用した看板

実績とりまとめ

作業内容
危険木伐採本数：６本
イベント：１回

参加者数
学内：180人
学外：　6人
計　：186人

学校環境緑化モデル事業（校地内の環境整備）

長野県長野盲学校（長野市）

事業概要

創立120周年を記念し、校内の緑の環境を整えた。主な活動は、樹木の手入れ（枝払い、剪定、伐採）と記念植樹（ウメ２本、ナツメ１本）を実施した。

事業成果

樹木の枝払いにより教室へ光が届き、学習環境が整った。児童生徒たちに親しみやすいように、校庭脇にウメとナツメを植樹した。樹木の成長を触って確認できる距離にあるのがありがたい。

事業をよく知る関係者の声

・近隣に住宅が増え、秋になると、落ち葉で近隣に迷惑をかけてしまうことがある。適切に枝払いや伐採を行っていただき、良い環境になった。

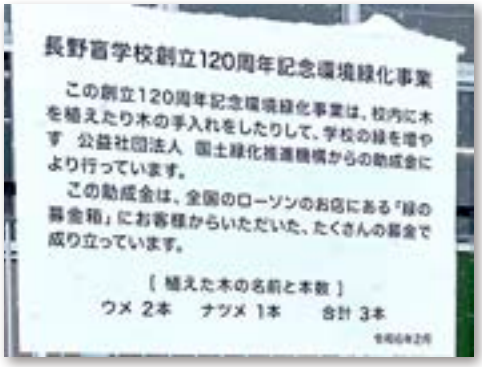
参加者の声

・早く木が大きくなって、たくさんウメの実がとれたらジュースを作って飲みたい。
・教室の前の木の枝払いで教室が広くなった。
・畑にあった大きな木がなくなり、広くなった。

枝払いで教室の明るさがアップ

雪の中、記念植樹を実施

記念式典に参加の代表の皆さん



看板の文面

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：３㎡
植付本数：３本
除伐面積：約0.5ha
イベント：１回

参加者数
学内：22人
学外：　7人
計　：29人

樹種
ウメ、ナツメ

学びの森づくり～観察林エリアを作る～

長野県伊那市立伊那西小学校

事業概要

本事業では、第２回目となる学校林の一部の皆伐を行った。目的は、学校林の一部を定期的に皆伐することで、森が再生していく過程での自然環境の変化や生き物を観察するとともに、伐採した木の使い方を考えたり、加工を通して、人と森とのつながりや、生き物の相互のつながり・バランスの大切さを学ぶための「わたしたちの林間づくり」活動を展開することである。

事業成果

70年目の森、５年目の森、今回の皆伐地との比較・観察の中で、萌芽した樹木の様子や植物相や生き物の変化を、教科の学習と関連付けて具体的に学び、日光の当たり方の違いや風通しや乾燥などに起因していることを理解できた。森の再生や生き物のつながりやその大切さについて、実感しながら学ぶことができた。また、伐採樹木の利用により森の命の循環を学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

・森林の伐採を観察し、光環境を含めた自然環境が変わる事実を認識できた。また、伐採された木が、木材という形に変わっていく姿を見つめることで、景色の一つとしてしか認識されず、教科書の「文字」情報でしなかった「森林」「林業」が、目の前の経験として腑に落ち、資源であるとともに生態系としても重要であることを体得できた。

参加者の声

・学校を中心に地域の仲間が集まり、子どもたちのための学習環境を整える作業を通して、地域の連携や絆が生まれた。
・木を伐って、それを使って学校生活を充実させたり、自然科学を学んだりする伊那西小学校でしかできない魅力ある学習がすばらしい。
・年輪を数えたり、木に抱きついたりする姿は、子どもたちが学校林の自然を愛している姿にほかならない。

アカマツの伐採後、年輪を数える

伐採木、枝の整理

製材後の木材

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
除伐面積：１ha
イベント：１回

参加者数
学内：　88人
学外：　70人
計　：158人

樹種
伐採：コナラ、ウワミズザクラ、サワラ、クリ、カエデほか

05 学 R-33　（公社）岐阜県緑化推進委員会

しろやまこみち周辺整備事業

岐阜県海津市立城山小学校

事業概要

児童が学校周辺の自然に愛着や親しみを持って学習に取り組むために、学校西の遊歩道「しろやまこみち」の学習環境を整備した。また、数年にわたる遊歩道整備の経緯などを共有していくため、木製看板を設置した。

事業成果

城山小学校は小高い山の上に立ち、建物の周りは森に囲まれているが、これまではうっそうとした森が茂っているだけで、散策できる状態ではなかった。しかし、この事業を通して遊歩道が整備されたことで、森を訪れる機会が増え、樹木について意欲的に学ぼうとする姿が見られるようになった。

事業をよく知る関係者の声

・この学校は森林に囲まれている。３年生は総合的な学習の時間において、木の名前や特性などを学び、２年生に引き継いでいる。事業を通してより林道が整備され、学びやすい環境になったことは、大変ありがたい。（３年生学年主任）

参加者の声

・葉の名前や木の名前など、いろいろと知ることができた。木のチップが敷き詰められ、前より歩きやすく、木の観察がしやすくなった。これからも「しろやまこみち」を学校の宝物として大切にしていきたい。（児童代表の言葉）

学校西の遊歩道「しろやまこみち」入口で完成式典

テープカットを実施

児童・教職員など45人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
整備面積：180㎡
看板設置：１基
イベント：１回

参加者数
学内：41人
学外：　4人
計　：45人

お茶の木から学ぶSDGs

岐阜県本巣市立外山小学校

事業概要

外山小学校の校庭の緑化を図ろうと本事業を実施した。主な活動としては、同市根尾で茶の木の栽培をされていた生産者からチャノキを60本寄贈され、運動場の横へ移植した。

事業成果

地域の自然を取り入れた体験学習を幅広く実施している本校にとって、身近な飲み物であるお茶の木が育っていくことは非常に楽しみである。自然への興味が増すきっかけとなった。

事業をよく知る関係者の声

・長年、チャノキを栽培してきたが、引退することを機に小学校へ寄贈することにした。しっかりとした株になるよう、今後も子どもたちと一緒に世話をしていきたい。（茶の木寄贈者）

参加者の声

・茶葉が摘めるようになる日が楽しみだ。子どもたちが卒業後に集まった時に、一緒にお茶を飲めたら素敵だ。（本校校長）
・今まで大事に育てられてきた木を、今後僕たちが大切に育てていきたい。（6年児童）

キャノキを寄贈いただいた茶農家の方

児童・教職員など49人が参加

チャノキを記念植樹

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：30㎡
植付本数：60本
イベント：1回

参加者数
学内：40人
学外：　9人
計　：49人

樹種
チャノキ

創立150年記念緑化事業

静岡県焼津市立小川小学校

事業概要

本校は令和５年度に創立150年の節目を迎えた。節目となる年に、子どもたちが清々しい気持ちで150年を迎えられるよう、学校の緑地化整備を推進していきたいと考え本事業を実施した。特に、学校のシンボルである「長寿松」の周辺を整備することで、創立150年を祝う全校児童や職員の士気を高めるとともに、愛校心を醸成したい。

事業成果

今まで予算や人的余裕がなく、年に数回除草をしながら対応してきた。本事業できれいに整備されたことで、これまで以上に児童が足を運ぶ気持ちの良い場所となった。また、児童が中心となって開催する「創立150年記念集会」でも話題にすることで、本校自慢のスペースとしての共通意識がさらに高まることであろう。

事業をよく知る関係者の声

・学校の代表として、来年度からのリーダー意識を育てるため、あえて高学年ではなく４年生が式典に参加した。子どもたちは、後日、昼の放送などで式典の様子や感謝の気持ちを４年生なりに発信し、学校全体に本事業が浸透した。教育的にも非常に効果が高かった。

参加者の声

・僕たちの学校に寄付をしてくれたお陰で、長寿松の周りがとてもきれいになった。
・150年続いている小川小を、これからももっといい学校にしていきたい。
・募金やボランティアなど、自分も人のために役に立つ行動をしていきたい。ローソンやグリーンバンクの方が遠くから来てくれてうれしかった。

長寿松周辺の整備前

整備後

整備された池

代表児童・教職員など40人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：47㎡
植付本数：172株

参加者数
学内：40人
学外：　4人
計　：44人

樹種
サツキ、ツツジ、ドウダンツツジ

ビオトープ周辺の環境整備事業

静岡県静岡市立田町小学校

事業概要

2005年に地域と協力し造ったビオトープがある。18年という月日が経ち、その当時のことを知る人は少なくなっている。そこで、３年生がビオトープの魅力を地域へ発信し、地域の方も憩える場所にするため、本事業では、情報発信やビオトープに棲む生物の保護、生物が集まる場所になるように植樹などを行った。

事業成果

研究発表会において市内各校へ本事業の取り組みを発信した。また、来年度入学する園児に対し、本校児童が静岡商業高校の協力のもと、ビオトープなどの魅力を発信した。さらに、３年生全員で作製した看板を学校周辺に設置したことにより、継続的に地域へ本校のビオトープについて発信し続けることができる。

事業をよく知る関係者の声

・地域と学校が協力して造ったビオトープが認知されていないため、環境教育の推進という意味でも、再度広く発信してほしいと感じていた。ビオトープの存在を地域へ知らせることで、地域住民がビオトープを利用したり、環境整備に関わることなど、学校との関わりが増えるのではないかと感じる。

参加者の声

・子どもたちが１年間を通して、「ビオトープの魅力を地域に広く発信する」というテーマで様々な活動を行ってきたことが分かった。今回の取り組みがきっかけとなり、様々な人がビオトープに関心をもち、さらに、学校と地域が共に環境整備を進め、交流の場所として活用できるとより良いと感じた。

2005年に造成されたビオトープを子どもたちに説明

ビオトープで生き物観察

記念植樹

児童・教職員など110人が参加

実績とりまとめ

作業内容
保護網設置
植樹名前札設置
ビオトープPR看板：１基
イベント：１回

参加者数
学内：100人
学外：　10人
計　：110人

樹種
オリーブ、ヤマモモ、ブルーベリーほか

花壇の整備　樹木の剪定事業

静岡県立浜松聴覚特別支援学校（静岡県浜松市）

事業概要

本事業では、創立100周年を記念して、記念樹を植え、記念花壇づくりを行った。昇降口にきれいな花壇をつくることで、100周年の記念とし、自然豊かな学校に誇りを持つことにつなげたい。また、マツクイムシで倒壊のおそれがあるクロマツの伐採と剪定を行い、運動場の安心・安全な環境を整えた。

事業成果

児童が中心となって、花の選定やレイアウトを考え、全校で花壇をつくったことで、創立100周年をお祝いする気持ちが高まった。また、マツクイムシで茶色く枯れた特大木のクロマツを伐採したことで、安心して運動場で活動できるようになった。

事業をよく知る関係者の声

・昇降口に面した場所の花壇を、子どもたちが自分で花を植えて作ったことで、喜びと自信を得ることができ、100周年記念の一つとして、良い活動ができた。記念樹として植えたハナミズキが花を咲かせ、大きく成長していく様子を見るたびに、100周年記念のことを思い出すことが期待される。マツクイムシの被害が、他のクロマツにも広がらないように願っている。

参加者の声

・花壇のお花を考えた。みんなで植えてきれいな花壇ができてうれしい。（小学部児童）
・100周年の記念樹のハナミズキが、春に花を咲かせることが楽しみ。卒業後も、記念樹が残るのがうれしい。（中学部生徒）

お花の苗を植栽

児童が計画して作った百周年記念花壇

ハナミズキを記念植樹

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：１本
花壇面積：10㎡
花の苗：70株
伐採本数：１本
剪定本数：２本

参加者数
学内：41人
学外：　3人
計　：44人

樹種
植樹：ハナミズキ
伐採・剪定：クロマツ

樹木剪定・ガーデニング整備事業

静岡県南の丘学園袋井市立袋井南中学校

事業概要

学校北側道路に面した歩道の周辺は、除草しても雑草がすぐに生え、花を植えても生育が難しくメンテナンスが大変であり、地域の景観も損ねていた。そこで、歩道を通る生徒や地域住民にとって快適な環境とすることを目指し、本事業では、歩道脇のスペースの土壌改良を行い、ヒラドツツジの植樹を行った。

事業成果

完成式典の生徒会長の言葉では、次のようなメッセージが聞かれた。「SDGsの達成目標である2030年が間近になってきましたが、南中でも、エコキャップの回収をしたり、資源回収を行ったりしています。私たちも３Ｒを意識したり、緑の募金に募金したりするなど、地球の環境を守るための行動を実践していきたいです。」生徒のSDGsや環境への意識は高まってきている。

事業をよく知る関係者の声

・これまで雑草しか生えてこなかった歩道脇が、ツツジを植樹したことで、美しい花が咲き、地域や学校に季節の訪れを知らせてくれるようになるだろう。課題としては、長期休業期間の水やりなどのメンテナンスが必要である。また、植樹範囲は限定的なので、予算を考慮しながら少しずつ植樹をしてツツジの範囲を広げられると良い。

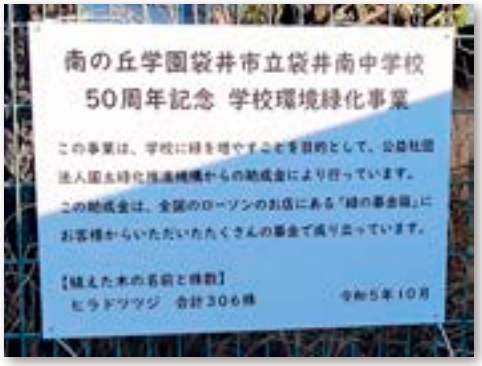
参加者の声

・雑草がなくなり、きれいになった。春先にツツジの花が咲くのが楽しみ。（生徒）
・地域の景観が向上して大変良い。春先にどんな色のツツジの花が咲くのかを今から楽しみにしている。今後も、毎年少しずつツツジの花を植樹して、その範囲を広げられると良い。（地域住民）

生徒・教職員など521人が参加

完成式典で記念の鍬入れ

学校北側道路に面した歩道脇にヒラドツツジを植栽



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：200㎡
植付本数：306本
イベント：１回

参加者数
学内：512人
学外：　9人
計　：521人

樹種
ヒラドツツジ

つなげよう　緑と生命プロジェクト～くすくんと共に～

愛知県岡崎市立梅園小学校

事業概要

本校には、大正天皇即位記念として植樹されたクスノキ（くすくん）を始めとして、樹齢100年を超える古木が何本もあり、名前が付けられている。開校150周年記念事業として、梅園学区防災井戸が設置され、子どもの提案により井戸水が流れ込む池も造成された。ビオトープや植物とのふれあい空間をつくることで、自然環境の大切さに加え、緑と生命をつなぐことを楽しく学ぶことができた。

事業成果

井戸水が流れ込む池をビオトープとして活用するために、子どもたちは地域の河川である「伊賀川」の自然環境を校内に再現して守りたいと考えた。水の流れが必要だと考え小川を造成し、水の循環による浄化作用へも広がった。周辺に看板や実のなる樹木を植樹したことで、植物との関係にもつなげることが期待される。ミカンの木の剪定やイロハカエデの活性化、樹木環境の整備への関心も期待できる。

事業をよく知る関係者の声

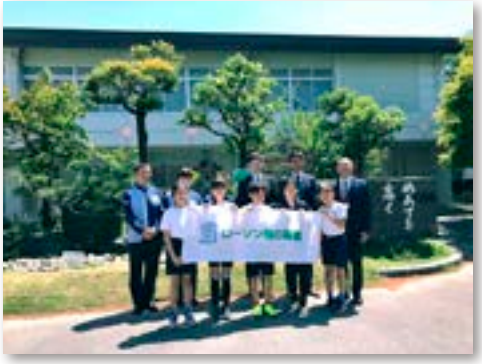
・校地内にはクスノキの大木が多く、その下の空間が子どもたちの安らぎの場となっている。そこにアジサイが植えられ、花と共に低木にも関心が向けられる。また、ムシムシランド内にもシマトネリコが植栽され、今後カブトムシなどが自然に繁殖できる環境が整うことも考えられる。ビオトープ「伊賀っこ」の周辺がやや密な植栽となっているため、再整備が必要である。

参加者の声

・ビオトープ「伊賀っこ」の命名を記念して、常緑ヤマボウシを植栽した。ヤマボウシは春に白い花を咲かせ、秋には赤い果実を実らせ、甘く食べられるそうなので楽しみ。野鳥も来てくれるのではないかと、これも楽しみ。
・ビオトープの小川づくりは、土を運んだりブロックを積み上げたり大変だった。小川に水が流れた時には感動した。

子どもたちの手で緑化活動

ビオトープ「伊賀っこ」周辺の整備を実施



児童・教職員など750人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.01ha
植付本数：105本
イベント：2回

参加者数
学内：750人
計　：750人

樹種
常緑ヤマボウシ、ソメイヨシノ、アジサイ、シマトネリコ、ミカン

05 学 R-40　（公社）愛知県緑化推進委員会

桜木小生き物の森復活大作戦

愛知県豊川市立桜木小学校

事業概要

昔「穂ノ原」と言われていた桜木小周辺。その自然環境を再現したビオトープ「桜木小生き物の森」は、整備後20年以上経過し、劣化が目立っていた。今後最低でも10年はビオトープを持続できるように、本事業では、劣化が激しい「さくらぎ川」「さくらぎ池」の改修工事を行った。「さくらぎ川」は、児童が裸足で水とふれあえるように護岸を整備し、授業などで活用できるようにした。

事業成果

コンクリート片が散乱するなど、これまで老朽化により、低学年は教員引率でしか立ち入れなかった「桜木小生き物の森」が、休み時間に気軽に立ち入られるようになった。生活科の「季節みつけ」の単元や、3年生理科「生き物探し」の単元などで積極的に活用できることが考えられる。また、これを機に、環境委員会を中心に「持続的に森づくり」の活動を推進していく予定である。

事業をよく知る関係者の声

・改修により、段違いに子どもたちが「桜木小生き物の森」に訪れるようになった。今後も木道の整備などをしていき、さらに子どもたちが自然と共生できる場づくりをしていく予定である。これを機に、桜木小学校6年間の教育課程に「生き物の森」を位置づけていくのかを精査し、より効果的に子どもたちの環境学習に生かせるようにしていきたい。（担当・教務主任）

参加者の声

・PTAも毎年生き物の森維持活動として、年に1回奉仕作業を行っている。令和5年度は200人以上の親子が参加。そのため、私たちにとってもなじみ深い場所である。鳥がたくさん集い、そしてカブトムシやセミなどの昆虫もたくさん見つけることができる「桜木小生き物の森」の改修された姿を見に、子どもたちとぜひ訪れたいと思う。（令和5年度PTA会長）

校内ビオトープ「生き物の森内さくらぎ川・さくらぎ池の護岸改修

護岸改修後の池で遊ぶ子どもたち

完成式典の様子

看板を設置（写真中央）

実績とりまとめ

作業内容
校内ビオトープ護岸改修

参加者数
学内：365人（式典：6人）
学外：　12人
計　：377人（式典：18人）

名張小学校百年の森整備事業

三重県名張市立名張小学校

事業概要

本校の創立以来の歴史を刻む「100年の森」は、約50年前に整備されたが、長い年月の間に荒れてしまい、立ち入ることが難しい状況となっていた。そのため、本事業では、森を美しく整備し、児童や地域の方が気軽に安全に立ち入ることができ、自然に親しむことができる森となるよう、以下を実施した。①校庭にサクラを植樹、②大木になった枝の剪定。

事業成果

今回の整備により、ケヤキの高木の枝払・剪定・抜き伐り３本、イチョウの高木の枝払・剪定１本、乱雑及び危険となったカイヅカイブキの伐採、カワヅザクラ１本、カンザンザクラ１本、セイヨウシャクナゲ１本、アベリア10本の植樹などを行った。この結果、児童や地域の方が気軽に安全に立ち入ることができる「100年の森」に生まれ変わり、自然とふれあえるすばらしい森となった。

セイヨウシャクナゲを植樹

大きく繁ったケヤキやイチョウを剪定

児童・教職員など95人が参加

看板を設置

事業をよく知る関係者の声

・今回の整備により、危険だった森は、「快適園地」としての「100年の森」に生まれ変わることができた。各種のサクラやほかの樹木も時期をずらして咲いたり楽しんだりできるようになり、開かれた学校を目指す上でも、地域の者が気軽に立ち入れるような、そして自然とふれあえるような森になった。この整備を機に、継続した管理の気運も高まるだろう。（70代男性）

参加者の声

・記念式典に参加したが、森に入ることができるようになってうれしい。きれいになった森で鬼ごっこをしたい。（11歳男子児童）
・「100年の森」は名張小学校の宝。わたしたちも入れるようになってとてもうれしい。（11歳女子児童）
・これからも「100年の森」に親しんで行くことができるようになってとてもうれしい。（10歳女子児童）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積（整備面積）：約300㎡
植付本数：約13本
イベント：１回

参加者数
学内：75人
学外：20人
計　：95人

樹種
カワヅザクラ、カンザンザクラ、セイヨウシャクナゲ、アベリア

学校環境緑化モデル事業

三重県鈴鹿市立若松小学校

事業概要

校内樹木の安全管理と環境美化を目的に、校庭のマツの木の剪定と、生活科などの学習活動で活用できるクヌギの木の植樹を行った。学校のシンボルツリーともいえる歴史あるマツの木は、児童のほか地域の方からも愛着をもって見守られており、新しく植えたクヌギの成長とともに大切にしていくことを、児童会が中心となって呼びかけた。

事業成果

児童が、学校のマツの木の剪定作業を目にしたり、植樹されたクヌギの木や看板を見たりして、SDGsに関心をもつきっかけをつくることができた。また、６年生は卒業の記念として、植樹の式典に参加した。毎年３学期には森林の学習を行っており、つながりをもたせた学習を行うことができた。今後、どのように活動を引継いでいくか、６年生を中心に話し合いを進めていきたい。

事業をよく知る関係者の声

・地域のボランティアの方に、校庭の草や樹木の伐採、剪定に協力をしていただいているが、マツの手入れは大掛かりで手を入れることができていなかった。今回一度に４本の剪定をしていただき、たいへんありがたかった。子どもの安全が守られ、安心して校庭で遊びや学習活動ができる環境が整備された。（本校の地域コーディネーター）

参加者の声

・本校は海に近く、海岸清掃などの取り組みを通してSDGsにつながる活動を地域ぐるみで行っている。今回、海沿いには根付きにくいといわれる山の木（クヌギ）を植樹するにあたり、樹木の特性や育て方などを調べて子どもたちと成長を見守ることで、森林を守ることへも関心を広げていきたい。卒業生の児童にとっても、記念のクヌギがどんぐりを実らせる日を楽しみにしていることと思う。

（教職員）

クヌギを植樹

シンボルツリーのマツの木を剪定

完成式典の様子

児童・教職員など54人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.005ha
植付本数：５本
下刈面積：０ha
除伐面積：0.01ha
イベント：１回

参加者数
学内：48人
学外：　6人
計　：54人

樹種
クヌギ

05 学 R-43　（公財）滋賀県緑化推進会

水口小学校環境整備事業

滋賀県甲賀市立水口小学校

事業概要

創立150周年を記念して、緑環境の整備を行った。主な活動は、大きくなり過ぎ、危険であった木や枯枝などの剪定や不要木の伐採、植樹を実施。

事業成果

剪定などにより危険因子が取り除かれ、安心して学校活動ができるようになった。併せて、植樹などにより緑化意識の向上につながった。

事業をよく知る関係者の声

・樹木の剪定などにより教室が明るくなった。
・児童が植物を育てることに関心を持つ機会となった。

参加者の声

・以前は、無秩序に枝が伸びるなどして景観などが思わしくなかったが、剪定などにより学校と自然の調和がとれるようになった。

完成式典の様子

ヤブツバキを植樹

代表児童・教職員など103人が参加

記念樹の隣に看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：10㎡
植付本数：１本
剪定本数：17本
イベント：１回

参加者数
学内：　96人
学外：　 7人
計　：103人

樹種
ヤブツバキ

稲枝西小学校緑化リニューアル大作戦

滋賀県彦根市立稲枝西小学校

事業概要

創立115周年を迎え、校地内の自然環境･学習環境を整えるため、枝葉が伸びすぎたり、害虫が集まり安全面で不安がある樹木の剪定・伐採と樹木の植栽を行った。

事業成果

学校環境が整い、児童が安全に学校活動を行えるようになった。併せて、植樹などを実施したことにより緑化意識の向上につながった。

事業をよく知る関係者の声

・校庭で安心して活動できるようになった。植栽した樹木の花が咲き、実がなることを楽しみにしている。

参加者の声

・景観面と安全面の不安要素が取り除かれ、学校環境が整った。

完成式典の様子

ツバキ・マンリョウ・アジサイを植樹

児童・教職員など28人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：60㎡
植付本数：33本
剪定本数：15本
伐採本数：３本
イベント：１回

参加者数
学内：23人
学外：　5人
計　：28人

樹種
ツバキ、マンリョウ、アジサイ

学校環境緑化モデル事業

京都府　学校法人 池内学園池内幼稚園

事業概要

年々気温が上昇する昨今、熱中症対策ではテントも活用するが、園庭には樹木が少なく、木陰も少ない。また、豊かな人間性を培う教育の現場において、樹木とのふれあいや四季折々の変化を見せることを大切にしたいことから、本事業では、木陰を作り出すことに適した樹木や実になる樹木を選定し、植樹を行った。併せて、園児が活動する際に危険な状況にあった樹木の剪定を行った。

事業成果

植樹後、水やりの手助けする園児が見られ、植物が育つためには水が必要だということを感じ取っている。「お水あげるよ」などの優しい声かけもあり、樹木と共存していく上での感性が育ちつつある。樹木が成長していくことに関心を持つ園児も多く、実のなることを心待ちにしている。樹木の成長とともにテントとは違う木陰の心地良さや花や実に関心が高まることが期待できる。

事業をよく知る関係者の声

・園に木陰が少なく暑さ対策に苦労していたことや、樹木の木陰に遊びのコーナーを設置すると園児は喜んで参加していた。木陰が作り出す環境が増えることは、単に熱中症対策だけでなく、樹木の特性を生かした保育の質の向上につながる。今後も補助金などを活用しながら、樹木を増やし、樹木の良い状態を維持し、「わくわくの森事業」を継続発展させていくことを切に期待している。

参加者の声

・事業で植樹させていただいた木々は、子どもたちが日々ふれあうことができる形で園に長年にわたり残っていく。本園を卒園して何年か後に訪れた者も懐かしむことができ、ふれあった樹木を他の場所で見ても懐かしむことができる。環境緑化モデル事業は価値の高い取り組みだ。
・園児は「早く実がなってほしい」「木が増えてうれしい」「どんな花が咲くのかな」と楽しみにしている。

「わくわくの森」の記念式典の様子

ネムノキやフジなどを記念植樹

代表児童・教職員など57人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：10㎡
植付本数：7本
除伐面積：30㎡

参加者数
学内：52人
学外：　5人
計　：57人

樹種
アラカシ、ネムノキ、シラカシ、ヤマボウシ、ジューンベリー、フジ

永寿小　野外活動とSDGs活動

大阪府貝塚市立永寿小学校

事業概要

林内で安全かつ効果的な野外活動・SDGs活動を推進するために、間伐を実施し、階段と手すりを設置した。整備された林では、木を使ったクラフトやキーホルダー作り、シイタケ栽培などを行い、発想豊かな子を育成するための体験学習を実施。林の腐葉土と乗馬クラブからいただく馬糞から作った肥料を利用し、地域の方との野菜づくりにするなどSDGsにおける取り組みを行う。

事業成果

子どもたちは、学習中及び休み時間を利用して、担任と整備された林に入り、理科の学習で木々の観察、昆虫の観察などを行っている。また、永寿フェスティバルなどのイベントに向けて伐採した木の丸太切り体験や木々を使ったクラフト作りなどを企画している。今後も各学年の体験学習において、整備された林を活用するいろいろな取り組みを発想豊かに考えるきっかけとなった。

事業をよく知る関係者の声

・下刈りによって階段や手すり作り、木の伐採の作業がしやすく、間伐の本数も適度であった。より安全に子どもたちが活動や学習ができるように道路側にフェンスを設置したい。シイタケ栽培、木を伐る体験、近隣の保、幼、認定子ども園の園児を招待して身近に昆虫を感じてもらえればと考えている。林の落ち葉を使った腐葉土で畑の作物を育てるSDGs活動も継続していきたい。

参加者の声

・林の中に入ってたくさんの虫を見つけた。自分の手でカブトムシを捕りたい。林の中は、陰が多くて運動場よりひんやりして涼しかった。(子ども)
・整地された林で子どもたちが楽しく体験学習をする姿を見て、子どもたちの意欲関心を感じた。地域の方にも春の林のサクラを見に来てもらい、「永寿の森」が、地域の方と学校の交流の場になればうれしい。(大人)

階段には手すりを設置

ヤマモミジを植樹

整備された「永寿の森」

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：１本
下刈面積：0.3ha
除伐面積：0.3ha
イベント：１回

参加者数
学内：62人
学外：　2人
計　：64人

樹種
ヤマモミジ

05 学 R-47　（公財）大阪みどりのトラスト協会

用和小学校創立150周年記念緑化事業

大阪府八尾市立用和小学校

事業概要

創立150周年を記念して、学校敷地を緑化し、児童の教育環境を整えることを目的として、ハナミズキとサクラの記念植樹を行った。

事業成果

児童会による創立150周年記念植樹を２回行い、記念式典で全児童に紹介することで児童の記憶に深く残った。植樹に関わった児童たちは学校前を通って樹木を見るたびに、一生の思い出となる可能性が高い。また、剪定により教育環境が改善され、特に南校舎に日が差したことで教室が明るく温かくなった。児童の学校生活や学習環境の改善につなげることができた。

事業をよく知る関係者の声

・校門付近に植樹したことで、児童が毎日目にすることができて良かった。
・校門付近がきれいで明るくなった。植樹だけではなくて周りの環境も整えられた。
・選定業者がとても丁寧に仕事をしていた。
・150周年記念で形に残るものができて有意義である。
・子どもと大人が一緒に作業できたことが良かった。

参加者の声

・校門付近がきれいで明るくなった。
・教室が明るくなってうれしい。（北館で学習する児童）
・教室が温かくなってうれしい。（北館で学習する児童）
・今までは１組しか明るくなかったけれども、２年生の教室がすべて明るくなった。（北館で学習する児童）
・大人になっても学校前を通るたびにサクラを目にするので、そのたびに必ず植樹の事を思い出す。（児童会役員）

完成式典の様子

代表児童・教職員など35人が参加

ハナミズキを植樹

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：12㎡
植付本数：２本
下刈面積：１ha
除伐面積：１ha
イベント：２回

参加者数
学内：30人
学外：　5人
計　：35人

樹種
ハナミズキ、サクラ

05 学 R-48　（公財）奈良県緑化推進協会

柳本小学校創立150周年記念緑化事業

奈良県天理市立柳本小学校

事業概要

児童の緑化への関心を高め、環境問題の解決を目指すため、藤棚を作成し、ベンチやアルミ缶入れを設置した。さらに、藤棚の下で地域の方と子どもたちが集える場所をつくり、子どもたちの活動と地域の活動が一緒になって環境問題の解決を目指す地域ステーションとして活用する。

事業成果

新聞などにも掲載していただいたおかげで、「地域の方からも空き缶を持っていきましょうか」というお電話も数件いただいた。本事業を通し、環境問題に対し意識の変化をもたらすとともに普段の暮らしの中でできることを考えるきっかけとなった。

事業をよく知る関係者の声

・今はまだ苗木の状態だが、フジが成長し心地良い日陰をつくり、みんなの憩いの場となることを望む。また今まで雑草畑であったところに90本のサツキを植えられたので、春になり鮮やかな花が咲きそろうことが楽しみである。この場所が地域と子どもの交流の場になることを望んでいる。

参加者の声

・創立150周年の記念すべき年に卒業記念樹として校章のモチーフとなっているサクラの木を植えた。サクラの木も自分たちの成長とともに大きく育っていく。柳本小学校を卒業しても、自分たちの心の拠り所としてずっとサクラの成長を見守っていきたい。

完成式典でのテープカット

サクラほかを植樹

完成式典の様子

代表児童・教職員など119人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：70ha
植付本数：92本
下刈面積：70ha
イベント：１回

参加者数
学内：　97人
学外：　22人
計　：119人

樹種
フジ、サクラ、サツキ

みんなのひろば　緑化事業 in 櫟本小学校

奈良県天理市立櫟本小学校

事業概要

本校は、地域と共にある学校づくりに取り組み、児童の登下校の見守りや放課後学習の支援をしていただいたり、月１回「櫟本みんなのひろば」として、Earth・Sky・図書室を地域に開放し、小学校が地域のプラットホームとなるように活動を進めている。本事業では、令和４年に創立150周年を迎えた記念として、児童や地域の方が通る校門付近を中心に整備し、樹木の剪定と植樹を実施した。

事業成果

本事業で木々を植樹していただいて、児童がとても喜んでいる。式典に参加した低学年児童の成長と共に、西門前のサクラ・体育館前花壇のヒラドツツジも生長し続けてほしい。児童は自分たちが大きくなるように、木も元気に大きくなってほしい、卒業することにはどんなに大きくなっているのかと楽しみにしている。式典や植樹に参加した児童は、その思いを俳句や川柳であらわした。

事業をよく知る関係者の声

・校庭には、以前「学習園」があった。いろいろな樹木が植えられていたが、校舎新設や体育館移築に伴い、サクラが伐採され、進級や入学のシンボルとなるサクラが少なく残念に思っていた。今回、正門付近に２本のサクラが植樹され、とてもうれしく思っている。また、樹木を丁寧に剪定していただいたり、切り株を抜いていただいたりと学校の環境を整えていただき、とてもありがたい。

参加者の声

・体育館の移築に伴い、サクラの木が減ってしまったが、今回の事業で、２本のサクラが正門（西門）に植樹され、とてもうれしい。また、体育館前の花壇にヒラドツツジが植樹され、緑化環境が整ったように思う。４月には、正門のサクラが進級した児童や新１年生を迎えてくれると思う。櫟本小学校のシンボルとなることを期待している。

校門付近を整備

サクラ、ヒラドツツジを植樹

完成式典の様子

植樹した近くに看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.001ha
植付本数：52本
下刈面積：0.001ha
イベント：１回

参加者数
学内：101人
学外：　11人
計　：112人

樹種
サクラ、ヒラドツツジ

環境教育フィールド整備

和歌山県和歌山市立雑賀小学校

事業概要

児童が、今まで以上に自然に親しみ、楽しみながら自然を守る学習の場を整備することを目的に、川魚の飼育池の改良と校庭への苗木の植栽を行った。

事業成果

整備前も野菜の苗を周辺に植えたり、児童にとって親しみのあるエリアだったが、今回飼育池を改良し、池で川の生き物を育てられるようになったことで、児童にとって自然学習を行う環境を整備することができた。飼育池で生き物の観察を行ったり、植栽した苗木のお世話をすることで自然を大事にしようという意識が育っている。

事業をよく知る関係者の声

・雑賀小学校は、和歌山市の研究指定を受け生活科・社会科の研究を行っており、全学級において生活科・社会科・総合的な学習の時間の授業を公開している。今後も先進的な学習に取り組み、本事業で整備した飼育池での淡水魚の飼育や植栽した苗木の育成を子どもたちで行うようにと考えている。活動を通して生態を学ぶとともに自然を大切にする意識の醸成につながる良い機会である。

参加者の声

・飼育池で生き物を飼育できるようになって良かった。
・苗木の花が咲くのが楽しみ。
・児童と一緒に自然に親しむ場所を整備できて良かった。

川魚の飼育池の改良

完成式典の様子

児童・教職員など38人が参加

記念植樹の様子

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.004ha
植付本数：30本
イベント：1回

参加者数
学内：32人
学外：　6人
計　：38人

樹種
ウバメガシ、サツキ、アジサイ

ネイチャールーム環境改善大作戦

和歌山県和歌山市立有功東小学校

事業概要

児童が、今まで以上に自然に親しみ、自然環境の大切さについて考えたり、学んだりする機会を増やすことを目的として、自然観察エリアの環境整備を行った。主に、樹木の伐採、枝打ち、池の整備などを実施した。

事業成果

整備前も特に低学年にとっては、親しみ深いエリアだったが、今回、池の中に飛び石を設置するなどの環境整備により、観察もしやすくなり、人気となっている。池にどのような植物や生き物を入れるのかを、児童が自主的に調べ、計画するようにしていることで、自分たちの森という意識が育っている。

事業をよく知る関係者の声

・６年生の児童の「有功地域の生態系の中の一つとして機能できるような場所にしたい。」という願いから、本事業に応募し、整備を行った。６年生の児童も参加して、整備を行ったことが良かった。今後は現在の状態を維持していくことが課題である。児童を巻き込んで、このエリアを守り、維持していきたいと考えている。

参加者の声

・児童が一緒になって、環境整備できたことが良かった。
・整備前とは見違えるくらい環境が整った。
・コンクリートの池を粘土でくるんだことで、より自然に近づいたビオトープができた。

児童も一緒に作業

大きくなり過ぎた木を伐採

全景（看板は左奥、ビオトープは中央奥）

記念式典（前に置いてあるのは記念植樹用苗木）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.0006ha
植付本数：２本
除伐面積：0.01ha
イベント：１回

参加者数
学内：29人
学外：　9人
計　：38人

樹種
シラカシ、カキノキ

学校環境緑化モデル事業

鳥取県米子市立湊山中学校

事業概要

湊山中学校の開校時に植えられ、大きくなりすぎた樹木を伐採・剪定し、明るく魅力のある学びの場とする。生徒会と地域が協力して樹木を管理することで、生徒が樹木や花を大切にする心を育成し、地域とのつながりをより深めていく。

事業成果

明るくなった学習環境を維持し、地域住民にも親しまれる、安心安全で持続可能な環境づくりと地域との関わりについて考え取り組んでいく、良い機会となった。

事業をよく知る関係者の声

・長年親しまれていた学校の木々が大きくなりすぎ、安全性に懸念を抱く声も多かったが、本事業で整備でき、安心して生活できる環境となった。生徒が大人になってからも親しまれ、自慢の緑の多い学校となってほしい。

参加者の声

・学校の風景が変わり、少し寂しい気持ちもするが、学校が明るくなった。これから、生徒会執行部や委員会活動で、明るく美しい、緑あふれる学校をつくっていきたい。自分が大人になったとき、子どもたちに誇れる学校にしていきたい。

大きくなり過ぎた木の枝剪定

整備の様子

看板の記念設置

設置された看板

実績とりまとめ

作業内容
除伐面積：125㎡
イベント：1回

参加者数
学内：20人
学外：　4人
計　：24人

樹種
ヒマラヤスギ、トウカエデ、ニオイヒバ、スダジイ、クスノキ

学校環境緑化モデル事業

鳥取県琴浦町立八橋小学校

事業概要

児童が木や草花に親しみながら学校生活を送れるように学校の緑化環境の整備を進めた。主な活動は、木の枝打ちや伐採、藤棚の修理、キンモクセイ・ギンモクセイの植樹を行った。

事業成果

木の枝打ちや伐採、藤棚の修理を行うなど、環境整備を進めたことによって、学級園や音楽室などが明るく風通しが良くなり、適切な使用ができるとともに、自然に親しみながら学習できるようになった。キンモクセイ・ギンモクセイの植樹を行ったことにより、児童の樹木への興味が増し、開花を楽しみにする気持ちを持つことができた。

事業をよく知る関係者の声

・樹木の多い学校であるが、成長しすぎた木や倒木の危険のある木などを適切に枝払いや伐採をしたことで、日当たりや風通しが良くなり、安全で快適な環境となった。
・藤棚の修理やキンモクセイ、ギンモクセイの植樹により、児童が普段身近な校庭で、様々な自然に親しみを持つことができると感じる。

参加者の声

・木や木の枝を切って、周りの景色がよく見えるようになり、音楽室が明るくなった。学級園にも日がよく当たり、たくさん収穫ができそうで、うれしい。
・キンモクセイとギンモクセイの植樹をしたが、来年の秋に花が咲くことを知り、６年生なので、卒業してしまうが来年の秋に花を見に来たい。

キンモクセイ、ギンモクセイを植樹

枝打ちを行ったクヌギ

伐採後

藤棚の修理

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：２本
除伐面積：100㎡
枝打本数：１本
伐採本数：４本
イベント：１回

参加者数
６年児童：30人

樹種
植樹：キンモクセイ、ギンモクセイ
枝打：クヌギ
伐採：クスノキ、ユリノキ、サクラ

中西小学校校舎・校庭完成記念事業

島根県益田市立中西小学校

事業概要

およそ３か年におよぶ新校舎と校庭整備の工事に伴い少なくなった学校の緑を増やすため、サツキツツジとサクラを校庭周りに植える。また、児童・職員・保護者・地域住民が集うことのできる憩いの広場として、丸太ベンチを設置する。

事業成果

学校に緑が復活したことにより、児童の豊かな情操育成につながる。また、憩いの広場の設置により、人と人とのふれあいにつながる。

事業をよく知る関係者の声

・古い校舎の時代には、学校周りに多くの植物があり緑豊かであったが、工事のために緑が少なくなって寂しい気がしていた。本事業をとおして、新たな緑ができたことはありがたい。また、「憩いの広場」を中西地区のスポーツ交流会などの時に、子どもも大人もふれあえる場として活用していきたい。

参加者の声

・僕たち６年生は３月に卒業するけど、サツキツツジやサクラが成長していくのを楽しみに、またこの中西小学校にやってきたいと思う。１年生から５年生の児童の皆さんは、どうか、中西小のシンボルのケヤキの木と共にこれらの緑を大切にしていってほしい。

サツキツツジの植樹

ソメイヨシノの植樹

設置された丸太ベンチに座る児童

ソメイヨシノと児童との記念撮影

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：102本
丸太ベンチ：４基

参加者数
学内：83人
学外：　7人
計　：90人

樹種
ソメイヨシノ、サツキツツジ

05 学 R-55　（公社）島根県緑化推進委員会

学校環境緑化モデル事業

島根県益田市立桂平小学校

事業概要

「学校周辺の風致取り戻し大作戦」と題して、学校周辺の木々が校舎を覆い、子どもたちの安心・安全が確保できにくい状況であったため、木々の伐採と植樹を行った。

事業成果

木々を伐採したことにより、獣が棲みづらくなり、見通しも良くなり、安心して登下校や外遊びができるようになった。さらに、風致を取り戻すことができ、他の二条地域の風致に関する興味関心が広まった。また、地域の宝としていろいろなことをしてもらっている子どもたち。地域の方に恩返しとして、二条地域で栽培がしやすいシイタケ栽培を企画。伐採した木を再利用し、子どもたち自らシイタケ菌を植え付けた。できたシイタケを地域の施設に提供したり、祭りで販売して地域に恩返しをする予定である。

事業をよく知る関係者の声

・小学校周辺が自分たちも気になっていたので、一緒に風致を取り戻すことができ、二条地域の環境に関心を持ってもらう機会になった。また、シイタケ生産は地域の立地を利用してでき、地域貢献としては絶好の産物で子どもたちのこれからが楽しみである。（携わっていただいた森林再生会の方の声）

参加者の声

・木々の伐採作業に参加して、改めて雑木が校舎を覆い、動物が棲みやすくなり子どもたちの安全が損なわれると思った。今回の事業に応募して良かったと思う。
・地域の１軒として学校が地域貢献をしようとしている姿を感じて、益々学校応援団として頑張りたいと思う。

学校周辺の雑木を伐採

伐採した木をシイタケ榾木にする作業時の記念撮影

サカキを植樹

代表児童・教職員など40人が参加

実績とりまとめ

作業内容
除伐面積：0.4ha
シイタケ植菌本数：100本
イベント・作業回数：６回

参加者数
学内：24人
学外：16人
計　：40人

樹種
サカキ

「映える写真スポット」の整備事業

岡山県玉野市立東児中学校

事業概要

春を彩るサクラが校内には数本あるが、いずれも年を重ね、老木化が進んでいる。春の代表的な行事である入学式の際に、希望に満ちあふれた新入生が笑顔で写真を撮れるスポットとなるようにサクラの植樹を実施した。また、周囲の木の伐採など環境整備を行った。

事業成果

現在の学校周辺は多くの緑に囲まれていて、山に木があるのは当たり前と認識していたが、実は終戦頃にはこの周辺も「はげ山」状態だったことを教えてもらい、大変驚き、今ある緑を大切にしなければという思いを新たにしたようである。その思いを発端として、生徒会としてSDGsに関わっていきたいと考えるようになった。

事業をよく知る関係者の声

・瀬戸内の風光明媚な場所にある東児中学校であるが、植樹祭当日は、あいにくの空模様となったのが残念であった。当日生徒に向けた説明をしてくださり、分かりやすく、しかも衝撃的な内容だったことから、雨が恨めしく感じた。しかし、植物にとっては恵みの雨。この雨も含めて自然への感謝の気持ちを大切にしていただきたい。

参加者の声

・天気が残念であったが、代表生徒のあいさつがはつらつとした声で立派であった。今回植えた木と共に東児中学校の生徒が大きく育ち、将来きれいな満開の花を咲かせてくれることを信じている。とても良い植樹祭だった。

樹木伐採後の様子

ソメイヨシノを植樹

生徒・教職員など18人が参加

植樹したソメイヨシノと設置された看板

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：20㎡
植付本数：２本
伐採本数：２本
イベント：１回

参加者数
学内：13人
学外：　5人
計　：18人

樹種
ソメイヨシノ

05 学 R-57　（公社）岡山県緑化推進協会

学校創立150周年記念花壇整備事業

岡山県倉敷市立岡田小学校

事業概要

倉敷市立岡田小学校創立150周年を記念して記念植樹をするとともに、校門周辺にある樹木の整備、あいさつ通りの花壇の植え替え、玄関付近に新しく花を植えた。今後、四季折々の樹木の変化を楽しむことができる。

事業成果

児童たちは、古くなったサクラの代わりの木を植えたので今後きれいな花をつけてほしいとか、玄関付近とあいさつ通りの花壇がきれいになってうれしいとか、あまり気にしてなかった校内の樹木に関心を持つようになった。

事業をよく知る関係者の声

・岡田小学校のある地区は、平成30年西日本豪雨で被災し、小学校が避難所になった。令和４年度からの岡田小学校創立150周年記念事業として、地区の復興の盛り上がりとして、学校の緑が整備されると、地区が元気になっていく感じがする。

参加者の声

・学校の緑化環境が改善され、児童の情操面に好影響を与えるだろう。こういった緑化事業が身近にあることを知ることができたと思う。

シバザクラを植えた花壇前に看板を設置

花壇を整備

次世代に継ぐサクラの苗を植樹

代表児童・教職員など42人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：32.1㎡
植付本数：38本
イベント：１回

参加者数
学内：35人
学外：　7人
計　：42人

樹種
ソメイヨシノ、シダレザクラ、ハナミズキ、キンモクセイ、クチナシほか

05 学 R-58　（公社）岡山県緑化推進協会

学校創立10周年記念の庭整備事業

岡山県立倉敷まきび支援学校

事業概要

創立10周年記念事業として、荒れている土地にミニビオトープを造成し、学部・部門を越えて児童生徒がふれあい、緑に親しめる場をつくる。造園に当たっては、全て業者に任せるのではなく、レンガ敷や木柵の設置は、高等部生徒が作業学習の授業で実施し、学習への意欲付けも図った。

事業成果

通路からの景観が良くなるとともに、緑、生き物に触れる憩いの場になり、部門学部を越えた交流の場になった。学校近隣のメダカやヌマエビなどを池に放しているので、理科の授業の自然観察教材としても活用ができる。造園に高等部生徒が関わったことで、働くことの意義の学習への意欲付けにもつながった。

事業をよく知る関係者の声

・日陰で、草がたくさん生えていて荒れていた土地がとてもきれいですてきな空間になり、子どもたちのふれあい・憩いの場になったことは意義深い。造園に高等部生徒が関わったことが良い機会であったので、今後の庭の維持管理も生徒たちの手で行ってほしい。

参加者の声

・自分たちの手できれいにしたところが、この後ずっと学校に残るのはうれしい。（生徒）
・募金をしてくださったローソンのお客様の思いにこたえられるように、みんなで利用して、人にも生き物にも植物にもやさしい気持ちがもてるようになりたい。（生徒）
・みんなのためになる活動なので、造園に関わった生徒たちは意欲的に作業ができた。（教員）

高等部生徒が授業でレンガ敷作業などを実施

完成した庭

庭にエゴノキほかを植樹

代表児童・教職員など18人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：49㎡
植付本数：８本
ビオトープ：20㎡
イベント：１回

参加者数
学内：14人
学外：　4人
計　：18人

樹種
エゴノキ、ツツジ、モミジ、アジサイ

志和小学校校舎新築開校記念緑化事業

広島県東広島市立志和小学校

事業概要

町内にあった３つの小学校が統合し、令和４年度に志和中学校の敷地内に志和小学校が新築し、小中一貫校としてスタートした。その記念と併せて、木々の成長とともに、児童生徒の成長の喜びを感じるシンボルとして、そして、四季折々の自然を楽しむとともに、緑豊かなふるさと志和町の自然を大切にしようとする心を育てるため、サクラを植樹した。

事業成果

植樹した木々の芽や花、実などの変化に気付き、すぐに観察することができることで、「自然が好き」と思う児童が増えた。また、「この自然を守る」という環境教育に広げることができると考える。そして、木々の周りに来る昆虫などを見つけてはその様子を楽しむ児童の姿が見られるようになり、生き物に関心のある児童にとって学びの場が身近にあることが喜びにつながっている。

事業をよく知る関係者の声

・開校記念としての植樹は、木々の成長とともに人生の成長を感じることができるものとなると思う。しかし、限られた狭い空間に植樹したため、場所によってはこれから大きくなる木々をどう剪定していき、守っていくかが課題である。さらに、害虫対策も必要である。

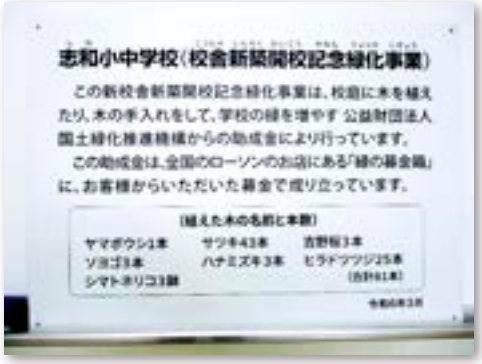
参加者の声

・サクラが咲くのが楽しみ。みなさん、「ぼきん」ありがとうございました。私たちは、このサクラを見て、いろいろなことができるようにがんばりたい。
・今サクラは咲いていないけど、これからも志和小中学校のシンボルになるようにがんばりたい。
・たくさんの方の協力で自然を増やせているので、大切にしていきたい。サクラが咲くのが楽しみ。

記念植樹の様子

植樹された木々

児童・教職員など234人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：272㎡
植付本数：81本
イベント：１回

参加者数
学内：224人
学外：　10人
計　：234人

樹種
ヤマボウシ、サツキ、吉野桜、ソヨゴ、ハナミズキ、ヒラドツツジ、シマトネリコ

右田小学校開校150周年記念緑化事業

山口県防府市立右田小学校

事業概要

右田小学校開校150周年記念緑化事業として校庭に木を植えたり、木の手入れをして学校の緑を増やす活動を行った。活動は、緑いっぱいの右田小学校にするために、①果樹園整備、②ビオトープ下草刈り・整地作業、③樹木伐採、④花壇整備、⑤樹木の名前プレート作成、⑥看板作成、⑦緑の環境整備募金を行った。

事業成果

地域との連携が深まった。また、学習活動での利用が増えた。生活科や理科の学習で使用することで、学習意欲が高まった。

事業をよく知る関係者の声

・これまでの果樹園は雑草が生い茂り、子どもが学習するには厳しい環境にあった。そこで、高木を伐採し、雑草を刈り、これまでのカキ、ウメ、クリに加えてビワ、イチジク、クヌギの幼木を植樹した。数年後には立派に実をつけてくれることだろう。植樹を含めて記念式の司会、進行、来賓の接待については6年生が行ったことで、子どもが主体の記念事業になった。（校長）

参加者の声

・植えた樹木が大きくなって、実るのが楽しみ。（児童）
・ビオトープや果樹園を学校での学習に生かしていきたい。（教職員）
・右田地区の宝物としても、地域としても守っていきたい。（地域の方）

イチジクを植樹

クリを植樹

看板と記念撮影

完成式典の様子

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：60㎡
植付本数：７本
下刈面積：60㎡
除伐面積：40㎡
イベント：２回

参加者数
学内：78人
学外：15人
計　：93人

樹種
メタセコイヤ、カキ、クリ、ウメ、サクラ、イブキ、マツ、ビワ、イチジク、ミカン、レモン、ニオイバンマツリ

三蒲小学校創立150周年記念ハッピーグリーン緑化事業

山口県周防大島町立三蒲小学校

事業概要

本校のサクラの大木が老木であることと、その近くに植えられている幼木が日陰のために成長しづらい環境にあった。そのため、創立150周年を迎えるに当たり、本事業で校庭の緑環境をより良くしたいと考えた。主な活動は、①植樹とサクラの幼木の移植、②樹木の枝払いや剪定、③事業名看板、樹木名板の作成と設置、④フジ棚やフジ棚周辺の排水端末の整備。

事業成果

歴史ある三蒲小学校には、多くの記念樹があるが、本事業によって記念樹の手入れや排水溝の整備をすることができ、多くの卒業生や地域の方々の憩いの場としての環境を整えることができた。また、「美しい三蒲を創る会」の皆さんが作業されている様子を見て、児童や地域の方が枯れ葉を集めたり、清掃活動をしたりする活動の広がりが見られた。

事業をよく知る関係者の声

・三蒲小学校の校庭には、サクラやヤナギ、メタセコイアなどの大木が多くあり、長い年月を経て、樹木同士が重なり合ったり絡み合ったりして、生育への影響を心配していた。本事業により、剪定や移殖などの整備をしていただいたことで、すべての樹木の成長が確保されるとともに、美しい海を眺望できる景観が確保された。本事業に携わってくださった皆様に感謝している。

参加者の声

・創立150周年記念の植樹で、自分が選んだ花木を植えることができたのでうれしい。カラタネオガタマは、常緑樹の花木でバナナのような甘く強い芳香をもっているのが特徴だ。バナナのような香りのする花とは、どんな花なのかとても興味がある。今、私と同じ背丈くらいなので、これから先どんなふうに成長するのか、私の成長と比べながら楽しみにしている。

高所作業車で剪定・枝払作業

剪定後の枝の粉砕作業

創立150周年記念植樹セレモニーへ50人が参加

植樹・移植後の樹木と看板

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：３㎡
植付本数：３本
下刈面積：250㎡
除伐面積：10㎡
間伐面積：200㎡
フジ棚整備
排水整備
イベント：１回

参加者数

学内：50人
学外：　3人
計　：47人

樹種

植樹：ハナミズキ、カラタネオガタマ、タムシバ
剪定・枝払：メタセコイア、ヤナギ、ケヤキ、ツツジ、マツ、クロガネモチ、ウバメガシ

学校環境緑化モデル事業

山口県下関市立桜山小学校

事業概要

歴史ある下関市立桜山小学校の大切なサクラが付近の電線と干渉しており、また、落葉により地域住民及び児童の歩行の安全性にも問題があった。「桜山」の象徴でもあるサクラを、子どもたちをはじめ、地域の方や教職員も含め、学校全体で受け継いでいくとともに、サクラをシンボルとして、学校と地域がつながり、より良い地域連携活動を推進していくことを目的として、樹木の剪定と植樹を行った。

事業成果

本事業により、子どもたちがより桜山小学校のサクラのすばらしさや本校の誇りを再認識することができるとともに、「本校の伝統を受け継いでいこう」という気持ちを育むことができるのではないかと考える。また、未来の桜山小学校に入学する子どもたちに向けて本校のシンボルであるサクラをすばらしい形として残す良い機会となった。子どもたちは、サクラの開花を楽しみにしている。

事業をよく知る関係者の声

・歴史ある学校名にも「桜」が使われ、学校のシンボルでもあるサクラをより良い状態で後世に受け継いでいこうとする本事業は、とてもすばらしい事業だったのではないだろうか。春には美しい花を咲かせ、子どもたちや教職員、地域の方の目を楽しませてくれるサクラ。電線干渉や落葉による不安材料があったが、本事業により、整えられた環境の中で、ふるさとを愛する気持ちをはぐくんでいきたい。

参加者の声

・国土緑化推進機構様、やまぐち農林事務所様、ローソン様のご協力のもと、サクラの枝払いや剪定、植樹をしていただき、大変うれしく思う。ありがとうございます。これまで、電線に干渉していたサクラも枝払いにより危険を感じることがなくなった。植樹してくださったサクラも大切に育てていきたい。サクラの花を見る度に、桜山小学校での思い出がきっとよみがえってくるのだろう。

大きくなったサクラが電線と干渉

植樹・看板を設置する場所

ソメイヨシノを植樹

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：１㎡
植付本数：１本
除伐面積：0.5ha
イベント：１回

参加者数
学内：53人
学外：　5人
計　：58人

樹種
ソメイヨシノ

香川県立善通寺養護学校　学校環境緑化モデル事業

香川県立善通寺養護学校

事業概要

本校は、隣接していた小児病院移転に伴い、善通寺市伏見町から仙遊町に移転して10年になる。移転当初植えた樹木も年数を重ねて何本か成長が止まったり枯れたりした。また、今年は学校創立50周年を迎え、その記念になる行事を考えていた。そこで、本事業で創立50周年にふさわしい記念樹「ソメイヨシノ」を植え、校庭周辺の樹木を整える事業を行った。

事業成果

以前から校庭に植えている「ハナミズキ」の枯れた木に代わって新しい木が植えられ、「ハナミズキ」が揃った。また、校庭に新にサクラが植えられることによって、本校のシンボルツリーができた。記念植樹直後に行われた委員会活動では、木の育て方を知った生徒たちから、水やりなど木の世話をぜひやりたいという声が出てきた。樹木が増えて「創立50周年記念式典」にふさわしい環境が整った。

事業をよく知る関係者の声

・「ハナミズキ」が新しく植えられ、アベリアの剪定も行われ、校庭の樹木が揃ってきれいになった。
・サクラが植えられ、本校のシンボルツリーができ、春の入学式での写真撮影など、春の季節が楽しみになった。
・全校生徒が運動場に集まって行う行事は久しぶりで、天候に恵まれ、すばらしい記念植樹の式典になった。

参加者の声

・記念植樹の式典で司会を任され、緊張したけれど、すごく自信になった。生徒会での自分の仕事ができた。
・紅白のスコップを持って、来賓の方と一緒に土入れを行い、思い出になった。
・樹木の世話をしたいという気持ちが芽生えた。春が楽しみになってきた。
・運動場で集まることはなかったので、少し緊張したけれど、天気も良くて気持ち良かった。

剪定された木々

ソメイヨシノを植樹

児童・教職員など174人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：23本
剪定本数：５本
イベント：１回

参加者数
学内：170人
学外：　4人
計　：174人

樹種
植樹：ソメイヨシノ、ハナミズキ、アベリア
剪定：アベリア、オリーブ、ツツジ、サツキ、カナメモチ

ハート池の整備及び樹木の剪定

香川県綾川町立綾上小学校

事業概要

理科や生活科の学習の場にするとともに、異学年交流の場としても活用するため、小学校北庭にある「ハート池」を、水深30㎝まで埋め立てて、メダカの観察池にした。また、池周辺にアジサイを植樹したことで、ランチルームから鑑賞できるようになった。

事業成果

休み時間や授業中にハート池へ行き、メダカの観察ができるようになった。今後は、異学年で自然を観察することが期待される。水生生物を観察したり、育てたりする活動により、自然愛護、生命尊重の心を育むことも期待される。

事業をよく知る関係者の声

・これまでは深くて危険だったため、児童が近づくことを禁止していた。本事業で、児童の学習の場、憩いの場として整備でき、今後の活用が楽しみである。
・今後の管理については、地域に協力いただくなど、持続可能な方法を検討したい。

参加者の声

・今までとは一新された感じで、すごくうれしい。メダカなどの水の生き物とふれあえる場所ができたので、これからが楽しみだ。
・理科や生活科の授業に役立てられる。自然としっかりとふれあいたい。きっとハート池も喜んでいると思う。

整備された「ハート池」

アジサイの植樹

剪定されたクスノキ

実績とりまとめ

作業内容
植樹本数：10本
剪定本数：１本
ハート池再整備：44㎡
イベント：１回

参加者数
学内：30人
学外：　5人
計　：35人

樹種
植樹：アジサイ
剪定：クスノキ

ふるさとの森 緑化事業

愛媛県西予市立大野ヶ原小学校

事業概要

大野ヶ原小学校は、標高1160mに位置し周りが山と牧場に囲まれた自然豊かな学校である。児童数は６名。本事業では、子どもたちが楽しく集える美しいふるさとの森を再生するため、校地にある樹木の剪定、枝払い及び植樹を行った。

事業成果

PTAや職員では手入れができない樹木の枝払いや剪定により、校庭がきれいで明るくなり、学校教育環境が整った。これに加え、植樹をしたことにより、みんなで樹木にふれあえる場ができ、学校生活の楽しみが増えるとともに、愛校心の向上が期待できる。今後、大野ヶ原小学校独自の新たな活動が期待できる。

事業をよく知る関係者の声

・手入れの行き届いていない樹木を枝払い、剪定をすることにより、学校教育環境が整った。さらに、花を観賞できるハナモモの植樹により、春の入学シーズンに咲き、新入生を歓迎するとともにその成長過程が在校生に楽しみをもたらすのではないか。

参加者の声

・校庭の樹木は大きく育ちすぎたため、なかなか手入れができない状態であったが、本事業により手入れができ、生徒が心地よく学校生活を送ることができるようになって良かった。それに加えて花木を植樹したことで、学校の雰囲気が明るくなり、春がより楽しみになった。この機会が学校での良い思い出となり、いつでも楽しく集える場所となることを願っている。

植樹の様子

ハナモモを植樹

植樹横に看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：９本
剪定・枝払本数：８本
イベント：１回

参加者数
学内：　6人
学外：15人
計　：21人

樹種
植樹：ハナモモ

羽根えがおプロジェクト

高知県室戸市立羽根小学校

事業概要

本校は児童数の減少に伴い、学校の環境整備が十分行き届かなくなってきている。また、海に隣接しており台風や雨風に影響を受けやすい環境にある。そのため、本事業ではPTAや子どもたちと、歩道の整備やウッドチップで遊具周辺を舗装したり、校庭の樹木の手入れを通して、愛着のもてる学校、子どもたちの笑顔があふれる学校環境づくりをしていきたい。

事業成果

歩道の両面に丸太を並べることで雨風による土の堆積を防ぐことができ、子どもたちが雨でもぬかるむことなく登校できるようになった。また、遊具周辺の舗装により雨上がりでも水たまりができず楽しく遊ぶことができるようになった。さらに、校庭や中庭の樹木の剪定をしたことで子どもたちが季節や自然に親しみをもつことができるようになった。

事業をよく知る関係者の声

・学校周辺の方たちやコミュニティースクールの委員の方たちから学校が明るくなった、子どもたちの元気な姿がこれまで以上に見られるようになったと声を寄せていただいた。この事業では、地域を巻き込んだ取り組みまで広げることはできなかったが、地域ぐるみで子どもたちを育んでいく風土を作っていくためには今後、地域の協力ももらいながら学校づくりを進めていきたい。

参加者の声

・記念式典で、ぼくは児童代表でのあいさつをした。緊張して、のどまで響くくらい心臓がドキドキした。式典の最後に、お客さんや校長先生、担任の先生とサクラを植えた。自分が大きくなったらみんなに自慢したい。
・遊具の周りにウッドチップで舗装する仕事も手伝わせてもらった。下級生が喜んでくれてうれしかった。貴重な体験をし、お世話になったたくさんの人に感謝したい。

ウッドチップで遊具周辺を舗装

丸太で歩道を整備

完成式典の様子

児童・教職員など23人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：８㎡
植付本数：３本
下刈面積：0.68ha
歩道：丸太15本
ウッドチップ舗装：20㎡
イベント：１回

参加者数
学内：64人
学外：35人
計　：99人

樹種
植樹：サクラ
剪定：ウバメガシ、センダン、ウメ、オリーブ、クロマツ、サザンカ、イヌマキ

学校環境緑化モデル事業（校内緑化整備事業）

福岡県朝倉市立秋月小学校

事業概要

本校は、50年前近隣の４つの小学校が統合してでき、その際に、４つの小学校にあった記念の石を集めてできたのが「岩石園」である。当時は、メダカやハヤなどの水生生物が生息できるビオトープがあったが、最近は、水も流れずに草が多い茂った状態であった。そこで、本年度、統合50周年を記念して、岩石園の整備とビオトープ復活のために、本事業に着手した。

事業成果

森の名前を「ふるさとの森」に決定し、秋月小学校の子どもたちが自慢できる場所になった。岩石園のビオトープを復活させ、岩場に水が流れるようにするとともに、マツの剪定やシダレザクラを新たに植樹したことで、四季の移り変わりを感じることができる。今後も、「ふるさとの森」を子どもたちの活動の場にするために、緑の中で豊かな心が育まれる教育活動を展開していきたい。

事業をよく知る関係者の声

・私が子どものころ、岩石園のビオトープには、様々な生き物が住んでいた。近くの川で魚がとれた時には、学校のビオトープにはなして、みんなで楽しく観察していた。今回、記念式典に参加し、50年前の姿に戻った岩石園を見て、本当に感無量であった。今後も、自然豊かな秋月小学校で子どもたちが、すくすくと健やかに育ってほしい。

参加者の声

・秋月小学校の自慢は、緑がいっぱいあって自然が豊かなところである。事業で、秋月小学校の自慢できる場所ができた。それが、岩石園。春には、私たちが植樹したシダレザクラがきれいに咲き、夏は、岩石園に水が流れ、ビオトープに泳ぐ魚を見ることができ、秋には、赤く色づいたモミジも見ることができる。四季の移り変わりを感じながら、これからもしっかりと学び、成長していきたい。

植樹の様子

岩石園の様子

代表児童・教職員など約30人が参加

「ふるさとの森」事業看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：２本
伐採本数：１本
剪定本数：１本
岩石園の修理
ビオトープの整備
イベント：１回

参加者数
学内：25人
学外：　6人
計　：31人

樹種
植樹：シダレザクラ
剪定：マツ
伐採：ケヤキ

05 学 R-68　（公社）長崎県緑化推進協会

第四小学校ふれあい池ビオトープ改修

長崎県島原市立第四小学校

事業概要

既存の「ふれあいの池」を改修し、自然体験の充実を図ることを目的に、ビオトープの整備（洗浄･除草、水中ポンプ設置、配管工事、パネル設置、植生など）を行った。また、より自然に近い環境にするために、水草や浮き草の整備を行うとともに、メダカを放流し生き物が集う池へと蘇った。

事業成果

常に水が循環されているので、水がきれいなだけでなく、メダカや金魚が気持ち良く安心して泳いでいる。ふれあい池が校庭へとつながる子どもたちの動線沿いにあるため、通る度に池や魚に目を配る子どもが増えた。メダカなどが泳いでいる様子を観察できるため、笑顔や会話が増えた。

事業をよく知る関係者の声

・学校敷地内にある池の環境が整うことで、子どもたちが日常からふれあうことができ、自然とともに生活することができるようになった。もともとある芝生のグラウンドに合わせ、今回のふれあい池が整備されたことで、自然と調和した魅力ある学校になり、保護者や地域住民も足を運びたくなった。

参加者の声

・ふれあいの池が整備されたことで、気持ち良く過ごせ、学びがいのある施設・環境へとなった。本校は、地域に生息するホタルの学習に取り組んでいることもあり、その学習と関連させて行うことで、学びの広がりが期待される。自然を基盤としたふるさと教育の充実につながる。

整備されたビオトープ

メダカの放流

完成の喜びと感謝を述べる子ども

児童・教職員など40人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：10㎡
植付本数：80本
めだか放流：50匹
イベント：1回

参加者数
学内：30人
学外：10人
計　：40人

樹種（緑化植物）
リュウノヒゲ、水草

西海市立ときわ台小学校ビオトープ整備

長崎県西海市立ときわ台小学校

事業概要

コイやメダカ、カエルなどの身近な生き物にふれあえる環境の充実を図るため、ビオトープ整備（浄化槽整備･配管補修･池簡易清掃）を行った。また、皆が憩える緑と水の安らぎの場の構築を目指すために、ビオトープ整備と合わせて、ヒラドツツジやカエデなど30本の樹木の枝払い・剪定とアセビ・ノムラモミジ３本の植栽を行った。

事業成果

生活科や理科などの学習や委員会活動の活性化につながるとともに、地域の皆さんの憩いの場としての活用も期待できる。

事業をよく知る関係者の声

・サギなどの鳥の侵入防止のために網を張っていた池及び漏水していたビオトープが整備されたことで、子どもたちの学習の環境が整備され、生き物にふれあうことで、友だちとの活動の場が増えて学校教育に役立つと思う。

参加者の声

・池がきれいになり、コイたちも喜んでいる。
・大切にして、学習に生かしながら、みんなで楽しんでいきたい。

整備中のビオトープ

アセビ、ノムラモミジを植樹

代表児童・教職員など41人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：40㎡
植付本数：３本
イベント：１回

参加者数
学内：36人
学外：　5人
計　：41人

樹種
アセビ、ノムラモミジ

「みんなの森」等の整備

熊本県熊本市立山ノ内小学校

事業概要

「みんなの森」は本校が開校して15年目（平成11年度）完成した。当初は児童が自然とふれあい、昆虫や鳥などの観察に利用されていたが、約25年経過し、木々も成長しすぎて少し荒れ気味になっている。本事業では、「みんなの森」をこれからも児童のふれあいの場としたいため、木々の剪定と剥がれ落ちた土を入れて植物の根を保護する活動を行った。

事業成果

25年の月日の間、大掛かりな再生事業をしてこなかったため、大きく成長した木々が光を遮り、以前植えられていた芝類も枯れ、木の根の露出されていた状態であった。本事業により、枝の剪定を大幅にして地面にも光が届くようになり、植物の成長にはプラスになった。また、土入れ・養生をしたことで、根の保護につながっている。

事業をよく知る関係者の声

・「みんなの森」の木々が年々大きくなり、雑然となっていた。このタイミングで再生していただいたことは、とてもありがたかった。これを機会に子どもたちが「みんなの森」の良さを再認識してくれればと思う。事業の面から大規模のモデル事業を行うためにはどうしても資金が必要で、今回基金からの援助はとても良かった。時期的にはもう少し早くしていただけると良かった。（保護者代表）

参加者の声

・土入れは思ったより大変だったが、楽しかった。低学年の時に、よく活動していた「みんなの森」が、今回きれいになって良かった。私たちは卒業するが、在校生の皆さんには、きれいになった「みんなの森」をこれからも大事にしてもらい、ずっと楽しめる森にしてもらいたい。（栽培緑化委員会の６年生）

整備前

整備後

児童も一緒に作業

児童・教職員など15人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：２本
整備面積：0.4ha
下刈面積：0.4ha
除伐面積：0.4ha
イベント：１回

参加者数
学内：11人
学外：　4人
計　：15人

樹種
クチナシ

宇目緑豊小・宇目っ子の森事業

大分県佐伯市立宇目緑豊小学校

事業概要

宇目緑豊小学校と宇目緑豊中学校の裏山に２校を結ぶ遊歩道がある。その中央付近には、子どもたちが自然観察や昆虫採集、季節探しをする森と広場がある。本事業では、その広場の老朽化した安全柵と途中の階段をスロープにする改修工事を行った。併せて、遊歩道入口付近に植樹を行った。

事業成果

この事業以前は、裏山には特に名称がなかったが、今回の事業を受け、「みんなの森」と命名した。広場は裏山の中腹にあり、安全柵の下は崖で柵がない状況では大変危険であったが、この事業で改修され、安全となった。合計８本の記念植樹を全校児童で行い、自然の豊かさを再確認した。

事業をよく知る関係者の声

・遊歩道の安全柵について修繕の依頼は承知していたが、校地外の遊歩道であるので、市教委の予算では執行することが困難であった。今回の助成を受け、最も危険であった箇所の安全柵について修繕が完了したことで、児童を始めとする利用者の危険が軽減したことは大変ありがたいことである。

参加者の声

・広場の柵が壊れていて、下を見ると怖かったけれど、今回の工事で新しい柵ができて、うれしい。
・昆虫採集や自然観察、季節探しなどの活動に遊歩道や上の広場を利用していたが、柵が壊れて危険だったが、これで安心して利用できる。
・記念植樹をした。10年後、植えた木がどれくらい大きくなっているか楽しみ。

安全柵の設置

ツバキ、キンモクセイほかを植樹

完成式典での植樹と設置された看板

児童・教職員など72人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：８本
イベント：２回
柵及びスロープ化への改修工事

参加者数
学内：64人
学外：　8人
計　：72人

樹種
ツバキ、キンモクセイ、ギンモクセイ、カワヅザクラ、ハナモモ

芳満川水質浄化・河畔緑化推進計画

大分県日田市立三芳小学校

事業概要

学校としては珍しく、敷地内に農業用水路が流れ「芳満川」と称して、河畔は児童の憩いの場となっている。水生生物や植物、河畔には昆虫も生育し、豊かな環境である。しかしながら、当初河畔に植えた芝生がなくなり雑草が生い茂っている。川底にも泥が溜まり景観が損なわれている状態である。そこで、河川の水質浄化と河畔の緑化再整備を目的とした河川工事、植樹、樹木の手入れなどを行った。

事業成果

芳満川50年の歴史により培われた趣と営みをビオトープとして再生できた。また、前庭やほとりには、アヤメ、キンモクセイ、ウメ、シバザクラが植えられ、既に生育していた植物とも合わさって、四季折々、絶え間なく１年中、校庭のどこかで花が咲いている学校となった。そして、昭和の「思い」を発掘し、三芳小学校の令和型SDGs教育として再構築できた。

ウメを植樹

看板を設置

河畔整備

芳満川に入って川底の掃除

事業をよく知る関係者の声

・芳満川の存在を改めて確認できた。本事業は工事関係は事業者が行い、細かな作業を児童が中心となって取り組んだ。式典にて地域の方々へ披露できたが、今後は児童を中心に保護者の協力も得ながら、継続して環境緑化を推進する必要がある。一部の取り組みではなく、地域の取り組みに広がると良いと思う。

参加者の声

・歴史ある芳満川は三芳の誇りである。
・今後も憩いの場としての芳満川を大切にしていきたい。
・芳満川の自然を守ることは、近隣の自然を守ることにもつながると思った。
・生き物が暮らすことのできる場所として芳満川を守っていきたい。
・芳満川を教材として多くのことを学ばせていきたい。

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：113本
イベント：１回

参加者数
学内：300人
学外：　27人
計　：327人

樹種（緑化植物）
キンモクセイ、ウメ、シバザクラ、アヤメ

都農町立都農南小学校「南っ子庭園」再生事業

宮崎県都農町立都農南小学校

事業概要

環境への関心を高め、愛校心を育てるために、約50年前に造られた中庭「南っ子庭園」の再生を行う。その際、児童一人一人がシバザクラを植えたり、季節を感じる植物を植えることができる花壇を整備した。

事業成果

中庭の再生を行うことで、子どもたちが環境に目を向けるようになった。朝のボランティア活動や清掃の時間に積極的に中庭に関わり、学校をきれいにしようとする意識が高まった。季節ごとに咲く花や中庭の池に住む生き物への関心も高まり、学習の場として活用する場面が増えた。

事業をよく知る関係者の声

・中庭のコンセプトである「学びの場」「憩いの場」「つながりの場」について協議し、その内容が形となり喜んでいる。今後もこの環境を維持していってほしい。学校と共に学校環境の緑化に努めていきたい。（学校運営協議会委員の声）

参加者の声

・「南っ子庭園」が、都農南小学校の自慢の場所となるよう下級生と共にきれいにしていきたい。大人になったときにどのようなものになっているか楽しみにしている。（式典に参加した児童の声）
・中庭は、今後PTA奉仕作業でも手を加えていき、保護者も加わりながら維持・発展させていきたい。（PTA会長の声）

看板の除幕式

記念植樹の様子

児童・教職員など42人が参加

整備された「南っ子庭園」

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：505本
花壇の新設：３面
築山の整備
イベント：１回

参加者数
学内：31人
学外：11人
計　：42人

樹種（緑化植物）
モミジ、シバザクラ

大宮小学校　夢の森緑化事業

宮崎県宮崎市立大宮小学校

事業概要

本校は宮崎市の中心市街地に位置し、創立132年目を迎えた歴史ある小学校である。敷地内には大木が多数あるが、安全上危惧する樹木もあり、児童の学習活動が制限される状況もあった。本事業を活用し、枝払いや剪定、伐採を行うことで安全に子どもたちが過ごすことのできる環境整備を目指した。

事業成果

台風被害のため、運動場にある大木が倒木の危険があった。また、正門付近の木々が生い茂って枝が電線にかかったり、緊急時の避難経路の妨げになる可能性があり、安全上の不安があった。そのため、これらの樹木の枝払いや伐採などを実施。その結果、立ち入り禁止箇所がなくなり、児童が安心して学習活動に取り組める環境が整った。

事業をよく知る関係者の声

・倒木の恐れなどにより児童の活動を制限せざるを得ない場所があった。行政に対応していただいた部分もあったが、全ては実施できなかったため、本事業を活用させていただき、環境整備を行えたことは大変ありがたかった。どの学校でもこのような事業が活用されると良い。

参加者の声

・式典に参加し、大きな事業であることや㈱ローソンがこのような地域貢献をしていることも初めて知った。このような機会をいただけたことを保護者としても大変感謝している。歴史ある学校なので、この良い環境が続き、新たな歴史が刻まれていくことを願っている。（保護者）

大木の伐採作業

看板を設置

代表児童・教職員など約50人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：１本
剪定・枝払本数：11本
伐採本数：４本
イベント：１回

参加者数
学内：45人
学外：　6人
計　：51人

樹種
ヤマボウシ

トンボとメダカが育つ大川内ビオトープ

鹿児島県出水市立大川内小学校

事業概要

児童に身近な生き物や自然環境に興味を持たせるため、児童や保護者、地域住民が一体となってビオトープなどを整備することで、児童が楽しみながら自然を学び、体験できる環境教育のフィールドを整備する。また、環境保全への意識を高めたり生態系に関する理解などを深めることにより、生涯に渡って地球の生き物と共存しながら生きていくという心情を育てたい。

事業成果

ビオトープを整備したことで、生き物を間近で観察したり触ったりする姿もよく見られた。自然環境への興味を高めることができた。また、教科などで学習したことについて、実際に観察したり体験したりすることで、確かな学力の定着にもつながった。休み時間にゆっくり座って過ごす児童もおり、心身を癒やしたり会話を楽しむ場にもなった。

事業をよく知る関係者の声

・事業前のビオトープは、魚を野鳥が食べたり、夏は池の水温が上がりすぎたりして管理面で苦労することが多かった。池の隣りの火山オブジェもゴツゴツした石が散乱していて、児童が通るには危険だった。今回、池の上にウッドデッキを整備したことで管理面の課題や火山オブジェの危険性も解消された。児童が安全に生き物を観察できる場になった。

参加者の声

・立派なビオトープができて、児童にとってとても良いことだと思った。大川内の生き物がビオトープに一つ、二つと住み着いてくるはずなので、どんな生き物が池にいるのか、どんなものを食べたりどんな生き物に食べられたりするのかよく観察してほしい。大川内の生き物の世界を知ることにつながるはずだ。

記念植樹の様子

完成式典はビオトープで実施

児童・教職員など32人が参加

看板を設置

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：８㎡
植付本数：13本
除伐本数：３本
イベント：１回

参加者数
学内：22人
学外：10人
計　：32人

樹種
サツキ、ツツジ、アセビ、ハクサンボク、アジサイほか

05 学 R-76　（公社）沖縄県緑化推進委員会

学校環境の緑化教育を推進する

沖縄県読谷村立読谷小学校

事業概要

校内花いっぱい運動や環境教育などを通して児童の豊かな心を育成していくこと、そして、気候変動に対する関心や持続可能な社会を形成するための機運を高めたいことから本事業に取り組んだ。主な活動として、植樹と花壇土壌改良工事を実施した。

事業成果

児童玄関前の花壇を整備したので、児童の登下校を明るく見守る花々のお世話を主体的に取り組むことができる。また、ホウライカガミが成長した際には、オオゴマダラの成長観察などを通して、児童の情操教育につながると思われる。

事業をよく知る関係者の声

・長年手入れが行き届かず、土壌が硬くて手入れが大変だった花壇の土壌改良を実施でき、季節の花々を栽培することができるようになった。また、校門前にサガリバナを植樹したので、成長し開花の時期には、夜空にきれいに垂れ下がる花を見ることが楽しみである。

参加者の声

・花壇の土が柔らかくなったので、雑草取りや花々の手入れがしやすくなった。
・プランター用の培養土を準備することができたので、卒業式や入学式に向けた、花づくりがしやすくなった。
・花の咲く木を植樹したので、大きくなって成長したときにいっぱい花を咲かせてほしい。

（参加者：栽培委員会）

完成式典の様子

校庭にて記念植樹を実施

植樹と花壇の土壌改良

代表児童・教職員など23人が参加

実績とりまとめ

作業内容
土壌改良面積：36㎡
植付本数：３本
イベント：１回

参加者数
学内：18人
学外：　5人
計　：23人

樹種
サルスベリ、サガリバナ、イッペー、ホウライカガミ

05 学 R-77　（公社）沖縄県緑化推進委員会

ビオトープの整備を行い、環境教育の推進

沖縄県北中城村立島袋小学校

事業概要

校内花いっぱい運動や環境教育などを通して児童の豊かな心を育成していくこと、そして、気候変動に対する関心や持続可能な社会を形成するための機運を高めたいことから本事業に取り組んだ。主な活動として、ビオトープ周辺の整備を実施した。

事業成果

ビオトープ周辺を整備したことにより、池の生き物観察を通して、児童の情操教育につながると思われる。

事業をよく知る関係者の声

・ビオトープ周辺の整備により、池の生き物の観察がより行いやすくなり、児童の情操教育が期待される。

参加者の声

・日々の管理を継続的に続けていくことの大切さを痛感した。（50代女性）
・自然とふれあえる機会が減少している中、このような企画はとても良いと感じた。（50代男性）
・メダカが楽しそうに泳いでいて、うれしかった。（小学生女子）

植樹したヒガンザクラと池

児童もヒガンザクラの植樹に参加

完成式典の様子

児童・教職員など25人が参加

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：６本
下刈面積：400㎡
除伐面積：100㎡
池の整備
イベント：１回

参加者数
学内：20人
学外：　5人
計　：25人

樹種
タブノキ、オキナワウラジロガシ、ヒカンザクラ、花苗

令和２・３・４年度事業

02 災 S-11　森の駅事業推進協議会（いずも森の駅）

自然回帰・椿守の森づくり事業（森林の整備と連携して行う普及啓発活動）

島根県邑南町

事業概要

本事業は、令和元年度からの継続事業で、放置された針葉樹林を整備し、植樹用地を拡張する取り組みである。ボランティア・地域と都市住民の交流の場として、以下の活動を実施。①森林整備、②整地と作業路設置、③残木整理、④新たな植樹地へのツバキ苗300本の植樹、④植樹を通した緑化事業によるSDGs目標への貢献活動の啓蒙、⑥活動の広報を通した緑の募金活動推進。

事業成果

昨年に続き、参加してくださる方もいた。お寺の住職と親交のある歌手の加藤登紀子さんにも植樹に参加していただき、新聞の取材を受け、ツバキの植樹活動が大きく記事になった。暗かった裏山も２年にわたって整備し、植樹することで明るくなり、お寺に来た人が散歩できるような山になった。

事業をよく知る関係者の声

・夏など暑い時期の下刈り作業や苗木の水やりなどの人員確保が課題。（住職）

参加者の声

・人々がもっと森に関心を持ち、森を守っていくような活動がさらにひろがればいい。（シンガーソングライター、作詞家、作曲家、女優）
・ツバキがこれからも一層増え、豊かな森へと育っていくことを願っている。（住職）

階段脇には前年度に植樹したツバキが育つ

植樹か所の地拵え

植樹作業

参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.04ha
植付本数：300本
地拵え：３回
調査・縄張

参加者数
計　：12人

樹種
ヤブツバキ

02K-02　（特非）内モンゴル沙漠化防止植林の会

モンゴル国における環境教育を目的とした環境保護林造成事業

モンゴル・ウランバートル市ソンギノハイルハン21地区

事業概要

目的は、次世代を担う若者に環境保護の重要性を伝え、沙漠化防止の主力であることを理解してもらうための植林活動を行う。活動内容は、①協力者の選定、②関係者と柵と柱の設置、③植林用の穴掘り、④苗木の選定、購入、運搬、⑤植林と水やり、⑥苗木の活着率を上げるための管理方法の指導。

事業成果

当事業の協力者の多くは家族を連れて参加した。植林作業は家族単位で行い、作業手順を注意深く聞き、一本一本を丁寧に植えることができた。苗木をいい状態で植え、管理を丁寧に行うことで活着を確実にすることができた。その後の確認作業では、苗木の活着率は90%以上となり、モンゴルでの植林としては非常に良い成果が得られた。

参加者の声

・今回は９歳と12歳の子ども２人と植林作業に参加した。コロナ禍で家で携帯ばかり見ている子どもには大変困っていたが半強制的に連れてきたら、子どもたちも作業を気に入り、良かった。これから水やりには毎週来る予定だ。（30代男性）

・モンゴルには「１本植林することで前世の福を築き、２本植林すると今世の福を築き、３本植えると来世の福を築ける」という諺がある。私は20本植えた。これで家族も含めて大丈夫だ、と冗談を交えながら木が活着することを願った。隣で作業していた人が「苗が活着しなかったら地獄に落ちるみたい」というので、「それは大変だ！水やりをしっかりしなければ！」と言いながら植林を楽しんだ。（20代男性）

苗木の保護のために柵・柱の設置

家族で参加。植え穴を掘って植林

植栽後の水やり

活着した苗木

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：5ha
植付本数：1,000本
その他：協力者の選定、柵・柱の設置

樹種
ニレ、アオヤナギ

八王子市寺田緑地の整備・緑化事業

東京都八王子市

事業概要

大径木化と笹ヤブ化が進んだ里山の再生と生物多様性回復、住みやすい生活環境づくりを目指し、居住地都市の住民を軸にした市民参加型の整備・緑化事業を行った。里山（緑地）の整備として、近隣住民の散策路となっている脇の笹薮の刈り取りと、形成不良木や枯損木の伐採を実施した。また、伐った木を杭として利用したストッカーを林内に設置した。上記の整備活動で林床植生と林内の見通しの回復、住みやすい生活環境づくりを実現させた。里山緑化は、地元要望もありヤマザクラの植林を計画したが、緑地に植林は難しいとの回答が緑地管理者からあり、断念した。

事業成果

数十年手入れができておらず荒れていた緑地に手を加えることでのビフォーアフターが著しく変化した。この活動に関心をもち始めている住民も現れ、数年後は地域の手によって手入れされていく機運ができている。

事業をよく知る関係者の声

・里山緑地は、人の手を加えていくことで維持されていくことを再認識できた。（ボランティア指導者）
・手入れが進み、地域で暮らす住民に安心感を提供できるように変化してうれしく思う。（自治会役員）

参加者の声

・人の生活環境に身近な場所でボランティアを行うと、人の笑顔が間近に見られて励みになる。（40代女性）
・ヤブをドンドン伐り拓いていく作業がとても楽しく夢中になれた。（20代男性）

笹ヤブの刈り取り

様々な立場の人たちが大勢参加

散策路の整備

作業前後写真

実績とりまとめ

作業内容
除伐面積：0.7ha
散策路整備：300m

参加者数
都内：309人
計　：309人

七隈の森を整備して、地球温暖化を防止しよう

福岡県福岡市

事業概要

地球の温暖化の要因の一つである、大気中の二酸化炭素を減らすため、身近な自然が残る七隈の森を育てるとともに、省エネなど家庭でも取り組める活動を学ぶ。主な活動は、放置竹林の整備で、タケの伐採、枯れ木･枝の整備、植樹、落ち葉や枯れ枝を利用した堆肥作りを行う。

事業成果

落ち葉や枯れ枝を利用して堆肥化することで、炭素を森に貯蔵ができている。また、活動前よりも土壌生物や虫、鳥が多く確認でき、より豊かで生物多様性にもつながる森になってきている。子どもやその保護者にたくさん参加いただき、自然の大切さや森の役割を伝えることができた。私たちも自然について学びなおし、SDGsを意識した活動となっている。福岡市から活動が評価された。

事業をよく知る関係者の声

・福岡市や福岡市緑のまちづくり協会から活動の視察があり、子どもや地域と一緒に活動をしていることなどを評価していただいた。今後は間伐の実施が課題となっている。また、間伐を行うことで下刈りが必要になり、継続的な活動の維持とボランティア受け入れや確保が必要。安全面についても、倒木等の危険性や草かぶれ、虫刺されへの対応について研修を通じて、スタッフや参加者にも伝えていく必要がある。

参加者の声

・身近に自然があることを知った。
・山の仕事の大変さが分かった。
・コロナ禍の活動でマスクしたままでの活動で息苦しかったが、参加後に怪我やコロナ等の感染症がでなくてよかった。

タケを伐って竹林整備

落ち葉や枝を使用して堆肥作り

植樹活動

現地の枯れ木、タケを使用して階段整備

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.3ha
植付本数：53本
下刈面積：1.1ha
除伐面積：2.6ha
間伐面積：0.6ha
森林資源活用
（堆肥用落ち葉）：2.9ha
その他：自然観察、ゴミ拾い

参加者数
県内：260人
県外：　4人
計　：264人

樹種
クワ、アジサイ

04SC-15 （特非）フォレストフォーピープル岡山

企業との協働による「高梁美しい森」森林整備事業

岡山県高梁市

事業概要

高梁市の市有林の一部「高梁美しい森」内において、ENEOS社、市、フォレストフォーピープル岡山（FFPO）と協働による、森づくり・森林体験活動を通じたSDGsの実践に取り組み、自然災害の増加や自然環境・生物多様性の保全という問題に対しても、流域思考に基づき複合的に取り組むことで、持続可能な自然共生型地域社会の構築への寄与を目的とする。今期は下刈り、雑木林整備、憩いの場の整備などを行うとともに自然体験学習を実施し、自然史に親しみ自然を育む心の醸成に通ずる活動を行っている。

事業成果

活動人数が減り、活動内容や範囲が限られ、広域な森づくりがなかなか進まずにいたが、令和６年度よりENEOS社からの希望で各回ともにコロナ禍前の参加者数に戻り、より活発な活動の実施が可能となった。また、他の団体とのネットワークを利用し、活動人員を確保し、当事業における活動実施はもとより、その効果をより多くの人に伝えることが可能となった。

事業をよく知る関係者の声

・事業期間中に急遽活動規模がコロナ禍以前に戻り、スタッフ人員確保の対応に苦労したが、他団体の協力を得ることで実施することができた。本団体と企業側及び参加者との事業目的の認識のズレが課題であり、企業側が目指す森づくりビジョンを確立し、単なる楽しい森づくり作業というだけではなく、作業を通して将来への森の活用について楽しくイメージできる環境づくりと意識づくりが必要。（ENEOS及びFFPO担当者会議にて）

参加者の声

・日頃の仕事場での垣根を越えて作業することは、社内外問わずつながりを深めることができて大変良い機会だ。作業の前後を見て達成感があり、とても気持ちの良い一日だった。（ENEOS参加者）

作業前のオリエンテーション

下刈り

灌木除去

森の葉でトートバッグに葉拓作り

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.95ha
間伐面積：0.05ha
その他：ENEOSみらいの森森林整備活動

参加者数

県内：380人
計　：380人

04SDGs-03 球磨林業奨学会

実践！災害に強い森づくり～がんばろう！人吉球磨～

熊本県熊本市

事業概要

熊本県人吉・球磨地域を襲った「令和２年７月豪雨」の復興を目指し、災害に強い森づくりを実践することが目的である。主な活動は、森林・林業・木材を専門的に学習する林業高校生が、①学校演習林における森林環境保全活動（間伐・下刈り・作業道整備）、②間伐材を活用した木育活動を実践する。

事業成果

演習林を活用し、林業を実践する中で木材を生産し、木材を活用してものづくり体験や木育に繋げ、生徒自身が森林・林業・木材への理解を深めるとともに、地域の子どもたちなど幅広い方々に理解を深めていただくことができた。また、県外にも足を運び、専門機関における分析で科学性を向上させるとともに、大学やNPOとの連携により地域の活性化にもつなげることができた。

事業をよく知る関係者の声

・スタディツアーの参加者に、災害に強い森づくりや森林の保水力などの役割の重要性を伝える上で、林業高校生が果たす役割は大きい。今後も継続して連携した研究活動を実践していきたい。（東京大学 教授）
・皆さんは、木を育てるだけでなく、参加者の心を育む活動が実践ができている。この緑を育む心が、将来の森林環境を育む礎となっていく。（京都大学 教授）

参加者の声

・ヒノキってこんなに良い香りがするんだね。木を使ったものづくり楽しい。（木育活動に参加した子どもたち）
・全国の皆様から応援していただいたことで、私たちだけではできない貴重な経験や出会いを得ることができた。将来林業高校の教師となり、森づくりの心のバトンを後世につなげていきたい。今回いただいた支援への感謝の気持ちを忘れずに、学び続けていきたい。

間伐研修

地域と共に植樹活動

大学・NPOと連携したものづくりフェア

写真洗浄と復興祈願フォトスタンド寄贈

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：2ha
植付本数：2,000本
下刈面積：2ha
間伐面積：3ha
森林資源活用（木育活動）：50回
作業道開設：40m

参加者数
県内：1,085人
県外：　300人
計　：1,385人

樹種
クヌギ、広葉樹苗

04R-22 西表植林クラブ

西表島クリーン作戦を通した緑化促進事業

沖縄県竹富町

事業概要

本事業の活動対象地であるユツン河口のマングローブ群生林は、漂着ごみの影響で幼木の成長が懸念されてきたことから、海洋漂流ごみ清掃活動と植栽の組み合わせによる緑化促進活動を実施する。主な活動は次のとおり。①行政、関連協会や財団との協議活動、②住民との情報交換や共有（地域ネットワーキング）、③緑化促進活動「クリーン作戦と環境学習の会」、④活動運営ための指導（運営リーダー育成・啓発・ノウハウ移転）。

事業成果

木道補修により、海岸やマングローブ林までアクセスが良くなった。運営マニュアルを使うことで、若い世代や新しい参加者と活動方法を共有でき、海岸清掃・ごみ運搬・植栽活動の作業を効率よくできるようになった。環境学習により、漂流による海洋漂着ごみの幼木や生態系への影響を知り、緑化促進と保全の大切さを学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

・今後は、各参加者が様々な条件下で作業できるよう内部での研修等が必要ではないか。（ボーイスカウト関係者）
・植栽や運営については、県外からの専門家に頼らないための各種マニュアルがほしい。（住民、保護者）
・環境学習のテーマについては、定期的に新しい情報がほしい。専門家、有識者、環境活動家を島や県外からよびたい。（保護者、公民館）

参加者の声

・プロジェクトだと交流や学習の要素があるため、参加して学ぶこと、知ることが増えるように感じた。（50代保護者）
・現状や情報を環境学習へ十分に反映した緑化活動になるとありがたい。（保護者）
・八重山諸島は自然が美しい。保全し、次の世代に残してあげたい。（20代観光客、40代ボランティア参加者）

活動内容のレクチャー

木道を通ってマングローブ林

マングローブの胎生種を植栽

漂流したごみの清掃

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：21㎡
植付本数：200本
樹勢回復：50本
森林資源活用：20本
作業道修理：400m
海岸清掃：２回
環境学習：２回
運営指導：２回

参加者数
県内：65人
県外：10人
計　：75人

樹種
マングローブの胎生種子

アマゾン森林火災先住民族消防団事業

ブラジル・マット・グロッソ州周辺18集落

事業概要

アマゾンで年々深刻化する森林火災の防止、消火のために、現地住民であるインディオの若者が中心となり「消防団」を組織し、主体性を持って森を火から守ることを目的とする。活動は以下のとおり。①インディオ消防士たちの消火、防火の講習を実施、②焼畑の火入れの際、周囲に５m位の緩衝帯を設け、火入れの延焼を防ぐよう配慮、③密猟者が野営をし、火の不始末や放火などで火災が発生しないよう、地域の巡回、監視を実施、④大規模農牧場での草地野焼き等による先住民保護区への延焼を防ぐため、管轄する町役場及び議員等に協力体制を仰ぎ、緊急時に備える。

事業成果

住民であるインディオ若者が自分の意思で命懸けで森を守る姿勢が高い評価を得て、この主体性が他者にも影響。2022年IBAMA（ブラジル環境庁）のプレヴィフォーゴ（森林火災対策先住民族消防団プログラム）のメンバーとして当事業に従事している消防士10名が選ばれ、正式な資格を習得し、消防活動に従事。2023年も新たに６名が選ばれ、消火活動に当たっている。当団体による地道な支援事業が評価され、大きな意義を確信した。

事業をよく知る関係者の声

・ピアラスでの講習を終了し、各集落に戻った消防士が中心になって自衛団を結成し、周辺の監視を開始した。パトロール中に不法侵入者の摘発も行い、結果、熱帯林保全、活性化再生にも繋がると感謝の意を表された。熱帯林を守るこの消防士は次世代にとっても憧れになり、大人になったら消防士になりたいという子どもが増えた。また、火災現場での医療従事者として女性の消防士も一人加わった。

参加者の声

・消防道具や防御服の消費が早い。予備の道具等、常にストックしてほしいとの要望があり、その資金的な調達を多岐に渡り考慮する必要がある。

消防の講習

消防機材のメンテナンスをする消防団員

消防活動に入る準備をする消防団員

火災現場に入る消防団員

実績とりまとめ

作業内容

活動面積：65万5,000ha（18集落）
防火・消火の講習：１か月
各集落へ戻り、自衛団を作り消火・防火活動：２か月
不法侵入の監視、消火活動：９か月

参加者数

研修受講者：30人
各集落の自衛団：約180人

令和５年度　中央事業実施状況一覧

【森林の整備】

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05SC-01	木下沢渓谷冒険の森保全活動と環境教育	東京	木下沢渓谷冒険の森の会	東京	1,200			●	●		●	●				●		●	●	●		●	10
05SC-02	富士山緑の募金の森造成事業	静岡	富士山緑の募金の森委員会	静岡	2,200						●					●		●	●	●		●	11
05SC-03	和木町協働の森づくり事業	山口	和木町里山研究会	山口	180			●	●							●	●			●		●	12
05SC-04	グリーンベイOSAKA 森の維持管理とコミュニティ・フォレストリー活動	大阪	(特非)グリーンベイOSAKA	大阪	800			●								●		●					13
05SC-05	トトロの森と狭山丘陵周辺緑地での里山保全	埼玉	(公財)トトロのふるさと基金	埼玉	1,800			●	●							●		●		●			14
05SC-06	渡良瀬川源流の荒廃地緑化事業	栃木	(特非)足尾に緑を育てる会	栃木	2,000				●		●							●		●			15
05SC-07	国民参加による災害に強いめぐりの森づくり	神奈川	(一社)Silva	神奈川	2,000		●			●	●		●			●		●	●	●		●	16
05SC-08	丹波平松の森づくり	兵庫	兵庫ドングリ千年の森をつくる会	兵庫	1,045													●	●	●			17
05SC-09	玖珠町ふれあいの森づくり事業	大分	玖珠郡森林組合	大分	2,401			●										●					18
05SC-10	湯河原で進める企業の森づくり体験活動事業	神奈川	(公財)かながわトラストみどり財団	神奈川	1,400															●			19
05SC-11	南足柄で進める企業の森づくり体験活動事業	神奈川	(公財)かながわトラストみどり財団	神奈川	2,600			●										●		●		●	20
05SC-12	さいたまの森林づくり支援事業	埼玉	(特非)埼玉森林サポータークラブ	埼玉	1,000			●	●			●						●	●	●			21
05SC-13	多様性を高めるモデルフォレストづくり 「フォレスト21さがみの森」	神奈川	フォレスト21さがみの森連絡協議会	東京	1,700			●	●							●		●	●	●		●	22
05SC-14	里山・里海協働育樹の森づくり事業	宮城	(特非)宮城県森林インストラクター協会	宮城	973			●	●			●	●	●		●	●	●	●	●		●	23
05SC-15	「ぜんどこMCJの森」づくり	長野	(特非)信州フォレストワーク	長野	2,300				●							●						●	24
05SC-16	「キリン千歳水源の森」整備の森づくり	北海道	北海道林業技士会	北海道	228						●					●				●			25
05SC-17	「安曇野エア・ウォーターの森」森林整備事業	長野	(特非)森のライフスタイル研究所	東京	1,700													●		●		●	26
05SC-18	三草山ゼフィルスの森における防鹿柵設置	大阪	(公財)大阪みどりのトラスト協会	大阪	2,000											●		●		●		●	27
05SC-19	「ぜんどこMCJの森」づくり	長野	(特非)信州フォレストワーク	長野	1,700				●							●						●	28
05SC-20	日本曹達グループの森づくり事業	新潟	日本曹達グループの森づくり推進協議会	新潟	2,300						●					●			●	●		●	29
05SC-21	「大阪府ENEOS友好の森」森林整備事業	大阪	大阪府森林組合南河内支店	大阪	398			●	●		●	●				●	●	●	●	●		●	30
05東震災SC-01	山武市蓮沼殿下海岸林の植栽事業	千葉	(特非)森のライフスタイル研究所	東京	4,000													●	●	●		●	31
05東震災SC-02	東日本大震災の教訓を伝える桜の植樹	岩手	(特非)桜ライン311	岩手	2,700				●							●						●	32
05東震災SC-03	3.11復活の森づくり～千葉県一宮町東浪見海岸林再生事業 （下草刈り）	千葉	(特非)森のライフスタイル研究所	東京	3,050													●	●	●		●	33
05東震災SC-04	3.11復活の森づくり～千葉県山武市蓮沼殿下海岸林再生事業 （下草刈り）	千葉	(特非)森のライフスタイル研究所	東京	2,330											●		●	●	●		●	34
05東震災SC-05	「岩沼・荒浜潮除須賀松の森」保育事業	宮城	(公社)宮城県緑化推進委員会	宮城	2,300			●	●							●		●	●	●		●	35
05S-01	森の笠地蔵プロジェクト2023	岩手	(特非)遠野エコネット	岩手	636	●		●			●	●				●	●	●	●	●	●	●	36
05S-02	北上川の上下流を結ぶ緑の再生活動	宮城	(特非)環境生態工学研究所	宮城	902						●							●	●	●			37
05S-03	女川町出島の美しい森づくり事業	宮城	(一社)女川未来会議出島プロジェクト	宮城	1,041							●	●			●		●		●		●	38
05S-04	平地の杜づくり　～被災した集落跡地を美しい場所へ	宮城	(一社)ウィーアーワン北上	宮城	519			●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	39
05S-05	登山道、桜並木及びソメイヨシノ枯れ枝等整備作業	福島	雄国山麓ゆめクラブ	福島	478			●	●							●							40
05S-06	阿武隈南部里山共生ー活性化事業	福島	(一社)あぶくまエヌエスネット	福島	641			●	●							●				●		●	41
05S-07	プロジェクトD（どんぐりプロジェクト）福島	福島	学校法人 郡山開成学園	福島	348				●							●				●			42
05S-08	間伐による森づくり	茨城	ふれあい筑波	茨城	420						●	●				●				●			43
05S-09	北本中央緑地　雑木林再生プロジェクト	埼玉	(特非)北本雑木林の会	埼玉	601			●	●							●		●				●	44
05S-10	継続的な森林管理と将来世代への木育の推進	千葉	山武に雑木林をつくる会	千葉	332				●									●				●	45
05S-11	広葉樹の植栽及び食害防止策設置事業	東京	日本山岳会 高尾の森づくりの会	千葉	840			●	●		●							●	●	●			46
05S-12	森と街をつなげ地域のケア力を高めるPJ	三重	任意団体　福祉と建築	三重	682			●	●	●						●	●				●	●	47
05S-13	北浅川上流地区の森にホタルを飛ばそう！	東京	いき森づくりの会	東京	606						●							●		●			48
05S-14	都市近郊の新しい里山づくり	東京	(特非)ドングリの会	東京	819			●	●							●		●		●		●	49

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05S-15	一般市民による湘南海岸林整備事業	神奈川	(特非)地球緑化センター	東京	237														●	●			50
05S-16	富士山南麓の森林復元と環境教育活動	静岡	(特非)山の自然学クラブ	東京	469			●	●													●	51
05S-17	みんなで集う多様で豊かな森づくり活動	東京	高尾グリーン倶楽部	東京	822				●											●		●	52
05S-18	世田谷・川場上下流連携の森林活性化事業第Ⅳ期	群馬	やまづくりくらぶ	東京	315			●				●						●					53
05S-19	AKIRUNO BASE プロジェクト	東京	(特非)野外遊び喜び総合研究所 あばれんぼキャンプ	東京	285			●	●		●	●				●	●	●				●	54
05S-20	「山の学校」～水が繋ぐ地域と世代～促進事業	山梨	(一社)全国森の循環推進協議会	神奈川	1,007				●							●	●						55
05S-21	相模湖若者の森づくり、小手澤の森整備活動	神奈川	(特非)緑のダム北相模	神奈川	516				●			●						●		●		●	56
05S-22	持続可能な竹林整備と普及啓発活動	神奈川	(特非)日本の竹ファンクラブ	神奈川	452			●	●		●					●	●	●		●			57
05S-23	山北町丸山地区森林整備事業	神奈川	山北町丸山地区整備隊	神奈川	240			●	●	●	●	●						●		●			58
05S-24	親子が安心して遊べる「フーのきの森」整備事業	新潟	絵本の家 ゆきぼうし	新潟	862				●							●				●		●	59
05S-25	ヒノキ金池東シデコブシ群落再生保全活動	愛知	みどりのまちづくりグループ 西尾町シデコブシ群落守る会	愛知	1,459					●						●		●		●		●	60
05S-26	猿投山北西山麓の環境林整備	愛知	猿投の森づくりの会	愛知	671			●	●		●	●				●		●	●	●		●	61
05S-27	自伐型森林整備支援事業（その2）	愛知	とよはしきこり隊	愛知	733			●		●		●	●	●		●	●	●	●	●			62
05S-28	常滑高坂野営場森林整備事業	愛知	(一社)日本ボーイスカウト愛知連盟	愛知	870				●									●		●			63
05S-29	明日を拓く、森の再生を目指して	愛知	ガールスカウト愛知県第43団	愛知	868				●								●	●					64
05S-30	名張市赤目地域竹林整備・活用	三重	赤目竹あかりSDGsプロジェクト	三重	810									●		●				●			65
05S-31	里山整備で人を呼び過疎地域の活性化を図る	京都	(特非)加茂女	京都	1,650							●				●				●		●	66
05S-32	ゆめみヶ丘岸和田竹林整備事業	大阪	ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会	大阪	835												●			●		●	67
05S-33	里山を伐って・使って・繋げる連続講座	兵庫	ゆめほたるクラブ	兵庫	270		●	●	●	●	●					●		●	●	●		●	68
05S-34	多国籍＆学生と共に挑む森林里山循環SDGs	兵庫	(特非)Peace & Nature （ピースアンドネイチャー）	兵庫	1,126				●							●				●			69
05S-35	草刈り隊による森林、里山保全整備事業	兵庫、岡山	(特非)棚田LOVERS	兵庫	478													●		●		●	70
05S-36	養蜂から見える癒しの森里山再生活動	熊本	鶴里ぶんぶん夢クラブ	熊本	806			●				●				●							71
05S-37	間伐と薪割体験を通じた森づくりワークショップ	熊本	(特非)九州バイオマスフォーラム	熊本	1,354							●				●		●		●			72

【緑化の推進】

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05RC-01	緑のまなび事業（稲敷市立あずま北小学校学校林等整備事業）	茨城	稲敷市立あずま北小学校緑の少年団	茨城	1,000				●									●		●			74
05RC-02	活樹祭～親子森林教室in川崎町～	宮城	(特非)樹木・環境ネットワーク協会	東京	675				●											●		●	75
05RC-03	地域における園庭・裏山整備等モデル事業（２年目）	長野	信州こどもの森づくり推進協議会	長野	2,000			●	●							●		●		●		●	76
05RC-04	里山の新しい楽しみ方に挑戦！ 「安馬谷里山」アップデートプロジェクト（SDGs貢献事業）	千葉	くじらのもり	千葉	1,900			●	●									●	●	●			77
05RC-05	緑の祭典 “かながわ未来の森づくり” 2024 in さがみはら	神奈川	県民との協働による森林づくり実行委員会	神奈川	1,000			●										●		●		●	78
05RC-06	倶知安町げんきの森 森づくり実践・教養講座	北海道	百年の森ファンクラブ	北海道	350			●	●			●						●		●		●	79
05RC-07	士幌町げんきの森　木育促進事業	北海道	北海道士幌高等学校振興会	北海道	500				●											●			80
05RC-08	早生樹によるカーボンニュートラル貢献事業	宮城	(一社)脱炭素推進協議会	東京	1,500						●	●								●			81
05東震災RC-01	「被災地に緑と心のふれあい森林づくり」事業	宮城	(公社)宮城県緑化推進委員会	宮城	1,060			●	●		●					●	●	●	●	●		●	82
05東震災RC-02	「森と海を結う・絆の森林づくりプロジェクト」事業	宮城	(公社)宮城県緑化推進委員会	宮城	900			●	●							●		●	●	●		●	83
05能登震RC-01	組立て什器（組手什）を用いた能登半島地震復興支援事業(1)	石川	(公社)石川県木材産業振興協会	石川	3,971			●								●	●	●		●		●	84
05能登震RC-02	組立て什器（組手什）を用いた能登半島地震復興支援事業(2)	石川	(公社)石川県木材産業振興協会	石川	3,629			●								●	●	●		●		●	85
05能登震RC-03	組立て什器（組手什）を用いた能登半島地震復興支援事業(3)	石川	(公社)石川県木材産業振興協会	石川	4,405			●								●	●	●		●		●	86
05R-01	健康な森づくりに関する作業および調査事業	北海道	(特非)C・C・C富良野自然塾	北海道	1,033						●					●		●	●	●			87

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05R-02	持続可能な（カーボンニュートラル）地域づくりプロジェクト	北海道	釧路湿原・阿寒・摩周 シーニックバイウェイルート運営代表者会議	北海道	510											●				●			88
05R-03	白神自然学校遊々の森並びに植林地の除間伐材の伐採･再利用事業	青森	(特非)白神山地を守る会	青森	451							●				●		●	●	●			89
05R-04	「癒しの森」にヤマザクラを100本植える	宮城	森林との共生を考える会	宮城	1,000															●		●	90
05R-05	害虫被害木の整備と市民・子どもたち参加の里山保全整備事業	茨城	(特非)こが里山を守る会	茨城	722	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	91
05R-06	ヤマアジサイの森の清掃活動とボランティア育成講座	群馬	倉渕ヤマアジサイの会	群馬	295			●	●	●	●					●	●			●		●	92
05R-07	大人も子どもも楽しめる「あそびのもり」整備事業	群馬	いずみのもり倶楽部	群馬	670			●								●						●	93
05R-08	千葉県富津岬の松林再生植樹活動	千葉	(特非)地球と未来の環境基金	東京	816						●					●		●		●			94
05R-10	遊びと五感を育む「里山園庭」プロジェクト	岐阜	あじさい保育園保護者会	岐阜	1,065			●	●							●				●		●	95
05R-11	高山市森部地域 飛騨漆の森づくり推進事業	岐阜	飛騨漆の森プロジェクト	岐阜	888											●				●		●	96
05R-12	さとやま自然楽校	静岡	(特非)里山会公文名ファイブ	静岡	1,116						●					●				●			97
05R-13	みどりの少年団結成50周年記念事業	愛知	(公社)愛知県緑化推進委員会	愛知	499				●											●		●	98
05R-14	地域性苗木の育苗	滋賀	タネカラプロジェクト	滋賀	666			●	●		●					●		●	●	●			99
05R-15	うなぎの森植樹祭（大阪・森は海の恋人）	大阪	(特非)大阪･うなぎの森植樹実行委員会	大阪	1,840		●	●	●		●	●	●			●		●	●	●		●	100
05R-16	龍神温泉生物多様性の森造成事業	和歌山	龍神温泉の森をつくる会	和歌山	826			●										●		●			101
05R-17	おおつか里山桜並木回廊事業	島根	大塚寿会	島根	1,120			●	●		●					●		●				●	102
05R-18	荒廃竹林を伐採整備し緑豊かな森の再生事業	香川	川西地区地域づくり推進協議会	香川	1,018			●								●				●			103
05R-19	久万高原町における森林整備・植樹と森林資源活用	愛媛	一望の会	愛媛	875																		未掲載
05R-20	木に親しみ健康を学ぶ阿蘇の森林整備事業	熊本	阿蘇地域資源利活用事業推進協議会	熊本	1,688			●	●		●					●		●	●	●		●	104
05R-21	番所鼻海岸防災林保全活動	鹿児島	(特非)森と木の研究所	鹿児島	1,050			●	●			●						●		●		●	105
05R-22	森林のチカラ・森林の恩恵にふれあおう！ ～森のもつ8つのチカラ～	鹿児島	(特非)四季の会	鹿児島	757			●	●										●	●			106
05R-23	西表島クリーン作戦を通した緑化促進事業	沖縄	西表植林クラブ	沖縄	556				●		●					●		●	●	●	●	●	107

【国際協力】

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05KC-01	インドネシアマドゥラ島　水と生物多様性の保全に向けた緑化と環境教育の推進（第４期１年目）	インドネシア	(公財)オイスカ	東京	2,200				●		●						●	●	●	●			110
05KC-02	島嶼国フィジーにおける防災に向けた緑化と環境教育 （第２期３年目）	フィジー	(公財)オイスカ	東京	2,000				●							●		●	●	●			111
05KC-03	地域住民によるアフリカの里山の再生と保護事業	マリ	(特非)サヘルの森	東京	1,200		●				●									●		●	112
05KC-04	カンボジア国コンポンチャム州における持続可能な森林管理を目指した植林事業（フェーズ５）	カンボジア	(特非)環境修復保全機構	東京	2,500					●						●	●	●		●			113
05KC-05	2023年度緑の国際ボランティア研修（カンボジア国）	カンボジア	(特非)環境修復保全機構	東京	2,900				●	●						●	●	●		●			114
05KC-06	子供達と植えよう！マングローブの森づくり（SDGs貢献事業）	フィリピン	(特非)イカオ・アコ	愛知	2,270	●			●									●	●			●	115
05K-01	インドネシア・プダワ村水源地保護事業	インドネシア	(特非)ASIA Environmental Alliance	岩手	534				●		●					●						●	116
05K-02	アンデスの学校菜園を守る植林と緑の交流	エクアドル	(特非)エクアドルの子どものための友人の会	埼玉	608			●	●							●							117
05K-03	里山保全のためのフォーレスト・ファーム	フィリピン	いのちをつなぐ森と絆	埼玉	508	●						●		●				●					118
05K-04	スーダン小学校の自立的な環境保護促進	スーダン	(特非)ホープフル・タッチ	千葉	1,911	●			●									●					119
05K-05	モンゴル南部のゴビ砂漠緑化と環境保全事業（2年目）	モンゴル	(公財)オイスカ	東京	1,818				●							●		●		●		●	120
05K-06	ラオス国における「村民の森」保全促進事業	ラオス	高尾グリーン倶楽部	東京	1,682				●							●				●			121
05K-07	正藍旗における地域密着型生態林再生事業	中国	(一社)地球緑化クラブ	東京	1,674				●					●		●				●			122
05K-08	アマゾン河口での河岸侵食防止植樹活動	ブラジル	(特非)地球と未来の環境基金	東京	1,491			●	●		●		●	●		●		●	●	●		●	123
05K-09	キリマンジャロ山麓緑化及び社会林形成事業	タンザニア	タンザニア・ボレボレクラブ	東京	1,148	●					●							●		●			124
05K-10	ジャカルタ湾岸　マングローブ林再生プロジェクト	インドネシア	(公社)日本環境教育フォーラム	東京	2,796	●							●			●			●	●		●	125

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05K-11	カンボジア国東部の里山再生を目指した緑化推進事業（フェーズ3）	カンボジア	(特非) 環境修復保全機構	東京	1,767					●						●	●	●		●			126
05K-12	パレスチナ・セルフィート県での植樹事業	パレスチナ	(特非)バルシック	東京	2,163											●				●			127
05K-13	中央カリマンタン国立公園周辺地域の環境保全事業	インドネシア	(一社)マニスファンクラブ	神奈川	1,425	●			●							●		●		●			128
05K-14	中国内蒙古・ホルチン砂漠の砂漠化防止活動	中国	(特非)緑化ネットワーク	神奈川	2,078													●		●		●	129
05K-15	ベトナムにおけるマングローブ林再生事業	ベトナム	南遊の会	愛知	2,707													●	●	●		●	130
05K-16	フィリピン沿岸部の自然再生のための植林事業（2年目）	フィリピン	(特非)イカオ・アコ	愛知	2,048	●			●									●				●	131
05K-17	ヌエバ・ビスカヤ州における森林農法事業	フィリピン	マナラボ　環境と平和の学びデザイン	京都	2,886																		未掲載
05K-18	マダガスカルにおけるSchool Forestry 作り活動による環境保全事業	マダガスカル	(特非)アイユーゴー	大阪	1,488			●								●		●		●		●	132
05K-19	ネパール・シンドゥパルチョーク郡におけるコーヒー育苗と栽培による環境保全（1期3年次）	ネパール	(公社)アジア協会アジア友の会	大阪	2,097	●		●	●	●			●	●		●				●	●	●	133
05K-20	ボルネオ島での在来種の森林再生と環境教育	インドネシア	ウータン・森と生活を考える会	大阪	1,400													●		●		●	134
05K-21	鉄砲水から棚田と子供の未来を守る植林事業	フィリピン	(特非)NEKKO	兵庫	1,680	●			●									●		●		●	135
05K-22	水源保全とアグロフォレストリー推進事業	ホンジュラス	(特非)AMDA社会開発機構	岡山	2,400		●				●									●			136
05K-23	タイ北部山岳地域バンカー村の森林再生と農村開発	タイ	(特非)シャンティ山口	山口	1,500	●		●			●						●	●		●		●	137
05K-24	ミャンマー・シャン州における森林を活用した農業生産技術の普及と実践	ミャンマー	(特非)地球市民の会	佐賀	2,391		●													●			138

【次世代の森づくりを担う人材育成事業】

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05Z-01	いぶり自然学校的森づくりリーダー育成事業	北海道	(特非)いぶり自然学校	北海道	1,330											●	●	●					140
05Z-02	森林・里山ボランティア　入門講座	東京、京都、兵庫、香川、徳島	(特非)JUON NETWORK	東京	966			●		●	●					●		●	●	●		●	141
05Z-03	人工林の生物多様性保全活動のモデル化	千葉	(公財)Save Earth Foundation	東京	1,040				●									●		●			142
05Z-04	木を伐り、使い、植える、未来の森づくり	東京	(特非)フジの森	東京	1,760				●									●		●			143
05Z-05	Cheer call! ～炭焼きで里山まもっべ！～	福島	東京農業大学　里山まるごと体験学校	東京	1,040				●							●							144
05Z-06	都市の里山資源の活用推進事業	神奈川	(特非)よこはま里山研究所	神奈川	650			●	●		●					●	●			●			145
05Z-07	グローカル環境リーダー育成ワークキャンプ	青森、栃木、石川、静岡、三重、大阪、島根、熊本	(特非)NICE 日本国際ワークキャンプセンター	神奈川	1,723							●						●		●			146
05Z-08	間伐材を利用した書道における固形墨の開発	愛知	書と生き物愛好会　愛知支部	愛知	968				●			●		●		●	●		●	●		●	147
05Z-09	大学生による森林・竹林整備	京都	京都府立大学 森林ボランティアサークル 森なかま	京都	724				●		●	●		●		●	●	●		●		●	148
05Z-10	次世代と共につくる里山と菊炭の未来2023	大阪	大阪能勢田尻菊炭振興協議会	大阪	2,000			●	●		●	●				●		●	●	●		●	149
05Z-11	里山活性化と次世代リーダー育成事業	大阪	NEXT二色の浜	大阪	528			●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●		●	150
05Z-12	緑をとりもどせ！土砂崩壊防止をめざして	鳥取	鳥取県立智頭農林高等学校 森のしずくクラブ	鳥取	280				●		●					●	●	●		●			151
05Z-13	森づくりを目指す若きリーダー養成事業	高知	こうち森林救援隊	高知	1,991			●	●	●			●			●		●	●	●			152

【つながる・つなげる・子ども若者応援事業】

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05W-01	裏山を活用した「ようちえんの森」整備手法移転事業	北海道	胆振・体験から学ぶ推進協議会COLD	北海道	850			●	●		●	●				●		●		●			154
05W-02	親子で自然に親しむ活動拡充のための事業	茨城	森っこ	茨城	100			●	●							●		●		●	●	●	155
05W-03	「木育」を通した里山コミュニティづくり	千葉	子育て支援ステーションニッセ	千葉	1,455	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●		●	156

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05W-04	森が好きになるキッズキャンプ場	東京	(特非)フジの森	東京	369				●									●		●			157
05W-05	里山と私たちの暮らしのつながり事業 ―森の恵みを生活に還元する―	東京	ライフラボ多摩	東京	1,181		●	●	●			●					●	●		●		●	158
05W-06	知る和が広がる！子供たちと森づくり体験教室	東京、 神奈川	(一社)Silva	神奈川	1,612		●		●	●			●		●	●	●	●	●	●		●	159
05W-07	子どもたちの感性を育む園庭の森づくり	神奈川	田園調布学園大学みらいこども園 園庭委員会	神奈川	1,893				●							●		●					160
05W-08	佐渡島森のようちえん・がっこうつくり	新潟、石川	なつかしい未来協議会	新潟	1,423			●	●	●		●	●		●	●	●	●		●	●	●	161
05W-09	体験フィールド「ハッピー山」の整備事業	福井	さかのくち活性化協議会	福井	434			●	●	●	●					●				●			162
05W-10	里山にふるさとのある子を育むうじゅうの森	山梨	(特非)なかまフィールドうじゅうの森	山梨	697			●	●	●		●				●	●	●	●	●		●	163
05W-11	四季を味わい、山の恵を感じる 里山をめざそう！	長野	社会福祉法人 州浜会	長野	800			●	●			●											164
05W-12	根尾川の森　プレーパーク	岐阜	(一社)よだか総合研究所	岐阜	236	●		●	●						●							●	165
05W-13	森の子フィールド整備と実践、森林体験フィールドのあり方研究	静岡	(一社)里の家	静岡	1,120			●				●				●		●		●		●	166
05W-15	人と自然と動物と生きる（森のがっこう）つくり	愛媛	(一社)ウインダムファーム	愛媛	1,100			●	●	●		●	●		●	●	●			●	●		167
05W-16	こどもの森づくり・こども森キャンプ事業	大分	(一社)畑とキャンプの自由な学校みんなの学校	大分	1,144				●							●	●			●		●	168

【スギ等森林の有効活用支援事業】

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05T-01	市民参加による森林づくり「山と緑の協力隊」	長野、滋賀	(特非)地球緑化センター	東京	864															●			170
05T-02	環境と人・脱炭素社会に貢献する森林づくり	島根	銀林の恵み森活プロジェクト実行委員会	島根	1,511			●				●						●		●			171
05T-03	不登校児童生徒による少花粉スギ植栽事業	岡山	ボランティア団体わしがやらねば	岡山	725			●	●									●		●			172

【子どもたちの未来の森づくり事業】

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05子R-01	子どもたちと作り、進める「沼田式森づくり」加速化事業	北海道	(特非)そらち自然学校	北海道	1,000				●									●		●			174
05子R-02	赤井川村の森づくりと環境学習事業	北海道	森を育て未来を語る会	北海道	1,000			●	●		●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	175
05子R-03	写万部山麓緑化事業～海とつながる木育基地	北海道	(特非)長万部町緑と樹を愛する会	北海道	900			●	●							●		●	●	●		●	176
05子R-04	「ふるさと復興の森づくり@厚真町」事業	北海道	(特非)北海道市民環境ネットワーク	北海道	1,000				●							●				●			177
05子R-05	こどもたちとつなぐ未来の森プロジェクト	青森	(特非)green design	青森	740			●	●							●		●	●	●		●	178
05子R-06	SDGsキッズ海岸防災未来の森づくり事業	宮城	(特非)宮城県森林インストラクター協会	宮城	883			●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	179
05子R-07	若葉こども園の森整備事業	福島	学校法人 中沢学園	福島	950				●				●			●							180
05子R-08	田人林業体験フィールド活動事業	福島	林林倶楽部	福島	1,000			●		●								●		●		●	181
05子R-09	畑小学校「学びの森」復活プロジェクト	千葉	千葉市立畑小学校PTA	千葉	968				●					●		●	●			●			182
05子R-10	森林環境教育みらいプログラム	東京	(特非)COLLECTIVE	東京	919				●							●	●			●			183
05子R-11	里山の手入れをしながら季節暦づくり	東京	(特非)フジの森	東京	326				●									●		●			184
05子R-12	みんなで育てるキョロロの森	新潟	松之山自治振興会	新潟	800															●		●	185
05子R-14	子どもたちの未来の森づくり事業	石川	石川フォレストサポーター会	石川	1,000															●			186
05子R-15	みんなの手で「もどそう！守ろう！石割山の緑を」	山梨	(特非)富士トレイルランナーズ倶楽部	東京	858												●			●			187
05子R-16	とうみ子どもがまんなかプロジェクトpart2	長野	楽育ひろばtomi	長野	599			●	●			●				●			●	●		●	188
05子R-17	どんぐりプロジェクト♪森の健康診断	長野	宗賀地区地域振興協議会	長野	850			●	●			●											189
05子R-18	森林ESD「森あそび」の安全充実整備	長野	(一社)富士見パノラマリゾート (多摩市立八ヶ岳少年自然の家)	長野	354			●	●													●	190
05子R-19	子どもがド真ん中　森のなかの多世代交流作り	静岡	(特非)楽舎	静岡	780			●	●	●	●	●				●					●	●	191

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05子R-20	六栗西山ふれあいの森整備事業　その３	静岡	六栗西山森の道整備隊	愛知	950											●				●			192
05子R-21	どんぐり交流会の山づくり　その４	愛知	(一社)日本ボーイスカウト愛知連盟	愛知	785		●	●	●		●							●				●	193
05子R-22	あさくら里山の保全・活用事業	愛知	あさくら里山を守る会	愛知	260															●		●	194
05子R-23	中学生を対象とした木育活動・森づくり事業	愛知	チェンソーアートクラブ マスターズ・オブ・ザ・チェンソー東栄	愛知	933				●											●			195
05子R-24	あつまれ！忍びの森プロジェクト	三重	里山をしる会	三重	888											●		●	●	●		●	196
05子R-25	森のたまり場づくりと、ものづくりの実践	滋賀	山中比叡平里山倶楽部	滋賀	630			●	●							●		●		●		●	197
05子R-26	緑の大阪！ SDGs・里山協働活動	大阪	(特非) クワガタ探検隊	大阪	342				●									●		●		●	198
05子R-27	漁業者による森づくり活動	兵庫	(一社)淡路水交会	兵庫	900				●									●	●				199
05子R-28	生駒市西畑町の棚田・里山の再生と創造	奈良	いこま棚田クラブ	奈良	284			●	●							●	●	●		●		●	200
05子R-29	みんなでつくるドングリの森	鳥取	森のともだち応援し隊	鳥取	740				●									●		●			201
05子R-30	美保関で森活	島根	ミホツ姫命稲穂の会	島根	970	●		●	●							●			●	●		●	202
05子R-31	みんなで育てよう伊部つながりの森の整備事業	岡山	片上・伊部つながりの森実行委員会	岡山	511			●	●		●	●				●		●		●		●	203
05子R-32	次世代に向けたきせつえん再緑化事業	広島	東広島市立高屋西小学校PTA	広島	955				●														204
05子R-33	どんぐりを育てる秘密基地	熊本	(特非)ITAL	熊本	959			●												●			205
05子R-34	未来につなぐ松林再生事業～小学生と共に～	大分	奈多狩宿住吉海岸の松林を守る会	大分	741													●	●	●			206
05子R-35	馬事公苑子どもの森づくり活動	鹿児島	(特非)森と木の研究所	鹿児島	819			●	●			●				●		●		●		●	207

【学校環境緑化モデル事業】

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05学R-01	学校環境緑化モデル事業	北海道	札幌市立幌西小学校	北海道	500													●		●			210
05学R-02	学校環境緑化モデル事業	北海道	岩見沢市立北村小・中学校	北海道	500													●		●			211
05学R-03	創立110周年記念及び石鉢緑の少年団結成記念 「石フワリンの森再生事業」	青森	階上町立石鉢小学校	青森	500													●	●	●			212
05学R-04	学校環境の緑化を通じての環境教育の推進	岩手	八幡平市立田頭小学校	岩手	500													●		●			213
05学R-05	盛岡市立仁王小学校　創立150周年記念環境整備事業	岩手	盛岡市立仁王小学校	岩手	500													●		●			214
05学R-06	花いっぱいの町の花いっぱいの学校	宮城	柴田町立柴田小学校	宮城	500													●		●			215
05学R-07	仙台市立生出小学校創立150周年記念緑化事業	宮城	仙台市立生出小学校	宮城	500											●		●		●			216
05学R-08	学校環境緑化モデル事業	宮城	涌谷町立月将館小学校	宮城	500													●		●			217
05学R-09	木にふれあい　木に学ぶ	秋田	大仙市立南外中学校	秋田	500													●		●			218
05学R-10	学校環境緑化モデル事業（果樹畑整備事業）	山形	ちわら菜の花こども園	山形	500													●		●			219
05学R-11	ふれあいの森整備事業	福島	矢吹町立三神小学校	福島	500															●			220
05学R-12	校庭の樹木整備事業	福島	大玉村立大山小学校	福島	500															●			221
05学R-13	SKGs-Sustainable Komagatasho Goals （持続可能な駒小の杜再生事業）	群馬	太田市立駒形小学校	群馬	500													●		●			222
05学R-14	藤岡特別支援学校　いこいの杜緑化事業	群馬	群馬県立藤岡特別支援学校	群馬	500			●	●				●			●	●	●		●	●	●	223
05学R-15	学校環境緑化モデル事業	群馬	富岡市立妙義小学校	群馬	500												●			●			224
05学R-16	蝶の舞う学校に	埼玉	久喜市立本町小学校	埼玉	500													●		●			225
05学R-17	創立150周年記念・学校緑化整備事業	千葉	白子町立南白亀小学校	千葉	500													●		●			226
05学R-18	150周年記念　ビオトープ　寒川憩いの泉再生事業	千葉	千葉市立寒川小学校	千葉	500											●				●			227
05学R-19	ビオトープ池整備工事	東京	青梅市立第七小学校	東京	500				●											●			228
05学R-20	御成小学校九十周年記念緑化事業	神奈川	鎌倉市立御成小学校	神奈川	500													●		●			229
05学R-21	仏向小学校60周年　校庭サクラ再生事業	神奈川	横浜市立仏向小学校	神奈川	500											●				●			230
05学R-22	生地小学校「生地っ子しょうず」緑化事業	富山	黒部市立生地小学校	富山	500						●									●			231
05学R-23	福光中部小学校「中部の森」整備事業	富山	南砺市立福光中部小学校	富山	500													●		●			232

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05学R-24	校庭および花だんの整備	石川	白山市立鳥越小学校	石川	500				●							●				●			233
05学R-25	旭丘　四季を感じるプロジェクト	石川	白山市立旭丘小学校	石川	500															●			234
05学R-26	春江東小学校学びの広場緑化事業	福井	坂井市立春江東小学校	福井	500													●		●			235
05学R-27	磯部小学校創立150周年記念緑化整備事業	福井	坂井市立磯部小学校	福井	500													●		●			236
05学R-28	学校環境緑化モデル事業（桜の木の植え替え）	山梨	甲府市立新紺屋小学校	山梨	500													●		●			237
05学R-29	学校環境緑化モデル事業（学校敷地内の緑化：手入れ）	山梨	山梨県立高等支援学校桃花台学園	山梨	500													●		●			238
05学R-30	上松小学校150周年記念事業環境整備	長野	上松町立上松小学校	長野	500													●		●			239
05学R-31	学校環境緑化モデル事業（校地内の環境整備）	長野	長野県長野盲学校	長野	500															●			240
05学R-32	学びの森づくり～観察林エリアを作る～	長野	伊那市立伊那西小学校	長野	500															●			241
05学R-33	しろやまこみち周辺整備事業	岐阜	海津市立城山小学校	岐阜	500													●		●			242
05学R-34	お茶の木から学ぶSDGs	岐阜	本巣市立外山小学校	岐阜	500				●							●				●			243
05学R-35	創立150周年記念緑化事業	静岡	焼津市立小川小学校	静岡	500													●		●			244
05学R-36	ビオトープ周辺の環境整備事業	静岡	静岡市立田町小学校	静岡	500													●		●			245
05学R-37	花壇の整備　樹木の剪定事業	静岡	静岡県立浜松聴覚特別支援学校	静岡	500													●		●			246
05学R-38	樹木剪定・ガーデニング整備事業	静岡	南の丘学園袋井市立袋井南中学校	静岡	500													●		●			247
05学R-39	つなげよう　緑と生命プロジェクト　～くすくんと共に～	愛知	岡崎市立梅園小学校	愛知	500													●		●			248
05学R-40	桜木小生き物の森復活大作戦	愛知	豊川市立桜木小学校	愛知	500													●		●			249
05学R-41	名張小学校百年の森整備事業	三重	名張市立名張小学校	三重	500				●							●				●		●	250
05学R-42	学校環境緑化モデル事業	三重	鈴鹿市立若松小学校	三重	500															●			251
05学R-43	水口小学校環境整備事業	滋賀	甲賀市立水口小学校	滋賀	500													●		●			252
05学R-44	稲枝西小学校緑化リニューアル大作戦	滋賀	彦根市立稲枝西小学校	滋賀	500													●		●			253
05学R-45	学校環境緑化モデル事業	京都	学校法人 池内学園池内幼稚園	京都	500													●		●			254
05学R-46	永寿小　野外活動とSDGs活動	大阪	貝塚市立永寿小学校	大阪	500												●						255
05学R-47	用和小学校創立150周年記念緑化事業	大阪	八尾市立用和小学校	大阪	500													●		●			256
05学R-48	柳本小学校創立150周年記念緑化事業	奈良	天理市柳本小学校	奈良	500													●		●			257
05学R-49	みんなのひろば　緑化事業 in 櫟本小学校	奈良	天理市櫟本小学校	奈良	500													●		●			258
05学R-50	環境教育フィールド整備	和歌山	和歌山市立雑賀小学校	和歌山	500				●							●		●		●			259
05学R-51	ネイチャールーム環境改善大作戦	和歌山	和歌山市立有功東小学校	和歌山	500				●							●		●		●			260
05学R-52	学校環境緑化モデル事業	鳥取	米子市立湊山中学校	鳥取	500											●		●		●			261
05学R-53	学校環境緑化モデル事業	鳥取	琴浦町立八橋小学校	鳥取	500													●		●			262
05学R-54	中西小学校校舎・校庭完成記念事業	島根	益田市立中西小学校	島根	500													●		●			263
05学R-55	学校環境緑化モデル事業	島根	益田市立桂平小学校	島根	500													●		●			264
05学R-56	「映える写真スポット」の整備事業	岡山	玉野市立東児中学校	岡山	500													●		●			265
05学R-57	学校創立150周年記念花壇整備事業	岡山	倉敷市立岡田小学校	岡山	500													●		●			266
05学R-58	学校創立10周年記念の庭整備事業	岡山	岡山県立倉敷まきび支援学校	岡山	500													●		●			267
05学R-59	志和小学校校舎新築開校記念緑化事業	広島	東広島市立志和小学校	広島	500													●		●			268
05学R-60	右田小学校開校150周年記念緑化事業	山口	防府市立右田小学校	山口	500													●		●			269
05学R-61	三蒲小学校創立150周年記念ハッピーグリーン緑化事業	山口	周防大島町立三蒲小学校	山口	500													●		●			270
05学R-62	学校環境緑化モデル事業	山口	下関市立桜山小学校	山口	500											●		●		●			271
05学R-63	香川県立善通寺養護学校 学校環境緑化モデル事業	香川	香川県立善通寺養護学校	香川	500													●		●			272
05学R-64	ハート池の整備及び樹木の剪定	香川	綾川町立綾上小学校	香川	500													●		●			273
05学R-65	ふるさとの森　緑化事業	愛媛	西予市立大野ヶ原小学校	愛媛	500				●							●			●	●		●	274
05学R-66	羽根えがおプロジェクト	高知	室戸市立羽根小学校	高知	500													●		●			275
05学R-67	学校環境緑化モデル事業（校内緑化整備事業）	福岡	朝倉市立秋月小学校	福岡	500													●		●			276
05学R-68	第四小学校ふれあい池ビオトープ改修	長崎	島原市立第四小学校	長崎	500				●							●		●		●			277

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
05学R-69	西海市立ときわ台小学校ビオトープ整備	長崎	西海市立ときわ台小学校	長崎	500													●		●			278
05学R-70	「みんなの森」等の整備	熊本	熊本市立山ノ内小学校	熊本	500													●		●			279
05学R-71	宇目緑豊小・宇目っ子の森事業	大分	佐伯市立宇目緑豊小学校	大分	500													●		●			280
05学R-72	芳満川水質浄化・河畔緑化推進計画	大分	日田市立三芳小学校	大分	500											●		●					281
05学R-73	都農町立都農南小学校「南っ子庭園」再生事業	宮城	都農町立都農南小学校	宮崎	500				●											●			282
05学R-74	大宮小学校夢の森緑化事業	宮崎	宮崎市立大宮小学校	宮崎	500				●											●			283
05学R-75	トンボとメダカが育つ大川内ビオトープ	鹿児島	出水市立大川内小学校	鹿児島	500													●		●			284
05学R-76	学校環境の緑化教育を推進する	沖縄	読谷村立読谷小学校	沖縄	500													●		●			285
05学R-77	ビオトープの整備を行い、環境教育の推進	沖縄	北中城村立島袋小学校	沖縄	500													●		●			286

区　分	最終交付件数	交付額（千円）
森林整備	79	90,405
緑化推進	160	121,859
国際協力	29	55,270
直接・公募計	268	267,534

【令和２･３･４年度　中央事業実施状況一覧

交付決定番号	事　業　名	事業地	交　付　先	所在地	交付額（千円）	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
02災S-11	自然回帰・椿守の森づくり事業 （森林の整備と連携して行う普及啓発活動）	島根	森の駅事業推進協議会（いずも森の駅）	島根	950											●		●					288
02K-02	モンゴル国における環境教育を目的とした環境保護林造成事業	モンゴル	（特非）内モンゴル沙漠化防止植林の会	千葉	1,200															●			289
03SDGs-02	八王子市寺田緑地の整備・緑化事業	東京	（特非）森のライフスタイル研究所	東京	700											●		●		●		●	290
03子R-43	七隈の森を整備して、地球温暖化を防止しよう	福岡	ぐりーんばんだ	福岡	400	●		●	●		●	●				●		●		●			291
04SC-15	企業との協働による「高梁美しい森」森林整備事業	岡山	（特非）フォレスト フォー ピープル岡山	岡山	523															●		●	292
04SDGs-03	実践！災害に強い森づくり～がんばろう！人吉球磨～	熊本	球磨林業奨学会	熊本	1,068	●		●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●		●	293
04R-22	西表島クリーン作戦を通した緑化促進事業	沖縄	西表植林クラブ	沖縄	1,138				●		●					●		●	●	●	●	●	294
04K-09	アマゾン森林火災先住民族消防団事業	ブラジル	（特非）熱帯森林保護団体	東京	1,308													●		●			295

（注１）本表は、緑の募金法第 14 条に基づき森林整備等のために交付した交付先等である。
（注２）交付額は、交付先への交付決定額である。

「緑の募金」事業報告集 －令和６年度版－

発行所　公益社団法人 国土緑化推進機構
〒102-0093 東京都千代田区平河町２－７－４
砂防会館別館
TEL 03-3262-8457　FAX 03-3264-3974
URL　https://www.green.or.jp
E-mail　bokin@green.or.jp

編　集　一般社団法人 全国林業改良普及協会